



独立行政法人 地域医療機能推進機構 **九州病院**

---

# 病院年報

平成 29 年度



# 目次

Contents

■ 平成29年度JCHO九州病院年報の発刊にあたって 院長 内山 明彦	001	中央検査室	107
■ 基本理念	002	臨床工学室	109
■ 病院概要	004	栄養管理室	111
施設概要	005	リハビリテーション室	113
組織図	009	医療情報部	115
職員数	012	医療支援部（地域連携室、福祉相談室）	117
■ 診療部門の概況	014	臨床心理室	119
総合診療部	015	透析室	120
内科・循環器科	017	入退院センター	121
内科・消化器科	021	医療安全管理部	122
内科・血液・腫瘍部門	022	感染管理室	125
内科・呼吸器科	025	がん相談支援センター	129
内科・内分泌代謝部門	027	■ 委員会	132
内科・腎臓部門	028	委員会・部会等組織	133
老年内科	029	法定関係	135
神経内科	030	業務関係	171
小児科・小児循環器科・新生児小児科	031	教育関係	185
放射線科	035	教育研修関係	187
精神科	037	医療安全関係	188
麻酔科	038	■ 諸活動	190
外科・上部消化管外科	039	メディカルネットワークフォーラム	191
外科・下部消化管外科	040	健康フェア	192
外科・肝胆脾外科	041	健康教室	193
外科・呼吸器外科	043	大規模災害訓練	194
外科・乳腺外科	045	患者満足度調査報告書	195
外科・小児外科	046	■ 業績目録	196
整形外科	047	■ 診療実績及び診療統計	268
心臓血管外科	048	臨床指標CI	269
脳神経外科	055	入院・外来患者統計	274
産婦人科	056	1.平成29年度入院科別・月別患者数	274
皮膚科	058	2.平成29年度入院科別・月別入院退院患者数	274
眼科	059	3.各科別入院患者数推移	275
耳鼻咽喉科・頭頸部外科・形成外科	061	(1日平均在院患者数・在院患者延数・新入院患者数・平均在院日数)	
泌尿器科	062	4.平成29年度病棟別病床稼働率	275
内視鏡室	063	5.年齢別構成患者数	276
臨床病理検査科	064	6.平成29年度外来科別・月別患者数	277
心臓リハビリテーション科	065	7.平成29年度外来科別・月別再来患者数	278
健康診断部	066	8.平成29年度入院・外来患者分布図（患者実数）	279
■ 診療協力部門等の概況	068	9.紹介件数推移・紹介率・逆紹介件数推移・逆紹介率推移	280
看護部	069	10.平成29年度開放型病床の稼働率推移	281
外来	071	手術統計	282
特殊外来	072	1.平成29年度診療科別手術件数	282
4階北病棟	074	2.診療科別・手術コード別件数（上位3）	283
4階南病棟	076	救急患者統計	284
5階北病棟	077	1.平成29年度月別救急患者数（入・外別、成人・小児別）	284
5階南病棟	079	2.平成29年度診療科別救急入院患者数	285
6階北病棟	080	3.平成29年度救急センター実績報告	285
6階南病棟	081	退院患者統計	288
7階北病棟	083	1.疾病統計	
7階南病棟	084	1) 疾病別退院患者数（大分類）	288
8階北病棟	085	2) 疾病別退院患者数（小分類）	289
8階南病棟	086	3) 疾病別死亡患者数（小分類）	297
9階北病棟	087	I 死亡原因別死亡数	304
がんセンター	089	II 麻酔件数・手術件数・分娩件数・新生児数	304
(外来化学療法室・放射線治療室)	091	III 退院患者診療科別転帰統計	304
(緩和ケア外来・がん看護外来・がんサポートチーム)	093	IV 剖検数	304
手術室	095	2.DPC統計	
集中治療室	097	1) MDC別退院患者数	305
NICU 病棟	099	2) MDC別在院日数分析	306
サプライ	100	3) 年齢別・性別退院患者数	307
薬剤部	101	4) 診療科別在院日数分析	308
放射線室	104	5) MDC6桁分類別疾患数（上位20分類）	309



## JCHO九州病院年報の発刊に寄せて



院長 内山 明彦

平成29年度のJCHO九州病院年報が完成しました。発刊がやや遅れてしまったことを関係の皆様にもまずお詫びいたします。平成26年4月に当院の運営母体が独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）へ移管され4年半が経過しました。全国57病院の中でも、当院は高度急性期・急性期の病院としてこれまで歩んできましたし、これからもその基本方針は変わりません。特に地域での役割が大きい救急、がん、小児・周産期医療をはじめ、高齢化に伴って需要の高い循環器、消化器、泌尿器科、眼科など、患者数やシェアの高い領域について、重点的に強化していく予定です。また地域医療支援病院として、ご紹介いただく様々な疾患の患者さんにも幅広く診療できる体制を維持してまいります。この年報を見ていただくと、以前と比較して平均在院日数の短縮化、救急車搬入台数の増加などがわかりますし、北九州市の人口動態とともに疾患別患者数も今後変化していくことが予想されます。

全国の政令指定都市の中で最も高齢化率が進む北九州市において、新たな地域包括ケアシステムを構築していく上での当院の役割を再認識し、最終的に地域住民や近隣医療機関の皆様にも、恒久的に貢献できる病院を目指していく所存です。この年報で当院の現状を知っていただき、また私たちも当院の現状を客観的に把握し、社会情勢の変化や地域の皆様からのご要望に対しても柔軟に対応していきたいと考えています。今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



## JCHO 九州病院 基本理念

「愛と信頼そして納得」の医療を実践し社会に貢献する。

### 基本方針

- (1) 相互理解と信頼を深め、「病める人」と共に、納得ゆく医療を実践する。
- (2) 急性期・専門医療を中心に最適・最良の医療を多くの人に提供する。
- (3) 関係機関と連携し、生涯にわたる継ぎ目のない地域医療の実現に貢献する。
- (4) 医療の質向上のために日々研鑽するとともに、将来を担う優れた医療人の育成に努める。

### 運営指針

当院は公的な病院であることから、通常の診療業務の枠を越えた地域社会への貢献を求められている事を自覚し運営されなければならない。その上で住民に信頼され「大切な人を安心して任せられる」病院となるように努力する。

#### A. 患者の信頼

- 1) 対等な立場で互いに理解し信頼関係を築き、「病める人」と共に、問題の解決、健康回復のために協働する。
- 2) 職員はそれぞれの分野の最先端の知識・技術の修得に努め、病院はこれを積極的に支援する。実践においては「病める人」にとって心身両面で最適・最良な診療を心がけ、医療過誤・事故を起こさないように細心の注意を払う。
- 3) 医療情報を積極的に開示し理解・納得が得られるように十分に説明する。
- 4) 「病める人」の権利と人格を尊重しプライバシー保護に努める。

#### B. 病院の機能

- 5) 地域における当院の役割は急性疾患・重症疾患の診療であり、急性期医療・高度専門医療を適切・適時に提供し、住民の期待に応えるよう努力する。
- 6) 地域医療機能推進機構の責務として地域医療、包括ケアの要となり地域完結型医療・福祉体制の構築に貢献する。また、院内外からの医療関係者の研修受け入れや積極的な教育活動を通じ幅広い視野を持つ優れた医療人を育成する。
- 7) 災害拠点病院として行政、医師会、地域医療機関と協力し大規模災害に備える。

#### C. その他

- 8) 法令の下、健全で安定した病院経営を行うことで、良質の医療を継続的に提供出来る基盤を確立する。
- 9) 明るく健康な社会を作るため、地域住民と連帯して、疾病予防・啓発活動やボランティアの受け入れに取り組むなど、開かれた病院を目指す。
- 10) 全ての職員がこの病院で働くことに誇りと生き甲斐を持ち、幸せを感じる事の出来る職場を作る。



平成 29 年度  
病院概要

Japan Community Health care Organization JCHO



独立行政法人 地域医療機能推進機構 九州病院



## 施設概要 (平成 29 年度)

施設名	独立行政法人 地域医療機能推進機構 (JCHO) 九州病院
所在地	〒806-8501北九州市八幡西区岸の浦1丁目8番1号 TEL (093) 641-5111/FAX (093) 642-1868 URL : <a href="http://www.kyusyu.jcho.go.jp">http://www.kyusyu.jcho.go.jp</a>
開設者	独立行政法人 地域医療機能推進機構 〒108-0074 東京都港区高輪3-22-12 TEL 03-5791-8220 理事長 尾身 茂 開設 平成26年4月1日 (病院開設許可 昭和30年3月10日 移転 平成16年5月1日)
管理者	院長 多治見 司 副院長 水島 明 内山 明彦 山本 英雄 上村 哲郎 事務部長 三島 俊彦 看護部長 元嶋 文恵
標榜科 (47科)	救急科、内科、循環器内科、消化器内科、胃腸内科、肝臓内科、胆のう内科 腎臓内科、血液内科、腫瘍内科、呼吸器内科、腎臓内科、代謝・内分泌内科 老年内科、外科、呼吸器外科、胃腸外科、肝臓外科、胆のう外科、膵臓外科 消化器外科、乳腺外科、小児外科、小児科、循環器小児科、新生児小児科 心臓血管外科、整形外科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科 頭頸部外科、脳神経外科、神経内科、精神科、麻酔科、ペインクリニック外科 放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、形成外科 心臓リハビリテーション科、臨床検査科、病理診断科

建物構造	本館：地下2階 地上9階 (免震構造) 別館：地下1階 地上4階
病棟数	一般病棟 14病棟 (緩和ケア病棟1病棟含む)
病床数	一般病床 575床 (ICU病床16床/NICU病床15床/緩和ケア病床12床/HCU28床含む)
救急機能関連	救急患者用ベット4床 オーバーナイトベット12床 (大人8床、小児4床)
手術室	13室 (無菌手術室4室・切替式無菌手術室1室)
透析室	29床
地域災害体制	待合ゾーン、会議室等へ医療ガス設備、防災センター
駐車台数	立体駐車場 557台 (身体障がい者用9台含む)
その他	屋上ヘリポート、医療情報のIT化、等
指定施設認定	へき地医療拠点病院 災害拠点病院 (地域災害医療センター) 地域医療支援病院 地域がん診療連携拠点病院 福岡県地域周産期母子医療センター 基幹型臨床研修指定病院 協力型臨床研修指定病院・・・済生会八幡総合病院及び九州労災病院における産婦人科臨床研修プログラムに協力 日本医療機能評価機構認定病院 一般病院2 (3rdG: Ver.1.0) 救急告示病院 平成26年4月1日付認定 福岡県災害派遣医療チーム (福岡県DMAT) 指定医療機関

指定医療	結核予防法、生活保護法、障害者自立支援法 (精神通院、更生、育成) 原子爆弾被爆に対する援護に関する法 労働者災害補償保険法、母子保健法、地方公務員災害補償法
------	---



## 施設基準 (平成 30 年 3 月 31 日現在)

入院基本料関係	一般病棟入院基本料 7 対 1 入院基本料		
入院基本料等 加算	総合入院体制加算 2	超急性期脳卒中加算	在宅患者緊急入院診療加算
	診療録管理体制加算 2	医師事務作業補助体制加算 2 40 対 1	急性期看護補助体制加算 50 対 1
	看護職員夜間配置加算 1 イ 12 対 1	療養環境加算	重症者等療養環境特別加算
	無菌治療室管理加算 1・2	緩和ケア診療加算	医療安全対策加算 1
	感染防止対策加算 1 (地域連携 加算)	患者サポート体制充実加算	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
	ハイリスク妊娠管理加算	ハイリスク分娩管理加算	総合評価加算
	病棟薬剤業務実施加算 1	データ提出加算 2 (200 床以上)	退院支援加算 1・地域連携診療 計画加算
	認知症ケア加算	精神疾患診療体制加算	栄養サポートチーム加算
特定入院料関係	特定集中治療室管理料 3 (小児 加算)	ハイケアユニット入院医療管理 料 1	新生児特定集中治療室管理料 1
	小児入院医療管理料 1 (プレイ ルーム加算)	緩和ケア病棟入院料	短期滞在手術基本料 1
医学管理等関係	高度難聴指導管理料	がん性疼痛緩和指導管理料	がん患者指導管理料 1・2・3
	外来緩和ケア管理料	移植後患者指導管理料 (造血幹 細胞移植後)	地域連携小児夜間・休日診療料 2
	院内トリアージ実施料	外来放射線照射診療料	ニコチン依存症管理料
	開放型病院共同指導料	がん治療連携計画策定料	肝炎インターフェロン治療計画 料
	薬剤管理指導料	医療機器安全管理料 1・2	糖尿病合併症管理料
在宅医療	持続血糖測定器加算		
検査関係	HPV 核酸検出及び HPV 核酸検 出 (簡易ジェノタイプ判定)	検体検査管理加算 (I)・(IV)	心臓カテーテル法による諸検査 の血管内視鏡検査加算
	時間内歩行試験	胎児心エコー法	ヘッドアップティルト試験
	皮下連続式グルコース測定	神経学的検査	コンタクトレンズ検査料 1
	"センチネルリンパ節生検 (片側) 1. 単独法 2. 併用法		
画像関係	画像診断管理加算 2	CT 撮影及び MRI 撮影	冠動脈 CT 撮影加算
	心臓 MRI 撮影加算	乳房 MRI 撮影加算	
投薬・注射	抗悪性腫瘍剤処方管理加算	外来化学療法加算 1	無菌製剤処理料
リハビリテー ション関係	心大血管疾患リハビリテーション 料 (I)・初期加算	脳血管疾患等リハビリテーション 料 (I)・初期加算	"運動器リハビリテーション料 (I)・
	"呼吸器リハビリテーション料 (I)・初期加算"	がん患者リハビリテーション料	
処置関係	透析液水質確保加算 2	磁気による膀胱等刺激法	



手術等	組織拡張器による再建手術（一連につき）〔乳房（再建手術）の場合に限る〕	緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの）	" 網膜付着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いるもの） "
	乳腺悪性腫瘍手術に係る乳がんセンチネルリンパ節加算 1・2	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）	経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
	経皮的中隔心筋焼灼術	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
	植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術	両室ペースティング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースティング機能付き植込型除細動器交換術	大動脈バルーンポンピング法（IABP 法）
	補助人工心臓	胃瘻増設術（内視鏡下胃瘻増設術、腹腔鏡下胃瘻増設術を含む。）	胆管悪性腫瘍手術（臍頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
	体外衝撃波胆石破碎術	腹腔鏡下肝切除術	体外衝撃波膀胱石破碎術
	腹腔鏡下膈体尾部腫瘍切除術	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術支援機器を用いるもの）	人工肛門・人工膀胱造設術前処理加算
	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体部に限る）		
輸血関係	輸血管理料 I	輸血適正使用加算	貯血式自己血輸血管理体制加算
麻酔関係	麻酔管理料（I）・（II）		
放射線治療関係	放射線治療専任加算	外来放射線治療加算	高エネルギー放射線治療
	一回線量増加加算	画像誘導放射線治療加算（IGRT）	体外照射呼吸性移動対策加算
	直線加速器による放射線治療（定位放射線治療）	定位放射線治療呼吸性移動対策加算	
病 理	病理診断管理加算 1		
入院時食事療養関係	入院時食事療養費（I）・食堂加算・特別食加算		



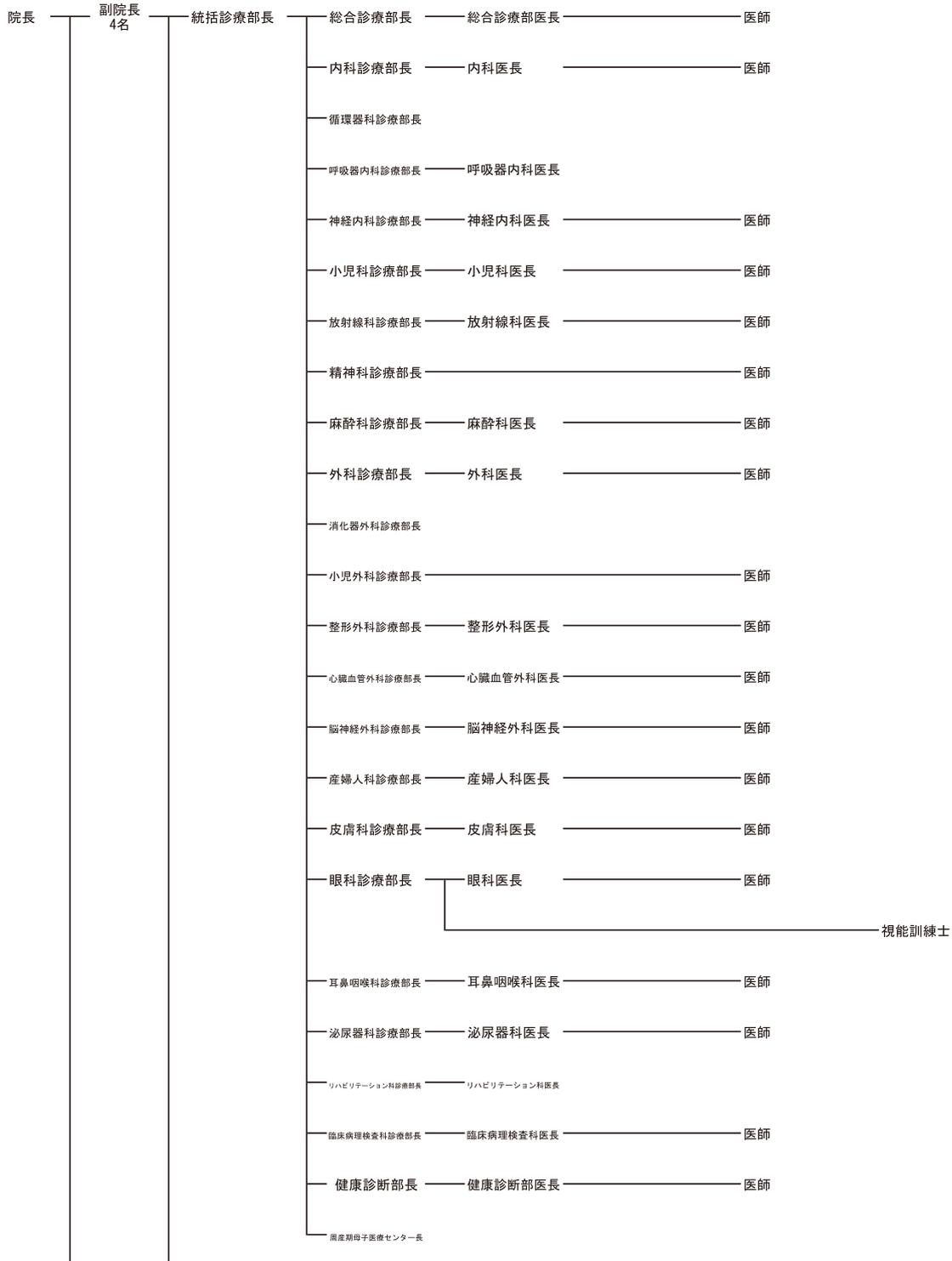
## 教育関係認定施設一覧 (順不同)

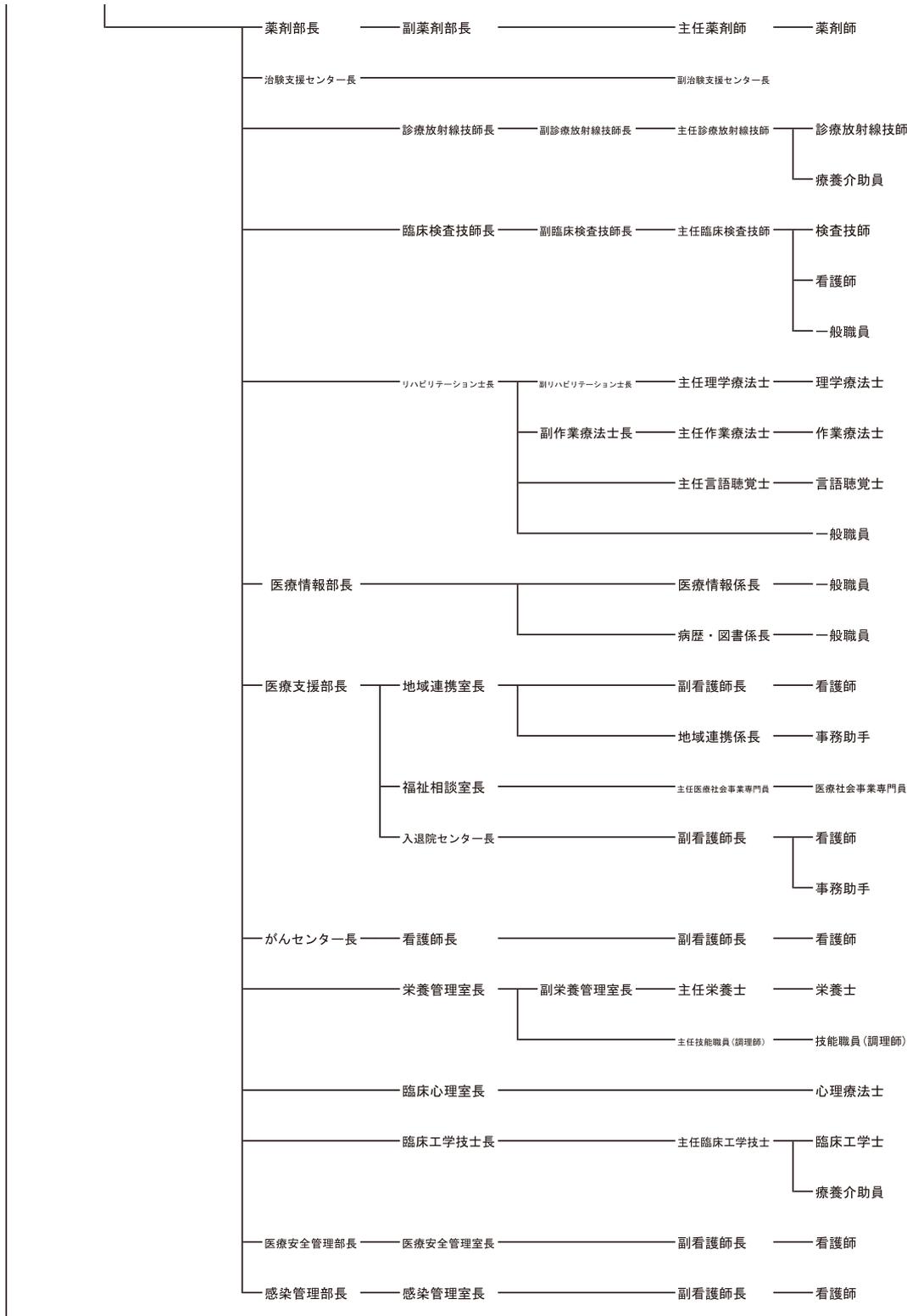
臨床研修協力施設	日本周産期・新生児医学会専門医制度
日本整形外科学会認定医制度研修施設	(周産期新生児専門医) 暫定研修施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設	日本周産期・新生児医学会専門医制度
日本外科学会認定医制度修練施設	(周産期母体・胎児専門医) 暫定研修施設
日本眼科学会専門医制度研修施設	ステントグラフト実施施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設	(腹部大動脈瘤・胸部大動脈瘤)
日本麻酔学会麻酔科認定病院	日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士取得実地修練施設
日本内科学会認定医制度教育病院	日本放射線腫瘍学会認定施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設	日本健康・栄養システム学会認定臨床栄養師研修施設
日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設	日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本超音波医学会認定専門医研修施設	日本血液学会認定血液研修施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設	小児循環器専門医修練施設群認定施設
呼吸器外科専門医機構関連施設	心臓リハビリテーション研修施設
日本呼吸器学会指導医制度関連施設	臨床栄養師研修施設
日本消化器病学会専門医制度関連施設	日本神経学会専門医制度准教育施設
日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設	日本胸部外科学会認定医認定制度指定施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設	三学会構成心臓血管外科専門医認定基幹施設
日本消化器病外科専門医修練施設	日本小児科学会専門医制度研修施設
放射線科専門医総合修練機関	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院	日本医学放射線学会放射線科専門医修練協力機関
日本産婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設	日本脳神経外科学会専門医認定制度訓練施設
日本乳癌学会認定施設	日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設
マンモグラフィ 検診施設画像認定施設	日本頭頸部外科学会認定頭頸部がん専門医研修施設
日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設	日本病理学会研修認定施設
日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設	日本小児外科学会専門医制度教育関連施設
日本臨床細胞学会認定施設	日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設
日本高血圧学会専門医認定施設	

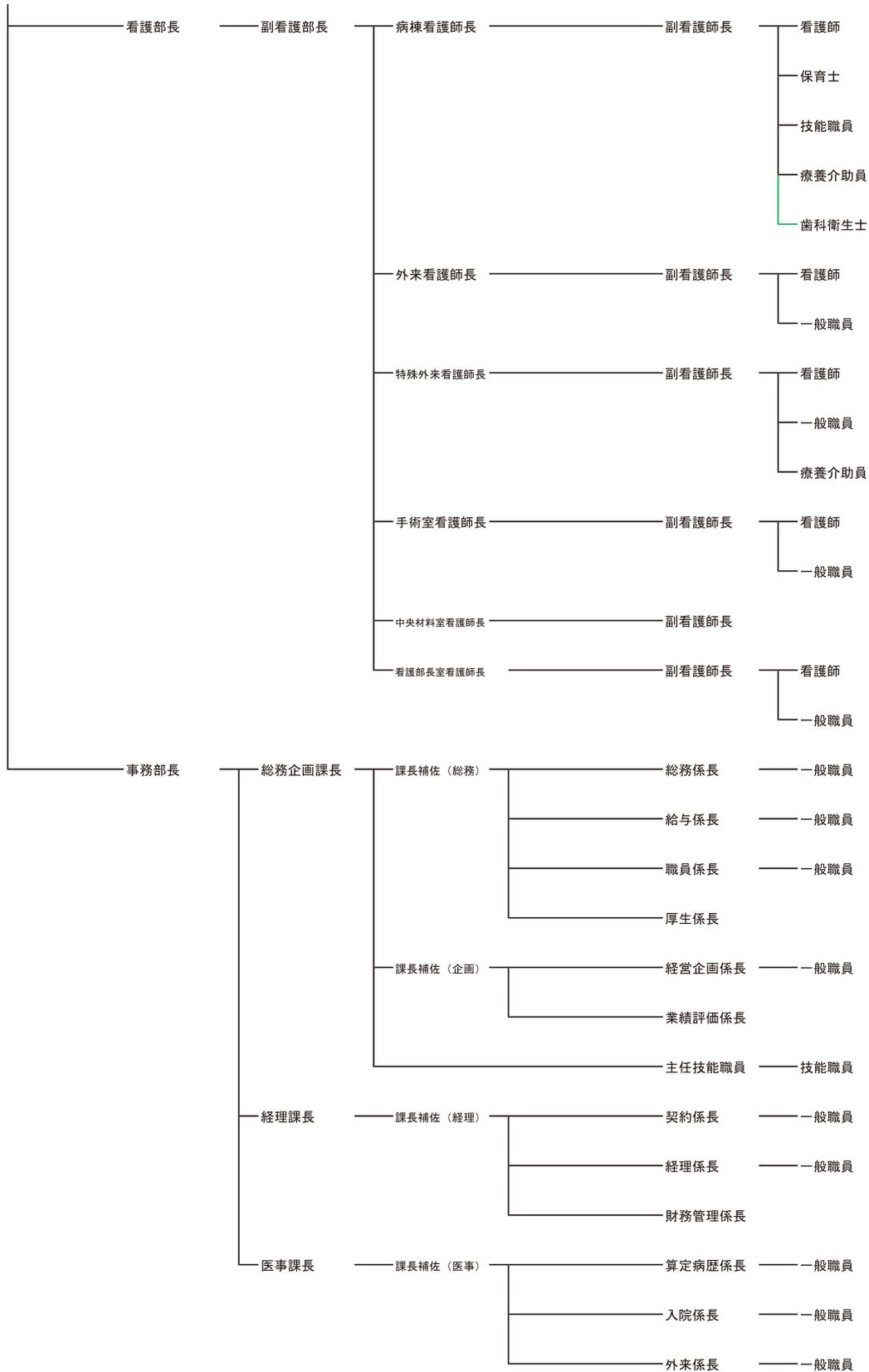


# 独立行政法人地域医療機能推進機構 九州病院 組織体制図

平成28年4月1日現在









## 職 員 数

平成 29 年 4 月 1 日現在 単位：人

	常 勤	非常勤 (常勤換算)	合計 (常勤換算)
医師	184	0.3	184.3
歯科医師	0	0.1	0.1
薬剤師	33		33
診療放射線技師	35		35
臨床検査技師	45	1.3	46.3
栄養士	9		9
臨床工学技士	15		15
理学療法士	22		22
作業療法士	5		5
言語聴覚士	3		3
歯科衛生士	0	0.8	0.8
視能訓練士	3	0.8	3.8
心理療法士	3		3
看護師	616	10.9	626.9
助産師	16		16
事務職	54	10.9	64.9
技能職	16	1.6	17.6
医療社会事業専門員	5		5
保育士	1		1
療養介助職	10	1.8	11.8
合 計	1075	28.5	1,103.5

※育休者含む



平成 29 年度  
診療部門の概況

Japan Community Health care Organization JCHO



独立行政法人 地域医療機能推進機構 九州病院

**診療部門の概況**
**◆ 総合診療部**
**1. スタッフ**

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
部長	酒井 賢一郎	自治医科大学 (平成6年卒)	消化器病学(消化管)、 プライマリーケア	日本内科学会総合内科専門医・認定医 日本救急医学会救急科専門医
医長	出雲 明彦		心臓血管外科、 救急医療	外科専門医、心臓血管外科専門医、 脈管専門医、救急専門医
医師	芥野 絵里	佐賀大学 (平成21年卒)	内科、循環器	内科認定医
研修医2年目	石原 沙代子	大分大学 (平成28年卒)		
研修医2年目	伊与田 彩	鹿児島大学 (平成28年卒)		
研修医2年目	古賀 大貴	九州大学 (平成27年卒)		
研修医2年目	竹内 実芳	九州大学 (平成28年卒)		
研修医2年目	児島 啓介	九州大学 (平成28年卒)		
研修医2年目	田代 匠	九州大学 (平成28年卒)		
研修医2年目	立石 烈	長崎大学 (平成28年卒)		
研修医2年目	中村 聡	九州大学 (平成28年卒)		
研修医2年目	橋野 朗	九州大学 (平成28年卒)		
研修医2年目	榎園 優香	九州大学 (平成28年卒)		
研修医2年目	森 麻里母	山口大学 (平成28年卒)		
研修医1年目	荒木 大幸	九州大学 (平成29年卒)		
研修医1年目	木幡 亮	九州大学 (平成29年卒)		
研修医1年目	坂口 嘉彬	九州大学 (平成29年卒)		
研修医1年目	島内 淳志	九州大学 (平成29年卒)		
研修医1年目	末松 真弥	熊本大学 (平成29年卒)		
研修医1年目	田中 惇史	九州大学 (平成29年卒)		
研修医1年目	中村 暢孝	佐賀大学 (平成29年卒)		
研修医1年目	福田 彩乃	九州大学 (平成29年卒)		
研修医1年目	松永 拓磨	九州大学 (平成29年卒)		
研修医1年目	松本 英展	熊本大学 (平成29年卒)		
研修医1年目	毛利 祥子	産業医科大学 (平成29年卒)		
研修医1年目	八坂 裕太	九州大学 (平成29年卒)		
研修医1年目	吉里 美慧	九州大学 (平成29年卒)		



## 2. 活動報告

診療情報提供書には本年度より「救急・総合診療部」という名称を使わせていただきます。

近隣医療機関からの救急および振り分け困難紹介症例、および地域の救急傷病者のうち主に1次から2・5次の救急患者の対応を担っております。小児科は別途急患体制を敷いていることもあり、総合診療部の対象患者年齢は高校生以上となります。「急性期・専門医療を中心に最適・最良の医療を多くの人に提供する」という当院の理念の下、救急専門医や院内各診療科の協力体制を敷き休日・夜間問わず救急医療を地域に提供できていることが当救急部門の特徴です。

北九州市は政令指定都市の中では最も高齢化が進んでいます。将来推定人口は減少の一途ですが、救急搬送される割合の高い高齢者の人口がピークを迎えるのは2030年頃と試算されます。

## 3. 診療実績

平成25年市立夜間・休日急患センターが当院から約1km、黒崎駅に隣接するコムシティ内に移転されました。これにより感冒など継承の方々とは同センターを受診していただき易くなりました。他方、当院も同年診療エリアを1.5倍に拡大するなど、救急車で搬送される傷病者対応に努めてまいりました。この結果当院救急センター受診者は減少傾向にありますが、平成28年度の救急車搬送件数は過去最高の5980件に上りました。その中で入院を要する方も増加していますが病床数にも限りがあります。当院での初期評価にて軽症と判断された方々に対しては、近隣の病院での入院治療をしていただくことでより重症の方々への対応ができるよう努めています。

**診療部門の概況**
**◆内科・循環器科**
**1. スタッフ**

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
院長	多治見 司	九州大学 (昭和47年卒)	循環器	内科認定医、循環器専門医
副院長	山本 英雄	九州大学 (昭和55年卒)	循環器 インターベンション 心不全	総合内科専門医、循環器専門医、 心血管インターベンション治療学会専門医・指導医、 高血圧指導医
部長	毛利 正博	九州大学 (昭和57年卒)	循環器、 冠動脈インターベンション、 心不全、心臓リハビリ	総合内科専門医、内科認定医、循環器専門医、 心臓リハビリテーション指導士、 人間ドック学会認定医、 外国人医師臨床修練指導医
医長 (老年病担当)	折口 秀樹	自治医科大学 (昭和59年卒)	循環器、 不整脈アブレーション、 心臓リハビリ、栄養サポート	総合内科専門医、循環器専門医、 インターベンション指導医、 心臓リハビリテーション指導士・理事、 抗加齢学会専門医、不整脈専門医
医療情報部長	伊藤 浩司	熊本大学 (平成10年卒)	内科、循環器 心エコー、高血圧 情報システム	総合内科専門医、内科指導医 内科認定医、循環器専門医 超音波学会専門医、高血圧専門医・指導医、 情報処理技術者、統計士
客員部長	吉村 仁	長崎大学 (昭和56年卒)	循環器、不整脈 虚血性心臓病	内科認定医、循環器専門医、 心血管インターベンション治療学会専門医・指導医
健康診断部部长	宮田 健二	鹿児島大学 (平成6年卒)	一般内科学、循環器、 冠・末梢動脈インターベン ション	内科認定医、循環器専門医、 日本心血管インターベンション治療学会専門医、 心臓リハビリテーション指導士、 腹部ステントグラフト認定実施医、 AHA-BLS・ACLSインストラクター
医長 (救急医療担当)	菊池 幹	産業医科大学 (平成8年卒)	循環器病学(不整脈) 救急医療	内科認定医、循環器専門医、不整脈専門医、 救急専門医、プライマリケア認定医
医師	川村 奈津美	長崎大学 (平成9年卒)	循環器、心不全、 インターベンション	内科認定医、循環器専門医
医師	鬼塚 健	山口大学 (平成17年卒)	循環器	内科認定医、循環器専門医
医師	百名 洋平	熊本大学 (平成20年卒)	循環器	内科認定医
医師	石北 綾子	(平成20年卒)	内科、循環器	内科認定医
レジデント	古澤 峻	九州大学 (平成25年卒)	循環器	内科認定医
レジデント	阿部 巧	九州大学 (平成26年卒)	循環器	内科認定医
レジデント	馬場 功士	九州大学 (平成26年卒)	循環器	内科認定医
レジデント	川原 卓郎	東京医科歯科大学 (平成27年卒)	循環器	
レジデント	末永 知康	九州大学 (平成27年卒)	循環器	



## 2. 活動報告

九州病院での循環器診療は 1955 年に始まり、1966 年に九州地区で最初の心臓カテーテル室が稼働して以来、常に患者さんのためになる最善の心血管病診療を追及してきました。ほぼすべての心臓・血管疾患（虚血性心疾患、心不全、不整脈、弁膜症、心筋疾患、心膜疾患、大動脈瘤や大動脈解離、四肢 / 腎動脈 / 頸動脈などの閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓症、肺塞栓症など）の診療を 24 時間態勢で行なっており、診断治療からリハビリテーションまで一貫して対応しています。

当院には心臓カテーテル検査室が 2 室有り、循環器緊急疾患に常時対応できる体制をとっています。増加する救急入院患者に対応するため、平成 26 年度からは一般血管造影室でも冠動脈検査や治療が出来るように装置機器を整備しました。循環器科の年間の入院患者数は約 1,400 名で、そのうち緊急入院の割合は約 50% です。急性冠症候群、心不全、不整脈が入院の三大疾患です。

冠動脈形成術はもちろんのこと不整脈に対する心筋アブレーション治療、腎動脈 / 末梢動脈形成術、両室ペーシングなどほとんど全てのインターベンション治療を行なっています。また大動脈ステントグラフト内挿術や心房中隔欠損閉鎖術も、それぞれ心臓血管外科、小児循環器科と協力して行なっています。

当院には心臓血管外科が併設されています。開心術は年間約 300 例施行されており、待機的手術はもちろんのこと、内科治療が困難な重症多枝病変による心筋梗塞、急性大動脈解離などの緊急手術も常時可能な態勢をとっています。ハートチームとして、循環器科と心臓外科が一緒になって、症例ごとに治療方針を話し合います。

循環器疾患の治療は急性期のみならず、慢性期の管理指導が大変重要です。当院では日本で最も早く、30 年以上前から心臓リハビリを治療に取り入れた病院のひとつです。本邦でも有数の心臓リハビリ施設とスタッフをそろえており、虚血性心疾患、心不全、心臓血管外科術後の患者さんの運動療法、教育を積極的に行なっています。毎年、九州のみならず全国の医療施設から多くの見学者や研修者が見学や研修に訪れます。

## 3. 診療実績

### (1) 外来

外来は毎日 3～4 名の循環器内科医が診療にあたっています。新患は医療連携室を通しての予約制です。急患については総合受付 (093-641-5111) に電話をいただければ、循環器科の急患担当医に直接つながります（平日時間内）。夜間、土日祝祭日については救急外来が対応し専門医に連絡いたします。

### (2) 入院

循環器内科の入院患者数は 1,469 名、うち急患入院が 613 名（全入院の 42%）でした。退院時主病名は、虚血性心疾患、心不全 / 弁膜症、不整脈 / 失神の順に多く、これらの三大疾患が患者全体の約 8 割を占めています。急性冠症候群と急性心不全が循環器救急入院の 2 大疾患ですが、とくに心不全患者さんの増加が顕著です。（図 1、図 2）

診療部門の概況

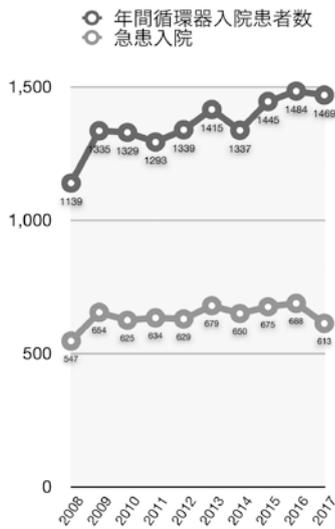


図1

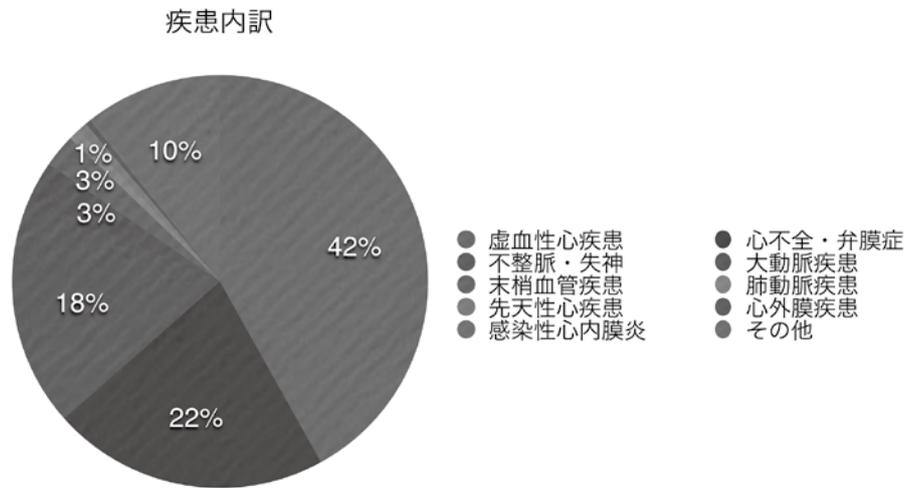


図2

(3) 虚血性心疾患

急性心筋梗塞と不安定狭心症は急性冠症候群（ACS）と総称され、循環器の救急疾患の中でももっとも緊急度が高いもののひとつです。2016年には176名（前年より8名減）の入院がありました。そのうち166名（94%）のかたが冠動脈造影検査を受けられ、うち147名の方がカテーテルインターベンション（PCI）で治療されています。全ACS症例のうち11名は重症冠動脈病変のため、外科的冠バイパス手術を施行されました。院内に心臓外科チームが待機している当院だからこそ、これらの重症疾患に対しても遅滞なく治療をおこなうことが出来ます。虚血性心疾患に対するカテーテルインターベンションは適応を厳格に決めて行なっていますが、その施行数は年々増加しています。（図3）

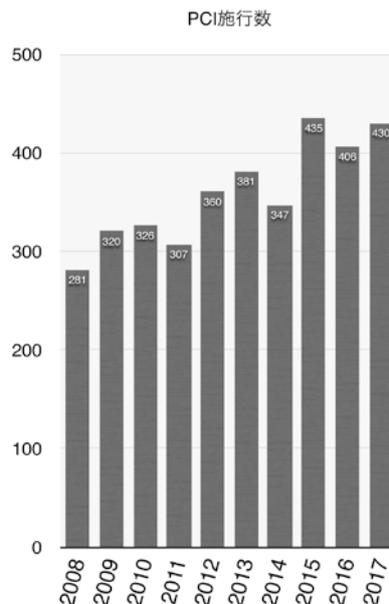


図3



## 診療部門の概況

## (4) 心不全

1年間に326名の心不全患者さんの入院がありました。患者さんの平均年齢は79歳で、85歳以上のかたが全体の4分の1を占めます。総死亡率は4.3%でした。社会の高齢化とともに、心不全患者さんの入院は着実に増加しています。患者さんは他疾患に比較して高齢で、自宅へ戻れるかたの割合が少なく、また死亡率も低くありません。今後の心不全診療については、地域全体で取り組まなければならない課題です。

## (5) 末梢血管疾患

下肢動脈、腎動脈、鎖骨下動脈を含む末梢血管疾患をお持ちの患者さんを診療する機会が増えていますが、その理由として「poly-vascular disease（冠動脈、下肢動脈、脳血管を含む複数の血管にアテローム血栓症を合併する病態）」の認識が広がっていることが挙げられます。連携病院から末梢血管疾患をお持ちの多くの患者さんをご紹介いただいておりますが、重症の冠動脈疾患や大動脈疾患を稀ならず合併しています。

## (6) 不整脈・失神

不整脈や失神を主訴として267名の入院がありました。多くの方がアブレーション、ペースメーカー植え込みなどの処置を受けられています。

## (7) 心臓リハビリテーション

長い伝統を持つ心臓リハビリテーションは当院における診療の大きな柱のひとつで、とくに心不全患者さんの非薬物療法の中心となるものです。理学療法士や看護師など心リハチームの努力のおかげで、実施件数だけでなく、その質も年々向上しています。(図4)

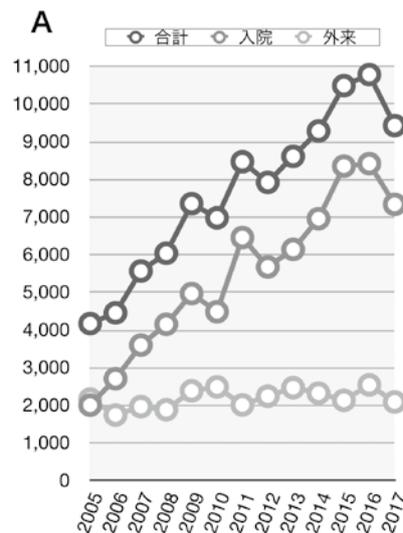


図 4

**診療部門の概況**
**◆内科・消化器科**
**1. スタッフ**

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
医長	一木 康則	九州大学 (平成4年)	肝疾患	日本内科学会総合内科専門医 日本消化器学会消化器病専門医 日本肝臓学会肝臓専門医
医師	上平 幸史	九州大学 (平成10年)	肝・胆・膵	日本内科学会認定医 日本消化器病学会消化器病専門医 日本肝臓学会肝臓専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医
医師	池上 幸治	九州大学 (平成18年)	消化管	日本内科学会認定医 日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本消化管学会胃腸科専門医 日本ヘリコバクター学会H.pylori(ピロリ菌)感染症認定医
医師	秋吉 大輔	福岡大学 (平成22年)	消化管	日本内科学会認定医 日本消化器病学会消化器病専門医 日本ヘリコバクター学会H.pylori(ピロリ菌)感染症認定医
レジデント	甲斐 貴大	鹿児島大学 (平成26年)	消化管	日本内科学会認定医
レジデント	田岡 奈央子	岡山大学 (平成27年)	消化器	日本内科学会認定医

**2. 活動報告**

消化管、肝胆膵に関する、ほとんど全ての急性・慢性疾患、悪性腫瘍に対応している。緊急内視鏡についても24時間対応している。

日本消化器病学会関連施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会関連施設として、レジデントなど若い医師の指導にも力を入れた。

地域での研究会や医学会において多くの発表を行った。

**3. 診療実績**

上下部消化管内視鏡検査および内視鏡的治療の症例数は多く、胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)は北九州医療圏の中では二番目の症例数である。

胆道・膵については、内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査(ERCP)は緊急症例も含めて多くの症例数を行っている。

福岡県の肝疾患専門医療機関として、ウイルス性肝炎に対する抗ウイルス療法や肝癌の精査・治療などに積極的に取り組んでいる。



## ◆内科・血液・腫瘍部門

### 1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
部長 (血液・腫瘍)	牟田 毅	九州大学 (平成5年卒)	血液内科学 化学療法 造血幹細胞移植術	日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医 がん治療認定医 日本血液学会認定血液専門医 血液指導医・評議員 日本造血細胞移植学会認定医・評議員 日本輸血細胞治療学会認定医 日本骨髄バンク調整医師 (緩和ケアの項目は削除)(日本がん治療認定医機構暫定教育医は削除)
部長 (移植)	小川 亮介	産業医科大学 (昭和63年卒)	血液内科学 化学療法 造血幹細胞移植術	日本内科学会認定医 日本血液学会専門医(指導医はまちがい) 日本造血細胞移植学会認定医 がん治療認定医 日本医師会認定産業医 日本骨髄バンク調整医師 自己血貯血専門医 骨髄バンク責任医師
医長 (血液・移植)	青木 健一	佐賀医科大学 (平成8年卒)	血液内科学 化学療法 造血幹細胞移植術	日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本血液学会専門医 日本造血細胞移植学会認定医 がん薬物療法専門医・指導医 がん治療認定医 日本骨髄バンク調整医師 日本輸血細胞治療学会認定医
医長(腫瘍)	牧山 明資	長崎大学 (平成14年卒)	臨床腫瘍学 化学療法	日本内科学会認定医 がん薬物療法専門医・指導医 日本臨床腫瘍学会評議員
医長(腫瘍)	平野 元	佐賀医科大学 (平成15年卒)	臨床腫瘍学 化学療法	日本内科学会認定医 がん薬物療法専門医
医師	河野 健太郎	九州大学 (平成15年卒)	臨床腫瘍学 化学療法	日本内科学会認定医 がん薬物療法専門医
医師	山戸 和貴	弘前大学 (平成24年卒)	臨床腫瘍学 化学療法	日本内科学会認定医 がん薬物療法専門医
レジデント	山家 覚	九州大学 (平成27年卒)		

### 2. 活動報告

血液；急性白血病の寛解導入療法、地固め療法。悪性リンパ腫の標準治療。自己免疫性の血球減少に対する免疫抑制療法、造血幹細胞移植などをおこなった。

腫瘍；固形腫瘍への化学療法を積極的におこなってきた。

共通項目；学会活動もおこない、研究会への参加も熱心におこなっている。昨年は、海外の論文投稿（平野）や、海外の学会発表（牟田）も行った。

診療部門の概況

3. 診療実績

血液部門では、造血幹細胞移植を積極的におこなったいる。  
 また、腫瘍内科での診療実績も極めて高い。  
 腫瘍内科での診療数は、福岡県では 3 番目におおい。  
 外来化学療法の数も多く、昨年度は 5 千件近い。  
 標準治療はガイドラインやエビデンスにのって行っている。  
 新規治療は、多施設共同研究に参加して行っている。  
 腫瘍内科では治験を積極的に行っている。

図1 新規診断症例のうちわけ

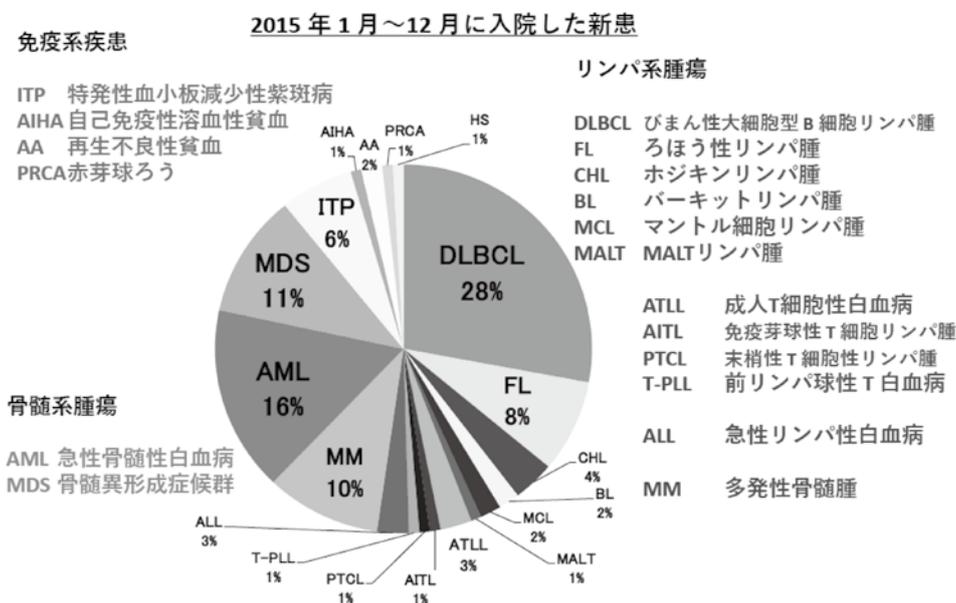


図2 当院における造血幹細胞移植数の年次推移

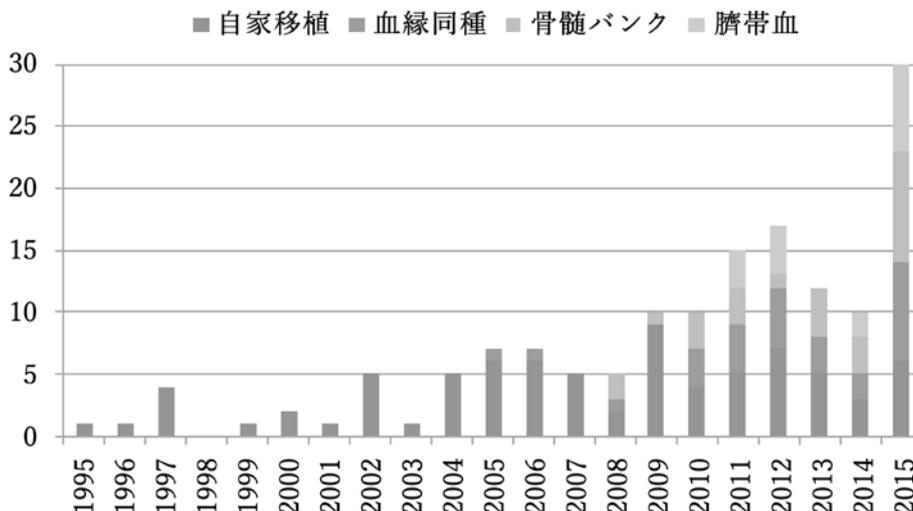




図 3 当院における造血幹細胞移植の治療成績

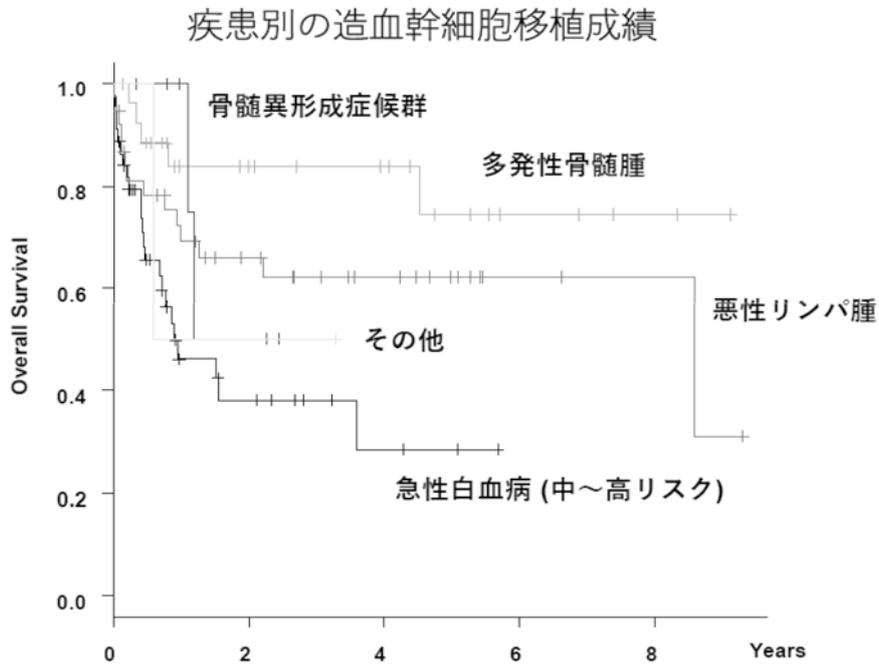
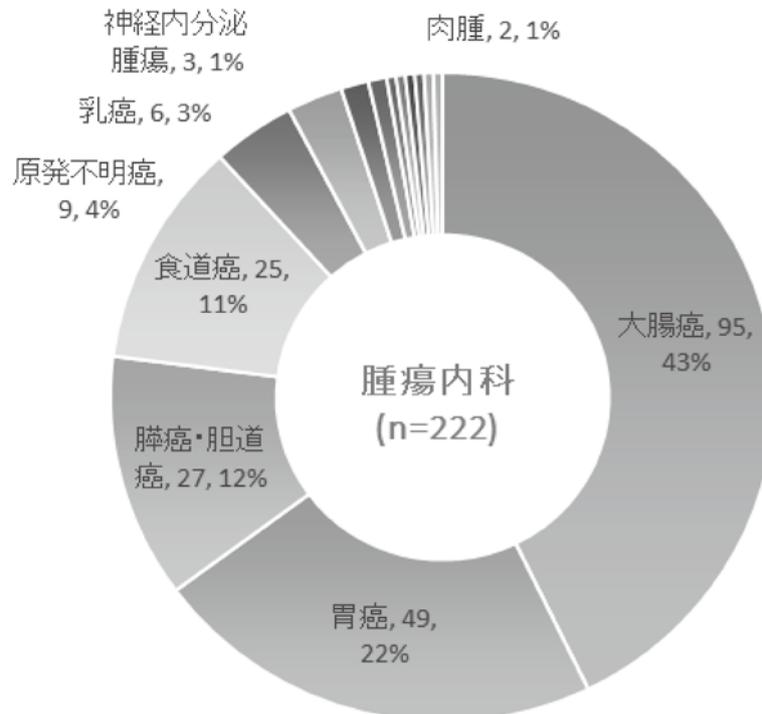


図 4 当院における新規の診断症例



**診療部門の概況**
**◆内科・呼吸器科**
**1. スタッフ**

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
部長	原田 大志	九州大学 (平成6年卒)	呼吸器	日本内科学会総合内科専門医 日本呼吸器学会専門医・指導医 がん治療認定医
医師	川上 覚	九州大学 (平成17年卒)	呼吸器	日本呼吸器学会専門医 日本内科学会総合内科専門医 気管支鏡専門医
医師	井上 勝博	京都府立医科大学 (平成19年卒)	呼吸器	日本内科学会認定医・総合内科専門医 日本呼吸器学会専門医 ICD(感染制御医)
医師	岡松 佑樹	三重大学 (平成24年卒)	呼吸器	日本内科学会認定医
レジデント	増本 駿	山口大学 (平成26年卒)		
レジデント	高畑 有里子	熊本大学 (平成27年卒)		
レジデント	粥川 貴文	富山大学 (平成27年卒)		
レジデント	謝 柯智	九州大学 (平成27年卒)		

**2. 活動報告**
**(1) 外来**

当科の外来は月曜日から金曜日まで4名のスタッフが交代で担当しました。平成29年度の時間内新患者数は総計●名であり、その他緊急を要する患者さんに対しても時間外診療を行い、平成29年度の新患総患者数は●名でした。

**(2) 入院**

当科の入院患者数は常時50名前後であり、平成29年度の入院のべ患者数が1295名でした。内訳としては肺癌患者が577名(44.6%)、肺炎・膿胸などの呼吸器感染症が208名(16.1%)、間質性肺炎(急性増悪含む)が78名(6.0%)、気管支喘息が20名(1.5%)、COPD(COPD急性増悪)が21名(1.6%)、気胸が17名(1.3%)となっております。この他超音波気管支内視鏡検査、局所麻酔下胸腔鏡などの検査入院も行いました。

**(3) 気管支鏡検査**

肺癌の診断目的に行うTBLB(経気管支肺生検)に加えて、縦隔リンパ節腫大の診断目的に行う超音波気管支鏡ガイド下生検(EBUS-TBNA)や原因不明の胸水精査のために局所麻酔下胸腔鏡検査を行いました。また難治性気胸に対する経気管支塞栓術(EWS)や気管支異物除去なども行っております。



### 3. 診療実績

#### (1) 平成 29 年度呼吸器内科入院患者疾患別内訳

疾患	患者数
肺癌	577 (44.6%)
呼吸器感染症	208 (16.1%)
間質性肺炎(急性増悪含む)	78 (6.0%)
気管支喘息	20 (1.5%)
COPD(急性増悪)	21 (1.6%)
気胸	17 (1.3%)
その他	374 (28.9%)
	1295 名

#### (2) 平成 24 - 29 年度の気管支鏡関連検査総数

	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度	平成 24 年度
総数	456	349	318	441	372	361
EBUS - TBNA	28	17	9	20	25	22
局麻下胸腔鏡検査	19	19	14	24	19	16

**診療部門の概況****◆内科・内分泌代謝部門****1. スタッフ**

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
部長	足立 雅広	九州大学 (平成4年卒)	内分泌代謝、 糖尿病、 肥満症	内科学会認定医、 日本内分泌学会専門医、指導医、 日本糖尿病学会、専門医、指導医、 日本肥満学会専門医、 日本老年病学会指導医
医師	河野 倫子	九州大学 (平成19年卒)	糖尿病、 内分泌代謝糖尿病	内科学会認定医

**2. 活動報告**

糖尿病診療：1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病、二次性糖尿病患者に対して、外来、入院治療を行った。他科に通院、入院中の糖尿病患者の、血糖管理や、糖尿病教育を行った。外来、入院中の糖尿病患者に対して、糖尿病教室など教育を行った。栄養士、看護師との協力のもと、栄養指導を行った。糖尿病腎症の患者に対して、看護師の協力のもと、生活指導を行った。日本糖尿病学会認定教育施設であり、専門医を目指す医師に指導を行った。

内分泌代謝診療：外来、入院にて、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患の診断、治療を行った。他科にて診療中の患者の内分泌代謝疾患患者の、精査、治療を行った。日本内分泌学会認定教育施設の申請を行い承認された。

**3. 診療実績**

外来数(時間内)は、新規177名、再来3,306名であった。前年の平成27年度より、新患者数は0.54倍の減少、再来数は1.4倍の増加であった。入院患者数は153名であった。入院患者数の内訳は、糖尿病患者、内分泌疾患甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患等であった。また、他科入院中患者の糖尿病患者、内分泌代謝疾患の治療を行った。



## ◆内科・腎臓部門

### 1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
医員	田村 恭久	九州大学 (平成9年卒)	腎臓内科、 透析	内科認定医、 腎臓専門医、 透析専門医
レジデント	菰田 圭佑	東邦大学 (平成25年卒)	腎臓内科、 透析	

### 2. 活動報告

適応があれば PD → HD の順で透析を行っている。

HD 患者の院内 over に対応している。

IW での CHPF にも対応している。

### 3. 診療実績

	H27	H28	H29
内シャント造設	30	38	29
シャント再建	7	4	4
人工血管(その他)	5	2	2
PTA	23	23	45
腎生検	—	10	12
血液透析導入	—	30	22
腹膜透析導入	—	2	6

**診療部門の概況****◆老年内科****1. スタッフ**

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
内科医長	折口 秀樹	自治医科大学 1984年	老年医学	老年病専門医

**2. 活動報告**

- 1) 認知症・せん妄回診：認知症看護認定看護師を中心に医師・薬剤師・リハビリ・臨床心理士・MSW が参加し、対象患者のベッドサイドに赴いて回診を行っている。
- 2) 総合評価加算の算定：高齢入院患者を対象に CGA7 を看護師で施行し、問題があった症例の評価を老年病専門医が行っている。
- 3) 高齢者支援部会研修会：隔月で高齢者医療に関する研修会を院内外の医療者を対象に行っている。
- 4) 院内デイケアを平成 29 年 9 月から開始した。

**3. 診療実績**

- 1) 認知症・せん妄回診：年間で 219 名の回診を行った。認知症ケア加算は 186 名であった。
- 2) 高齢者支援部会研修会は 5 月、7 月、11 月、12 月、2 月に行い、46 ～ 69 名の参加があった。
- 3) 院内デイケアは個人で 8 名、集団で 53 名が参加した。



## ◆神経内科

### 1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
部長	立石 貴久	熊本大学 (平成12年)	神経内科一般 筋萎縮性側索硬化症 神経変性疾患 頭痛	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本神経学会神経内科専門医・指導医 日本頭痛学会頭痛専門医
医師	橋本 侑	大分大学 (平成24年)	神経内科一般	日本内科学会認定内科医

### 2. 活動報告

当科、2017年度も2人体制で継続しました。2017年度の入院患者数は287人（前年度比+17人）、その内訳は2017年度の入院患者の疾患別内訳は脳血管障害52%、末梢神経疾患9%、変性疾患（ALS、MSA、SCD、PDなど）は4%、痙攣・てんかん8%、感染症・炎症性疾患7%と、脳血管障害の割合がやや低いですが、救急疾患が主体で病気の種類は多岐にわたっています。脳血管チームとしてオンコールを神経内科2人、脳神経外科3人で担当し、神経内科は週三日（火曜日、木曜日、日曜日）を担当しています。発症後4.5時間以内の脳梗塞の患者さんには経静脈的血栓溶解療法も行っています。しかし、当院では急性期の血管内治療は行っていないため、可能な症例については血管内治療を行っている他院への搬送を行っています。

### 3. 診療実績

診療統計（2017年度分）

外来患者数 2975人（初診528人、再診2447人）

入院患者数 287人

平均在科日数 14.9日

神経伝導検査、筋電図：159件/年

脳波判読：206件/年

tPA投与症例数：8件/年（うち2件は血管内治療のために他院へ搬送）

入院患者の疾患別分類（下の表）

入院患者の疾患別分類（2017年度退院サマリー 287件）

大分類		中分類	
脳血管障害	149	脳梗塞	139
		TIA	9
		PRESS	1
てんかん / 痙攣			25
感染・炎症			21
脊髄疾患			5
多発性硬化症 / 視神経脊髄炎			4
変性疾患	11	筋萎縮性側索硬化症	7
		多系統萎縮症	1
		パーキンソン病 / 症候群	3
正常圧水頭症			5
重症筋無力症			5
末梢神経疾患			27
筋疾患			2
代謝性疾患			5
中毒			2
心因性			1
他神経疾患			4
末梢性めまい			4
内科疾患			17
合計			287

**診療部門の概況**
**◆小児科・小児循環器科・新生児小児科**
**1. スタッフ**

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
部長	高橋 保彦	岐阜大学 (昭和56年卒)	小児神経、発達 障害、新生児	小児科専門医、新生児指導医、 産科医療補償制度診断協力医
部長 (NICU担当)	山本 順子	山口大学 (平成4年卒)	新生児、呼吸 管理、先天異常	小児科専門医、新生児専門医、 産科医療補償制度診断協力医
部長 (循環器小児科)	宗内 淳	九州大学 (平成10年卒)	小児循環器	小児科専門医、 小児循環器専門医・暫定指導医
医師	渡邊 まみ江	佐賀医科大学 (平成5年卒)	小児循環器、小児不整脈、 成人CHD	小児科専門医、小児循環器専門医
医師	米田 哲	国立富山医科薬科大学 (平成15年卒)	救急災害医学、集中治療、 感染症	小児科専門医
医師	横田 千恵	九州大学 (平成17年卒)	小児科一般、新生児	小児科専門医
医師	杉谷 雄一郎	島根大学 (平成18年卒)	小児科一般、小児循環器	小児科専門医
医師	城尾 正彦	琉球大学 (平成19年卒)	小児科一般、小児内分泌・ 代謝疾患、糖尿病	小児科専門医
医師	鳥袋 渡	九州大学 (平成19年卒)	小児腎疾患	小児科専門医
医師	大村 隼也	熊本大学 (平成20年卒)	小児科一般、新生児	小児科専門医
医師	飯田 千晶	佐賀大学 (平成20年卒)	小児科一般、循環器	小児科専門医
医師	岡田 清吾	山口大学 (平成20年卒)	小児科一般、循環器	小児科専門医
医師	白水 優光	九州大学 (平成21年卒)	小児科一般	小児科専門医
医師	芳野 三和	熊本大学 (平成21年卒)	小児科一般、腎臓	小児科専門医
医師	川口 直樹	九州大学 (平成23年卒)	小児科一般	小児科専門医
医師	岩屋 悠生	九州大学 (平成27年卒)	小児科一般	
医師	相良 優佳	福岡大学 (平成27年卒)	小児科一般	
医師	松下 友香	九州大学 (平成27年卒)	小児科一般	
医師	渡辺 ゆか	佐賀大学 (平成27年卒)	小児科一般	

**2. 活動報告**

小児科は、新生児疾患を中心に診療する「新生児小児科」ならびに、心臓病こども達の診療にあたる「循環器小児科」といった極めて専門性の高い分野から、乳児健診から小児の高次救急までをカバーする「総合小児科」があります。

その活動は地域の医療機関のみならず、保健所や児童相談所、特別支援学校といった行政機関との協力、また院内・外の各科と協力しながら、子どもたちの抱えるあらゆる問題に対し、多岐にわたって日常診療から高度医療まで実践しています。

**具体的活動として**

1. 市中病院小児科に求められる急性肺炎や胃腸炎といった小児感染症、また気管支喘息、けいれん、腸重責などの小



## 診療部門の概況

児に固有な疾患の診療。

2. 市内外の消防局救急隊から、救急搬送されてくる多くの子どもたち、溺水や交通外傷といった重症疾患・緊急手術を要する病態まであらゆる小児の救急疾患に 24 時間対応。
3. 市（県）内外を問わず市中病院小児科から重篤な小児を受け入れ、より高次の医療たとえば、脳低体温療法や血漿交換、また持続血液濾過（CHDF）などの血液浄化療法から体外補助循環は実施。また、NO や NO<sub>2</sub> を併用した特殊な呼吸管理も豊富な経験を有し、小児集中治療室（PICU）として機能。
4. 新生児集中治療室（NICU）は、市内外で出生した未熟児や病的新生児、緊急手術を必要とする児に常時即応できる体制で、地域の安心安全に貢献。  
なお 2014 年 4 月に NICU を拡張し、認可新生児集中治療室（NICU）15 床を含む 31 床で、地域周産期母子医療センターとして産科とともに地域の新生児医療の中心的役割を果たしている。
5. 小児の先天異常のうち最も出生頻度が高い先天性心臓病（CHD）の診療は 30 年来の長い経験を有したチームが専門性の高い医療を実践。
6. 乳幼児期に心臓手術を受け、成人期に達した方々（成人先天性心臓 adult-CHD）の診療。
7. 周産期から乳幼児期の様々な病態によりはからずも重度の後遺症を残されたお子さまは少なくない。重度の障害を抱えても、可能な限り自宅でご家族とご一緒に生活できるよう、医療的ケアが必要な超重症児の在宅医療への取り組み
8. 小児虐待に対し児童相談所や地域の保健センター、家庭相談員との密な連絡を保ちつつ対応。
9. 小児の心身症、アスペルガーや注意欠如多動症などの小児期の発達障害を有することも達への対応、さらには小児の不安障害や不登校、また発達上の諸問題に臨床心理士と共同し対応。
10. 地域の訪問看護ステーションの協力の下、小児の在宅医療に積極的に取り組み、在宅人工呼吸管理症例も 30 例を数え、中には 20 年を超える実績を有している。  
さらにはレスパイト入院を積極的に受け入れ、その間に外来では難しい検査や処置・治療などを行い、無理なく小児在宅医療が継続できるよう心がけている。
11. 2014 年 4 月からは「地域連携小児夜間休日診療」体制を組み、地域の開業クリニックの先生方にご協力いただきながら、地域の小児救急医療体制を守っている。
12. 1975 年から院内標榜科として「循環器小児科」を掲げ、国内でも有数の歴史と症例数を誇ります。そのため九州・山口各県の基幹病院から心疾患の治療のために来院されている。
13. 日本小児循環器学会専門医修練施設として小児循環器専門医育成に尽力している。国立病院機構小倉医療センター、山口赤十字病院、中津市民病院、大分県立病院、佐賀大学医学部附属病院は当院と専門医育成のため提携。
14. 産科医・新生児科医の協力のもと、胎児心エコーによる出生前診断を実施。重症先天性心疾患の赤ちゃんは出生前に治療計画を立てることができるようになり、治療成績向上につながっている。
15. 八幡西区の学校心臓二次検診を担当。さらには、北九州市と中間市・遠賀郡の三次検診を実施。地域の子どもたちが安心して学校生活をおくることができるように、専門的な管理・指導をしている。

### 3. 診療実績

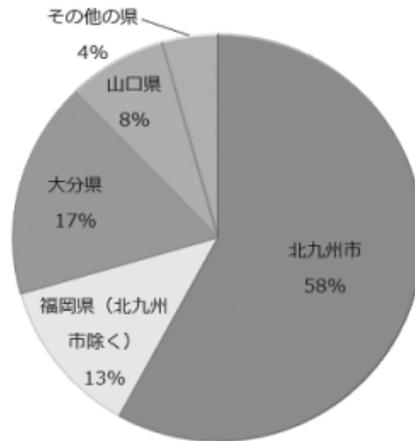
<総合小児科>

1. H29 年度の小児科年間外来患者数は 26,629 人であり、病院全体の 14%。延入院患者数は 21,681 人、実数で 1,492 人で、病院全体の延入院数の 11%を占めていた。
2. H24 年度の小児科救急患者数は 10,084 人で、病院全体の救急患者数の 48%を占めていた。
3. 小児救急患者のうち、2,481 人（24%）が、深夜帯（22:00～5:00）の受診であった。
4. 救急車受け入れ数は 586 件であった。
5. H24 年度の小児科入院死亡患者数は 14 名であった。

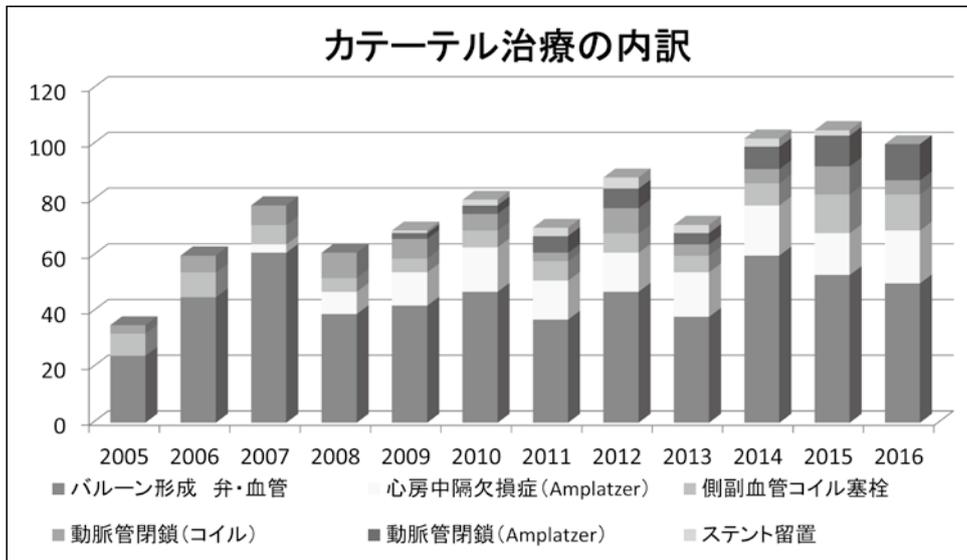
**診療部門の概況**

<小児循環器科>

1. 年間 450 ～ 500 人の患者さんが、県内外から検査や治療のために入院となり、そのうち年間 150 ～ 200 人の患者さんが手術を受けた。手術を受けられる患者さんは術前精密検査として心エコー図検査（年間 5000 件）、運動負荷心電図（年間 100 件）、ホルター心電図（年間 400 件）、心臓カテーテル検査（年間 350 - 400 件）、心臓 CT 検査（年間 100 - 120 件）、心臓核医学検査（年間 50 件）などの特殊な検査を実施した。
2. 年間 30 ～ 40 例の胎児心エコーを行っており、当院へ入院される方の約 8% で出生前診断がされた。



当院を受診される患者さんが来られる地域

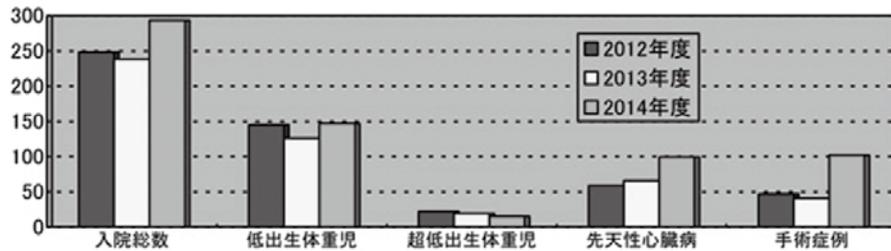




## 診療部門の概況

## &lt;新生児小児科&gt;

1. 2016 年度の新生児病棟入院児は院内出生■例 (49%)、院外出生■例 (51%) で、院内院外がほぼ半数毎であった。なお院内出生児の■% は母体が他院から当院産科へ紹介されていた。
2. 院外出生児 158 例の児のうち、45% は当院新生児科医が往診後に救急車で当院に搬送している。
3. 治療目的で市内外の他病院 NICU からの転院が 43% あり、うち県外からが約 30% もあり、重症新生児が集中している。ヘリコプターでの搬送も毎年 3～5 件と少なくない。



当院 NICU/GCU 入院新生児の内訳

## 診療部門の概況

### ◆放射線科

#### 1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
副院長 (診療部長)	水島 明	九州大学 (昭和55年卒)	画像診断	放射線診断専門医、PET核医学認定医
医長 (消化器診療担当)	平賀 聖久	九州大学 (平成元年卒)	消化管	放射線診断専門医、消化器内視鏡指導医、 消化器がん検診指導医
医長 (画像診断担当)	宮嶋 公貴	九州大学 (平成5年卒)	画像診断	放射線診断専門医、 検診マンモグラフィー読影認定医
医長 (放射線治療担当)	渥美 和重	九州大学 (平成14年卒)	放射線治療	放射線診断専門医、放射線治療専門医、 日本癌治療認定医
医師	牧角 健司	九州大学 (平成元年卒)	画像診断	放射線診断専門医、PET核医学認定医、 検診マンモグラフィー読影認定医
医師	井上 公代	長崎大学 (平成11年卒)	画像診断	放射線診断専門医、 検診マンモグラフィー読影認定医
レジデント	渡部 浩史	愛媛大学 (平成26年卒)	画像診断	
レジデント	牧瀬 智	佐賀大学 (平成27年卒)	画像診断	

#### 2. 活動報告

##### 放射線科の紹介

放射線科では、画像診断、核医学、インターベンショナルラジオロジー (IVR)、放射線治療の放射線科領域の全分野を放射線科専門医6名、放射線科レジデント2名の常勤医師で分担しています。

診断の分野では、放射線診断のみでなく、広い意味での画像診断として、CT 検査、MR 検査、消化管造影検査、消化管内視鏡検査、血管造影検査、超音波検査等を分担しています。

放射線治療の分野では、常勤の放射線治療専門医が、外部照射、小線源を用いた腔内照射、骨髄移植前に必要な全身照射を含めて、悪性腫瘍の治療を主体に広範囲に対応しています。治療稼働日でない休日には放射線治療担当技師による治療機器の品質管理を月に2回行い、安全管理に日々努めています。

##### 対応可能な治療

2017年度の年間の検査数は、CT 検査 27261 件、MR 検査 6,829 件、RI 検査 1,505 件、血管造影検査 110 件です。

インターベンショナルラジオロジーは、肝臓癌の肝動脈化学塞栓療法が大部分を占めますが、副腎静脈サンプリングによる副腎腫瘍の診断や、消化管出血、咯血、性器出血、外傷性出血等に対する止血等も行っており、約 10% の症例は急患、救急に対応した検査です。

核医学の分野では、心臓循環器関係や骨、腫瘍、内分泌系、脳血流、出血シンチグラム等を行っています。骨シンチグラムについては地域の医療機関から多数の検査依頼を受けています。

**診療部門の概況**

消化管領域では、上部および下部消化管のX線検査と内視鏡検査（拡大内視鏡観察や超音波内視鏡を含む）を施行し、消化管疾患のスクリーニングや精密検査に対応しています。また放射線科の特性を活かし、CT検査やMRI検査などのモダリティも駆使して、消化管疾患の診断にアプローチしています。

放射線治療は手術、化学療法とともにがんの集学的治療の一翼を担っています。当院の放射線治療部門では、2017年、次世代の放射線治療に対応すべく開発された最新の医療用直線加速器である TrueBeam STx が導入されました。この機種は、定位放射線治療（stereotactic radiation therapy, SRT）や強度変調放射線治療（intensity-modulated radiation therapy, IMRT）などの高精度治療を極めて短時間に、かつ高精度で行うことが可能になっております。年々症例数は増加し、2017年度は治療件数は10000件を超え、417症例の患者様を治療致しました。外照射では408例、内訳は頭頸部がん36例、肺がん90例、消化器がん59例、乳がん89例、泌尿器がん30例、婦人がん21例、などです。RALSを用いた密封小線源治療は、主に子宮頸癌に対する腔内照射を行っており、2017年度は14例施行いたしました。2014年より開始した定位放射線治療（ピンポイント治療）は、2017年度は30例施行いたしました。肺がん、肝がんを中心に行って参りましたが、本年度より、脳転移に対する治療を開始しております。

**診療部門の概況****◆精神科****1. スタッフ**

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
医師	天津 透彦	熊本大学 (平成12年卒)	リエゾン精神医学	日本精神神経学会専門医 精神保健指定医

**2. 活動報告**

原則的に、入院中外来を主体に診療を行なっております。又、緩和ケア外来でも診療を行なっております。

その他にも、火曜日午後は緩和ケア回診・木曜午前は認知症・せん妄回診に参加しております。それらの他職種とのチーム活動を通して、普段から患者様の心身両面の治療が円滑に行なわれることを目指しています。

**3. 診療実績(平成29年度実績)**

入院中外来 221件

緩和ケア関連での介入件数 62件

※緩和ケア関連・入院中外来では重複あり

平成29年度入院中外来・緩和ケア関連での介入患者 疾病分類

器質性精神障害(認知症・せん妄除く)	34
認知症	16
せん妄	140
精神作用物質に関連した障害	35
統合失調症及びその類縁疾患	9
気分障害	8
神経症性障害・ストレス関連	36
睡眠障害	9
発達障害	1
その他	7
合計	295



## ◆麻酔科

### 1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
部長	茅島 顕治	産業医科大学 (平成4年卒)	麻酔	麻酔科指導医
医師	村島 浩二	産業医科大学 (平成6年卒)	麻酔	麻酔科指導医
医師	芳野 博臣	産業医科大学 (平成11年卒)	麻酔	麻酔科指導医
医師	今井 敬子	鹿児島大学 (平成20年卒)	麻酔	麻酔科専門医
医師	水山 有紀	長崎大学 (平成20年卒)	麻酔	麻酔科専門医

### 2. 活動報告

7:50 から症例カンファレンス、一日約 20 例の麻酔症例管理、随時（研修医気道確保、末梢静脈ライン確保）、委員会出席（医療安全管理委員会委員、医療の質向上委員会委員、倫理委員会委員、手術室運営委員会副委員長、医療ガス管理委員会委員、集中治療運営委員会委員、ICT 委員、診療材料購買委員会委員、中心静脈カテーテル認定委員会委員など）

### 3. 診療実績

2015.1 月 - 12 月 4558 症例の麻酔管理、心臓外科 376 症例、帝王切開 211 症例、5 歳以下の小児 178 症例など。ペインクリニックなし。

## 診療部門の概況

### ◆外科・上部消化管外科

#### 1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
医長	難波江 俊永	九州大学 (平成4年卒)	上部消化器疾患	日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本内視鏡外科学会技術認定医 消化器がん外科治療認定医 日本がん治療認定機構暫定教育医
医師	林 晃史	九州大学 (平成12年卒)	上部消化器疾患	日本外科学会専門医 日本消化器外科学会専門医 消化器がん外科治療認定医
医師	柳 親茂	山口大学 (平成17年卒)	上部消化器疾患	日本外科学会専門医 日本がん治療認定機構がん治療認定医
医師	西村 志帆	大分大学 (平成24年卒)	上部消化器疾患	日本外科学会専門医

#### 2. 活動報告

外科上部消化管グループは、上部消化器がん(胃癌、食道癌)にたいする外科治療を担当しています。近年、胃癌や食道癌に対する術式では腹腔鏡手術が急速に普及しています。当科では10年以上前より腹腔鏡下胃切除および鏡視下食道がん手術を導入しており、多くの方の手術を担当させていただいています。腹腔鏡下胃切除術はこれまでに1000例以上の手術を経験してきました。難波江、林、柳、西村の4名で診療を担当させていただいています。

#### 3. 診療実績

胃疾患：

良性疾患：10例(十二指腸潰瘍穿孔または胃潰瘍穿孔：10例)

腹腔鏡下穿孔部閉鎖：4例、開腹穿孔部閉鎖：6例

悪性疾患：102例(胃癌：96例、胃GIST：6例)

悪性疾患に対する術式の内訳： 腹腔鏡：97例 / 開腹：5例

開腹手術：幽門側胃切除：2例、胃全摘：1例、残胃全摘：1例、胃局所切除：1例

腹腔鏡手術：幽門側胃切除：42例、胃全摘：42例、残胃全摘：5例

噴門側胃切除：1例、バイパス手術：2例、局所切除：5例

食道疾患：

悪性疾患：14例(食道癌：14例)

鏡視下食道亜全摘+胃管再建：13例

開胸食道亜全摘+胃管再建：1例



## ◆外科・下部消化管外科

### 1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
医師	梁井 公輔	九州大学 (平成 11 年卒)	下部消化管	日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医 日本内視鏡外科学会技術認定医 消化器がん外科治療認定医 がん治療認定医 医学博士
医師	林 晃史	九州大学 (平成 12 年卒)	上部・下部消化管	日本外科学会専門医 日本消化器外科学会専門医 消化器がん外科治療認定医 がん治療認定医 医学博士
医師	村上 聡一郎	佐賀大学 (平成 14 年卒)	下部消化管、乳腺	日本外科学会専門医 日本乳癌学会乳腺専門医 検診マンモグラフィ読影認定医 日本消化器外科学会専門医・指導医 消化器がん外科治療認定医 日本内視鏡外科学会技術認定医
医師	柳 親茂	山口大学 (平成 17 年卒)	上部・下部消化管	日本外科学会専門医 がん治療認定医
医師	木村 英世	九州大学 (平成 19 年卒)	肝胆膵、上部・下部消化管	日本外科学会専門医 医学博士
医師	西村 志帆	大分大学 (平成 24 年卒)	上部・下部消化管、乳腺	

### 2. 活動報告

下部消化管グループでは主に大腸癌（結腸癌・直腸癌）の手術を担当しています。また、腸閉塞や腹膜炎、血流障害による腸管の壊死などの緊急手術を要する疾患についてもできる限り迅速な対応ができるよう体制を整えています。

大腸癌手術症例が年間 160～200 例あり、その他緊急手術や良性の大腸疾患、炎症性腸疾患の手術などを合わせると年間 300 例前後の大腸に関連する手術を行っています。2017 年の下部消化管関連疾患に対する手術総数は 286 例でした。

当院では、以前から積極的に腹腔鏡下大腸癌の手術を行っており、大腸癌手術の 9 割を腹腔鏡下に行っています。腹腔鏡下の大腸癌手術を導入した 2006 年から症例を積み重ね、現在では、九州でも有数の腹腔鏡下大腸癌手術症例数を数える施設の一つとなっています。

### 3. 診療実績

下部消化管疾患：

下部消化管悪性腫瘍手術：164 例（結腸・虫垂 111 例、直腸（肛門管含む）：53 例）

術式の内訳： 腹腔鏡手術：138 例 開腹：26 例

腹腔鏡手術： 結腸癌：91 例、直腸癌：47 例

開腹手術： 結腸癌：20 例、直腸癌：6 例

悪性腫瘍以外の手術：126 例

主な内訳： 腸閉塞手術：40 例、大腸穿孔：7 例など

**診療部門の概況**
**◆外科・肝胆膵外科**
**1. スタッフ**

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
医長	川本 雅彦	九州大学 (平成6年卒)	肝胆膵外科 消化器外科 消化器内視鏡 (ERCP)	日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医 日本肝胆膵外科学会高度技能指導医 日本内視鏡外科学会技術認定医 日本胆道学会認定指導医 (内視鏡、経皮経肝、癌外科、胆石) 消化器がん外科治療認定医 日本がん治療認定機構がん治療認定医 日本がん治療認定機構暫定教育医 難病指定医 医学博士
医師	山田 大輔	九州大学 (平成10年卒)	肝胆膵外科 消化器外科 消化器内視鏡 (ERCP)	日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医 日本肝胆膵外科学会高度技能専門医 日本内視鏡外科学会技術認定医 消化器がん外科治療認定医 医学博士
医師	中島 陽平	東京医科歯科大学 (平成20年卒)	肝胆膵外科 消化器外科 消化器内視鏡 (ERCP)	日本外科学会専門医

**2. 活動報告**

肝胆膵外科部門では胆のう結石症、胆のうポリープ、胆管結石症などの良性疾患、肝癌（原発性肝癌、転移性肝癌）、胆道癌（胆のう癌、胆管癌、十二指腸乳頭部癌）、膵癌等の悪性疾患に対する内視鏡治療および手術を担当しています。初診時に閉塞性黄疸で当科を受診いただいた場合、そこから内視鏡的手技を駆使しつつ診断・減黄（黄疸を改善させる処置）から治療（手術）までを一貫して行います。当部門の特徴として、拡大手術をはじめとする開腹手術と、高難度鏡視下手術を同一のチームで行っているのが大きな特徴です。肝胆膵外科領域の腹腔鏡手術は危険性が社会問題となっている昨今ですが、今後は安全性を第一に当領域の腹腔鏡手術の資質向上に向けて努力すると共に、今春より当チームに所属している中島医師の同資格取得に向けて準備を行っています。2018年は全肝切除の8割超の患者さんに安全に腹腔鏡下肝切除術を施行することができています。

**3. 診療実績 (2017年1/1～12/27)**

胆道良性疾患：155例

胆嚢摘出 155（鏡視下 149例、開腹移行 3例、開腹 2例、腹腔鏡下総胆管切開 1例）

※併施は含まず

肝切除：32例

部分切除・肝床部切除 19例（腹腔鏡下 10例）

右葉切除（拡大含む） 3例（肝門部胆管癌 1例、転移性肝癌 1例、HCC 1例）

左葉切除（拡大含む） 3例（肝門部胆管癌 1例、腹腔鏡下 1例、PD術後胆道癌 1例）

区域切除 7例（腹腔鏡下外側区 2例、前区域 2例、後区域 1例、腹腔鏡下後区域 2例）

※約 47%の肝切除を腹腔鏡で施行



膵・胆道切除 26 例

尾側膵切除 8 例（鏡視下 3 例、腎癌膵転移 1 例、MCN 1 例、IPMN 2 例、通常型膵癌 4 例）

膵頭十二指腸切除術 14 例（門脈合併切除 1 例）

膵全摘 2 例

**診療部門の概況**
**◆外科・呼吸器外科**
**1. スタッフ**

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
院長	内山 明彦	九州大学 (昭和160年卒)	呼吸器外科 (肺がん、縦隔疾患)	外科専門医・指導医、呼吸器外科専門医、 消化器外科認定医、 がん治療認定機構がん治療認定医、医学博士
医長	中村 勝也	佐賀医科大学 (平成7年卒)	呼吸器外科 (肺がん、縦隔疾患)	外科専門医、指導医、呼吸器外科専門医、 乳癌認定医、 がん治療認定機構がん治療認定医、医学博士

**2. 活動報告**

当院の呼吸器外科は、呼吸器外科専門医 2 名（内山明彦、中村勝也）を中心に、外科後期修練医 1 名を加え、呼吸器内科、放射線科、病理と連携を密にした、グループ診療体制をとっています。

呼吸器外科疾患の患者さんについて、呼吸器部門合同カンファレンス（毎週火曜日）、および呼吸器外科病棟カンファレンス（毎週木曜日）を行い、治療方針を決めるようにしています。

すべての呼吸器外科疾患の患者さんは、呼吸器外科医が主体に担当し、手術および術後管理を行います。病棟は、6 階南病棟です。

呼吸器外科手術では、全例に胸腔鏡を用い、主にステージ I の肺癌手術においては、創 6cm 以下の胸腔鏡下手術を行っています。2017 年の胸腔鏡下肺癌手術は 73 例で、全体の 75% に適用しています。また従来から組織の凝固、止血にソフト凝固を用いており、出血量の少なく、安全性を高めた手術が可能になっています。

**3. 診療実績**

2017 年の呼吸器外科手術例数は、164 例（原発性肺癌 104 例）でした。すべての手術に胸腔鏡を用いましたが、完全胸腔鏡下手術は、128 例（原発性肺癌手術 73 例）です。原発性肺癌手術の内訳は、葉切除 80 例、区域切除 2 例、肺摘除 0 例、部分切除 22 例でした。原発性肺がん手術における術後合併症発生率は、18.4 % でした。

**最近 3 年間における疾患別手術例数**

	2015 年	2016 年	2017 年
原発性肺癌	91	87	104
転移性肺癌	23	11	11
縦隔腫瘍	9	5	8
気胸	19	24	22
炎症性肺疾患	2	3	0
膿胸	6	10	4
重症筋無力症	0	0	0
胸膜腫瘍	2	1	3
その他	24	18	12
合計	176	159	164



## 最近 3 年間における術式別手術例数

	2015 年	2016 年	2017 年
肺切除	97	87	104
葉切除	75	62	78
二葉切除	2	3	2
肺摘除	0	1	0
区域切除	2	1	2
部分切除	18	21	22
縦隔腫瘍切除	3	5	8
胸腺摘出	4	0	3
胸膜肺全摘	2	0	0
肺剥皮、胸郭形成	0	1	0
その他	43	66	49
合計	176	159	164

## 2017 年の原発性肺癌手術症例の病理病期

病理病期	症例数	率 (%)
IA1	15	14.4
IA2	43	41.3
IA3	21	20.2
IB	10	9.6
IIA	2	1.9
IIB	8	7.7
IIIA	3	2.9
IIIB	1	1
IIIC	0	0
IVA	1	1
IVB	0	0
合計	104	100

**診療部門の概況**
**◆外科・乳腺部門**
**1. スタッフ**

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
医長	梅田 修洋	九州大学 (平成03年卒)	乳腺疾患	日本外科学会専門医 日本乳癌学会専門医 日本癌治療認定医機構癌治療認定医 検診マンモグラフィー読影認定医 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会乳房再建用エキスパンダー/インプラント実施医
医師	村上 聡一郎	佐賀大学 (平成14年卒)	上部消化器疾患 乳腺疾患	日本外科学会専門医 日本消化器外科学会専門医 消化器がん外科治療認定医 日本乳癌学会専門医 日本内視鏡外科学会技術認定医
医師	田中 晴生	熊本大学 (平成12年卒)	乳腺疾患	検診マンモグラフィー読影認定医

**2. 活動報告**

乳腺グループでは主に乳癌の手術を担当しています。

**3. 診療実績**

乳腺疾患:

原発乳癌手術 161 例

乳癌以外の乳腺疾患手術 57 例



## ◆外科・小児外科

### 1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
副院長 診療部長	上村 哲郎	九州大学 (昭和62年卒)	小児外科、一般外科	日本外科学会専門医
医長	古野 渉	九州大学 (平成24年卒)	小児外科	

### 2. 活動報告

小児外科部門では、主に15歳までのお子さまの外科治療を担当しています。小児外科とはいったいどの範囲の病気を扱う科なのか、という質問をよく受けます。大人の一般外科の領域は呼吸器・消化管・肝胆膵・その他の腹腔内臓器や体壁、皮膚軟部組織などを扱うわけですが、これらの臓器における小児の外科的な病気を治療の対象とするのが小児外科です。そのため、脳神経外科・眼科・耳鼻咽喉科・心臓血管外科・整形外科の病気は対象とはなりません。こどもはおとなに比べてからだが小さいばかりでなく、主要臓器が発育の途中にあり未完成かつ未成熟であることに加え、先天的な奇形や胎生期遺残を伴っている場合があります、こどもの特質を熟知した上での手術や治療が必要です。また、より専門的な外科系各部門・小児科とお子さまの間に立ち、小児の外科診療の窓口的な役割も担っています。

### 3. 診療実績

過去5年間の手術例数、手術内訳を表に示します。

#### 手術例数

	2017年度		2016年度		2015年度		2014年度		2013年度	
全	200		192		166		194		186	
男	125	63%	122	64%	108	65%	121	62%	100	54%
女	75	38%	70	36%	58	35%	73	38%	86	46%
新生児	13	7%	24	13%	14	8%	12	6%	18	10%
乳児	48	24%	35	18%	32	19%	55	28%	40	22%
幼児	62	31%	59	31%	60	36%	75	39%	74	40%
学童以上	77	39%	33	17%	60	36%	52	27%	54	29%
鏡視下手術	106	53%	90	47%	77	46%	102	53%	96	52%

#### 手術内訳

	2017年度	2016年度	2015年度	2014年度	2013年度
鼠径ヘルニア	65	51	58	76	74
虫垂炎	18	17	13	17	17
胃瘻造設	11	15	10	14	16
停留精巣	10	12	9	13	14
良性腫瘍摘出	9	8	7	12	9
新生児腸閉塞	7	7	6	10	9
漏斗胸	6	6	4	6	4
その他	74	76	59	46	43
計	200	192	166	194	186

**診療部門の概況****◆整形外科****1. スタッフ**

2017年スタッフは計10名(部長1名、医長および医員6名、レジデント3名)

スタッフに関してはホームページあるいは診療案内誌の情報参照ください。

**2. 活動報告**

脊椎領域においては2014以降MEDシステムおよびPEDシステムの両方が施行可能となり、通常行われる脊椎内視鏡手術はすべて施行できるようになっており全脊椎手術の50%が内視鏡で施行されている。

また固定が必要な症例に対しても最小侵襲脊椎安定術(MISt)等を用いできる限り小侵襲化を図っている。

股関節領域では脚長差を最小に押さえた人工股関節手技に加え、骨切り術も含めた関節温存術が当院の特徴であり、手術手技も改良されてきている。

膝関節領域は人工膝関節を中心に手術を施行しているが適応となる症例には単関節置換術、高位脛骨骨切り術も施行している。

大腿骨近位部骨折に対しては多職種での効率的情報共有を目指して大腿骨近位部骨折統一カルテを立ち上げ使用している。

**3. 診療実績(2017年)**

手術総数	742例
大腿骨頸部骨折手術	145例
脊椎手術	163例
うち内視鏡手術	86例
股関節手術	132例
うちTHA	98例
骨切り	10例
膝関節手術	57例
うちTKA	29例
肩関節手術	1例



## 診療部門の概況

## ◆心臓血管外科

## 1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
診療部長	徳永 滋彦	長崎大学 (昭和63年)	心臓外科一般	心臓血管外科専門医 日本心臓血管外科学会評議員 心臓血管外科専門医認定機構基幹施設修練責任者 心臓血管外科修練指導者 心臓血管外科国際会員 日本冠動脈外科学会評議員 日本胸部外科学会認定医・指導医 日本胸部外科学会教育施設協議会幹事 日本胸部外科学会九州地方会評議員 日本循環器学会循環器専門医 日本人工臓器学会理事 日本人工臓器学会評議員 日本外科学会認定医・専門医・指導医 腹部ステントグラフト実施医 米国ECFMG Certificate (Permanent) Evaluating Examination of Canada 合格 日本Advanced Heart&Vascular Surgery/ OPCAB研究会幹事 医学博士
医長 (小児・ICU担当)	落合 由恵	東京慈恵会医科大学 (平成2年)	心臓外科一般先天性心臓病	心臓血管外科専門医 日本心臓血管外科学会評議員 日本外科学会専門医 日本胸部外科学会評議員 日本小児循環器学会評議員 日本胸部外科学会九州地方会評議員 医学博士
医師	久原 学	九州大学 (昭和61年)	心臓外科一般	日本胸部外科学会認定医 日本外科学会認定医・専門医
医師	馬場 啓徳	九州大学 (平成11年)	心臓外科一般	外科専門医 循環器専門医 脈管専門医 腹部ステントグラフト実施医 下肢静脈瘤レーザー焼灼術実施医 医学博士
医師	安東 勇介	九州大学 (平成15年)	心臓外科一般	外科専門医 循環器専門医 心臓血管外科専門医 医学博士
レジデント	宮城 ちひろ	九州大学 (平成25年)	心臓外科一般	
レジデント	瀧川 友哉	産業医科大学 (平成26年)	心臓外科一般	

## 2. 活動報告

当院の心臓血管外科では、昭和 35 年に低体温併用による直視下肺動脈弁交連切開術、昭和 36 年に人工心肺を用いて 22 才女子の心房中隔欠損閉鎖術を行ったという古い歴史があります。これは九州大学よりも先駆けて実施されており、当時としては、まさにチーム努力の結晶の偉業であったと思います。

当院心臓血管外科の特色として、小児から成人まで全ての疾患の心臓血管手術を行っており、2017 年は先天性心疾患手術 122 例、後天性心臓大血管手術 141 例（腹部大動脈瘤を含む）、計 263 例の心臓大血管手術の手術を行いました。

また昨年同様、当院の豊富な経験を元に情報を発信するように心掛け、学会や研究会での発表や論文執筆などの学術的活動にも引き続き力を入れました。平成 29 年度は学会研究会にて当科より 22 の発表と 9 の座長、また 4 編の論文や著書執筆（邦文 3 編、英文 1 編）を行いました。

施設の実力とは単純に治療の技術のみならず、病床管理や全体の対応を含めた総合力をもって初めて施設の実力となる



## 診療部門の概況

と思っております。手術で良好な成績を残すのは勿論ですが、手術のやりっ放しではなく丁寧な術後管理により早期の退院を目指し、退院後も循環器内科との連携による術後フォローアップを行います。また緊急症例に対しても 24 時間体制での対応を今後とも続け、地域の中核病院として皆さんに信頼される循環器治療を提供できるよう努力を重ねて参ります。

### 3. 診療実績

2017 年（1 月～12 月）は先天性心疾患手術 122 例、後天性心臓大血管手術 141 例（腹部大動脈瘤を含む）、計 263 例の心臓大血管手術の手術を行いました。

263 例中、手術死亡（30 日以内）が 3 例（1.1%）、在院死亡 5 例（1.9%：手術死亡含む）でありました。手術死亡の 3 例は成人例 2 例、小児例 1 例であり、在院死亡も含めいずれも術前状態が極めて不良な症例でした。

小児心臓手術では少子化と出生前診断の影響もあり、ここ 2 年ほど手術症例が減少傾向であります。心房中隔欠損症や動脈管開存症に対するカテーテル治療が広がっており手術に回ってくるこの疾患は激減しております。また染色体異常のあるお子さんの手術症例も減っております。ただ複雑な先天性心疾患に対する手術は少なくなく、依然高度な治療戦略、周術期治療が求められております。1 例の手術死亡は無脾症の単心室症例で、総肺静脈環流異常、肺静脈狭窄、共通房室弁逆流のある 4 か月の症例で、肺静脈狭窄の修復、共通房室弁形成を行いました。術後の低酸素血症が改善せずに術後 11 日目に失っております。1 例の在院死亡は、グレン手術前の BT シャント術後の左前下行枝途絶を伴った右室依存性冠動脈循環のある純型肺動脈閉鎖でしたが、グレン手術前の入院日に、BT シャントの重閉塞をきたし、急遽カテーテル検査室で、カテーテルでの閉塞解除、シャント追加を行いました。術後虚血性腸炎、低酸素脳症を併発し、術後 6 か月後に亡くなりました。いずれも複雑な単心室症例であり、この疾患に対する治療戦略の困難さを感じております。

成人心臓血管外科領域において、虚血性心疾患症例手術はカテーテル治療の進歩に伴い年々減少していますが、その難易度は増す一方です。腎不全、脳血管障害、末梢血管障害、肺機能障害など全身状態の不良な高齢症例は増え、バイパスのターゲットとなる冠動脈性状も決して良好とは言えず重症症例ばかりですが、良好なバイパス開存を保つことができしております。2017 年は 33 例の虚血性開心術を施行しそのうち 13 例は緊急 / 準緊急手術でした。81 才広範囲急性心筋梗塞の重症 3 枝病変、心カテ中の心停止に対し PCPS（経皮的心肺補助装置）装着を要した症例に対する緊急冠動脈バイパス例では、救命かなわず術後 19 日目に亡くなりました。また虚血性心室中隔穿孔症例に対する緊急心室中隔穿孔閉鎖症例では心内シャント閉鎖は問題ありませんでしたが術後 33 日目に肺炎のため亡くなりました。弁膜症は 48 例と昨年よりも増加しています。僧帽弁手術 22 例のうち 17 例は僧帽弁形成術であり人工腱索再建法をはじめとするさまざまな方法を組み合わせ良好な僧帽弁形成をできているのが当院の特色の一つです。弁膜症手術の死亡は皆無でした。大動脈疾患手術は年間 57 例（胸部・胸腹部 23 例、腹部 34 例）でした。このうちステントグラフト症例は胸部・胸腹部 7 例、腹部 30 例と今後も血管内治療の重要性は増していくと思われま。大動脈疾患手術では 86 才腹部大動脈瘤に対する開腹グラフト置換症例が高度腸管癒着に起因する消化器合併症による敗血症のため術後 23 日目に亡くなりました。

かつて治療が困難であった複雑心臓疾患が医学の進歩のために救命できるようになり、その子供達も成人にまで成長するようになりました。この成人先天性心疾患（ACHD）患者は既に 50 万人を超え小児の患者数を上回るようになり毎年 9,000 名増えていると言われております。成人先天性心疾患のフォローアップは成人後も引き続き必要であり、不整脈や大動脈拡大、弁膜症の増悪などのために再び開心術を必要とする症例も増えてきました。当院でも毎年数例の ACHD 手術症例を経験するようになりました。これは小児循環器内科、成人循環器内科、小児心臓外科、成人心臓外科全ての総合的な知識経験を要求される分野であり、全国的に見ても ACHD にしっかりと対応できる施設はそう多くはありません。当院の総合力を活かして今後増加するであろうこの ACHD 外科治療にも積極的に取り組みたいと思っております。

現在当院ではハイブリッド手術室建設の準備に取り組んでおり、経皮的カテーテル大動脈弁置換（TAVI）治療に向け始動したところです。JCHO 九州病院心臓血管外科一同、ハートセンターのスタッフと協力をしてこれからも成績向上と症例数増加を目指し全力を尽くす所存であります。今後ともご指導のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

## 2017 年 1 月～ 12 月 JCHO 九州病院 心臓血管外科手術成績 まとめ

全体のまとめ（手術死亡：術後 30 日以内）

心臓血管手術例の内訳

	胸部手術	腹部手術	合計	手術死亡	在院死亡
体外循環 (+)	172	0	172	2 (1.2%)	4 (2.3%)
体外循環 (-)	57	34	91	1 (1.1%)	1 (1.1%)
合計	229	34	263	3 (1.1%)	5 (1.9%)

胸部心臓血管手術 (OPCAB 含む) = 229 例

疾患群別症例数と手術成績

疾患群	n=	体外循環 (+)	体外循環 (-)	体外循環 (+)(死亡)	体外循環 (-)(死亡)	手術死亡率
先天性	122	97	25	1	0	0.8%
虚血性	33	9	24	1	0	3.0%
弁膜症	48	48	0	0	0	0.0%
胸部・胸腹部大動脈	23	16	7	0	0	0.0%
腹部大動脈	34	0	34	0	1	2.9%
その他	3	2	1	0	0	0.0%
	263	172	91	2	1	1.14%

手術の緊急度と手術成績

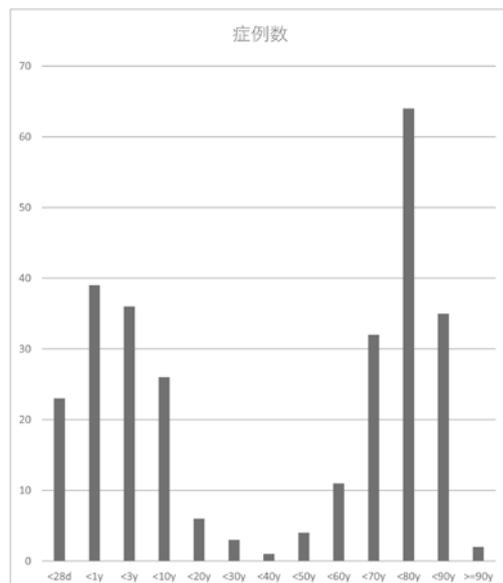
疾患群	n=	緊急 / 準緊急	予定	緊急 / 準緊急(死亡)	予定(死亡)	手術死亡率
先天性	122	7	115	0	1	0.8%
虚血性	33	14	19	1	0	3.0%
弁膜症	48	1	47	0	0	0.0%
胸部・胸腹部大動脈	23	15	8	0	0	0.0%
腹部大動脈	34	6	28	1	0	2.9%
その他	3	1	2	0	0	0.0%
	263	44	219	2	1	1.14%

19.2%                      80.8%

全手術の緊急度

手術の緊急度	n=	手術死亡	手術死亡率
緊急 / 準緊急	44	2	4.5%
予定	219	1	0.5%

全症例の年齢構成



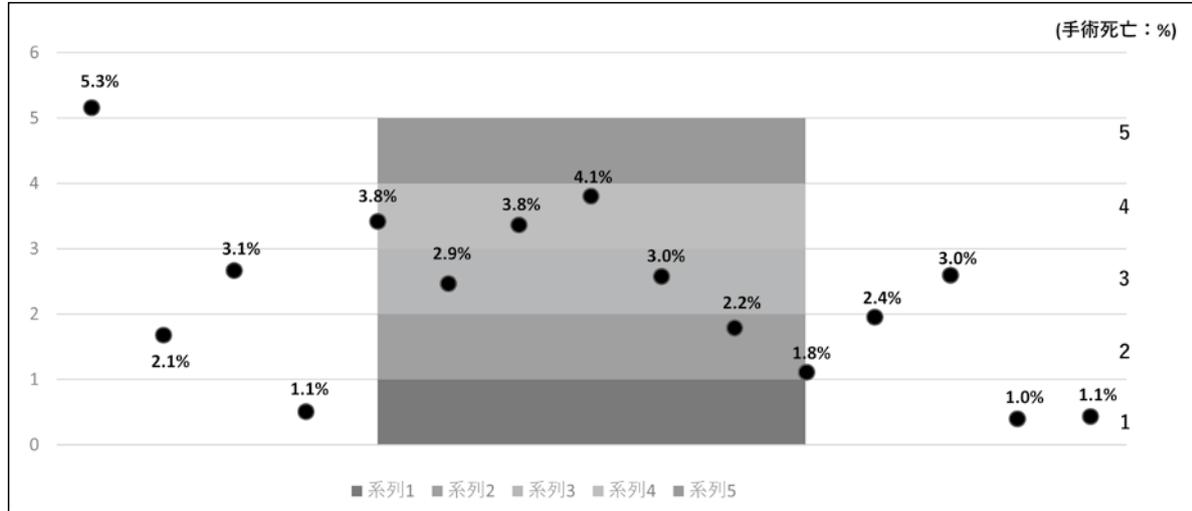
年齢構成 (全症例)

年齢層	症例数	手術死亡症例
< 28 d	23	0
< 1 y	39	0
< 3 y	36	1
< 10 y	26	0
< 20 y	6	0
< 30 y	3	0
< 40 y	1	0
< 50 y	4	0
< 60 y	11	0
< 70 y	32	1
< 80 y	64	0
< 90 y	35	2
> = 90 y	2	0
全体	282	4



## 診療部門の概況

## 心臓大血管手術の年次推移



## 先天性心疾患 (手術死亡 1 例：術後 30 日以内)

## i) 非開心術 - 年齢別 合計 25 例

	非開心術	手術死亡	手術死亡率
< 28 d	13	0	0.0%
< 1 y	11	0	0.0%
< 3 y	1	0	0.0%
< 16 y	0	0	0.0%
> =16 y	0	0	0.0%
非開心術 合計	25	0	0.0%

1 歳未満症例は 60 例で CHD 全体 (122 例) のうちの 49%

## ii) 開心術 - 年齢別 合計 97 例

	開心術	手術死亡	手術死亡率
< 28 d	10	0	0.0%
< 1 y	26	1	3.8%
< 3 y	34	1 (在院)	2.9%
< 16 y	24	0	0.0%
> =16 y	3	0	0.0%
開心術 合計	97	1	1.03%

## iii) 開心 + 非開心術 - 年齢別 合計 122 例

	開心 + 非開心術	手術死亡	手術死亡率
< 28 d	23	0	0.0%
< 1 y	37	1	2.7%
< 3 y	35	1 (在院)	2.9%
< 16 y	24	0	0.0%
> =16 y	3	0	0.0%
合計	122	1	0.82%

## 先天性心疾患非開心術内訳

計●例

	症例数	手術死亡	手術死亡率
PDA ligation	6	0	0.0%
PAB	5	0	0.0%
Bilateral PAB	3	0	0.0%
BT shunt + alpha	7	0	0.0%
Coarc repair	4	0	0.0%
非開心術 合計	25	0	0.0%



## 先天性心疾患開心術内訳

計 97 例

	症例数	手術死亡	手術死亡率
Extra-anatomic bypass	1	0	0.0%
CoA repair + PAB	1	0	0.0%
ASD	13	0	0.0%
VSD I	8	0	0.0%
VSD II	17	0	0.0%
VSD II+IV	1	0	0.0%
Cor triatriatum	1	0	0.0%
DCRV	1	0	0.0%
DORV	2	0	0.0%
TOF radical	10	0	0.0%
Starns	1	0	0.0%
Supra AS repair	1	0	0.0%
CAVSD radical	1	0	0.0%
PAVSD radical	3	0	0.0%
BT + alpha	4	1 (在院)	25.0%
Glenn	5	0	0.0%
TCPC	6	0	0.0%
MVP	2	0	0.0%
PAPVC	3	0	0.0%
TAPVC	5	0	0.0%
PVO repair + alpha	3	1	33.3%
Rastelli ± UF	3	0	0.0%
TGA switch	3	0	0.0%
others, 再手術含む	2	0	0.0%
開心術 合計	97	1	1.03%
非開心術 + 開心術	122	1	0.82%

## 虚血性心疾患 総数 33 例 (手術死亡 1 例 : 術後 30 日以内)

	症例数	手術死亡	手術死亡率 (%)
単独 CABG	On-pump 9	1	11.1%
	OPCAB 21	0	0.0%
心筋梗塞合併症手術			
自由壁破裂	修復のみ 1	0	0.0%
VSP	2	0	
MR	MVP+CABG 0	0	0.0%
LV aneurysm+MR	Aneurysmectomy+MVR+CABG 0	0	0.0%
全体	33	1	3.0%

緊急度	症例数	手術死亡	手術死亡率 (%)
緊急 / 準緊急	14	1	7.1%
待機	19	0	0.0%
全体	33	1	3.0%

グラフト数	On-pump (単独)	OPCAB (単独)	MI 合併症	症例合計
1 枝	0	0		0
2 枝	2	6		8
3 枝	4	6		10
4 枝	2	7		9
5 枝	1	2		3
	9	21	0	30

平均吻合数 3.2 吻合

グラフトの種類	症例数
動脈のみ	0
動脈と静脈	29
静脈のみ	1



## 診療部門の概況

## 弁膜疾患 総数 48 例 (手術死亡 0 例)

手術した弁の数	症例数	CABG (+)	大動脈手術 (+)	手術死亡	手術死亡率	
1 弁手術 (30 例)	AVR	25	3	2	0	0.0%
	MVR	2	0	0	0	0.0%
	MVP	7	0	0	0	0.0%
	TVP	1	1	0	0	0.0%
2 弁手術 (13 例)	AVR+MVP	4	0	0	0	0.0%
	AVR+MVR	0	1	1	0	0.0%
	MVR+TVP	3	0	0	0	0.0%
	MVP+TVP	6	0	0	0	0.0%
	AVR+TVP	0	0	0	0	0.0%
3 弁手術 (1 例)	AVR+MVP+TVP	0	0	0	0	0.0%
合計	48	5		0	0.0%	

## 人工弁使用状況

A-機械弁	A-生体弁	A-形成	M-機械弁	M-生体弁	M-形成	T-形成	合計
2	27	0	2	3	17	10	61

## 大動脈疾患 総数 57 例 (手術死亡 1 例: 術後 30 日以内)

	症例数	手術死亡	手術死亡率 (%)
胸部・胸腹部 大動脈*	23	0	0.0%
腹部 大動脈*	34	1	2.9%
合計	57	1	1.8%

\*\*うちステントグラフトは合計 37 例 (死亡 0 例): 胸部 7 例 および 腹部 30 例

## 胸部・胸腹部 大動脈手術: 23 例 (手術死亡 0 例)

	症例数	手術死亡	手術死亡率 (%)
解離性	14	0	0.0%
非解離性	9	0	0.0%
合計	23	0	0.0%

タイプ	サブタイプ	置換部位	症例数	手術死亡	
解離性 14 例	急性期 12 例	上行	5	0	
		弓部	7	0	
		Bentall	0	0	
		Bentall + 弓部	0	0	
		ステントグラフト	0	0	
		慢性期 2 例	Bentall	0	0
	非解離性 9 例	非破裂性 6 例	上行	1	0
			Bentall	1	0
			弓部	0	0
			下行	0	0
破裂性 3 例		胸腹部	胸腹部	0	0
			ステントグラフト	4	0
			Bentall	0	0
			弓部	1	0
		下行	0	0	
		胸腹部	0	0	
		ステントグラフト	2	0	

## 腹部 大動脈手術 34 例 (手術死亡 1 例)

	症例数	手術死亡	手術死亡率 (%)
真性瘤	32	1	3.1%
感染性	2	0	0.0%
合計	34	1	2.9%

	症例数	手術死亡	手術死亡率 (%)
破裂性	4	0	0.0%
非破裂性	30	1	3.3%
合計	34	1	2.9%

	症例数	手術死亡	手術死亡率 (%)
開腹手術	4	1	25.0%
ステントグラフト	30	0	0.0%
合計	34	1	2.9%

	症例数	手術死亡	手術死亡率 (%)
緊急 / 準緊急	4	0	0.0%
待機	30	1	3.3%
合計	34	1	2.9%

## その他の疾患 3 例 (手術死亡 0 例)

	症例数	手術死亡	手術死亡率 (%)
開心術	3	0	0.0%
非開心術	0	0	0.0%
合計	3	0	0.0%

	症例数	手術死亡	手術死亡率 (%)
心臓腫瘍	1	0	0.0%
収縮性心膜炎	1	0	0.0%
心肺補助装置装着	1	0	0.0%
合計	3	0	0.0%

## Non-major Surgery

	症例数	手術死亡	手術死亡率 (%)
小手術	29	2	6.90%

死亡 2 例とも Major 手術の付加手術

**診療部門の概況**
**◆脳神経外科**
**1. スタッフ**

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
医長	今本 尚之	九州大学 (平成4年卒)	脳神経外科一般	脳神経外科学会専門医
医師	伊野波 論	鳥取大学 (平成7年卒)	脳卒中、外傷等	脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会専門医
医師	外間 政朗	九州大学 (平成14年卒)	脳神経外科一般	脳神経外科学会専門医
医師	白水 寛理	長崎大学 (平成23年卒)	脳神経外科一般	

**2. 活動報告**

①閉塞性脳血管障害：現在、急性期脳梗塞に対する血栓溶解療法（tPA 治療）の効果は確立していますが、tPA 投与は発症後 4.5 時間以内という時間制限があるため治療可能な症例は限られています。少しでも多くの患者さんに tPA 治療を受けていただく機会を増やすため、2015 年度より受付時に脳疾患疑い患者さんを抽出し受診から CT 検査までの時間短縮を目標とした TQM 活動を行いました。その結果、救急部、放射線部、脳神経外科、脳神経内科の連携も良くなり tPA 治療症例数は増えています。

また、適応は限られますが、前年度から取り組んでいる drip and ship（tPA 投与後、または tPA 投与適応外の患者を脳血管内治療専門医常駐病院への搬送）は製鉄記念病院と連携し良好な治療経過が得られている患者さんもあり脳卒中治療の質の維持に努めています。

②脳腫瘍：2014 年度より特殊な光を照射することで腫瘍を可視化する 5ALA の導入、腫瘍摘出腔への抗癌剤留置用ペレット錠の使用が可能となり、腫瘍摘出率の向上、再発予防効果は向上していると思われれます。今後も新たな治療機器、治療方法を積極的に取り入れ、治療生成績の向上に努めます。

③救急患者の受け入れは救急部の協力があり 24 時間受け入れを行っています。手術日でも救急患者や電話での受診問い合わせなどで脳疾患が疑われる場合は診察可能な時は診療を受け付けています。

**3. 診療実績**

診療統計（平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月）

外来患者数 2438 名（初診 183 名、再診 2438 名）（平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月）

入院患者数 6245 名

平均在科日数 20.1 日

病歴統計（平成 29 年 1 月～平成 29 年 12 月）、疾病分類表による分類

脳腫瘍摘出術 26 例

脳動脈瘤クリッピング術 14 例（破裂動脈瘤 11 例、未破裂脳動脈瘤 3 例）

脳内出血の開頭血腫除去術 22 例

慢性硬膜下血腫穿頭除去術 30 例

急性硬膜下血腫除去術 3 例

急性硬膜外血腫除去術 3 例

水頭症シャント術 15 例

頸動脈内膜剥離術 3 例

バイパス術 0 例



## ◆産婦人科

### 1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
診療部長	中原 博正	九州大学 (昭和55年)	周産期医療 超音波診断	産科婦人科学会専門医 周産期学会暫定指導医
医長	衛藤 貴子	九州大学 (平成2年卒)	婦人科腫瘍	産科婦人科学会専門医・指導医 婦人科腫瘍専門医・暫定指導医 臨床細胞学会専門医、指導医 がん治療認定医
医長	川上 剛史	福岡大学 (平成11年卒)	周産期医療 超音波診断	産科婦人科学会専門医 周産期学会母体胎児専門医
医師	河野 善明	九州大学 (平成10年卒)	婦人科悪性腫瘍	産科婦人科学会専門医 婦人科腫瘍専門医
医師	西村 和泉	九州大学 (平成13年卒)	婦人科一般 婦人科腫瘍病理	産科婦人科学会専門医
医師	愛甲 悠希代	産業医科大学 (平成17年卒)	周産期医療	産科婦人科学会専門医 日本周産期新生児医学会母体胎児専門医
医師	桑原 正裕	福岡大学 (平成21年卒)	産婦人科一般	産科婦人科学会専門医
医師	尾崎 美華	鹿児島大学 (平成20年卒)	周産期医療	産科婦人科学会専門医
医師	村上 孟司	自治医科大学 (平成20年卒)	産婦人科一般	

### 2. 活動報告

臨床診療に関しては周産期医療、婦人科腫瘍の診療および産婦人科救急を3本の柱として診療にあたっている。産婦人科医療の中で、もっとも労力と時間を要する分野で、また、地域の医療機関との連携が重要になってきています。

周産期医療に関しては、川上医師を中心に地域周産期センターとして早産や合併症妊娠など高度な周産期管理を要する症例に対応しています。特に、NICU、心臓外科、小児外科の充実を背景に、児の先天性疾患の、診断 管理と治療を行っています。県内の周産期センターのみならず他県からの症例も受け入れています。

婦人科の悪性腫瘍の診療に関しては、手術療法、放射線治療、化学療法を駆使して、診療にあたっています。小川医長を中心に、病理部門、放射線科、外科、泌尿器、腫瘍内科などと連携して、個々の症例に最善の診療を行えるように努力しています。良性腫瘍に関しては、東條医師を中心に、腹腔鏡手術を平成26年度より本格的に開始し、症例数も順調に伸びてきています。ほかの医師への技術習得のためのトレーニングも始まりました。悪性腫瘍への展開も準備をはじめました。

産婦人科救急に関しては、2-3次急救急を中心診療にあたっています。当直医1名と待機医を常時配備して、緊急手術を30分以内にできるように取り組んでいます。しかし、昨年度よりスタッフが減少して、個々のDrへの負担増が問題となってきています。

慢性的な産婦人科医師不足に対処するため取り組んできた、産婦人科医の勧誘と教育は順調に成果を挙げてきています。本年度の初期研修医採用試験では、3名の産婦人科医がマッチングしました。残念ながら1名は国家試験に不合格となりましたが、平成28年度よりより2名の研修がスタートしました。また、初期研修2年目のDrが、平成28年度より産婦人科医として後期研修を開始しています。



## 診療部門の概況

### 3. 診療実績

#### 1) 周産期統計

総分娩件数：388 例 - 単胎 360 例、双胎 17 例、品胎 1 例 -

分娩様式：経陰分娩 215 例、帝王切開 173 例

母体合併症 202 例、母体搬送受け入れ件数 48 例

総出産児数 418 例 うち胎児異常症例 28 例、極低出生体重児 9 例

#### 2) 婦人科手術

総手術件数 583 件 うち悪性疾患 59 件、良性および前癌病変 516 件

##### ①悪性疾患の手術

子宮頸癌手術 13 件、子宮体癌 内視鏡下手術 6 件、開腹術 132 件、  
卵巣癌手術 21 件、その他 2 件

##### ②良性疾患・他の手術

開腹術 132 件、腹腔鏡下手術 162 例、子宮鏡下手術 55 例、その他 165 件



## ◆皮膚科

### 1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
医師 (4月～1月)	廣正 佳奈	大阪医科大学 (2006年卒)	皮膚アレルギー疾患 皮膚科学全般	日本皮膚科学会認定 皮膚科専門医
医師 (2月～3月)	川上 千佳	佐賀大学 (2005年卒)	皮膚科学全般	日本皮膚科学会認定 皮膚科専門医
レジデント	井上 明葉	産業医科大学 (2013年卒)	皮膚科学一般	

### 2. 活動報告

月曜から金曜の午前中は外来診療を、午後は他科入院患者のコンサルトや処置、手術を中心に診療を行っています。

水曜の午後は皮膚・排泄ケア認定看護師、病棟看護師と共に院内の褥瘡回診を行っています。

保険外診療として尋常性ざ瘡に対するケミカルピーリング、巻き爪に対するワイヤー矯正を行っています。

### 3. 診療実績

局所麻酔手術件数(生検含む)	369
入院延患者数	869
外来延患者数	6069
外来新規患者数	512

#### 平成 29 年度入院患者疾病分類

病名	人数
急性膿皮症	48
紅斑・紅皮症	12
中毒疹・薬疹	7
膠原病および類縁疾患	0
褥瘡	4
水疱症・膿疱症	3
角化症	0
皮膚良性腫瘍	6
皮膚悪性腫瘍	10
ウイルス性皮膚疾患	11

## 診療部門の概況

### ◆眼科

#### 1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
部長	藤澤 公彦	九州大学 (昭和61年卒)	緑内障、網膜硝子体、 加齢黄斑変性症、角膜移植	眼科学会専門医、PDT認定医、 ボトックス治療資格
医師	武田 憲治	高知大学 (平成9年卒)	糖尿病網膜症、白内障、 網膜硝子体	眼科学会専門医、PDT認定医、 ボトックス治療資格
医師	能美 典正	山口大学 (平成17年卒)	網膜硝子体	眼科学会専門医
医師	海津 美穂	佐賀大学 (平成22年卒)		
医師	芳賀 聡	山口大学 (平成24年卒)		

#### 2. 活動報告

##### はじめに

手術件数の多さと多彩さ、それに占める網膜・硝子体手術の割合が多いことは大きな特徴です。手術件数もここ3年間は1200件を超えています。火曜・木曜の終日2列並列での中央手術室の使用に加えて、眼科外来に隣接して外来手術室を作ってもらったことが

1つの要因ではないかと考えています。

手術の内容も、網膜・硝子体、白内障、緑内障、角膜移植、眼瞼形成、涙道手術、斜視、外傷などあらゆる分野で行っています。急患手術の件数も週平均2件の割合です。

開業医の先生方や他の総合病院からご紹介いただいた患者を必ずお引き受けし、必要があればその日のうちに急患手術を行うという基本方針が変わりはありません。

また、手術ばかりではなく、内科的治療が必要な疾患に関しても病診連携を密にとっています。そのひとつが、加齢黄斑変性にたいする北九州市全体での連携治療の取り組みです。北九州黄斑疾患研究会という組織を立ち上げ、北九州市の全眼科施設の8割以上に参加していただいています。パスとマニュアルを使って、治療施設と紹介元の間で途切れなく、質の高い治療を目指しています。

##### 疾患ごとの治療法

###### 網膜硝子体疾患

糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、裂孔原性網膜剥離、増殖硝子体網膜症、黄斑疾患（黄斑円孔、黄斑上膜、硝子体黄斑牽引症候群など）、眼外傷（穿孔性眼外傷など）の網膜硝子体疾患のなかで手術治療の対象となるものに対し、硝子体手術、網膜復位術（強膜内陥術）を行っています。スモールゲージシステムや新しい光学観察系の使用、様々な手術アジュバントを使い安全かつ手術時間の短縮がはかれています。

###### 緑内障

点眼治療により十分な眼圧下降が得られない例や視野障害進行例には、積極的に緑内障手術（線維柱帯切除術、線維柱帯切開術、隅角癒着解離術など）を行っています。特殊デバイスを用いたシャント手術、特殊なYAGレーザーを使った選択的隅角形成術も行っています。

私たちの線維柱帯切除術の目標は、抗緑内障薬を一切使わずに眼圧を12mmHg以下にコントロールするというラインにあります。



#### 加齢黄斑変性

抗血管新生薬の硝子体内投与を外来手術室を使って数多く行っています。光線力学療法（PDT）の併用も行っており、前述の北九州病診連携の中核治療施設として北九州の眼科医一丸となって頑張っています。

#### 白内障

今後は外来日帰り手術の件数が増えると思われます。保険適応外の多焦点眼内レンズも取り扱っています。

#### 角膜移植

現状では日本アイバンクを通じての国内からの移植片提供は十分とはいえません。私たちは国外からの輸入角膜を中心に DSAEK などの角膜パーツ移植を行っています。また、国内からの移植片の提供を増やすために、病院内で亡くなった方全員にコーディネーターを通じて献眼をお願いする RRS というシステムを稼働させています。

#### 外眼部疾患・眼腫瘍

内反症、翼状片、結膜弛緩症、眼瞼下垂などに対する手術に加え、専門医の少ない眼瞼・眼窩腫瘍の分野に対しては、九州大学から専門医を招いて診断・治療を行っています。鼻涙管閉塞に対しては、シリコンチューブ挿入術（涙道内視鏡）や涙のう鼻腔ふん合術（鼻内法・鼻外法）を行い、眼瞼痙攣、片側顔面痙攣に対しては、ボトックス治療を行っています。

#### 未熟児・斜視

進行した未熟児網膜症に対し、マルチカラーレーザーによる光凝固治療を行っています。また、内斜視あるいは外斜視に対し、斜視手術を行っています。

### 3. 診療実績

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
網膜硝子体手術	271	287	306
緑内障手術（観血）	93	129	122
緑内障レーザー手術	58	48	52
光線力学的療法（PDT）	11	14	46
角膜移植術	5	6	15
抗 VEG 薬硝子体注射	539	397	692
外来白内障手術	84	87	99

**診療部門の概況**
**◆耳鼻咽喉科・頭頸部外科・形成外科**
**1. スタッフ**

職名	氏名	卒業年度	専門分野	資格
部長	小池 浩次	九州大学 (平成4年卒)	内視鏡下鼻副鼻腔手術 耳鼻咽喉科 頭頸部外科一般	耳鼻咽喉科専門医・指導医
医長	松尾 美央子	大分医科大学 (平成10年卒)	頭頸部がん治療 耳鼻咽喉科 頭頸部外科一般	耳鼻咽喉科専門医・指導医 頭頸部がん専門医 がん治療認定医
医師	西嶋 利光	九州大学 (平成20年卒)	耳鼻咽喉科 頭頸部外科一般	
医師	小池 健輔	佐賀大学 (平成23年卒)	耳鼻咽喉科 頭頸部外科一般	

**2. 活動報告**

- ・手術と頭頸部がんの入院治療をメインに診療しています。耳鼻咽喉科の一般的な手術はもちろんですが、北九州でも数少ない頭頸部がん治療専門医研修指定病院で、再建手術を含めた集学的治療を行っているのが特徴です。
- ・外来は月水木金曜日の午前中に予約制で行っています。
- ・手術は月火水木金曜日に行っています。
- ・外来カンファレンスは月曜日の午後、病棟カンファレンスと頭頸部がん治療カンファレンスは木曜日の午後におこなわれます。
- ・形成外科外来を九州大学病院の形成外科医に依頼し火曜日の午前予約制で行い、手術も行っています。

**3. 診療実績**

- ・平成 28 年度の入院患者は 529 名で、入院での手術件数は 414 例でした。
- ・その手術の症例の主な内訳は

口蓋扁桃摘出術・アデノイド切除術 64 例  
 内視鏡下鼻副鼻腔手術 67 例  
 ラリングマイクロサージャリー 28 例  
 咽頭悪性腫瘍摘出術 7 例  
 喉頭悪性腫瘍摘出術 8 例  
 口腔悪性腫瘍摘出術 9 例  
 唾液腺悪性腫瘍摘出術 4 例  
 甲状腺悪性腫瘍摘出術 12 例  
 頸部郭清術 48 例 でした。



## ◆泌尿器科

### 1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
診療部長	原野 正彦			
医師	筒井 顕郎			
医師	安達 拓未			
フェロー	牟田口 淳			
レジデント	永川 祥平			
レジデント	井上 智博			

### 2. 活動報告

本年度は九州大学泌尿器科から3名の医師が派遣され、計6名で診療を行った。手術件数は増加し、約700例の手術を行った。学会発表は23演題、論文発表は2報発表できた。

### 3. 診療実績

平成29年度はロボット支援手術を始め、難易度の高い(保険点数の高い)手術が増加した。ロボット支援前立腺全摘術は136例、ロボット支援腎部分切除術は45例行った。膀胱癌の手術は175例(膀胱全摘12例、経尿道的切除163例)、尿路結石の手術は145例(経尿道的碎石94例、体外衝撃波51例)であった。手術室と前立腺生検などの外来手術を合わせた症例は1044例となり、初めて1000例を超えた。

**診療部門の概況**
**◆内視鏡室**
**1. 活動報告**

内視鏡室では、消化器内視鏡（消化管・胆膵領域）と呼吸器内視鏡の検査と治療を行っている。肝・胆・膵・消化管内科、総合診療部、消化器外科、放射線科の医師が消化器内視鏡を担当し、呼吸器内科の医師が呼吸器内視鏡を担当している。

また当院は、日本消化器内視鏡学会の指導施設および日本呼吸器内視鏡学会の認定施設であり、専門医・指導医の取得（医師）や消化器内視鏡技師の取得（看護師や臨床工学技士など）を支援している。

**2. 診療実績**

平成29年		
消化管		
診断		
上部消化管		3805
下部消化管		1596
EUS	(上部消化管)	100
	(下部消化管)	12
EUS-FNA		4
治療		
ポリペクトミー・EMR	(上部消化管)	15
	(下部消化管)	584
ESD	(食道)	20
	(胃)	80
	(大腸)	17
止血術	(上部消化管)	178
	(下部消化管)	65
EIS		2
EVL		23
イレウスチューブ	(上部消化管)	55
	(下部消化管)	9
バルーン拡張術	(上部消化管)	111
	(下部消化管)	40
ステント留置術	(上部消化管)	9
	(下部消化管)	5
PEG		13
異物除去		29
胆・膵		
ERCP (診断・治療)		222
呼吸器		
診断		
気管支鏡		62
気管支鏡 (生検・擦過細胞診を含む)		22
TBLB		170
超音波気管支鏡 (EBUS-TBNA)		28
超音波気管支鏡 (EBUS-GS)		138



## ◆臨床病理検査科

### 1. スタッフ

職名	氏名	卒業年度	専門分野	資格
診療部長	笹栗 毅和	産業医科大学 (平成1年)	外科病理	日本病理学会認定病理専門医、 日本病理学会認定病理専門医研修指導医、 日本臨床細胞学会細胞診専門医、 日本臨床細胞学会認定細胞診指導医、 死体解剖資格
医師	大内 清子	熊本大学 (平成20年)	外科病理	死体解剖資格
任期付医師	牧山 千夏	大分医科大学 (平成14年)	腫瘍内科	日本内科学会総合内科専門医、 日本臨床腫瘍学会専門医・指導医・協議委員、 日本癌治療認定医機構認定医

### 2. 活動報告

平成 28 年度の組織診件数は過去最高を更新した。また、細胞診件数は 4 年振りに 1 万件を超えた。各科の件数、とくにがん症例の増加が実感される。また、転移・再発等で各科横断的な症例が目立ってきている。治療選択のニーズから、継続的に免疫染色の重要性・必要性は増している。

院内のカンファレンス参加は、基本的には、毎月の CPC、年 3 回の全体がんサボード、毎週の婦人科・病理カンファレンス、隔月の呼吸器・病理カンファレンス、2～3 ヶ月毎の消化器・病理カンファレンス、隔月の内視鏡・病理カンファレンスである。各科の学会発表・論文に対する支援は継続できたのではないかとと思われる。

人事では、大内が平成 30 年 2 月に産休に入り 3 月で退職した。また、牧山も平成 30 年 3 月をもって退職した。

### 3. 診療実績

#### ●平成 29 年度 (2017/04/01～2018/03/31)

組織診	総件数	8449
	術中迅速検査件数	393
	免疫染色件数	2494
	他院標本件数	141
細胞診	総件数	10035
	他院標本件数	68
病理解剖	総件数	21

**診療部門の概況****◆心臓リハビリテーション科****1. スタッフ**

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
内科医長	折口 秀樹	自治医科大学 1984年	循環器疾患	心臓リハビリテーション認定医 日本心臓リハビリテーション学会理事

**2. 活動報告**

- 1) 入院心臓リハビリテーション：急性心筋梗塞・狭心症・開心術後・大動脈疾患・慢性心不全・末梢動脈疾患を対象に入院中の心臓リハビリテーションを行っている。退院時の指導をカンファレンスを通じてチームで行っている。
- 2) 外来心臓リハビリテーション：退院後回復期の心臓リハビリテーションを継続。医師・看護師・理学療法士・薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師・臨床心理士が包括的な心臓リハビリテーションを提供している。
- 3) 心肺運動負荷試験：運動対応能を評価し、運動処方や日常生活指導に活用している。
- 4) 日本心臓リハビリテーション学会のレジストリ登録に協力し、優良プログラム施設の認定を受けた。
- 5) 日本心臓リハビリテーション学会の研修施設として6名の研修生を受け入れ、他施設からの見学も多い。
- 6) 日本心臓リハビリテーション学会九州地方会、北九州心臓リハビリテーションセミナー等地域との連携を図っている。

**3. 診療実績**

- 1) 心臓リハビリテーションは新規患者が667名で、慢性心不全が50.5%、開心術後が25.9%、急性心筋梗塞が15.1%であった。
- 2) 入院患者が年間に7339件、外来患者が2092件であり、入院患者の高齢化もあり、入院患者が増加傾向である。心肺運動負荷試験は年間に200名前後の件数を行っている。
- 3) 学会での発表は日本心臓リハビリテーション学会、日本循環器学会で行っている。



## ◆健康診断部

### 1. スタッフ

職名	氏名	卒業年度	専門分野	資格
部長	宮田 健二	鹿児島大学 (平成6年卒)	一般内科学 循環器内科学	日本内科学認定医・専門医 日本循環器学会専門医 心臓リハビリテーション指導士 日本心血管インターベンション治療学会専門医 関連10学会認定腹部ステントグラフト実施医 AHA-BLS.ACLSインストラクター
医師	鬼塚 健	山口大学 (平成17年卒)	循環器内科	日本内科学会認定医 日本循環器学会専門医

### 2. 活動報告

健康診断部は、設立時より生活習慣病の予防や疾病の早期発見に努めてきました。

平成 30 年 3 月から内臓脂肪 CT 検査を健診項目に追加しました。

皆様の健康状態を把握し、早期治療や生活習慣の改善に役立てていただくことを目標に活動しています。

#### 2017 年度 健康診断部 実績

全国健康保険協会（一般健診）	2676
全国健康保険協会（付加健診）	118
全国健康保険協会（子宮頸がん単独検診）	93
健康診断	742
企業健診（契約のある組合）	59
日帰りドック（団体）	381
日帰りドック（個人）	202
宿泊ドック	46
脳ドック	205
肺ドック	76
大腸ドック	29
血管ドック	89
北九州市 乳がん検診	889
計	5605



平成 29 年度

# 診療協力部門の概況

Japan Community Health care Organization JCHO



独立行政法人 地域医療機能推進機構 九州病院

**診療協力部門の概況**
**◆看護部**
**1. スタッフ (4月1日現在)**

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	氏名	認定・専門・資格
看護部長	元 嶋 文 恵	認定看護管理者	看護師	山 口 弘 恵	皮膚・排泄ケアCN 専従
副看護部長	木 本 妙 子		看護師	森 本 麗 華	感染管理CN 専従
副看護部長	二 見 美 喜 子		看護師	松 本 文 子	患者相談窓口
看護師長	尾 野 肖 子	がん関係支援	看護師	倉 本 佳 代 子	認知症看護CN 専従
看護師長	松 隈 眞 紀 子	統轄RM	任期付事務員	藤 本 し ず か	看護部 (感染、ICU)
副看護師長	有 村 博 江	患者相談窓口	派遣事務員	石 橋 眞 莉 子	
		入退院センター兼務	非常勤技能職	吉 永 亨	(障害者雇用)
		→6/1 患者相談窓口専従へ			

- ①医療安全管理室：6月1日より有村博江の患者相談窓口、入退院センター副看護自長業務の兼務を解いた
- ②入退院センター：業務調整のため、看護部管理より外来管理とし、6月1日より坂東裕子副看護師長を配置した。(但し、病院組織図上、入退院センターは看護部管理となっている)
- ③認知症看護認定看護師を4月1日付で看護部へ専従配置とした
- ④4南病棟へ配属している助産師の発令を助産師とした(平成29年度までは看護師発令であった)
- ⑤病床管理担当看護師長の定年退職に伴い、ベッドコントロールは看護師長の輪番制とした
- ⑥その他
  - ・昇任(4月1日付)：副看護部長 二見美喜子、看護師長 高田由美子 村上貴子  
副看護師長 野寄真紀 村尾まさみ 大村由紀子
  - ・2018年3月31日付 看護師長定年退職者 後藤芳子 副看護師長退職者 大谷真由美
  - ・2018年3月30日付 副看護師長 片山朋子 4月1日より人吉医療センターへ出向
  - ・研究休職取得：副看護師長 山田明子(2017.9～2018.2) 副看護師長 堀江恭子(2017.11～2018.2)

**2. 活動報告**

- ①副看護師長登用試験3名受験したが名簿登載者を出すことができなかった。
- ②6月1日より看護師長のユニフォーム変更を行った。
- ③病院ボランティアの受入れ窓口を医療支援部から副看護師長業務へと変更(事務手続き関係は総務企画課で変更なし)
- ④1月に2病棟でインフルエンザのアウトブレイクによる病棟閉鎖を行った。この間、急患入院は該当病棟以外で受け入れを行ったが、一部予定入院や手術の延期が発生し、次年度に向けて面会制限等について検討した。
- ⑤1月、NICU、GCUでMRSA、CREのアウトブレイクが発生し、KRICTのラウンド、保健所の立ち入り調査が行われた。スタンダードプリコーションの徹底、オムツ交換の手順遵守等の強化を行った。
- ⑥今年度、採用6ヶ月以内の離職者は6名で、新卒者の離職率は17.2%と過去最高であった。
- ⑦「働き方改革」と「医療安全」の観点から、パートナーシップナーシングシステムを導入、6病棟で開始できた。
- ⑧労働時間155時間/4週の遵守のため、勤務時間の見直しを行い、夜勤時間を16:30～9:30に統一した。そのためロング日勤が不要となり、様式9における夜勤時間の減少につながった。また時間調整のためのロング日勤が不要なことから、制限はあるが夜勤可能な看護師が増加した。



## 診療協力部門の概況

### 【教育について】

- ①救急看護認定看護師教育課程修了、次年度、資格試験受験予定。
- ②研究休職を取得していた副看護師長 2 名（感染管理認定看護師、糖尿病看護認定看護師）が大学院専門課程を卒業した、次年度、専門看護師資格試験受験予定。
- ③認定看護管理者合格 1 名、サードレベル終了者 2 名。
- ④「働き方改革」を意識して、教育計画を見直し、看護研修を時間内に企画、実施した。
- ⑤今まで、不十分だった 2 年目、3 年目の教育の強化を図った。

### 【看護師の採用について】

- ①今年度より大学、専門学校への個別訪問は成果が確認できないため中止とし、企業、大学が開催する就職説明会へ参加を積極的に行った。また、例年、内定者に送っていた病棟だより」は成果が確認できないため中止とし、クリスマスカードを送った。
- ② 2018 年 4 月採用者の統一試験（一次、二次）を実施、受験者数 93 名、合格者 77 名、辞退 9 名、国家試験不合格 1 名、名簿登載者より繰り上げ 2 名とし、69 名の確保となった。

### 【その他】

- ① 3 月臨地実習教員へ提供していた看護師宿舎を撤去し、学習支援室を提供。
- ② 2018 年度病院機能評価受審が決定（日程は不明）。

### 離職率の推移

看護師	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
離職率	11.9%	11.9%	11.0%	11.1%	11.3%
新採用者離職率	10.0%	14.0%	5.5%	6.4%	17.2%
年度途中退職人数		29人	26人	18人	25人

## 3. 今後の展望・課題

昨年度に続き、予定外の中途退職者が 25 人と多く、今年度も計画的な人員配置が困難であった。離職率は 11.3% と全国平均とほぼ同様であったが、新卒者の離職率は 17.2% と高かった。新卒者の勤務継続意思を高める要因についての検討が必要である。

今年度は、インフルエンザのアウトブレイクにより 2 病棟を病棟閉鎖した。そのため、病院の収益に影響を及ぼす結果となった。次年度は、流行期前から対策を開始する予定である。

次年度は病院機能評価受審が決定しており、「働き方改革」と並行して活動していく。

### 【課題】

1. 「働き方改革」の実現
  - ・各委員会活動、看護研修会の見直し
  - ・部署ごと、多職種との業務改善の取り組み
2. 看護師、看護補助者の安定確保
3. 病院機能評価受審の取り組み
4. アウトブレイク対策



## 診療協力部門の概況

### ◆外来

#### 1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	武下 宣子		看護師	32.3名	
副看護師長	富田 美砂		看護助手	6名	
副看護師長	井上 道代		委託看護補助者	21.5名	
看護師	巢山 直子	皮膚排泄ケア認定看護師			
看護師	平方 多美子	小児救急認定看護師			

看護師人数：看護師長、副看護師長を除く

#### 2. 活動報告

- 1) 内科外来業務を見直し、安全に内科外来業務が実践できるように改善する。

処置室の業務量調査で繁忙時間を明確にし、リリーフ体制を行った。

診察室が不足しているため、CAPD 外来を透析室に移行することで、診察待ちの患者さんで、混雑しないようにした。

- 2) 在宅療養患者への支援

- (1) 病棟と患者情報共有方法を構築し、連携を深め、患者が安心した在宅療養が行える。

病棟との患者情報共有目的に「引継ぎ用紙」を作成、運用している

在宅患者に関して病棟との情報共有が図れるようになったので、今後も活用していく。

- (2) 在宅で使用する衛生材料や医療材料を SPD システムに導入し、適切な管理ができる。

内科外来で SPD 化が図れた。患者が来院時に在宅物品をスムーズに持ち帰る事ができるようになった。

- 3) 紙カルテ廃止後の外来業務の調整と手順の見直しを行う。

外来業務の詳細を見直し、基準手順を作成をした。

#### 3. 今後の展望・課題

- 1) 眼科外来手術室増室後安全に業務できる。

手術室増室に伴った手術室看護師の育成と業務内容を構築する。

- 2) 在宅療養患者への支援

在宅患者 (TPN、胃ろう・腸ろうにおける経管栄養、自己注射患者) への指導を充実する

- 3) リンパ浮腫患者への指導状況を整備し、学会発表できる。

## ◆特殊外来

### 1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	古賀 美砂紀	集中ケア認定看護師	看護師	38名(派遣含)	
副看護師長	後藤 貴子		看護助手	3名(派遣含む)	
副看護師長	野寄 真紀	救急看護認定看護師			

### 2. 活動報告

#### 【救急センター】

平成 29 年度、救急外来受診者総数 18,233 名で（前年度比-77 名）減少したが、救急車搬入台数は 5786 台（前年度比 +259 台）と増加した。入院患者数は 3168 名で、前年度と著変なかった。

前年度より引き続き、当院での入院適応ではないが、疼痛に伴う体動困難、社会的理由等により帰宅困難な患者が増加している。平成 29 年度、療養目的等で他の医療施設へ転送した患者は 160 名（前年度比 +28 名）であった。医療支援部の協力のもと TQM 活動に取り組み、転送支援システムを構築し、転送調整に伴う業務の効率化・標準化を図った。

7 月 5 日から 6 日にかけて発生した福岡県・大分県を中心とする九州北部豪雨では、7 月 7 日・8 日、医師・事務員とともに看護師 2 名が現地での DMAT 活動を行った。

#### 【内視鏡室】

平成 29 年度内視鏡検査検査件数は 7,733 件（前年度比-111 件）であったが、治療・処置件数は 2,248 件（前年度比 +327 件）と増加した。前年度より胃・食道 ESD（内視鏡的粘膜剥離術）を受ける患者の術前訪問を開始した。今年度は新たに大腸 ESD を受ける患者に対しても術前訪問を行い、患者の不安を軽減するとともに病棟との連携を図っている。

治療・処置件数の増加や患者の希望により、鎮静剤使用症例が増加している。（3,108 件 前年度比 +158 件）外来患者は、回復室にて観察し、覚醒状態・歩行状態を確認し帰宅としている。

5 名の新採用看護師が配置され、今年度より新たに 2 ヶ月間の内視鏡室研修を導入した。その結果、問診、スクリーニング検査介助、器械洗浄が自立して実施できるようになった。

#### 【画像診断センター】

看護師が介助についた検査件数は CT・MR・RI 検査ともに前年度より増加した。CT：21,274 件（前年度比 +848 件）MR：6,453 件（+27 件）RI：783 件（+55 件）前年度より CT 撮影装置 320 列が導入されており、心臓 3D 検査等の特殊検査が増加している。診療放射線技師と協働し、安全かつ効率的、検査介助に努めている。

### 3. 今後の課題

#### 1) 地域との連携強化

高齢化の進展、地域包括ケアシステムが推進される中、高齢者の救急搬送は増加、当院の入院適応ではない帰宅困難な患者はさらに増加すると思われる。他の医療機関、高齢者福祉施設、行政等との情報共有、連携強化が必要と考える。



## 診療協力部門の概況

### 2) 災害対策

毎年、災害が発生し DMAT 隊員を派遣している。今後も DMAT 隊員が継続して訓練・研修を受けれるよう支援する。また院内及び部署内での災害時の受け入れ訓練も定期的に行う必要がある。

### 3) 特殊外来 3 部署間の連携強化

救急センター 1・2 年目看護師の内視鏡室研修、3・4 年目看護師の画像センター研修等、若手看護師の研修、及び中堅・ベテラン看護師の交換研修を通し、3 部署間の応援体制を確保し連携強化を図る。

## ◆ 4 階北病棟

### 1. スタッフ (平成 30 年 3 月現在)

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	松木 香奈枝		看護師	43名	
副看護師長	大畑 桂子		看護補助者	4名	保育士1名
副看護師長	大谷 真由美				クラーク1名
					看護助手2名
					(内1名は調乳専従)

### 2. 活動報告

#### 1) 在宅支援・地域連携の強化

前年度からの取り組みで、当院で在宅管理料を算定している患者のレスパイト入院時の退院物品が SPD 管理できるように外来と連携してシステム作りを行った。以前は、入院の度に病棟で物品を準備していたため、受領目安と注文数に外来との差があったり、至急で物品を請求したり他部署から借りてそろえることが頻繁にあった。外来で事前に注文して SPD で物品請求し、レスパイト入院時にもらって帰るといったシステムができ、物品の準備にかかる手間が省けるようになった。今後も外来との連携を強化しながらサービス向上に努めていく。

#### 2) 業務改善と魅力ある職場づくり

PNS 導入に向けて一般病棟は、5月に業務の問題点について検討し、405、406号室だけでなく一般病室のケアが多い児は協力して行う、起床・消灯時間を守る入院生活のけじめをつけるなどの看護師間の意思統一を行った。また、医師に対しても入院時の指示や、検査が重なる時の支援などの協力を求めた。PNSの形では動けていないが、声を掛け合って協力できるようになった。GCUは、6月からA・Bのペアで協力し合って業務を行うようにした。特殊な病棟なので本来の形で行うのは難しい為、今後も特殊性に合わせた勤務形態を目指し、改善していく。

#### 3) ワークライフバランス

平成 28 年度より一般病床と GCU のローテーションに組み込み 1 名の異動と GCU から育休に入ったスタッフ 2 名を一般病棟に配置した。それにより、今まで GCU は日曜日の休み希望が難しかったが、一般病棟から応援できる体制が取れることで休みが取りやすくなった。次年度からは、計画的に一般病棟と GCU のローテーションを行うことで勤務の協力体制を強化して質向上に努めていく。

### 3. 今後の展望・課題

#### 1) 一般病床・GCU のリリース体制の構築

期目標：2 年目以上のスタッフが一般・GCU の両方の勤務ができる

- ・リリースのためのマニュアル作り
- ・ローテーションの実施
- ・GCU・一般病床の看護の継続の取り組み（カンファレンスの充実、病態生理を含めた学習会、母子入院移行前の情報交換等）



## 診療協力部門の概況

### 2) PNS 導入と業務改善

### 3) 安全で質の高い看護の提供

- ・病院機能評価に向けて全員で取り組む
- ・記録の充実
- ・インシデント・急変事例の振り返りとアセスメント強化
- ・院内感染対策と環境整備の徹底
- ・接遇の強化

### 4) 業務改善と魅力ある職場づくり：協力体制の強化、超過勤務の削減、フィッシュ活動推進

## ◆4階南病棟

### 1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	村瀬 恭子		助産師	11名	
副看護師長	外園 文代		看護師	11名	
副看護師長	早田 真由美		看護助手	2名	

看護師人数：看護師長、副看護師長を除く

### 2. 活動報告

平成 29 年度は、中途退職したスタッフが 7 名おり、それに伴う人事異動でスタッフの入れ替わりの多かった。新たに指導を受けるスタッフ人数が多く、前年度に引き続き、指導をする側、受ける側ともに負担が大きい状態は変わらなかった。周産期関連部署への保健指導業務は、指導をでききるスタッフを増やすことができず、再開はできなかった。

婦人科に関しては、医師の協力を得て、手術日（月・水・金）と化学療法日（月・火・木）を原則分けること、化学療法件数の定数化を図り、業務の安全性とスタッフの負担軽減に努めることができた。産科に関しては、来年度の本格的な周産期メンタルヘルスの活動の基礎を作りのに取り組みんだ。分娩件数は昨年度より減少したが、母体搬送数は約 20 件増加した。

新入院患者数は、昨年度より大きく減ることはなかったが、平均在院日数が 6.7 日（前年度比 -0.5 日）であったため、日平均患者数が 28.2 名となり、病床稼働率が 80% を切った。

安全管理については、インシデントは 44 件と昨年より 2 件増加したが、アクシデントはなかった。

	平成 29 年度	平成 28 年度
分娩件数	366	371
正常経陰分娩	63	66
異常経陰分娩	123	127
予定帝王切開	106	112
緊急帝王切開	47	66
双胎（再掲）	22	13
品胎（再掲）	0	1
出生数	387	382
死産数	10	4
母体搬送数	65	46
産科 手術件数	211	196
婦人科手術件数	556	561
化学療法（延べ人数）	471	484
放射線療法（延べ人数）	290	444
新入患者数	1542	1559
一日平均患者数	28.2	30.72
平均在院日数	6.7	7.2
病床稼働率	79%	85.30%
インシデント件数	44	42
アクシデント件数	0	2

### 3. 今後の展望・課題

- ・看護師、助産師の役割を遂行し、看護の質を向上させる。
- ・安全管理を強化し、誤薬のインシデントを減らす。
- ・スタッフの学習環境を整え、自己研鑽を促す。
- ・TQM 活動に取り組み、業務改善を図る。



## 診療協力部門の概況

### ◆ 5 階北病棟

#### 1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	山田 弥生		看護師	27名	
副看護師長	櫻井 栄子	慢性心不全認定看護師	看護助手	2名	
副看護師長	高木 めぐみ		クラーク	1名	

看護師人数：看護師長、副看護師長を除く

#### 2. 活動報告

##### 1) 病床管理

HCU の病床は 4 床で、変更なく運用した。該当科疾患の患者は積極的に入院の受け入れを行った。

HCU 稼働率は 84.6% であり、算定率は 79.3% であった。

心不全の患者の急増と、繰り返す入退院支援を考慮し、心不全多職種チームによる勉強会を、定期的に開催し、スタッフの退院支援能力向上を図った。

心不全多職種チームを中心に、退院前カンファレンスを充実させ自宅退院を推進した。

##### 2) 安全管理

レベルⅢ b のアクシデントが 1 件（転倒して骨折）発生した。

また、レベルⅢ a のインシデントが 4 件発生した。転倒して縫合・バスキャス自己抜去・胃ろうの自己抜去・尿留置カテーテル挿入による尿道損傷である。

病棟内で振り返りを行い、危機意識の確認と対策の強化を行った。

##### 3) 看護の質の向上

###### ① 5S 活動の充実

患者が快適な入院生活が送れるように、ベットサイドの環境整備に取り組んできた。

物品の定位置を決めたことで夜勤の看護ケアもスムーズに行えるようになった。

###### ② PNS 看護方式の導入

新人 3 名の配置があり即実践への教育の必要性によりペアで看護することを早期に実践してきた。

確認行為はもちろん、1 連の看護行為を 2 人が責任をもって実施することでより患者の安全が確保できたと感じている。OJT の充実が実現できた。今後は、更に業務改善も並行して行い、更なる PNS の定着に努めていきたい。

###### ③ 心不全カンファの充実

心不全多職種チームによる勉強会を定期的に開催し、スタッフの退院支援能力向上を図った。

今後は患者を含めた退院支援カンファができるよう学習会を深めていきたい。

#### 3. 今後の展望・課題

##### 1) 安全な療養環境の提供

インシデントの減少。アクシデントの発生 0。



2) 看護の質の向上

- ① PNS 看護方式の定着と業務改善
- ② OJT による新人・現任教育の充実
- ③ 地域連携の強化

3) スペシャリストの育成

- ① 心臓リハビリテーション担当員の増員・心リハ指導士の増員
- ② 糖尿病教育入院指導看護師の増員



## 診療協力部門の概況

### ◆5階南病棟

#### 1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	白石 由紀	NST専門療法士	看護師	26名	
副看護師長	松岡 絵美子		看護助手	2名	
副看護師長	古賀 和代				

看護師人数：看護師長、副看護師長を除く

#### 2. 活動報告

平成 27 年 8 月に導入されたロボット支援下前立腺全摘徐術 (PALP) に続き、平成 28 年 4 月よりロボット支援下腎部分切除術 (RAPN) が導入され、泌尿器科の入院患者数はさらに増加している。開腹術に比べ術後の疼痛が少なく離床は大変早くなり、HCU 入室期間は術後 1～2 日で一般病床へ転出している。平成 29 年度の HCU 利用率は平均 75.9%、算定率は 98.2% で、一般病棟利用率は平均 79.5% で医療看護必要度の算定率は 26.5% であった。

平成 29 年 8 月より 4 週 155 時間の変形労働時間制が導入となり、夜勤時間の変更、日勤調整時間勤務など勤務時間の編成が行われたため、業務改善を繰り返し行った。これによって、病棟全体の超過勤務は平成 28 年度より 1552 時間削減することができた。

安全で質の高いチーム医療を目指し、人材育成を計画的に行っている。今年度はスーパースイトマーキング研修、実地指導者研修、看護管理者研修 (セカンドレベル)、院内 BLS インストラクター研修を各 1 名ずつ受講した。各学会認定者 (NST 専門療法士 2 名・排尿機能検査士 1 名・AHA ICLS プロバイダー 1 名・AHA BLS プロバイダー 4 名) は、各学会や研究会に参加し医療・看護の質向上に努めている。また、第 23 回日本腹膜透析学会・第 3 回 JCHO 学会で、看護ケアの取り組みについて発表した。

#### 3. 今後の展望・課題

##### 1) 専門性の高い安全で安心な看護の提供

###### ①安全な看護の提供

- ・科別看護基準の修正
- ・安全文化の情勢 (インシデント周知・自己分析・危険予知能力の向上・確認行為の定)
- ・重要情報・伝達の徹底 (伝達簿係りの設置)

###### ②質の高い看護の提供

- ・病棟会・指導者会の開催
- ・接遇の向上
- ・看護の質評価 (構造・過程・結果)
- ・腹膜透析指導士の育成

##### 2) PNS® (Partner Ship Nursing System) の導入

###### ① PNS® マインドの習得

###### ② PNS® に合わせた勤務体制の構築

##### 3) 地域連携強化

###### ①退院支援能力の向上

- ・退院調整リンクナースの設置
- ・社会資源・介護保険の理解
- ・確実な情報提供

## ◆ 6 階北病棟

### 1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	久保 由美子		保健師	●名	
副看護師長	大隈 直子		看護師	26名	
副看護師長	濱田 康子		看護助手	2名	
副看護師長	堀江 恭子	感染管理認定看護師			

看護師人数：看護師長、副看護師長を除く

### 2. 活動報告

平成 29 年度は、呼吸器内科病棟として、患者個々の疾患と生活を考えた専門性の高い看護を提供することを目標に活動を行った。呼吸器学習チームを中心に呼吸器疾患や看護に関する学習会の継続、院外研修への積極的な参加などを行い、呼吸器疾患全般の急性期治療の充実を図った。また、インフォームドコンセントに同席し、治療方針の把握とともに患者・家族の思いに寄り添い、橋渡しの役割が担えるよう副看護師長主導の元、活動を行った。新人看護師を含め、ほぼ全員の看護師が説明の場に同席し、内容を踏まえてその後の関わりについて考えることができるようになった。さらには、療養カンファレンスを通じて多職種とも連携し、情報共有だけにとどまらず、退院支援に関する方向性や問題点を検討し、担当看護師を中心に継続支援が行えるように努めた。入院中から退院後の患者の生活にも着目し、高齢患者や認知症患者、呼吸器疾患患者の生活に質を落とさない看護を提供し、連携先へ継続できるようにも努めた。看護師間で協力し、呼吸筋ストレッチ体操（ラッタッタ体操）を実施、嚥下障害の患者には、誤嚥を繰り返さないよう嚥下チームを中心に誤嚥防止パンフレットを活用した患者・家族指導を継続できた。

救急患者の円滑な受け入れのため、退院・転院支援をさらに推進し、病床管理を実施。平均在院日数は、平成 27 年度 17.1 日、28 年度 12.5 日、29 年度は 12.3 日とさらに短縮され、取り組みの成果が見られた。

安全管理では、治療に伴いハイリスク薬の使用が多いため、リスクマネージャーを中心にマニュアルの遵守、一人双方向型、二人同時双方向型による確認方法の周知徹底を図った。

### 3. 今後の展望・課題

呼吸器専門病棟として、日々進化する治療の動向をふまえ、質の高い看護、安全な看護を実施するために知識の充実を図り、看護の可視化に努める。

#### 1. 呼吸器内科病棟として、患者個々の疾患と生活を考え専門性の高い看護を提供する

- (1) 他職種で協働して質の高い看護を行う
  - ①カンファレンスで支援方法を検討し、退院支援を適切に行う
  - ②インフォームドコンセントに同席することで治療方針や患者や家族の思いを把握し、意思決定を支援する
- (2) 高齢者・認知症患者・呼吸器疾患患者の生活の質を落とさない看護を行い、連携先へ継続できる
- (3) 自己研鑽に努め、キャリアアップのため院外研修会参加など計画的に学習する
- (4) OJT を充実させる

#### 2. 安全・安心な療養環境の提供とともに WLB の充実に努める

- (1) 院内感染対策
  - ①アルコール製擦式手指消毒剤の使用量を増やし、標準予防策を徹底する
- (2) 安全管理
  - ①6R の確認を確実にを行い、誤薬防止に努める
- (3) 業務内容の検討、業務改善の推進



## 診療協力部門の概況

### ◆ 6 階南病棟

#### 1. スタッフ (平成 30 年 3 月現在)

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	松山 美佐紀	感染管理	看護師	34名	
副看護師長	平石 絵里子	摂食嚥下障害看護	看護助手	2名	
副看護師長	大坪 さおり		歯科衛生士	1名	
副看護師長	山田 明子	糖尿病看護			
看護師	白石 志穂	脳卒中リハビリテーション看護			

#### 2. 活動報告

##### 1) 病床管理

###### 【平成 29 年度実績】

延べ患者数 13,675 名 前年度 +223 名 新入院患者数 1,292 名 前年度比 -90 名

病床稼働率 87.3% +0.9% 平均在院日数 12.0 日 前年度比 +0.9 日

該当診療科の入院患者数はほぼ同じであるが、内科の入院患者数は年々増加 (3,240 名 前年度比 +191 名) している。

###### 【外科】

延べ患者数 4,811 名 (35.2%) 前年度比 -409 名 (-3.6%)

外科の入院患者数は減少した要因として乳腺手術の減少 (164 件、前年度比 -30 件) と食道がん術後の患者の経過が順調であったことが考えられる。反面、高齢者・認知症・脳血管疾患既往の患者の手術も多く、地域連携が必要な症例も増加している。また、乳腺手術についてクリティカル・パスの見直しを行った。

###### 【神経内科・脳外科】

神経内科延べ患者数 3,837 名 (28.0%) 前年度比 +182 名 (+0.8%)

脳外科延べ患者数 1,554 名 (11.4%) 前年度比 +196 名 (+1.3%)

平成 27 年 2 月以降、脳梗塞の入院は曜日などによっては脳外科が担当することになっているため、正確な人数は把握できないが神経内科の患者は増加傾向であるといえる。脳梗塞患者の大半は転院となるが、入院時から患者・家族への働きかけが行われておりスムーズに転院調整が出来ている。

###### 【HCU・救急室】

平成 29 年度 HCU 算定率 56.9% (前年度比 +0.8%)

平成 29 年度 救急室 (603 号一般病床 3 床) 年間入室者数 385 名 (前年度比 -8 名)

6 南病棟は HCU8 床を有している。HCU の算定要件の変更の影響もあり肺がんの手術後は基本的には 1 日のみの入室としている。該当診療科以外、特に循環器内科の患者の入室が増加しており、内科が延べ入室数の約半数を占めている。多様な患者の状態に対応できるように学習会を実施、情報の共有を行っている。

- 2) 看護システム PNS（パートナーシップ・ナーシング・システム）を導入した。ベアで看護は行っているが、まだ年間を通してのチーム分けやパートナーは決めていない。

### 3. 今後の展望・課題

- 1) 外科疾患患者の高齢化が進んでいる。認知症、独居世帯なども多く入院後早期からの退院支援や地域連携の強化が課題である。
- 2) 該当診療科以外の入院患者の割合が増加している。HCU入室後に該当診療科に転出できず一般病棟に受け入れることも多い。該当診療科以外の患者は重症例も多く、退院に向けての調整が遅れる傾向にある。治療方針とともに退院後の方向性など主治医に早期に働きかけていく。
- 3) PNS では、次年度はパートナーを組み、プライマリー制の看護が行えるようにしていく。プライマリー制を進めることで、患者の退院支援や地域連携がスムーズに行えるような環境を整える。



## 診療協力部門の概況

### ◆ 7 階北病棟

#### 1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	後藤 芳子		看護師	26.8名	
副看護師長	片山 朋子		看護助手	2名	
副看護師長	倉元 宏美	がん化学療法看護 認定看護師			

#### 2. 活動報告

担当診療科の病床数は 49 床（血液内科 25 床、腫瘍内科 24 床）であった。しかし、血液疾患で入院して治療を繰り返す患者や移植を受ける患者の増加に伴い、空床がない状況が続いた。そのため、腫瘍内科の患者や急患入院患者が他病棟に入院することが多かった。そこで、病床運営委員会で検討し平成 30 年 1 月 1 日より、血液内科 35 床、腫瘍内科 14 床とし、7 階南病棟に 4 床、6 階南病棟に 2 床の増床となった。血液・腫瘍内科の患者はできる限り当病棟で治療が受けられるよう調整に努め、病棟利用率は 83.5% で前年度より 1.5 ポイント上昇し、平均在院日数は 16.9 日で前年度より 0.1 日短縮した。

移植患者の増加に伴い、更なるレベルアップを図るため、がん化学療法看護認定看護師を中心に学習会を継続し、移植患者担当やリーダー業務の自立を図ることが出来た。また、毎週水曜日に多職種で血液疾患患者のカンファレンスを行い、ケアの充実にも努めている。フォローアップ外来については看護師主導で予約を取り述べ 81 件を行い、前年度より 22 件増加した。移植後のケアの充実につながっているが、病棟業務の負担は増加することとなった。

看護提供体制は、ペア制看護を導入し抗癌剤や輸血等ハイリスク薬品のダブルチェックを行いやすくし、安全な治療援助に努めている。また、観察項目や患者指導など教育が丁寧に行えるようになった。

当病棟には、血球減少など抵抗力の低い患者が多く入院しており、ベストプラクティスに沿った環境整備、オムツ交換手技やミキシング手順の教育に力を入れ感染予防対策を徹底した。

#### 3. 業務実績

- 1) 専門分野の看護の質向上と患者指導の充実のため、学習会開催やクリティカルパスの修正・新規作成を行う。
- 2) ペア制看護を継続し教育効果を高め、プライマリーナースとしての役割を果たす。
- 3) スタッフ一人ひとりがスタンダードプリコーションを理解し、接触感染予防行動を実践する事で院内感染を起こさない。
- 4) 転倒発生後の患者への影響が大きいと、危険予知能力を高め転倒防止に努める。また、ハイリスク薬品の間違い・患者間違いを起こさない

## ◆ 7 階南病棟

### 1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	白石 明子		看護師	28名	
副看護師長	稲田 妙子		夜間専従看護師	1名	
副看護師長	福原 香織		看護助手	2名	
看護師	池田 佳子	皮膚・排泄ケア認定看護師			

看護師人数：看護師長、副看護師長を除く

### 2. 活動報告

H28 年度の新入院患者数は 1,116 名でそのうち 430 名が急患入院で急患入院が 36.8%であった。新入院患者数は、H28 年度より 107 名の減少した。延患者数は、1,4879 名で外科が 1,2748 名 (85.7%)、内科が 1,910 名 (12.8%) で 10 科の入院に対応した。平均在院日数は 12.5 日で、平均稼働率は 83.2%であった。

手術に関しては総数 844 件で、そのうち 99 件が急患であり、急患率は 11.7%であった。手術件数は H28 年度より 46 件増加した。

H29 年度には、夜勤時間の変更やロング日勤の廃止などの勤務時間変更が行われたため日勤・遅出・夜勤の業務内容を TQM活動と連動させて見直しを行い、調整を行った。

内科の病床が不足しているとのことで、病床編成が行われ、外科 49 床から外科 45 床、腫瘍内科 4 床へ変更になった。腫瘍内科の増床に伴い、今後さらに化学療法を受ける患者の入院が増加することが予測されたため、化学療法についてのマニュアルの充実を図り対応ができるようにした。

インシデントに関しては、薬剤に関するものが最も多く、確認不足や確認方法の認識不足が主な要因であった。転倒に関しては突然の意識消失により 3b の事象が発生した。

### 3. 今後の展望・課題

#### 病床管理

- ・退院調整の強化を図り、入院の長期化や自宅退院が困難と思われる方を早期から介入し、遅滞なく退院が出来るように取り組む
- ・ケアカンファレンスの充実

#### 安全管理

- ・確認不足によるインシデンを減少させるため、確認方法の振り返りや周知を行う。
- ・入院生活リスク評価を行う際に、過去のイベントを正確に把握できていない事や患者の状態変化時に再評価が適切に行われていないため、リスク評価の充実を図る。

#### 教育

- ・ストーマ管理、化学療法などチームを作り学習会を充実していく。
- ・ストーマ外来、ストーマサイトマーキング実施者の育成



## 診療協力部門の概況

### ◆ 8 階北病棟

#### 1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	村上 貴子	救急看護認定看護師	看護師	26名	
副看護師長	村上 千枝子		看護助手	2名	
副看護師長	小林 淳子				

看護師人数：看護師長、副看護師長を除く

#### 2. 活動報告

病床数は、一般病床 45 床、HCU 病床 4 床で、担当科診療科は消化器内科と脳神経外科で昨年と同様である。

平成 29 年度の取組み

##### 1) 看護の質の向上

医療安全：インシデントレベル 3a 以上の事例については、事例検討を行い、病棟全体で情報を共有した。

感染管理：標準予防策の手指衛生が徹底できるように取り組んだ。擦式手指消毒薬を個人持ちとして使用上を確認した。標準予防策の重要性について意識の向上が図れ、冬季には職員のインフルエンザの発生もなかった。

##### 2) 改善活動

TQM：①平成 28 年度の「夜間の排泄ケアを見直し業務改善を行う」活動については、標準化の確認を行なった。

②平成 29 年度は「褥瘡対策計画書の入力不備の撲滅」を目標に活動した。その結果入力の不備をなくすことに成功し、新たな褥瘡の発生もなく看護の質向上につなげることができた。

##### 3) スキル向上

救急看護認定看護師資格更新（1 名）

資格取得（ファーストエイド 2 名）

認知症看護研修（本部研修）1 名

在宅療養支援研修（本部研修）1 名

#### 3. 今後の展望・課題

##### 1) 看護の質の向上

(1) 入院時より在宅支援の必要性が考えられる人材の育成

(2) 倫理に関する意識の向上

##### 2) 安全で安心な環境の提供

(1) 安全な環境の提供（病棟 ICLS、防災訓練、転倒予防）

(2) 標準予防策と環境整備の徹底

##### 3) スタッフのワークライフ・バランスとスキルの向上

## ◆8階南病棟

### 1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	武富 須磨子		看護師	30.2名	
副看護師長	須田 幸子		看護助手	3名	
副看護師長	大藏 敦子				

看護師人数：看護師長、副看護師長を除く

### 2. 活動報告

- 1) 勤務時間 155 時間 / 月へ変更することになったため PNS 導入を同時に行い、業務改善を行った。PNS は 7 月から開始したが、まだ日勤をペアで業務を行なうことしか出来ておらず内容は不十分であるが、昨年と比較して超過勤務が 44% 減少した。
- 2) 安全管理では、内服薬が電子カルテの運用へ変更されたが、確認不足による内服のインシデントが増加しないことを目標にした。22 件 → 13 件に減少することができた。転倒、転落のインシデントは、リハビリが進み ADL が拡大した頃に起こるケースが多かったため、繰り返し指導を行うことを徹底し、37 件 → 31 件に減少した。
- 3) 高齢者で皮膚が脆弱な患者が多いため、数年前より毎年褥瘡発生の減少を目標にしている。シーネや弾性ストッキングによる圧迫が原因の褥瘡発生は減少したが、今年度は 14 件（褥瘡発生率 1.88%）で、昨年度に比べ 2 名増加した。

### 3. 今後の展望・課題

- 1) 今年度は PNS を導入し、日勤はペアで業務ができるようになったが、今後は PNS の充実を図り、看護の質の向上を目指す必要があると考える。
- 2) 安全管理では今年度の目標の内服薬のインシデントの減少、転倒・転落のインシデントの減少、褥瘡発生の減少を今後も継続して取り組んでいきたい。
- 3) 次年度は、病院機能評価を受審するため、各自の役割りを果たすことができるように働きかけていきたい。



## 診療協力部門の概況

### ◆ 9 階北病棟

#### 1. スタッフ (平成 30 年 3 月現在)

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	本田 久美	看護教員養成課程修了	看護師	29名	
副看護師長	森本 享子		看護助手	2名	
副看護師長	村上 美代子				

#### 2. 活動報告

##### 1) 病床管理

耳鼻科、眼科、皮膚科を主体に、内科、泌尿器科、整形外科を含む 6 診療科の混合病棟で、基本病床は 49 床。病床編成の変更に伴い、病床運用の調整に努めた。

##### 【平成 29 年度実績】

新規入院患者数 1,682 名 (急患 446 名含む)、手術件数 1,702 件 (緊急手術 27 件含む)、稼働率 83.5% 平均在院日数 8.0 日 (前年度より -0.8 日) であった。

##### 2) 看護システム PNS (パートナーシップ・ナーシング・システム) の定着

平成 26 年度末から PNS を試験導入し、スタッフの意見・患者への対応を確認しながら、業務を調整している。パートナーシップマインドについての教育を継続しながら、眼科・耳鼻科の業務を中心に改善し、平日のインシデントに繋がっている。

##### 3) がん患者看護の充実

全スタッフが患者の在宅支援や予後に関する不安などを含めた援助を責任を持って継続的に行えるように教育している。がんの患者の入院は増加傾向であり、入退院を繰り返す患者が増えている。患者の不安の軽減や病期に合わせた介入が行えるよう、2 週間以上の入院患者には、プライマリー制の看護介入に努めている。

#### 3. 今後の展望・課題

##### 1) 病床管理

眼科は、白内障の手術が外来へ移行しているが、白内障単独の場合の手術件数は減少し硝子体や網膜剥離の手術を併用する患者が増加する状況が予測される。患者の高齢化、既往疾患の重症化が顕著になっており、全身状態のを考慮した自宅退院に向けての援助が必要である。耳鼻科は、拡大手術が無くなり、短期入院の患者が増え、泌尿器科は、検査や短期手術の患者を担当する状況となり、在院日数は更に短くなっているため、安全管理を十分に検討し、患者・家族の不安の軽減や病状に応じた介入が行えるよう援助が必要である。また、耳鼻科の定数病床を効果的に運用することが課題である。

##### 2) 安全な療養環境の提供

患者の高齢化、短期入院患者の増加に伴い、看護システム PNS (パートナーシップ・ナーシング・システム) を熟成し、安全で安楽な看護を提供できるように、パートナーシップマインドを育み、補完業務を確立している途中であ



る。休日勤務にも PNS を導入し、業務に取り組んでいる。PNS 導入病棟の見学メンバーの受け入れや情報を提供している。

### 3) 人材の定着・人材の育成と自己研鑽

教育体制の見直しとラダー別課題の習得に取り組み、定期的な指導者会を開催し、現任教育と新規採用者の教育に勤めている。また、中途退職者を出さない魅力ある職場作りが課題である。



## 診療協力部門の概況

### ◆がんセンター

#### 1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	氏名	認定・専門・資格
看護師長	高田 由美子	認定がん専門相談員	看護師	宮原 留美	がん放射線療法認定看護師
副看護師長	松澤 子美	助産師	看護師	近藤 恵子	がん看護専門看護師
副看護師長	友田 恭子	がん化学療法認定看護師	看護師	22名	
副看護師長	進藤 美舟	緩和ケア認定看護師	看護助手	1名	

### 【緩和ケア病棟】

#### 2. 活動報告

##### 1) 病床稼働と在院日数

病床数は 12 床、病床稼働率は 71%であった。平均在院日数は 37 日であったが、7 月は 110 日と長く、3 か月を超える安定した状態の患者が多く在院日数が延長した（図 1）（図 2）。

##### 2) 入院患者

総入院患者数は 119 名で 66%が院内からの転入患者であった。自宅からの予定入院は 15%、緊急入院は 15%、他院からの入院は 4%であった（図 3）。在宅医と連携し、自宅療養が困難になった時期を見据えた予定入院や症状悪化時の緊急入院も少しずつ増えてきた。

##### 3) 退院患者

退院総数は 125 名で 90%は死亡他院、9%は自宅退院であった（図 4）。症状緩和と並行して病状が安定した場合は、患者や家族の意向に沿い転院や在宅などの療養環境調整を行う機会が増加した。

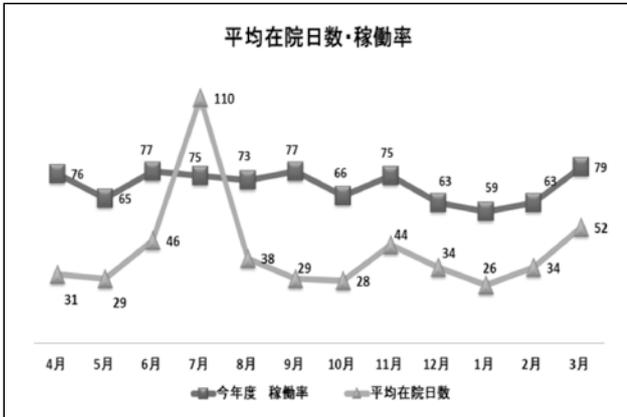


図1

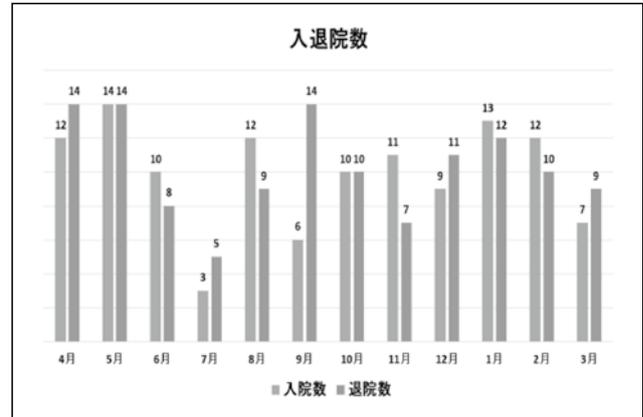


図2

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入院数	3	2	4	0	5	4	7	5	2	4	2	2	40
(内) 緊急	2	1	2	0	2	2	2	2	1	2	1	0	17
自宅	1	1	2	0	2	2	3	1	1	1	1	2	17
他院	0	0	0	0	1	0	2	2	0	1	0	0	6
転入	9	12	6	3	7	2	3	6	7	9	10	5	79

図3

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
退院数	15	14	8	6	9	14	10	8	11	12	9	9	125
自宅	3			1	1			4			2		11
転院	1												1
転棟				1									1
死亡	11	14	8	4	8	14	10	4	11	12	7	9	112

図4

### 3. 今後の展望・課題

病床稼働率は前年度より下回った。在院日数1～2週間と短期間の患者が多かったことが要因のひとつと考える。患者の重症度が高く短期間で看取りを迎える場合、患者や家族との関係構築も十分には図れず看護スタッフの心理的負担や疲弊も大きい。急性期病院の緩和ケア病棟として、適切な時期に患者を受け入れるためには主科と連携していくことが重要である。また、緩和ケア病棟での症状緩和において、その後の病状に応じた療養環境調整や在宅移行支援も必要となることから、地域の多職種とも積極的に連携を図っていきたい。



診療協力部門の概況

◆がんセンター

【外来化学療法室・放射線治療室】

1. 活動報告

1) 外来化学療法件数

外来化学療法件数は年々増加しており、2017 年度は年間 6,012 件だった (図1)。

科別で増加したのは内科:4,228 件、耳鼻科(頭頸部):277 件であった。臓器別では、大腸:1,586 件、肺:686 件、胃:372 件、すい臓:374 件、胆のう:137 件、血液:756 件であった。

胃・膵臓・胆道系の治療レジメンやがん免疫療法の増加によるものと思われる(図2)。

治療件数が増加するなか介助を要する患者も増えている。安全に治療が遂行できるよう、トイレや治療ベッドへの移動など限られたスペース内で患者の個別性に応じた対応ができるよう配慮をしている。

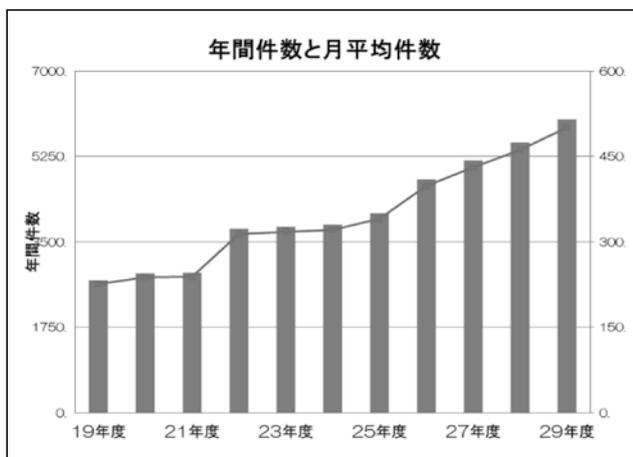


図1

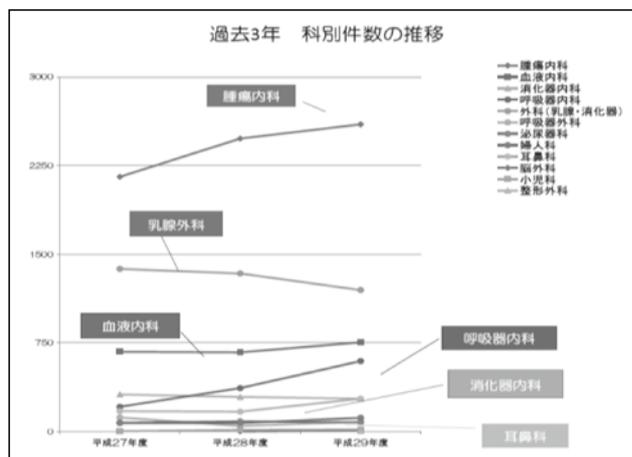


図2

2) 放射線治療件数

放射線治療は9,872 件であった(図3)。特殊治療では、危険性や患者への侵襲などから看護師が付き添い介助を行っている。患者の重症度も高くなり、鎮静剤を使用して治療をする場合は主治医と看護師が付き添い急変時に対応できる体制をとった。また、点滴やドレーンなどのルート類、高齢やADL低下等から独歩での来室患者が減り車椅子での来室数が倍増した(図4)。安全に治療を遂行する為、病棟や外来等との連絡調整を密に行った。

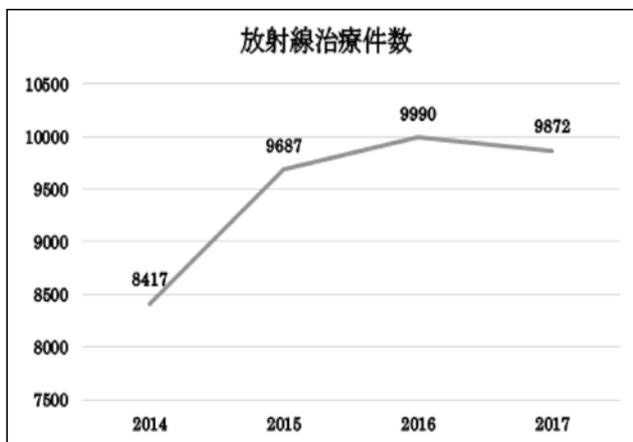


図3

	定位照射	移植前全身照射	腔内照射
2016	162	22	50
2017	137	18	56

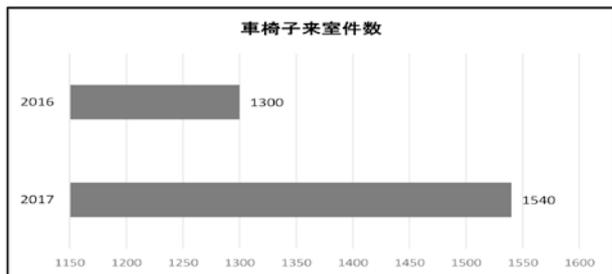


図4



## 2. 今後の展望・課題

がん化学療法および放射線療法は件数増加とともに内容も複雑化している。化学療法は薬剤投与経路、投与方法などレジメンに応じて、放射線治療では照射部位等により安全・安楽に配慮した個別対応が必要である。また、治療に伴う様々な副作用への対応は、治療の質を保つうえでも重要である。主治医や病棟・外来看護師と連携した対応を行い個々の患者に応じた継続性のある看護ケアの提供を行う。更に高齢化・核家族社会のなか、日常生活が維持できず外来治療が継続できない場合もある。患者や家族ともコミュニケーションを図り、在宅調整が必要な場合は院内外の多職種で連携して取り組んでいきたい。



診療協力部門の概況

◆がんセンター

【緩和ケア外来・がん看護外来・がんサポートチーム】

1. 活動報告

1) 緩和ケア外来は、新患、継続患者、緩和ケア病棟入棟検討患者の総数 286 名に対応した (図1)。

症状緩和を目的に、緩和ケア外来で検査や輸液を行うことが多くなっている。

精神科医師と併診し身体、精神的側面で診る患者が増加し 12 名いた。地域連携においては、在宅医との連携病床の利用は 8 件、それ以外の緊急入院は 7 件、在宅看取りは 9 件であった。緩和ケア外来患者の中で、緩和ケア病棟に入院した患者は 128 名だった。緩和ケア病棟と外来で細かく患者の情報共有を行いながら入棟時期を決定し、直接緩和ケア病棟に入院した患者は 36% だった。一般病棟で待機した患者の 54% が 1 週間以内に入棟している。一般病棟で待機しながら永眠した患者は 19 名だった (図 2)。

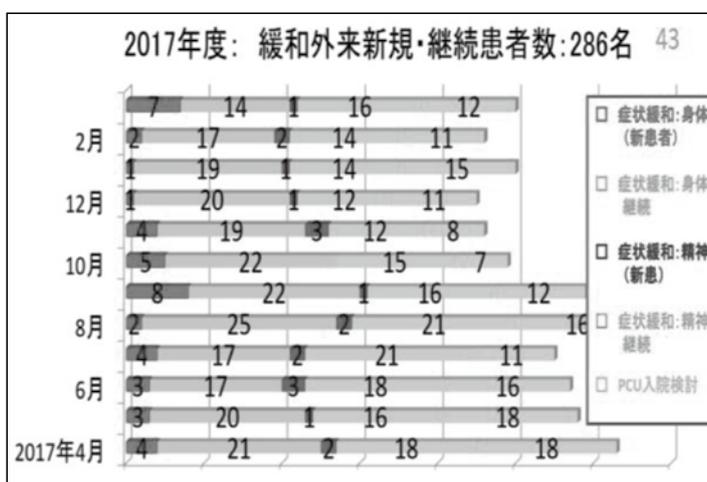


図1

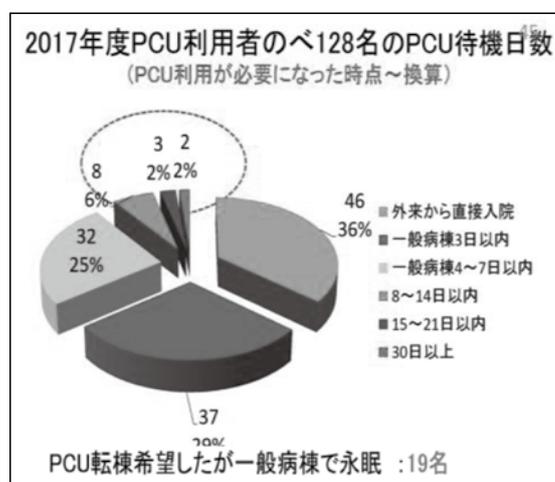


図 2

2) がん看護外来は、2016 年度からの継続患者 72 名、2017 年度新患 71 名、計 143 名に対応した。サポート継続患者の殆どが抗がん治療中の患者であった。患者や外部医療機関からの電話相談のほか外来や外来化学療法室の看護業務支援を行った。管理料算定では、がん性疼痛緩和指導料は外来看護師・薬剤師・医事課等で定期カンファを行い取得件数が 594 件と倍増した。外来緩和ケア管理料 (300 点) 169 件、通院精神療法 (30 分未満: 330 点) 404 件、(30 分以上: 400 点) 34 件取得した。

3) がんサポートチームは、新患依頼件数 222 件、緩和ケア診療加算 927 件で昨年度より増加した (図3)。

苦痛スクリーニングのシステム化に向けてモデル的運用を行い、緩和ニーズの高い患者に能動的に介入した成果と思われる。また、がんサポートチーム活動の可視化として、院内の多職種チームカンファレンスに参加しディスカッションを行い患者のニーズに沿った対応や目標を共有でき活性化にも繋がった。

	2016年	2017年	前年度比
依頼件数	142件	222件	△1.5倍
緩和ケア診療加算件数	423件	927件	
収入	1,692,000 円	3,708,000 円	△2,016,000 円

図 3



## 2. 今後の展望・課題

緩和ケア外来は、入棟目的だけでなく、症状緩和を目的とした受診が増えてきた。先々を見据え治療期からのシームレスな移行に向けて主診療科との併診も多い。また、患者の身体状況に応じ適切な時期に緩和ケア病棟での入院環境が提供できるためには院内だけでなく地域との連携体制の強化を図っていく。院内では苦痛スクリーニングのシステム化に取り組み患者のニーズに応じた対応をカンファレンスを通して共有し実践できるよう、がんサポートチームの活動を活発化させていきたい。行ったことが診療報酬に反映できるよう、算定に向けた取り組みも継続していく。



## 診療協力部門の概況

### ◆手術室

#### 1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	氏名	認定・専門・資格
看護師長	池田 浩子		副看護師長	末永 まゆみ	
副看護師長	川原 さおり	手術看護認定看護師	看護師	山崎 加奈子	手術看護認定看護師
副看護師長	和田 裕子		看護師	41名	
副看護師長	松本 勝恵		事務員	1名	

看護師人数：看護師長、副看護師長を除く

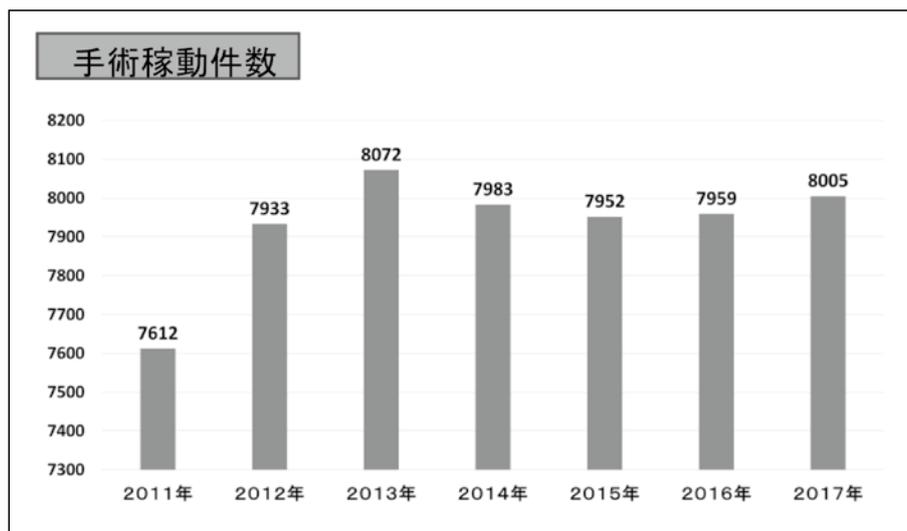
#### 2. 活動報告

平成 29 年度は、経営コンサルティング会社による、外部調査（クリニカルインジケーター）から、手術室の効率的運営への改善提案を受けた。その、改善提案に基づき、10 月よりスタッフ全員参加で業務改善を開始した。医師との連携強化、材料の統一、物品定数の見直しと、スタッフ一丸となり活動をすすみ、スタッフの超過勤務削減、診療科を超えての材料の統一など、少しずつではあるが改善の方向に進んでいる

手術室稼働件数は、8,005 件、その内急患は、1,155 件で急患率は、14.1%であった。手術件数は、ここ数年約 8,000 件前後を推移している。

また、今年度は手洗い方法の変更（ウォーターレス法）を導入した。パームスタンプ法にて細菌検出率を比較し、変更前後にて変化は見られないことを確認した。その結果、消毒剤変更と、滅菌ペーパーの削減により、コスト面では、1,168,204 円削減ができた。現在、手洗い方法の変更による、手荒れ調査と SSI 調査は継続中である。

安全管理においては、看護師によるレベル 3b 以上のインシデントは発生しなかった。レベル 3a の事例は 2 件あり、検討会を実施。その後、手術室運営委員会にて報告、意見をいただき改善策を立案、今後同じようなインシデントが起こらないように周知活動に努めた。





### 3. 今後の展望・課題

業務改善（働きやすい職場作り、働き方改革）

- ・手術室の効率的運用を考えた、業務改善継続中

安全管理

- ・看護師によるレベル 3b 以上のインシデントを起こさない
- ・インシデントの振り返りと共有、対策実施を強化

その他

- ・ハイブリッド手術室工事とその後の効果的運用に向けての立案



## 診療協力部門の概況

### ◆集中治療室

#### 1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	松浦 洋子		看護師	40名	
副看護師長	細川 知子		看護助手	1名	
副看護師長	光本 智子				
看護師	竹林 洋子	集中ケア認定看護師			

看護師人数：看護師長、副看護師長を除く

#### 2. 活動報告

##### <病床管理>

病床は、ICU16床・回復室3床で運用した。

ICUの延べ入室患者数は3,870名（前年比-364名）病床稼働率は67.6%であった。

算定率は前年度同様で45.8%であった。

回復室の入室患者数は1,965名（前年比+189名）で、回復室に1泊した患者は1名のみであった。

ICU入室患者の科別内訳は、多い順に心臓外科・内科・小児・外科・脳外科であった。

看護必要度・重症度の取得率は、60%台が2か月あったが、平均は84.3%で算定基準の70%は超えていた。

##### <教育>

3年未満の看護師を教育的に指導するため、毎月臨床指導者会・プリセプター会を実施した。しかし、十分な教育体制の確立には至らなかった。

注射薬処方に関しては、TQM活動で紙運用を廃止し、オーダーリング処方に変更した。

そのため、電子カルテでの実施確認も行えるようになり、リスク管理につながった。

今年度も、多くのスタッフが研究に取り組み、4演題を学会で発表した。

昨年同様、長期入室患者の多職種カンファレンスを実施、治療方針の確認・情報共有を行った。

また、関連病棟・病床管理師長とも連携・情報交換し適切な病床管理に努めた。

#### 3. 今後の展望・課題

##### 1. 看護の質の向上と安全の確保

- 1) 教育体制の見直し
- 2) 学習方法の検討
- 3) PNSの導入・定着
- 4) 電子カルテへ運用の定着
- 5) 看護研究・院外発表の支援

##### 2. 安全で安心な療養環境の提供

- 1) 接遇の向上
- 2) 業務改善



- 3) インシデントの軽減
  - 4) 医療安全・感染対策に関する研修参加率の向上
  - 5) TQM 活動・5S 活動の継続
3. 病院経営への積極的な参画
- 1) 急患受け入れ態勢の整備
  - 2) 病床運用の継続
  - 3) 地域連携の推進
  - 4) 物品の破損、紛失による費用の削減

**診療協力部門の概況****◆ NICU 病棟****1. スタッフ**

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	麻生 眞智子		助産師	2名	
副看護師長	三ノ丸 理江	感染管理認定看護師	看護師	35名	
副看護師長			看護助手	1名	

**2. 活動報告**

H29 年度は、新入院患者数 237 名 退院患者数 16 名（死亡 3 件）、24 時入院患者数 5,647 名  
稼働率 106.5% 平均在院日数 44.6 日であった。

1) 入院患者： 院内出生が 107 名、外来受診後入院が 7 名であった。院外からの転院は、県内が 117 名（市内 114 名）、  
県外 8 名であった。  
疾患別では、超低出生体重児 17 名、極低出生体重児 9 名、低出生体重児 88 名、心疾患 38 名、その他 108 名であった。

2) 治療、処置：呼吸器使用患者、1 日平均 9.1 名であった。  
手術（外科、心臓外科、脳外科）44 件、心臓カテーテル 20 件

**3) 看護：**

- (1) 出生前訪問： 新生児集中治療室に入院の可能性がある児の両親に対して、不安軽減のため産科病棟、外来と協力して出生前訪問を継続して実施した。依頼のあった患者は、ほぼ全員実施することができた。
- (2) 授乳、搾乳指導：直接授乳ができるようになった患者、母親に対して授乳指導を継続して行っている。母乳や搾乳に対して不安が強い母親には、助産師 2 名が交替で相談・指導を行っている。（月 2 回活動日を設定している。）
- (3) 感染防止： 新規 MRSA 患者の発生を抑えるため、環境整備と手指消毒の徹底に努めた。  
しかし、年度末に MRSA 新規発生 9 名となりアウトブレイク宣言が出された。  
KRICT のラウンド及び、保健所の立入り調査があり、手指消毒の励行強化、環境整備の強化（1 日 2 回の清掃）、哺乳瓶キャップやおしゃぶりをサブライの高温洗浄に出すなどの対策を実施し、2 月に終息宣言が出された。
- (4) 人材育成： 県内外から様々な疾患を持った患者が入院してくる。入院のほとんどが出生直後の緊急入院であり、医師の治療のもと看護師も、迅速かつきめ細やかなケアが要求される。専門的な知識・技術を身につけるための学習会を実施した。

**3. 今後の展望・課題**

- ・患児の母親に対して、助産師 2 名が交替で搾乳指導や乳房マッサージを月に 2 回、日にちを決めて実施しているが、面会時に不安を訴える母親もいるため、すぐに対応できるよう看護師のスキルを磨き、実施できる人材を増やすことで充実を図る。
- ・感染防止は、引続き対策を継続し新規 MRSA 発生件数を減少させる。
- ・H30 年度に PNS 導入ができるよう活動を進めていく。



## ◆ サプライ

### 1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	氏名	認定・専門・資格
副看護部長	木本 妙子				
	委託職員 23名				

### 2. 活動報告

鏡視下手術の増加、ロボット手術の参画、増加に伴い、サプライ業務は、高額な機械の取り扱いが多く、緻密さや繊細さを問われ難易度は高くなっている。その中で、消毒・滅菌の保障の維持を行いながら、大きな事故なく今年度を終了できた。

今年度手術室の看護業務に関する業務改善に伴い、手術間清掃、手術間準備などに参加できるよう話し合いを進めている。

#### ① 滅菌・洗浄機械の稼働状況

設備	機械の運転回数		
	27年度	28年度	29年度
オートクレーブ	150,621	151,743	143,957
プラズマ	9,196	10,817	10,764
EOG	11,200	9,566	9,827
洗浄機	16,519	17,718	13,249
超音波	2,047	2,165	2,141
チューブ	2,577	2,648	2,566

オートクレーブ：高温高圧蒸気滅菌器      プラズマ：低温過酸化水素滅菌器      EOG：エチレンオキシド滅菌器

洗浄機・超音波・チューブ：自動洗浄機

内視鏡手術の増加で超音波洗浄が増加、病棟物品の一元化で自動洗浄やチューブ洗浄が増加した

#### ② 業務改善

- ・病棟で洗浄・消毒物品の一元化推進
- ・手術室看護師業務の見直しに伴う、手術間清掃ならびに、手術間準備への参画への話し合い
- ・手術室で使用するガラス製品をプラスチック製品へ変更

### 3. 今後の展望・課題

病棟で実施していた使用後物品の一次洗浄はほとんどサプライで行えるよう一元化を推進し対応を行っている。ロボット手術の件数は増加の一途をたどっている。しかし、手術が滞ることなく対応できている。高額な器械であるため、基準手順を徹底できるよう、スタッフ教育を行っていく。

平成 16 年に新病院に移転した時点で購入した滅菌装置や大型洗浄装置等の高額機械が 13 年間フル稼働している。手術の在り方に応じた機械の更新や新規購入を検討する。

**診療協力部門の概況**
**◆薬剤部**
**1. スタッフ**

職名	氏名	認定・専門・資格
薬剤部長 (治験支援センター・ センター長補佐)	末松 文博	日本医療薬学会指導薬剤師、日本医療薬学会認定薬剤師、 日本在宅薬学会エヴァンジェリスト、認定医療メディエーターB、 日本老年薬学会認定薬剤師、コミュニケーション能力1級認定、 公認スポーツファーマシスト、初級システムアドミニストレーター、 薬学博士
主任薬剤師	桑村 恒夫	日本医療薬学会認定薬剤師、感染制御専門薬剤師、 がん薬物療法認定薬剤師
主任薬剤師	吉国 健司	心臓リハビリテーション上級指導士、心臓リハビリテーション指導士、 がん薬物療法認定薬剤師、認定医療メディエーターB、 日本老年薬学会認定薬剤師、公認スポーツファーマシスト
主任薬剤師	野村 公子	栄養サポートチーム専門療法士、日本糖尿病療養指導士
主任薬剤師 (治験支援センター・ 副センター長)	大西 利彦	日本臨床薬理学会認定CRC
主任薬剤師	山戸 真子	栄養サポートチーム専門療法士、日本糖尿病療養指導士
薬剤師	藤村 弥生	栄養サポートチーム専門療法士、漢方・生薬認定薬剤師、 日本糖尿病療養指導士、日本老年薬学会認定薬剤師
薬剤師	矢川 結香	栄養サポートチーム専門療法士、周術期管理チーム薬剤師
薬剤師	大園 真奈美	
薬剤師	川久保 充章	日本糖尿病療養指導士、福岡県糖尿病療養指導士
薬剤師	釘原 瑤子	栄養サポートチーム専門療法士、日本老年薬学会認定薬剤師
薬剤師	山澤 結季	小児薬物療法認定薬剤師
薬剤師	白石 史遠	周術期管理チーム薬剤師、日本老年薬学会認定薬剤師
薬剤師	秋吉 尚雄	
薬剤師	小笠 裕斗	外来がん治療認定薬剤師
薬剤師	有吉 美幸	
薬剤師	西村 直朗	
薬剤師	阿部 名月	
薬剤師	上津 沙織	がん薬物療法認定薬剤師
薬剤師	神宮司 華子	
薬剤師	石田 佳菜	
薬剤師	宮崎 美穂	
薬剤師	大内田 奈々	
薬剤師	角田 菜緒	
薬剤師	高木 祐真	
薬剤師	高橋 由紀奈	



### 診療協力部門の概況

薬剤師	西 腹 麻 希	
薬剤師	松 本 侑 莉	
薬剤師	永 野 優	
薬剤師	山 田 凌	
調剤助手		

#### 【基本方針】

1. 医療チームの一員として、高度な薬学知識を活用し、医薬品の適正使用を促進すると共に医療安全に寄与します。
2. 患者さんとのより良いコミュニケーションをとおして、満足し信頼していただけるよう努力します。
3. 医療の充実・発展のために日々研鑽し、将来の医療を担う薬剤師を育成します。
4. 適正な医薬品管理を行うことで、健全な病院経営に貢献します。

## 2. 活動報告

#### 【処方箋枚数】

一般処方箋枚数	外来	7,409	院外処方箋枚数	74,473
	入院	157,889	(発行率) %	91
	合計	165,298	薬剤情報提供料	
注射処方箋枚数	外来	40,711		
	入院	297,960		
	合計	338,671		
疑義照会后処方 変更件数	院外処方	3,373		
	入院処方	1,806		
	注射処方	1,381		
	合計	6,560		
	(変更率) %	0.57		

\*変更率：(疑義照会による処方変更枚数÷総処方せん枚数)×100

#### 【病棟薬剤業務】

薬剤管理指導	指導患者数	14,876	麻薬管理指導加算	168
	総指導回数	22,436	退院時指導加算	2,741
	算定件数	18,732		
病棟薬剤業務実施加算算定件数		27,659		
入院患者持参薬鑑別件数		9,820		
ブリアボイド件数		443		

**診療協力部門の概況****【注射薬混合業務】**

無菌製剤処理料 (中心静脈)	混合件数	3,283
	算定件数	2,007
無菌製剤処理料 (抗癌剤)	混合件数	16,334
	算定件数	9,407
一般薬の混合、分取件数		16,516

**【製剤業務】**

一般製剤件数	外 来	51
	入 院	388
	合 計	439
無菌製剤件数	外 来	126
	入 院	21
	合 計	147
製剤払出件数	外 来	6,216
	入 院	10,544
	合 計	16,760

**【医薬品情報管理業務】**

外来患者持参薬鑑別件数	995	業務時間(時間)	21.25
その他の問い合わせ件数	1,134		
治験業務(プロトコール)	24		

**【入退院センター業務】**

指 導 患 者 数	2,009
錠 剤 鑑 別 件 数	1,937

**【がん服薬指導】**

がん患者指導管理料3算定件数	487
----------------	-----

**【薬学生実務実習】**

福 岡 大 学	1	第 一 薬 科 大 学	4
崇 城 大 学	1	立 命 館 大 学	1

**3. 業務実績**



## 診療協力部門の概況

## ◆放射線室

## 1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	氏名	認定・専門・資格
技師長	瀧口 雅晴	マンモグラフィ撮影認定技師 X線CT認定技師 Ai認定診療放射線技師 臨床実習指導教員 放射線機器管理士 放射線管理士	副技師長	安川 浩介	放射線治療専門放射線技師 放射線治療品質管理士 放射線機器管理士 放射線管理士
主任技師	白石 政弘	臨床実習指導教員 放射線機器管理士 放射線管理士	主任技師	井上 英一	放射線管理士
主任技師	川崎 直正	X線CT認定技師 肺がんCT検診認定技師 Ai認定診療放射線技師 マンモグラフィ撮影認定技師 胃がん検診専門技師 放射線機器管理士 放射線管理士	主任技師	前原 裕一	第1種放射線取扱主任者 放射線治療専門放射線技師 放射線治療品質管理士 マンモグラフィ撮影認定技師 医用画像情報精度管理士 放射線機器管理士 放射線管理士
主任技師	石田 真由美	第1種放射線取扱主任者 放射線治療専門放射線技師 マンモグラフィ撮影認定技師 臨床実習指導教員 放射線機器管理士 放射線管理士	主任技師	甲斐 瑞之	医療情報技師 マンモグラフィ撮影認定技師 第1種放射線取扱主任者試験合格 医用画像情報精度管理士 放射線機器管理士 放射線管理士
主任技師	日野 祥悟	胃がん検診専門技師 医療画像情報精度管理士 放射線機器管理士 放射線管理士 磁気共鳴 (MR) 専門技術者	技師	井上 友紀	胃がん検診専門技師 マンモグラフィ撮影認定技師
技師	荒木 裕	放射線機器管理士 医用画像情報精度管理士	技師	武原 エミ	マンモグラフィ撮影認定技師 Ai認定診療放射線技師
技師	石原 太基	肺がんCT検診認定技師 放射線管理士 放射線機器管理士	技師	元岡 秀昭	マンモグラフィ撮影認定技師 第1種放射線取扱主任者試験合格 X線CT認定技師
技師	中田 勇気	放射線管理士 放射線機器管理士 マンモグラフィ撮影認定技師	技師	伊藤 洋平	
技師	本村 賢大朗	第1種放射線取扱主任者試験合格 医学物理士	技師	横田 陵	X線CT認定技師
技師	鈴木 洋平	胃がん検診専門技師 X線CT専門技師	技師	岡本 典彦	X線CT専門技師
技師	有吉 真弓	マンモグラフィ撮影認定技師	技師	大西 到	
技師	山内 大雅	第1種放射線取扱主任者試験合格	技師	高島 祥史	第1種放射線取扱主任者試験合格
技師	福田 洋介	放射線管理士 放射線機器管理士	技師	前之園 康太	胃がん検診専門技師
技師	太田 康平	放射線機器管理士 放射線管理士	技師	江口 慎一郎	
技師	坂本 真理	マンモグラフィ撮影認定技師 第1種放射線取扱主任者試験合格	技師	境 杏美	マンモグラフィ撮影認定技師
技師	野田 大貴	第1種放射線取扱主任者試験合格 放射線機器管理士 放射線管理士	技師	小屋松 育子	第1種放射線取扱主任者試験合格 マンモグラフィ撮影認定技師
技師	秀島 菜月	第1種放射線取扱主任者試験合格	技師	三谷 篤志	第1種放射線取扱主任者試験合格
技師	中村 豊				

注) 技師長：診療放射線技師長 副技師長：副診療放射線技師長 主任技師：主任診療放射線技師 技師：診療放射線技師

## 診療協力部門の概況

現在のスタッフ数は診療放射線技師 35 名（別表）、療養介助員 1.8 名の 36.8 名である。3 月 31 日で末弘技師長が定年退職となり、4 月 1 日付で福岡ゆたか中央病院から瀧口技師長が着任した。

組織体制は、診療放射線技師長 1 名、副診療放射線技師長 1 名、主任診療放射線技師 7 名を配置し、診療業務における安全管理、機器管理の責任を担った。全ての診療業務を安全かつスムーズに行えるように診療放射線技師を適正に配置した。また各部署における教育や技術取得のため定期的にローテーションを実施し、検査技術の向上、安全性確保等々の放射線室全体としてのスキルアップを図るべく、診療放射線技師 31 名が総数 84 の国家資格や各学会認定資格を取得している。

## 2. 活動報告

### ●平成 28 年度機器整備関連

今年度、新規及び更新した大型医療器はないが、昨年度導入したバリアン社製リニアック装置（True Beam STx）の特徴「① 4、6、8、10MV の 4 エネルギー ②腫瘍部分だけを照射し、近接する危険臓器の照射をできる限り減らすことが可能な 2.5mmMLC（マルチリーフコリメータ）③患者負担軽減、呼吸性移動体策に有用な短時間での照射が行える FFF（フラットニング・フィルター・フリー）の高線量率モード ④ 6 軸方向からの位置補正が可能な寝台 ⑤腫瘍位置や体位を確認できる画像誘導放射線治療（IGRT）」を生かし臨床で使用し、特に頭部、胸部の定位放射線治療に威力を発揮している。

また来年度の機器更新に向け、2004 年 5 月の病院移転時に導入した、フィリップス社製：一般撮影装置、ダイヤモンド社製：マンモグラフィ装置、ニュークレトロ社製：密封小線源治療装置、東芝社製：X 線透視装置の更新準備を行った。

### ●学会・研修会発表など

日本放射線技師学会、日本放射線技術学会、JCHO 地域医療総合医学会、研修会、セミナー等において発表、講演を行った。（詳細は目録へ記載）

### ●放射線室勉強会・研修会の実施

当院の放射線技師を講師とする勉強会を 17 回、外部講師による研修会を 3 回の計 20 回行った。

### ●臨床実習生・見学の受入

純真学園大学 放射線技術科学科学生実習 2 名

国立病院機構 小倉医療センター 診療放射線技師 1 名 見学

大阪大学 学生見学 1 名、徳島大学 学生見学 1 名、広島国際大学 学生見学 1 名

### ●院内活動

\* 5S 放射線室スローガン：『画像診断センター with S (safety)』

活動評価として院内表彰（優秀賞）を受ける。

\* TQM 放射線室スローガン：『瀧口 99%』


**診療協力部門の概況**
**3. 業務実績**

	撮影	病棟 術中	透視	CT	MR	血管系	RI	治療	骨密度
H29/04	5,275	1,702	213	2,088	508	173	115	886	38
H29/05	5,669	1,709	354	2,362	584	145	109	785	31
H29/06	5,996	1,709	461	2,268	601	155	130	1,005	30
H29/07	5,921	1,521	435	2,282	595	143	114	885	36
H29/08	6,161	1,781	459	2,295	603	198	144	976	43
H29/09	5,791	1,571	439	2,236	592	136	125	884	38
H29/10	5,848	1,626	514	2,409	591	162	148	847	32
H29/11	5,942	1,652	440	2,196	581	174	125	917	35
H29/12	5,670	1,718	368	2,277	557	187	117	732	37
H30/01	5,596	1,733	286	2,254	498	108	106	616	30
H30/02	5,257	1,602	280	2,234	534	194	129	706	39
H30/03	5,865	1,692	282	2,360	585	159	143	689	35

**診療協力部門の概況**
**◆中央検査室**
**1. スタッフ**

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	氏名	認定・専門・資格
臨床検査技師長	奥 蘭 学	臨床検査技師	臨床検査技師	大塚 明子	臨床検査技師
主任臨床検査技師	松田 裕代	臨床検査技師	臨床検査技師	玉城 真太	臨床検査技師
主任臨床検査技師	嶋田 薫	臨床検査技師	臨床検査技師	福光 梓	臨床検査技師
主任臨床検査技師	芳賀 由美	臨床検査技師	臨床検査技師	西村 沙織	臨床検査技師
主任臨床検査技師	新宅 博美	臨床検査技師	臨床検査技師	草野 一樹	衛生検査技師
主任臨床検査技師	坂本 悦子	臨床検査技師	臨床検査技師	安部 拓也	臨床検査技師
主任臨床検査技師	秋光 起久子	臨床検査技師	臨床検査技師	梶原 博司	臨床検査技師
主任臨床検査技師	豊嶋 憲子	臨床検査技師	臨床検査技師	平山 絵梨佳	臨床検査技師
臨床検査技師	村田 真知子	臨床検査技師	臨床検査技師	谷口 知治	臨床検査技師
臨床検査技師	吉岩 千里	臨床検査技師	臨床検査技師	西田 駿佑	臨床検査技師
臨床検査技師	荒井 俊一	臨床検査技師	臨床検査技師	小島 智聡	臨床検査技師
臨床検査技師	古野 和美	臨床検査技師	臨床検査技師	宇佐美 有紗	臨床検査技師
臨床検査技師	奥田 知世	臨床検査技師	臨床検査技師	谷口 絵里香	臨床検査技師
臨床検査技師	中村 英樹	臨床検査技師	臨床検査技師	宗 麻衣	臨床検査技師
臨床検査技師	稲葉 美紀	臨床検査技師	臨床検査技師	廣永 道隆	臨床検査技師
臨床検査技師	中村 由希子	臨床検査技師	臨床検査技師	石田 優衣	臨床検査技師
臨床検査技師	立岩 友美	臨床検査技師	臨床検査技師	長房 蓮	臨床検査技師
臨床検査技師	小川 明希	臨床検査技師	臨床検査技師	坂本 真弓	衛生検査技師
臨床検査技師	畚野 陽子	臨床検査技師	衛生検査技師	作間 賢治	臨床検査技師
臨床検査技師	西山 純司	臨床検査技師	非常勤臨床検査技師	吉水 昌恵	看護師
臨床検査技師	黒川 佳代	臨床検査技師	非常勤看護師	甲斐 和代	看護師
臨床検査技師	田中 えり	臨床検査技師	非常勤看護師	酒谷 幸雄	写真技師
臨床検査技師	坂本 彩	臨床検査技師	特定非常勤	近藤 小雪	
臨床検査技師	飯塚 伸一郎	臨床検査技師	任期付事務員		
臨床検査技師	安高 亮	臨床検査技師			



## 2. 活動報告

### 検査の迅速性向上

外来検査で臨床的に大きな問題となる事例はなかった。

検体TAT調査継続（遅くなった検体の原因分析）

検体検査システムにTAT監視モニター導入

646件調査 約52分（採血から報告まで） 約42分（到着確認から報告まで）

外来・病棟化学療法患者の迅速対応

### 人材育成、院外活動

学会発表 4題発表

### 精度管理の充実

内部、外部精度管理、機器管理、定期点検

外部精度管理 日本医師会96.6点、九州福岡県98.9点、日臨技98.7点

生化学検査；	1,628,602 項目	前年度比（105.9%）
免疫検査；	249,098 項目	前年度比（100.6%）
血液検査；	349,640 項目	前年度比（102.7%）
一般検査；	64,871 項目	前年度比（104.6%）
採 血；	56,117 件	前年度比（102.7%）
細菌検査；	56,999 項目	前年度比（107.1%）
病理検査；	23,102 項目	前年度比（101.6%）
生理検査；	62,177 項目	前年度比（93.4%）

**診療協力部門の概況**
**◆臨床工学室**
**1. スタッフ**

	職名	氏名	認定・資格
1	臨床工学技士長	濱本 英治	臨床検査技師、体外循環技術認定士
2	臨床工学主任技士	谷 政範	透析技術認定士
3	臨床工学主任技士	松本 一志	体外循環技術認定士
4	臨床工学技士	松村 考志	呼吸療法認定士、第2種ME技術者
5	臨床工学技士	村田 龍平	体外循環技術認定士
6	臨床工学技士	長富 有樹	第1種ME技術者、消化器内視鏡技士
7	臨床工学技士	原 拓渡	呼吸療法認定士、第2種ME技術者
8	臨床工学技士	川原 未伎	第2種ME技術者
9	臨床工学技士	新北 知世	第2種ME技術者
10	臨床工学技士	森澤 尚平	第2種ME技術者
11	臨床工学技士	入江 潤	第2種ME技術者
12	臨床工学技士	宮崎 秀明	第2種ME技術者
13	臨床工学技士	安部 茂樹	透析技術認定士、第2種ME技術者
14	臨床工学技士	加来 佳訓	透析技術認定士、第2種ME技術者
15	臨床工学技士	堤 千尋	第2種ME技術者
16	助手	末松 千恵	
17	助手	黒木 千賀子	

**基本方針**

・安全、安心な医療機器を提供し「愛と信頼そして納得」の医療に貢献する

**業務実績**
**1 臨床支援業務**

(1) 手術室業務 (2) 透析室業務 (3) 集中治療室 (4) 心臓カテーテル室業務 (5) ペースメーカー業務  
(6) 内視鏡業務 (7) 病棟使用機器の管理 (6) 土曜休祝日の心臓手術宅直制 (7) 当直制

**2 医療機器管理業務**

(1) 中央化医療機材、ドクターカー搭載機器の保守管理 (2) 医療機材の保守管理に対する指導・教育 (3) 安全管理：院内へ持ち込む全医療機器の安全性の確認（持ち込み機器登録制） (4) 医療機材に関し、計画的・統一的整備の立案、専門知識を生かした購入・選定への提言。 (5) 医療機材の搬送及び回収 (6) 医療機材の消毒、洗浄、清掃



### 診療協力部門の概況

チーム医療：RST、ICT、

院内活動：5S 活動 「初心に帰り再チャレンジ 更なる一歩」

#### ■実習生受け入れ数

学校名	広島国際大学	純真学園大学	博多メディカル専門学校
2017 年度	3	5	2

#### ■臨床工学室件数 年報

【心臓血管外科】		【眼 科】	
冠動脈手術 (On pu mp)	5	立会い件数手術室	1027
冠動脈手術 (Off pu mp)	17	立会い件数外来	77
後天性 On pump	48	【整形外科】	
胸部大動脈手術	15	自己血回収装置	9
腹部大動脈 (Off pu mp)	3	SEP	0
先天性 (Off pu mp)	24	<input type="checkbox"/> MEP	38
先天性 (On pu mp)	82	【泌尿器科】	
ステントグラフト (EVER)	23	<input type="checkbox"/> ロボット手術	155
ステントグラフト (TEVER)	5	【脳神経外科】	
心筋保護液供給装置	138	SEP	4
自己血回収装置	143	MEP	8
MEP	6	<input type="checkbox"/> ABR	1
IABP	40	<input type="checkbox"/> EEG	0
PCPS	12	【婦人科】	
時間外呼出件数	4	<input type="checkbox"/> 自己血回収装置	7
休日急患呼出件数	8	【PM】	
【血液浄化】		デバイスチェック	1460
透析人数 (AM)	3544	新規植え込み手術	96
		<input type="checkbox"/> 交換手術	47
ICU 透析件数	94	<input type="checkbox"/> MRI 立ち合い	18
<input type="checkbox"/> CHDF	498	<input type="checkbox"/> 電気メス立ち合い	53
		<input type="checkbox"/> 遠隔モニターリング	3112
エンドトキシン吸着	3	【内視鏡】	
血漿交換	19	<input type="checkbox"/> 絶縁チェック数	7359
白血球除去療法	15	<input type="checkbox"/> 絶縁チェック不良数	15
腹水濾過濃縮再静注	53	<input type="checkbox"/> レンズチェック数	1741
末梢血幹細胞採取	20	<input type="checkbox"/> レンズチェック不良数	3

#### 今後の展望・課題

臨床工学技士が、ペースメーカー埋め込み・交換手術時の機械出し業務への参入ができました。これからも医師と共に安心安全な医療に取り組みます。

**診療協力部門の概況**
**◆栄養管理室**
**1. スタッフ**

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	氏名	認定・専門・資格
副栄養管理室長	三輪 真紀子	日本糖尿病療養指導士 北九州糖尿病療養指導士	調理師(任期付き)	椎木 一成	
主任栄養士	原 裕子	栄養サポートチーム専門療法士 北九州糖尿病療養指導士	調理師(派遣)	住本 修一	
管理栄養士	大庭 久美		調理師(派遣)	白倉 広	
〃	村田 亜弥		調理師(派遣)	岩谷 清治	
〃	矢野 沙和	栄養サポートチーム専門療法士 北九州糖尿病療養指導士	調理師(派遣)	西村 祐次郎	
〃	中崎 彩香	北九州糖尿病療養指導士	調理師(派遣)	廣澤 学	
〃	伊藤 麻美	北九州糖尿病療養指導士	調理師(派遣)	坂元 千貞子	
〃	川地 尚子		調理師(派遣)	森部 光広	
〃	福山 千穂		調理師(派遣)	丸本 強人	
調理主任	中島 浩		調理師(派遣)	近藤 美紀	
調理師	三樹 敬二		調理員(任期付き)	本田 好重	
〃	園田 一雄		調理員(任期付き)	諫元 ゆかり	
〃	瀬戸 弘市		調理員	小山 恵美	
〃	岡 誠一				
〃	横溝 真太郎				
〃	最所 俊啓				

**2. 業務実績**

- (1) 一般食・特別治療食合わせて 160 種類の食事を準備。  
行事食、月 2 回担当調理師が献立作成から携わる箱膳の提供
- (2) 栄養管理の実施  
栄養管理計画書の作成・実施  
病棟栄養カンファレンス



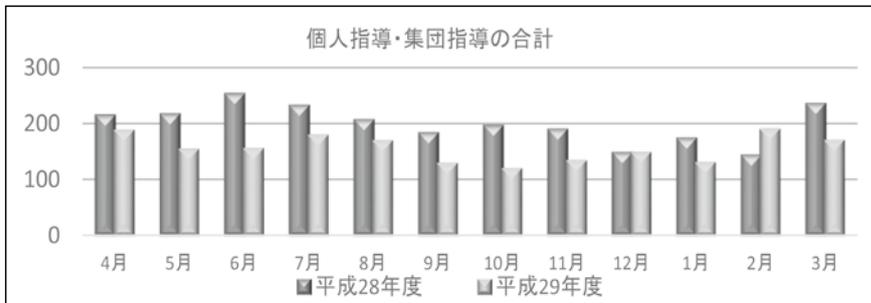
### 診療協力部門の概況

#### (3) 栄養指導の指導の実施

個人指導：糖尿病・心疾患・腎疾患などあらゆる疾患に対応

集団指導：糖尿病基礎講座・心臓リハビリテーション・マザークラス

調理教室：糖尿病、腎臓・腎症、減塩



合計件数

平成 28 年度 2376 件

平成 29 年度 1841 件

#### (4) チーム医療

NST・心臓リハビリ・糖尿病教育入院・RST 回診・緩和ケア回診・誤嚥対策部会・褥瘡対策部会

#### (5) 実習生・研修生受け入れ

学生実習：大学 6 名、短期大学 1 名、専門学校 1 名

NST 研修生 (実地修練のための研修)：他院より 10 名 (管理栄養士 1 名、看護師 5 名、薬剤師 4 名)

当院より 1 名 (管理栄養士 1 名)

**診療協力部門の概況**

**◆リハビリテーション室**

**1. スタッフ**

PT (理学療法士) : 22名 OT (作業療法士) : 5名 ST (言語聴覚士) : 3名

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	氏名	認定・専門・資格
リハ士長	林 秀俊		PT	津崎 裕司	
副PT士長	高永 康弘		PT	小笠原 聡美	
主任PT	中野 政弘		PT	和田 あゆみ	
主任PT	佐藤 憲明	内部障害専門理学療法士	PT	溝上 拓也	
PT	木村 悠人		PT	坂本 明穂	
PT	十時 浩二	代謝認定理学療法士	PT	中嶋 和美	
PT	豊田 笑子		PT	吉村 友里恵	
PT	桃島 寛子		OT	吉村 友理恵	
PT	古門 功大		OT	岐部 千佳子	
PT	星木 宏之	循環認定理学療法士	OT	渡邊 勇樹	
PT	井上 智之	運動器認定理学療法士	OT	帯田 有希菜	
PT	有吉 雄司		OT	廣田 早織	
PT	小若女 純		主任ST	杉本 光徳	
PT	熊谷 季美絵		ST	吉岡 幹人	
PT	山下 末穂		ST	山田 美里	

その他の資格取得者数

※心臓リハビリテーション指導士: 8名 呼吸療法認定士: 6名 糖尿病療養指導士: 3名

栄養サポートチーム専門療法士: 2名 がんのリハビリテーション研修者: 16名 介護支援専門員: 3名

**2. 活動報告**

(1) 臨床

- ①各病棟で行うリハビリカンファレンスや各診療科回診を活用し、入院患者におけるリハビリ実施率の向上と在院日数短縮に取り組んだ。
- ②TQM 活動ではコピー用紙の使用量を減らすことに取り組んだ。
- ③院内デイケアへの参画、協力体制を整え実施、継続中。

(2) 教育・研修

- ①入職後3年以内のスタッフに対し、新人教育プログラムを継続して実施した。
- ②今年度も整形外科ネットワークや地域心臓リハビリテーションカンファレンス、連携病院との合同症例検討会を定期開催し、地域連携の促進をはかった。
- ③多数の病院や教育機関から研修生や実習生を受け入れ、リハビリテーションに関する知識・技術の伝達を行った。

(3) 研究

- ①日本理学療法士学会や日本心臓リハビリテーション学会に演題登録発表を行うなど学術活動にも力を入れた。



### 3. 業務実績

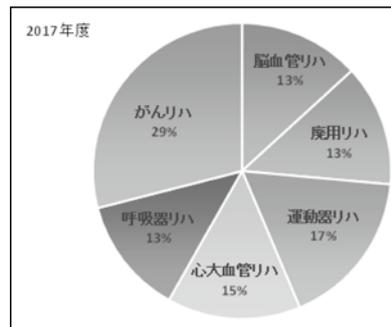
#### (1) 診療業務

- ①脳血管疾患等リハビリテーション (I) ②運動器リハビリテーション (I)  
 ③心大血管疾患リハビリテーション (I) ④呼吸器リハビリテーション (I)  
 ⑤がん患者リハビリテーション

#### (2) リハビリテーション室件数

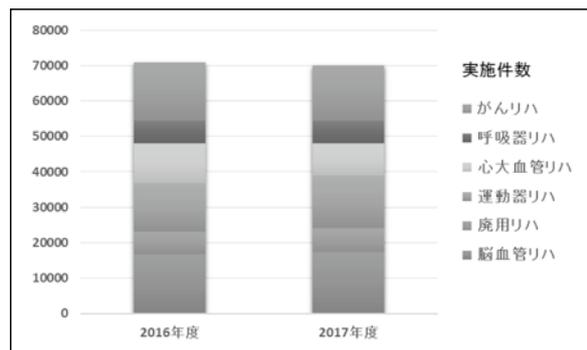
##### ①リハビリ処方数 (疾患内訳)

年度	2016年度	2017年度
脳血管リハ	583	604
廃用リハ	490	609
運動器リハ	750	790
心大血管リハ	750	664
呼吸器リハ	579	588
がんリハ	1379	1332
合計	4531	4588



##### ②延べリハビリ実施件数 (単位数)

年度	2016年度	2017年度
脳血管リハ	16668 (23235)	17369 (24926)
廃用リハ	6304 (7879)	6745 (8519)
運動器リハ	13779 (22683)	14786 (24871)
心大血管リハ	11331 (20572)	9172 (16184)
呼吸器リハ	6350 (7835)	6277 (7457)
がんリハ	16430 (20464)	15679 (20673)
合計	70862 (102668)	70028 (102630)



##### ③リハビリ実施率とリハビリ患者平均入院日数

年度	2016年度	2017年度
リハビリ実施率 (%)	37.5	37.3
平均在院日数	21.4	22.2

#### (3) 実習生・研修生受け入れ件数

年度	2016年度	2017年度
実習生 (長期実習)	8名 (6)	12名 (6)
心臓リハビリ研修生	10名	5名

#### (4) 研修会開催回数

- ・整形外科ネットワーク研修会：3回
- ・地域心臓リハビリテーションカンファレンス：4回
- ・合同症例検討会 (浅木病院・正和なみき病院、等)：1回

**診療協力部門の概況**
**◆医療情報部**
**1. スタッフ**

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	氏名	認定・専門・資格
部長	伊藤 浩司	基本情報技術者 ITパスポート 統計士 総合内科専門医 内科認定医 内科指導医 循環器専門医 超音波専門医 超音波指導医 高血圧専門医 高血圧指導医			
一般職員	村井 真臣	情報システム	一般職員	石下 洸	情報システム
一般職員	山脇 敏恵	診療情報管理士 医療情報技師 院内がん登録実務中級者 ITパスポート 医療情報基礎知識検定 診療情報管理士通信教育DPCコース修了 診療情報管理士通信教育腫瘍学分類コース終了	一般職員	奥野 愛子	診療情報管理士 がん登録実務初級者 メディカルクラーク
一般職員	尾茂田 幸子	診療情報管理士 院内がん登録実務者初級課程修了			

**2. 活動報告**

医療情報部の主な業務活動内容は、

- ①医療情報システム関連業務（システムの維持管理業務・システム更新作業）
- ②診療録管理業務
- ③がん登録業務
- ④図書管理業務

である。

**①医療情報システム関連業務（村井、石下）**

- ・情報システム安定稼働のためのサーバー監視等による早期異常発見と障害発生対応業務。  
システムベンダー、各部門との打ち合わせを踏まえた仕様書作成作業等。  
医療情報システム導入・更新。
- ・各部署における機器端末の保守・整備作業。
- ・新入職員への電子カルテ操作研修業務。

**②診療録管理業務（尾茂田、奥野、山脇）**

- ・退院サマリ確認作業（病名コードと DPC 対応、転帰、主治医登録等の記載内容の確認）
- ・退院サマリ作成率向上のためのサマリ作成督促、各診療科サマリ作成率資料作成
- ・カルテ監査（診療会議等にて、監査結果をフィードバック）
- ・統計データ提出
- ・文書の電子化促進



### ③がん登録関連業務（山脇・奥野）

- ・院内がん登録  
ケースファインディングからデータ登録、予後調査、提出、協力
- ・全国がん登録への提出 / 協力
- ・統計等
- ・地域がん診療連携拠点病院としての活動

### ④図書管理業務（尾茂田、山脇）

- ・雑誌 / 書籍の発注 / 登録 / 貸出 / 返却 / 督促
- ・室外保管書籍管理
- ・文献相互貸借（複写申込 / 受付）
- ・Uptodate、メディカルオンライン、今日の診療、電子ジャーナル管理
- ・中国四国九州医学図書室ネットワークへの参加

## 3. 業務実績

### ①医療情報システム関連

上記活動内容について、病院医療情報システムの安定稼働に努めた。

医療情報システム委員会事務局として円滑な委員会運営に貢献した。

合わせて、2017年6月に脳波ファイリングシステム導入支援、2018年2月地域連携 ID-Link ハード更新を行った。

### ②診療録管理業務

上記活動内容について、適切に業務を遂行した。

診療録管理業務により、サマリ作成率・質の向上に寄与した。

2017年度退院2週間以内サマリ作成率 97.0%

診療録管理委員会事務局として委員会の円滑な運営に貢献した。

電子カルテシステム更新に伴い、文書の電子化促進を行った。

### ③がん登録業務

上記活動内容について、適切に業務を遂行した。

地域がん診療連携拠点病院としてがん登録集計を行い、各種統計・予後調査を行った。

2016年 院内がん登録症例 2,035件

### ④図書管理業務

上記活動内容について、適切に業務を遂行した。

医療スタッフの学習環境整備に貢献した。

2017年購読 和雑誌 57誌 洋雑誌 68誌 + サイエンスダイレクト (700誌以上)

2017年度購入書籍等 149冊 業務用他約 65冊

2017年 文献複写 申込 543件 受付 109件

図書部会事務局として部会の円滑な運営に貢献した。

## 診療協力部門の概況

## ◆医療支援部 (地域連携室、福祉相談室)

## 1. スタッフ

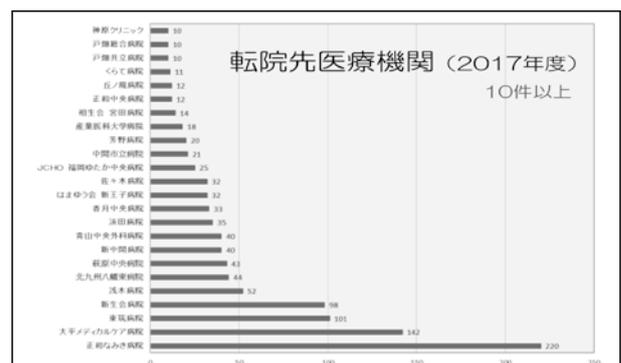
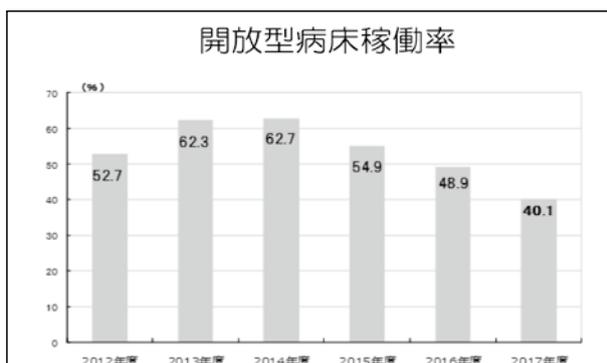
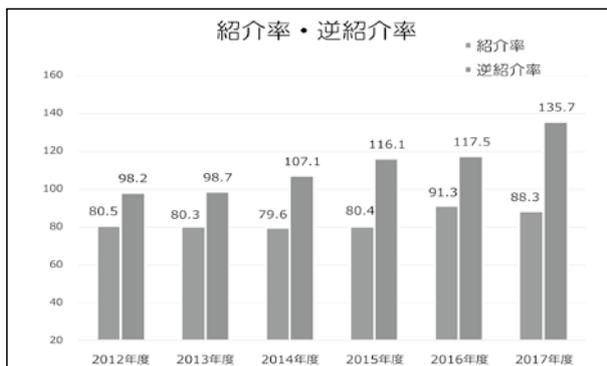
職名	氏名・人数	認定・専門・資格	職名	氏名・人数	認定・専門・資格
部長 (副院長兼任)	水島 明		MSW	峯 修平	社会福祉士 精神福祉士
看護師長・室長	宮原 寛子		MSW	吉松 朋代	社会福祉士 精神福祉士
副看護師長	谷口 由美子	医療メディエーター	MSW	木村 円	社会福祉士 認定がん専門相談員
看護師	三好 典子	緩和ケア認定看護師 認定がん専門相談員	MSW	園田 早苗	社会福祉士
看護師	安河内 純子	がん相談専門員	MSW	岡松 由梨	社会福祉士
看護師	守田 純子	社会福祉士	事務員	曾我 美穂子	
看護師	高橋 亜希子		派遣事務員	8名	

## 2. 活動報告

医療支援部には、患者さんが病気療養上抱える様々な問題に対して相談に応じる福祉相談室と、地域の医療機関、診療所の先生方との診療連携の推進を図るための各種業務を行う地域連携室の2つのセクションがある。2017年度、地域包括ケアの推進を目指し在宅医療、介護、福祉関連の方々との連携を深め、顔の見える関係作りを積極的に行った。また院内では早期からの退院支援を目指し、患者目標のズレに着目した多職種カンファレンスに取組み、目標を共有し支援した。退院調整において、医療的ケア家族サポート体制、経済的背景など調整困難な事例は、支援部内でのミーティングを利用し、倫理的観点等広い視点でMSW、退院調整看護師で検討し対応した。

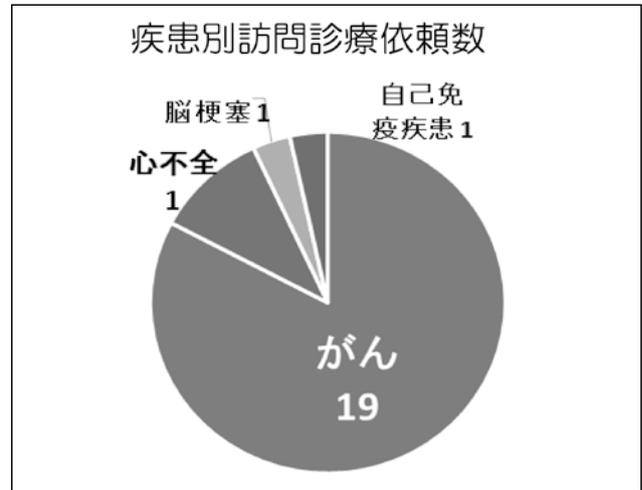
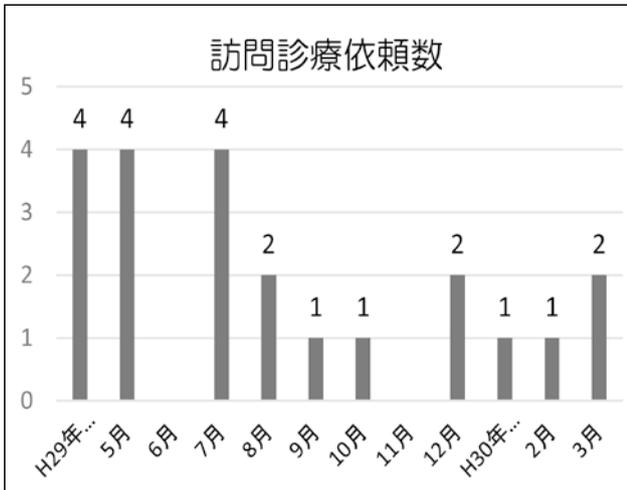
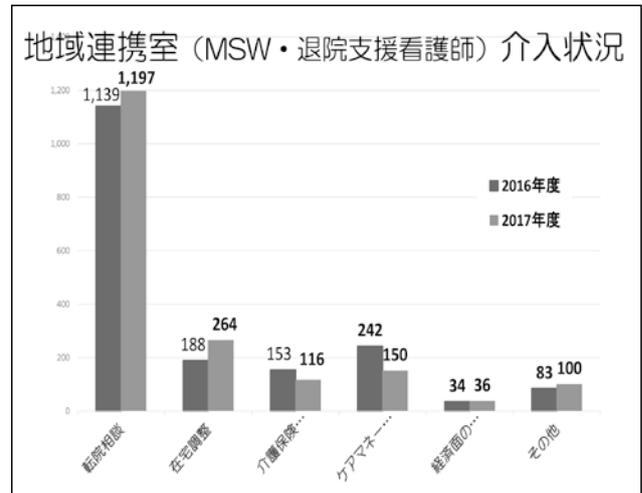
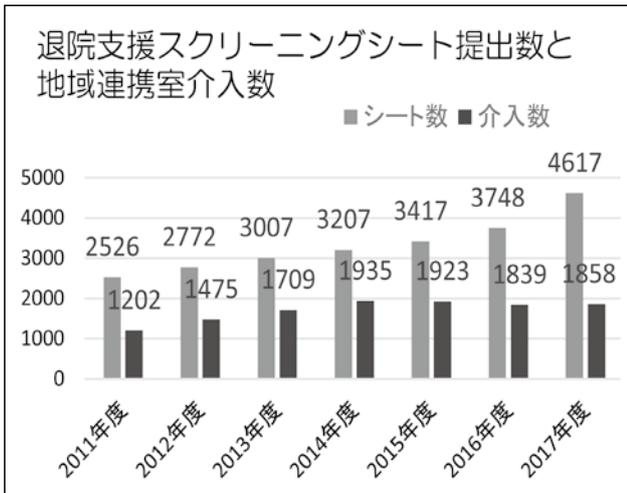
当院救急外来からの転院相談にも即対応できるよう体制を整えた。

## 3. 業務実績





診療協力部門の概況



地域連携パス (新規開始数)

種類	2016年度	2017年度
大腿骨近位骨折	95	110
脳卒中	111	124
急性心筋梗塞	85	78
胃がん	0	2
大腸がん	4	3
肺がん	22	20
乳がん	5	1
前立腺がん	50	61

医科歯科連携

医科歯科連携 (入院患者 八幡歯科医師会)			
2016年度		新規18件、総往診70回	
2017年度		新規16件、総往診45回	
義歯調整 6	歯痛 2	歯のぐらつき 2	歯周炎 1
舌症状 1	齲蝕 2	抜糸依頼 1	歯根の残存 1
医科歯科連携 (周術期情報提供による患者紹)			
対象: 平成28年4月~ 肺がん・食道がんの手術患者			
平成29年7月~ 肝がん・胆管がん・膵がん・胃がん 大腸がん・乳がんの手術患者			
歯科受診率	平成27年度 29%	平成28年度 89%	平成29年度 97%



## 診療協力部門の概況

## ◆臨床心理室

## 1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	氏名	認定・専門・資格
室長	高橋 保彦		心理療法士	瀬川 明美	
心理療法士	國廣 尚子		〃	轟木 彩	

## 2. 活動報告

- 心理療法 : カウンセリング、遊戯療法など
- 心理検査 : 発達検査（知能検査など）、性格検査、認知機能検査（MMSEなど）
- リエゾン : 他職種スタッフと連携しての間接的サポート（カンファレンス参加など）
- 地域連携 : 関係機関との情報共有および環境調整
- 職員メンタルヘルス : メンタルヘルスケア相談室の業務（相談、スクリーニング、研修）

## 3. 業務実績

外来	818
入院	384

新患	177
再来	1025

心理面接	
本人のみ	435
家族同席	522
家族のみ	136
関係者	11
心理検査	117

## 職員メンタルヘルス面接

新規	67 (うち年間定例※ 49)
継続	140

※年間定例：スクリーニングのため看護師1年目に全員面接

小児科 (NICU 含む)	731
内科	
循環器	66
血液・腫瘍	179
呼吸器	18
内分泌代謝	21
産婦人科	
産科	11
婦人科	31
心臓外科	5
外科	29
整形外科	9
神経内科	16
泌尿器科	5
耳鼻科	25
精神科	43
緩和ケア科	13



## 診療協力部門の概況

### ◆透析室

#### 1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
副看護師長	日高 ひとみ		看護師	4名	
			委託看護補助者	1名	

看護師人数：副看護師長を除く

#### 2. 活動報告

- 1) 入院透析患者の情報共有方法を構築し病棟との連携を深めて、安全な透析治療が行える。  
病棟との連携目的に引継ぎ用紙を作成し使用して、患者の情報共有が行えている。
- 2) 自己血採血の新システムを構築し、外来職員の協力を得て安全に実施できる。  
マニュアル・経過記録用紙・患者説明用紙の見直しを行い、関係外来と運用できている。
- 3) CAPD外来の新システムを構築し、内科外来での診療から透析室での診療へとスムーズに移行できる。  
動線変更に伴う混乱はなく、透析室での診療が行えている。

#### 月別透析件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
平成29年度														
入院(急患透析)	125(4)	204(5)	177(5)	126(7)	150(0)	155(8)	121(2)	103(6)	88(6)	149(11)	98(5)	174(5)	1670	139.2(5.3)
外来	188	173	159	164	172	163	156	150	149	154	147	161	1936	161.3
合計	313	377	336	290	322	318	277	253	237	303	245	335	3606	300.5
平成28年度														
入院(急患透析)	203(6)	208(11)	169(6)	190(5)	182(7)	174(9)	163(7)	193(7)	189(4)	178(6)	146(4)	199(4)	2147(76)	178.9(6.3)
外来	201	181	200	201	203	197	196	191	180	173	168	183	2274	189.5
合計	404	389	369	391	385	371	359	384	369	351	314	382	4468	372.3

#### 3. 今後の展望・課題

- 1) 腹膜透析患者への指導を充実し、学会発表を行う。
- 2) MEと協同して安全に透析業務を行う。

**診療協力部門の概況**

**◆入退院センター**

**1. スタッフ**

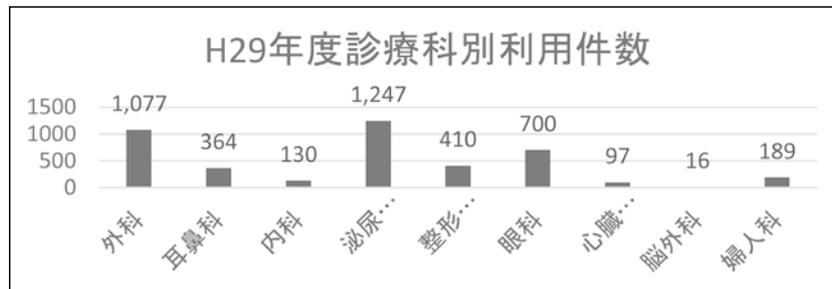
職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
センター長	水島 明		看護師	3名	
副看護師長	坂東 裕子		クラーク	1名	

看護師人数：副看護師長を除く

**2. 活動報告**

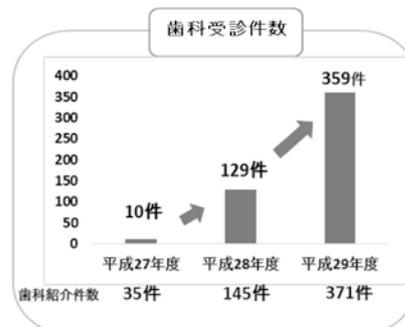
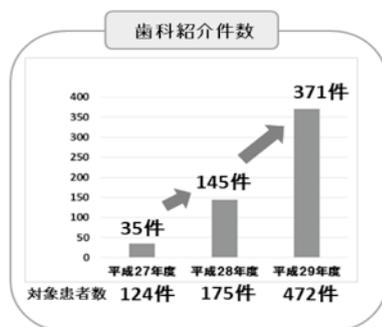
1) 対象診療科の拡大

外科・耳鼻科・泌尿器科・整形外科・肝臓内科（一部）・眼科・心臓血外科に加え、今年度は脳外科・婦人科（一部）が対象診療科となり、予定入院患者の 47.9%の患者に介入した。他部門と協働して業務を行っている。



2) 周術期口腔機能管理の対象診療科の拡大に伴い、介入を充実する

術後合併症予防の術前指導に口腔ケアの指導を行っている。肺がん・食道がん手術患者に加え今年度より肝がん・胆管がん・膵がん・胃がん・大腸がん、乳がんの手術患者に介入している。歯科紹介件数と歯科受診件数共に増加している。



**3. 今後の展望・課題**

- 1) 介入対象診療科の拡大（循環器内科・帝王切開目的の産婦人科）
- 2) 口腔機能管理対象診療疾患の拡大



## ◆医療安全管理部

### 1. スタッフ

職名	氏名	職名	氏名
医療安全管理部長 (副院長)	上村 哲郎	総務企画課長	島田 正行
医療安全管理室長 統括リスクマネジャー	松隈 真紀子	副看護部長	木本 妙子
内科医長	一木 康則	臨床工学技士長	濱本 英治
主任薬剤師	吉国 健司	副看護師長 (患者相談窓口担当)	有村 博江

### 2. 活動報告

#### (1) 平成 29 年度医療安全管理部の重点目標

- ①危険手技の安全な実施
- ②基本的安全対策の確実な実行

#### (2) リスクマネジメント部会活動

定例活動は、多職種が 4 チームに分かれて活動した。チームごとに医療安全対策を検討し周知活動を行った。

- ①患者誤認防止チーム  
ISBAR を活用した患者搬送連絡の推奨
- ②患者基本情報チーム  
アレルギー情報入力権限職種の検討  
アレルギー情報入力方法の周知
- ③誤薬防止・医療機器チーム  
自己管理薬指導手順の見直し  
正しい心電図モニター入退床操作の周知
- ④転倒転落防止チーム  
アクシデント事例分析と安全対策の検討

#### (3) 院内共同ラウンド

- ①医薬品安全管理ラウンド (1 回 / 2 ヶ月)
- ②人工呼吸器 (RST) ラウンド (2 回 / 月)

#### (4) 医療安全管理部連絡会議・患者相談窓口カンファレンス

医療安全管理部メンバー (8 名) で 1 回 / 週 火曜日開催

##### 【カンファレンス内容】

- インシデント・アクシデント事例について対策を検討
- リスクマネジメント部会の検討項目を協議
- 院内死亡・死産者の報告
- 研修会の内容検討 など

**診療協力部門の概況**

**【患者相談窓口カンファレンス】**

相談内容についての対応を協議

(5) 教育研修会

**【医療安全全体研修会】**

①患者誤認防止対策について

開催日：平成 29 年 9 月 29 日 参加者 1123 名 職員参加率 100%

②医療安全推進大会

開催日：平成 30 年 3 月 15 日 参加者 1081 名 職員参加率 100%

**【医療安全研修会】**

① CVC 研修会

開催日：平成 29 年 7 月 30 日 参加者 23 名

② CVC 研修会

開催日：平成 30 年 2 月 28 日 参加者 17 名

③コンフリクトマネジメント研修会

開催日：平成 29 年 12 月 19 日 参加者 141 名

(6) 「携帯版 安全管理マニュアル」の改訂

平成 30 年 4 月に第 5 版を全職員へ配布するため、見直しを行った。

(7) 死亡・死産者の把握

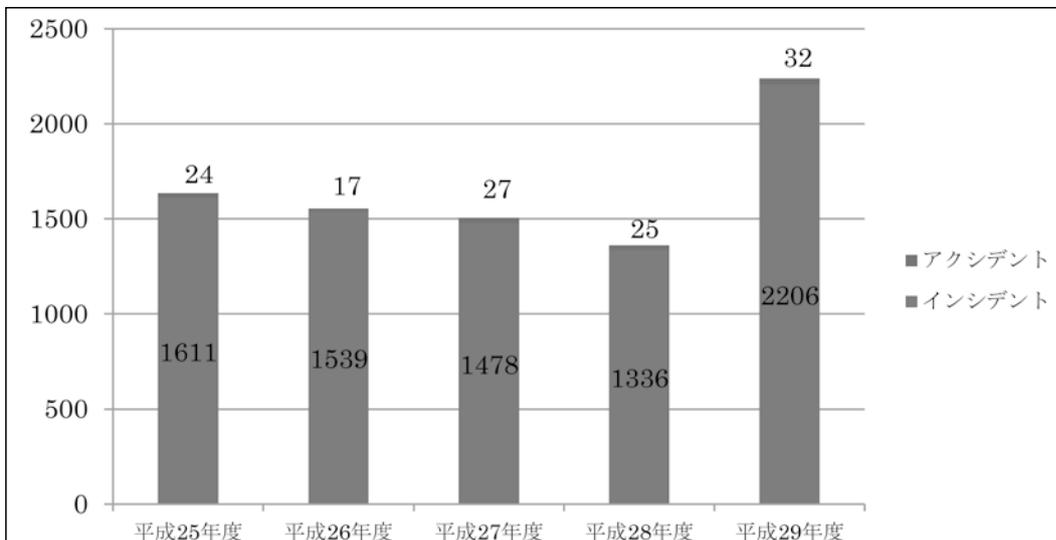
院内すべての死産・死亡事例を、医療安全管理部長・院長へ報告した。

(8) 医療事故調査制度への対応

医療事故調査制度該当事例への対応を行った。

**3. 業務実績**

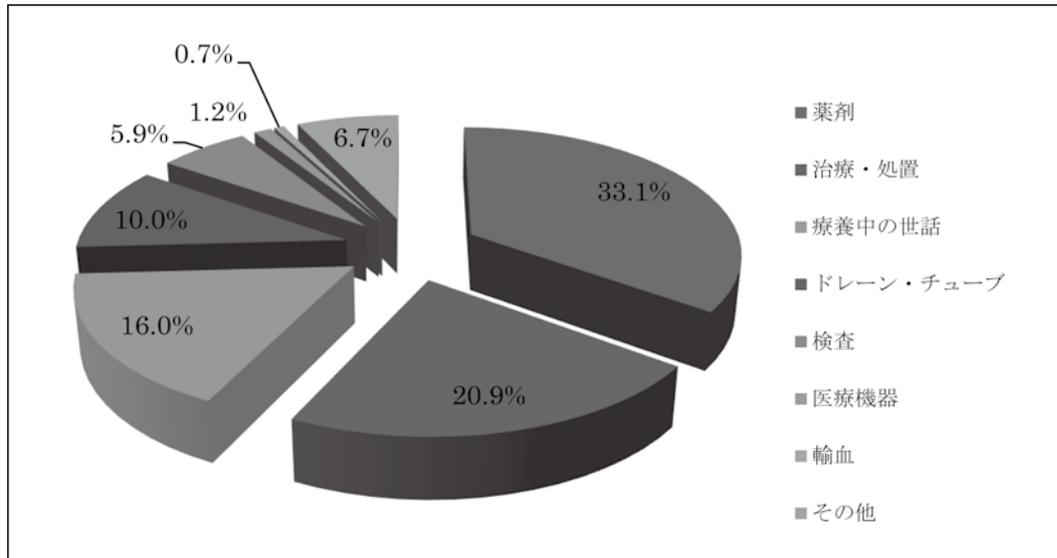
(1) 年度別インシデント・アクシデント報告件数





### 診療協力部門の概況

#### (2) 平成 29 年度 インシデント・アクシデント報告内容別割合



#### (3) 平成 29 年度 患者相談窓口件数

患者相談窓口件数	
来 室	26
電 話	38
合 計	64

#### (4) 平成 29 年度 緊急放送件数

総件数 49 件

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1	8	2	3	6	4	5	5	7	2	3	3	49

#### (5) 平成 29 年度 薬剤アナフィラキシー報告件数

総件数 39 件

	件 数	詳 細
抗がん剤	26	エルプラット(15) ハーセプチン(2) ドセタキセル(2) ベクテイビックス(1) アルケラン(1) イリノテカン(1) ニボルマブ(1) オキサリプラチン(1) シスプラチン(1)
抗生剤・抗菌剤	1	セファゾリン
その他	12	フルオレサイト・ジアグノグリーン(7) フルオレサイトのみ(4) ゴレア(1)

#### (6) 平成 29 年度 PE 報告件数

総件数 4 件

内 科	2
整形外科	1
外 科	1

**診療協力部門の概況**
**◆感染管理室**
**1. スタッフ**

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	氏名	認定・専門・資格
感染管理室長 (内科部長)	小川 亮介	ICD	主任薬剤師	桑村 恒夫	感染制御専門 薬剤師
整形外科部長	土屋 邦喜		臨床検査主任技師	芳賀 由美	
副看護部長	木本 妙子		事務主任	青谷 浩	
看護師	森本 麗華	感染管理認定看護師			

**2. 活動報告**
**【目標】**

- 1) 院内感染発生時、迅速に対応しアウトブレイクを最小限に抑える
- 2) 全体研修会を複数回開催し、職員の参加率 100%を維持する
- 3) ICT による定期的な院内ラウンドにより、感染対策の質改善につなげる

**【活動内容】**

## 1) 耐性菌が検出された患者への対応

## (1) MRSA (部署: NICU)

概要: 2017 年 11 月から 1 月までの間に計 14 名の患者から MRSA が分離され、うち 9 名の患者は薬剤感受性パターンが一致した。保健所による立ち入り調査、北九州市感染制御チーム (以下 KRICT) のラウンドで、感染対策の改善点が提案された。新規 MRSA の検出が 1 ヶ月検出がないことを確認し終息に至った。

## 対策

- ・手指衛生の徹底
- ・ゾーニングによる伝播経路の遮断
- ・環境整備の徹底
- ・共有物品管理の徹底

## (2) CRE (部署: GCU)

概要: 2018 年 1 月 3 名から CRE が検出され、うち 2 名は同一菌であり IMP 型メタロβラクタマーゼ産生菌だった。保健所による立ち入り調査、KRICT のラウンドで、感染対策の改善点が提案された。対策 1 ヶ月後に再度 GCU 入室中の患者 (計 18 名) にスクリーニングを実施、新規検出者がいないことを確認し終息に至った。

## 対策

- ・厳重な接触予防策の実施
- ・ゾーニングによる伝播経路の遮断
- ・環境整備
- ・共有物品管理の徹底

## 2) 感染症への対応

## (1) インフルエンザ (部署: 5 北病棟・5 南病棟)

概要: 2 部署でアウトブレイクが発生した。同一時期に患者・職員間で伝播した可能性があり流行期にも関わらず日頃からの標準予防策の不備があった。次年度は、北九州市の発生状況に準じて、面会制限、マスク着用の対策を強化する。



## 診療協力部門の概況

### 対策

- ・個室隔離、飛沫予防策実施
- ・入院制限、転入・転棟の制限
- ・接触者への予防投与
- ・家族以外の面会制限、リハビリ制限
- ・保健所・JCHO 本部及び地区事務所へ報告

### (2) 結核 (5 北病棟、6 北病棟)

概要：喀痰抗酸菌塗抹または培養陽性例が 9 名発生、そのうち 5 名の発生に対して接触者健診を実施した。また、入職時職員健診のツベルクリン反応を廃止し T-SPOT 検査を導入した。同時に、結核菌曝露時ベースラインのない職員への曝露直後の T-SPOT 検査も併せて導入した。

### 対策

- ・陰圧個室へ隔離、空気予防策実施
- ・感染のリスクを評価した濃厚接触者のリストアップ
- ・接触者健診実施

### 3) 職員研修

職員全員が参加できるように、一つのテーマに対して複数の日、時間帯で研修会のスケジュールを設定した。

- ・耐性菌の対策：参加者 1,146 名 (参加率 100%)
- ・血液体液曝露予防と曝露後対応：参加者 1,137 名 (参加率 100%)
- ・標準予防策：参加者 767 名 (参加率 66.1%)

### 4) ICT ラウンド

週に 1 回、多職種で構成されたチームで、院内ラウンドを行い衛生環境や標準予防策の徹底状況などの確認を行った。指摘された問題点は、現場の職員と協議し改善に繋げた。

- ・ラウンド部署：病棟 月 2 回、その他の部署 月 1 回
- ・ラウンド回数：計 49 回実施 (実施時間 49 時間)

### 5) 地域連携

#### (1) KRICT カンファレンス年 5 回実施・当院連携加算 2:7 施設

(当院職員 延べ参加人数 24 名、実施時間 10 時間)

全員参加型のミニレクチャーや、抗菌薬の使用状況、耐性菌分離状況、手指消毒薬の使用状況などをテーマにディスカッションを行った。

#### (2) 相互ラウンド実施 (連携施設：済生会八幡総合病院 当院参加人数 4 名 実施時間 4 時間)

#### (3) 感染管理情報共有シート

転院先への情報共有シート提出率：83.8%

当院で検出された耐性菌情報を転院先へ確実に情報提供を行うため、感染管理情報共有シートを転院時に記載している。

### 6) 院内感染対策マニュアル改訂

#### (1) 耐性菌

- ・MRSA・ESBL 産生菌検出時の隔離基準
- ・CD 毒素個室隔離フローチャート

**診療協力部門の概況**

(2) 血液体液曝露

- ・針刺し等 HIV 曝露後予防薬変更

(3) 職員の健康管理

- ・インフルエンザ・感染性胃腸炎流行時の対応フロー

**【今後の展望】**

・CRE や VRE などの耐性菌が市中に蔓延していることを鑑み、耐性菌を早期に発見し感染対策に着手すること、また、転院時は転院先へ耐性菌についての情報提供を確実にを行い地域で感染対策に取り組むことが必要である。

**3. 業務実績**

(1) 環境ラウンド実績

- ・実施回数：計 49 回（全部署毎月 1 回ラウンド、病棟計 14 部署毎月 2 回ラウンド）
- ・延べ参加者数：242 名、各回平均参加者数：5 人

環境ラウンドポイント評価

全部署共通

ラウンド項目	前期	後期
1 手指衛生	85.7	85.7
2 包交車の整備	95.1	90.5
3 正しいマスクの着用率	83.9	68.5
4 医療廃棄物の分別	83.8	96.4
5 滅菌物の管理	88.1	84
6 救急カート	84.1	81.8

病棟のみ

ラウンド項目	前期	後期
1 注射作成台・洗浄室	88	86.8
2 汚物室	92.7	95
3 セイフティボックス	90	94
4 SPD 棚の整理	91.7	95.2
5 薬品冷蔵庫	83.3	97.8
6 浴室・SW 室	90	93.4

(2) 血培陽性ミーティング

(延べ 1,017 名の陽性者：計 46 回実施)

延べ参加者数 (人)	1 回あたり参加者数 (人)	新規血培陽性者 (人)	最も多い検出菌種類、数
143	3	473	CNS (135)

(3) 研修会実績

①職員全体研修

	開催日	テーマ	参加者 (参加率)
1	2017 年 6 月～8 月	耐性菌の対策	1,146 名 (100%)
2	2017 年 9 月～11 月	血液体液曝露予防と曝露後対応	1,137 名 (100%)
3	2017 年 6 月～8 月	標準予防策 (手指衛生・防護具着脱)	767 名 (66.1%)

②部門別研修

20 回実施：延べ参加人数 687 名



## (4) サーベイランス

## ①耐性菌 (新規検出数 / 延べ入院患者数 × 1000)

菌の種類	検出率	前年度検出率	菌の種類	検出率	前年度検出率
MRSA	0.70	0.62	ESBL 産生菌	0.28	0.36

## ②手術部位感染 (SSI) (手術部位感染発生率 = 手術部位感染 / 手術件数 × 100)

	SSI 発生率 (%)	JANIS (2016.1-7) (%)
直腸	11.1	13.8
結腸	10.8	11.2
開心術	0	2
血管	0	2.9
CABG (SGV なし)	0	4.6
CABG (SGV あり)	0	4.9
人工膝関節術	4.3	0.7
人工股関節術	1.7	0.7
椎弓切除術	0	1.4
脊椎固定術	0	1.9

## ③中心ライン関連血流感染 (感染率 = 血流感染 / 延べ入院患者数 × 1000)

血流感染件数	感染率	JHAIS (2009-2014)
13	0.82	2.5

## (5) 学会発表

## ・2/24 日本環境感染学会

テーマ：VRE アウトブレイク再発防止に向けた取り組み  
抗菌薬長期投与患者の便培養スクリーニング

## (6) 院外活動

## ①講演

5/30 メディカルスタッフのための感染対策セミナー

7/15 院内感染対策研修会

## ②講義ファシリテーター

6/5 感染症対策指導者養成研修会

8/24 ベストプラクティス

12/8 健康教室

● /23 西部地区医療安全研修会

## ③研修会参加

メディカルスタッフのための感染対策セミナー (年 4 回)

6/9 KRICT 総会・北九州感染制御研究会

11/5 厚労省主催新型インフルエンザの診療と対策に関する研修会

12/15 保健所主催 MERS 対応訓練

## ④臨地実習

1/10 ~ 2/6 国際医療福祉大学・感染管理認定看護師教育課程実習指導

**診療協力部門の概況****◆がん相談支援センター****1. スタッフ**

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	氏名・人数	認定・専門・資格
看護師長	宮原 寛子		看護師長 兼任	高田 由美子	認定がん相談専門員
看護師 専従	三好 典子	認定がん相談専門員 緩和ケア認定看護師	看護師 専任	安河内 純子	がん専門相談員
MSW 専任	木村 円	認定がん専門相談員	MSW 兼任	2名	

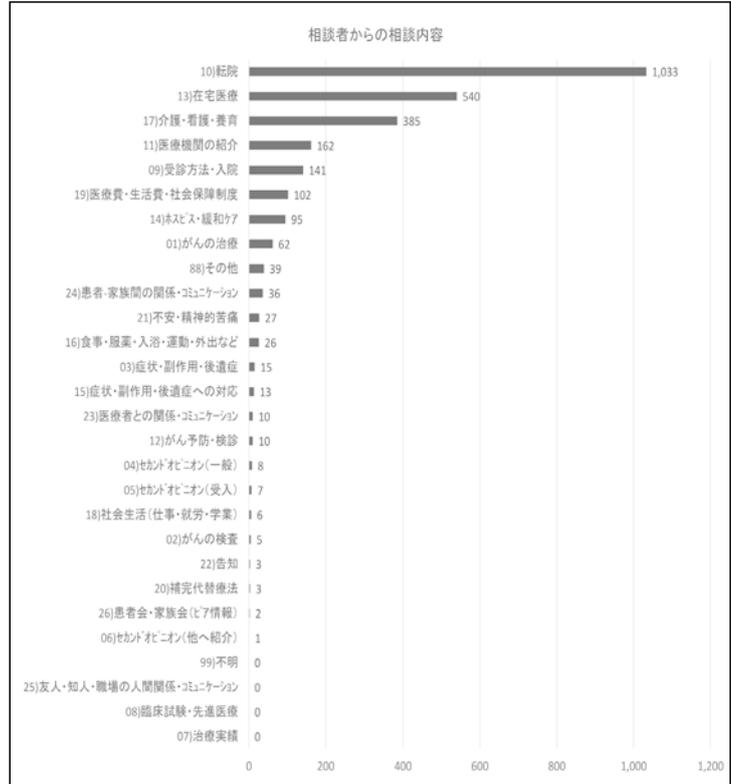
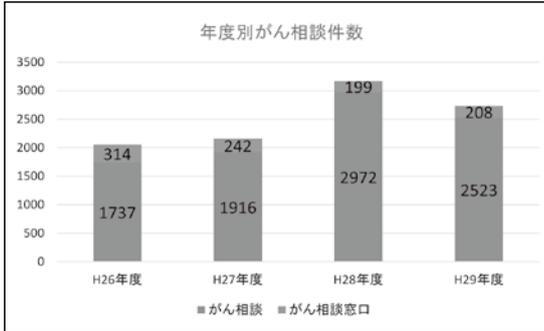
**2. 活動報告**

- (1) がん相談支援センターでは、がんに関する正しい情報の提供と、がんの治療から療養生活全般の相談に対応している。相談窓口への電話や面談、退院支援を含む療養に関する相談など年間 2,500 件以上の相談に対応している。地域との連携においては、がん地域連携パスを運用し、件数は開始時の約 2 倍へ増加している。また、がん腫以外のセカンドオピニオンの対応も行った。がんサロンでは、患者、家族が悩みや体験を語り合う時間を増やし、気持ちの共有や心の安寧につながる場となることを重要視した運営を行った。
- (2) 「国立がん研究センター認定がん相談支援センター」として質の担保に努め、今年度新たに 1 名が認定がん専門相談員資格を取得した。教育活動では、県内のがん診療連携拠点病院の相談員の育成と資質の向上、地域の医療機関におけるがん相談対応に関する知識や技術の向上のための研修会を継続して実施している。
- (3) 福岡県がん相談支援ワーキンググループで、相談支援センター PDCA 評価におけるチェックリストの定義解釈の見直しを行った。また、県統一で使用するがん相談支援ハンドブック・手引きを作成し、県全体で質の向上と担保に取組み、情報交換と連携を行っている。
- (4) がん相談支援センターの認知度向上のための広報活動として、院内では外来に紹介カードやパンフレットの設置を行った。また、掲示板やプラズマディスプレイ、デジタルサイネージにて研修会やサロンなど、様々ながん関連の情報発信を行った。



診療協力部門の概況

3. 業務実績



セカンドオピニオン

実績件数	12件	
内訳	胃がん	1
	大腸がん	1
	直腸がん	2
	肺がん	1
	乳頭部がん	1
	前立腺がん	1
	舌がん	1
	口底部がん	1
	骨髄異型成症候群	1
	子宮筋膜炎	1
	外傷性小腸穿孔	1

がん地域連携クリティカルパス

	運用件数	連携医療機関数
胃がん	2	2
大腸がん	3	3
肺がん	20	17
乳がん	1	1
肝がん	0	0
前立腺がん	61	9
計	87	32

がん患者と家族のためのサロン

	テーマ	担当	参加人数
5月22日	がんと生活・社会保障	認定がん専門相談員	4
7月24日	がんとリハビリテーション	理学療法士	5
9月25日	造血幹細胞移植後の気持ちの共有	がん化学療法看護認定看護師	6
11月27日	がん治療中のおしゃれ	化学療法関係者	1
1月22日	がんで使うお薬の話	薬剤師	9
3月26日	食事の工夫について	管理栄養士	9



**診療協力部門の概況**

平成 29 年度  
委 員 会

Japan Community Health care Organization JCHO



独立行政法人 地域医療機能推進機構 九州病院

委員会組織図

◆平成 29 年度委員会・部会等組織

		区分	上部組織 (委員会)	下部組織 (部会等)
幹 部 会 議	管 理 会 議	法 定	療養管理委員会	栄養・NST 部会
				褥創対策部会
				誤嚥対策部会
				高齢者支援・認知症ケア部会
				呼吸管理 (RST) 部会
			医療安全管理委員会	リスクマネジメント部会
			安全衛生委員会	
			設備管理委員会	放射線安全部会
				医療ガス安全管理部会
				エネルギー使用合理化部会
				防災・施設部会
				廃棄物管理部会
			院内感染対策委員会	ICT 部会
				感染防止対策連携部会
			薬事委員会	レジメン審査部会
			情報セキュリティ委員会	
			輸血療法委員会	
			診療録管理委員会	診療録監査部会
				電子カルテ部会
				説明・同意書検討部会
			臨床検査管理・運営委員会	臨床検査適正化委員会
				放射線治療品質管理部会
			医療器材管理委員会	医療機器管理部会
				中央材料室運営部会
				診療材料購買部会
			棚卸実施委員会	
			地域医療連携推進委員会	電子情報連携部会
			保険診療対策委員会	DPC 部会
				査定対策部会
			がん診療連絡委員会	がん治療部会 (がん治療部会)
				がん地域連携部会
				がん診療推進教育部会
がん患者等ケア検討部会				
がん登録部会				
移植委員会				
倫理委員会	治験審査 (医薬品・医療機器) 委員会			
	倫理 (臨床研究審査) 部会			
契約審査委員会				
脳死判定委員会				



## 委員会組織図

	区分	上部組織 (委員会)	下部組織 (部会等)		
幹部会議	管理会議	客員部長・医長認定委員会			
		集中治療室等運営委員会			
		手術室運営委員会	SSI 対策部会		
		診療情報提供委員会			
		広報委員会			
		業務	業務運営委員会		外来・救急運営部会
					病棟運営部会
					内視鏡室運営部会
					透析室運営部会
					画像センター運営部会
					入退院センター部会
		業務調整委員会	医療事務作業補助者 (DS) 部会		
		改善活動連絡委員会		クリティカルパス部会	
				TQM 推進部会	
			5S 推進部会		
	医療情報システム委員会	電子カルテ対策部会			
	教育	教育研修委員会		臨床研修管理委員会	
				臨床研修指導者部会	
				職員研修・人権教育部会	
				図書部会	
				救急蘇生講習会 (BLS) 運営部会	
				教育実習センター運営部会	
				EPA 関連研修部会	
	特別	幹部会議・ミーティング	企画室部会		
医療の質向上委員会		臨床指標収集部会			
病院ボランティア委員会					
部課長会議	部課長会議				
診療会議	診療会議				
時限	ロボット・鏡視下手術委員会				
	救急救命センター指定対策委員会				

委員会活動

◆法定関係

○療養管理委員会

構 成 人 員	委 員 長		折口秀樹 (内科医長)
	副 委 員 長		藤澤 聖 (内科医長)・三輪真紀子 (副栄養管理室長) 廣正佳奈 (皮膚科医師)
	メン バ ー	診 療 部	内山明彦 (副院長)・中村哲郎 (リハビリテーション科医長) 田村恭久 (内科医長)・立石貴久 (神経内科医長) 川上 覚 (内科医師)・中村勝也 (外科医長)
		看 護 部	尾野肖子 (看護師長)・武富須磨子 (看護師長) 古賀美砂紀 (看護師長)・山口弘恵 (看護師) 倉本佳代子 (看護師)
		診療協力部門	小倉秀美 (主任薬剤師)・杉本光徳 (主任言語聴覚士長) 原 裕子 (主任栄養士)
		事 務 部 他	古田 彰 (経理課長)・安達 信 (医事課長)
会 議			年 4 回開催
活 動 内 容			<p>6月1日</p> <p>議題1 各部会からの報告 褥瘡対策部会・誤嚥対策部会・高齢者支援部会 栄養・NST部会・呼吸管理 (RST) 部会</p> <p>議題2 新メンバーの紹介</p> <p>9月7日</p> <p>議題1 各部会からの報告 褥瘡対策部会・誤嚥対策部会・高齢者支援部会 栄養・NST部会・呼吸管理 (RST) 部会</p> <p>議題2 栄養部嗜好調査結果報告</p> <p>12月7日</p> <p>議題1 各部会からの報告 褥瘡対策部会・誤嚥対策部会・高齢者支援部会 栄養・NST部会・呼吸管理 (RST) 部会</p> <p>3月1日</p> <p>議題1 各部会からの報告 褥瘡対策部会・誤嚥対策部会・高齢者支援部会 栄養・NST部会・呼吸管理 (RST) 部会 できる経腸栄養剤の紹介と今後の対応について</p>



## ◆法定関係

## ○療養管理委員会 - 栄養・NST 部会

構 成 人 員	チェアマン	藤澤 聖 (内科医長)	
	副チェアマン	三輪真紀子 (副栄養管理室長)	
	オブザーバー	折口秀樹 (内科医長)	
	メン バー	診 療 部	酒井賢一郎 (総合診療部診療部長)・足立雅弘 (内科医長) 村上聡一郎 (外科医師)
		看 護 部	二見美喜子 (副看護部長)・尾野肖子 (看護師長) 武富須磨子 (看護師長)・白石由紀 (看護師長) 山田明子 (副看護部長)・細川知子 (副看護部長) 和田真由美 (看護師)
診療協力部門		小倉秀美 (主任薬剤師)・杉本光徳 (主任言語聴覚士長) 稲葉美紀 (臨床検査技師)・橋本沙和 (栄養士)	
事 務 部 他			
会 議		開催なし	
活 動 内 容		<活動内容> 週1回の回診 研修会の開催 週1回のミーティング 研修生の受け入れ	

委員会活動

◆法定関係

○療養管理委員会 - 褥瘡対策部会

構 成 人 員	部 会 長	廣正佳奈 (皮膚科医師)	
	副 部 会 長	山口弘恵 (看護師)	
	オブザーバー	内山明彦 (副院長)	
	メン バ ー	診 療 部	
		看 護 部	白石由紀 (看護師長)・白石明子 (看護師長) 池田佳子 (看護師)
診療協力部門		林 秀俊 (リハビリテーション士長)・原 裕子 (主任栄養士) 釘原瑤子 (薬剤師)・松村考志 (臨床工学技士)	
事 務 部 他		安達 信 (医事課長)・海野聡美 (総務企画課) 阿部早織 (医事課)	
会 議		年 4 回開催	
活 動 内 容		<p>5月31日</p> <p>議題1 2016年度の集計報告</p> <p>議題2 褥瘡対策計画書・経過記録のシステム変更後の状況</p> <p>議題3 当院の褥瘡関連の研修会のあり方検討</p> <p>議題4 次回開催予定日</p> <p>8月30日</p> <p>議題1 褥瘡発生状況・ハイリスク算定状況報告</p> <p>議題2 褥瘡推定発生率</p> <p>議題3 褥瘡ハイリスク算定</p> <p>議題4 その他</p> <p>議題5 次回開催予定日</p> <p>11月29日</p> <p>議題1 褥瘡発生状況・ハイリスク算定状況報告</p> <p>議題2 褥瘡回診</p> <p>議題3 その他</p> <p>議題3 次回開催予定日</p> <p>2月28日</p> <p>議題1 褥瘡発生状況・ハイリスク算定状況報告</p> <p>議題2 褥瘡回診</p> <p>議題2 診療報酬改訂</p> <p>議題3 次回開催予定日</p>	



## ◆法定関係

## ○療養管理委員会 - 誤嚥対策部会

構 成 人 員	部 会 長	中村勝也 (外科医長)	
	副 部 会 長	松尾美央子 (耳鼻咽喉科医師)・川上 覚 (内科医師) 杉本光徳 (主任言語聴覚士長)	
	メン バ ー	診 療 部	
		看 護 部	尾野肖子 (看護師長)・本田久美 (看護師長) 大谷真由美 (副看護師長)・平石絵里子 (副看護師長)
		診療協力部門	三輪真紀子 (副栄養管理室長)
	事 務 部 他		
会 議		開催なし	
活 動 内 容		<p>&lt;活動内容&gt;</p> <p>第1・2・3週水曜日 誤嚥対策部会カンファレンス</p> <p>9月1日(金) 第2回 嚥下調整食情報交換会 地域の連携病院と嚥下調整食について情報交換</p> <p>3月9日(金) 誤嚥対策部会主催研修会 「摂食嚥下障害への気づきと対応」 講師：吉田 光由講師 (広島大学准教授)</p>	

委員会活動

◆法定関係

○療養管理委員会 - 高齢者支援・認知症ケア部会

構 成 人 員	部 会 長	折口秀樹 (内科医長)	
	副 部 会 長	中村哲郎 (リハビリテーション科医長)・倉本佳代子 (看護師)	
	メン バー	診 療 部	土屋邦喜 (整形外科診療部長)・足立雅弘 (内科医長) 立石貴久 (神経内科医長)・林 晃史 (外科医師) 天津透彦 (精神科医師)
		看 護 部	尾野肖子 (看護師長)・宮原寛子 (看護師長) 高木めぐみ (副看護師長)・濱田康子 (副看護師長)
		診療協力部門	藤村弥生 (薬剤師)・峯 修平 (医療社会事業専門員)
事 務 部 他	山本 勇 (総務企画課)・中村朋代 (医事課)		
会 議		年 4 回開催	
活 動 内 容		<p>5月18日</p> <p>議題1 28年度活動報告</p> <p>議題2 29年度年間目標 計画について</p> <p>議題3 今年度の高齢者支援部会研修会</p> <p>議題4 5月の研修会内容報告</p> <p>議題5 その他</p> <p>8月7日</p> <p>議題1 院内デイケアについて</p> <p>議題2 高齢者虐待フローについて</p> <p>議題3 認知症患者ケアマニュアル</p> <p>議題4 高齢化社会 当院の課題は?</p> <p>議題5 その他</p> <p>12月15日</p> <p>議題1 新規参加者 自己紹介</p> <p>議題2 老年病専門医研修プログラムについて (折口医師)</p> <p>議題3 29年度目標・計画 中間評価</p> <p>議題4 29年度活動報告</p> <p>議題5 その他</p> <p>3月9日</p> <p>議題1 新規参加者 自己紹介</p> <p>議題2 高齢者支援・認知症ケア部会 29年度目標・評価</p> <p>議題3 高齢者支援・認知症ケア部会 30年度の目標</p> <p>議題4 その他</p>	



## ◆法定関係

## ○療養管理委員会 - 呼吸管理 (RST) 部会

構 成 人 員	部 会 長	村島浩二 (麻酔科医師)	
	副 部 会 長	古賀美砂紀 (看護師長)・松村考志 (臨床工学技士)	
	メン バー	診 療 部	茅島顕治 (麻酔科診療部長)・川本雅彦 (外科医長) 原田大志 (内科医長)・山本順子 (小児科医長) 井上勝博 (内科医師)・横田千恵 (小児科医師) 芳野博臣 (麻酔科医師)
		看 護 部	二見美喜子 (副看護部長)・松浦洋子 (看護師長) 久保由美子 (看護師長)
		診療協力部門	佐藤憲明 (主任理学療法士)・三輪真紀子 (副栄養管理室長)
		事 務 部 他	多賀谷由紀子 (医事課)
会 議		開催なし	
活 動 内 容		<活動内容> 人工呼吸器稼動状況の把握 院内ラウンド 集中治療室等運営委員会で報告	

委員会活動

◆法定関係

○医療安全管理対策委員会

構 成 人 員	委員 長		上村哲郎 (副院長)
	副 委 員 長		一木康則 (内科医長)・木本妙子 (副看護部長)・濱本英治 (臨床工学室)
	メン バー	診 療 部	水島明(副院長)・山本英雄(副院長)・土屋邦喜(整形外科)・徳永滋彦(心臓血管外科)・毛利正博(循環器科)・田村恭久(内科)・牟田毅(内科)・茅島顕治(麻酔科)・笹栗毅和(臨床病理検査科)・伊藤浩司(医療情報部)・平賀聖久(放射線科)
		看 護 部	元嶋文恵(看護部長室)・有村博江(外来)・松隈真紀子(看護部長室)・森本麗華(看護部長室)
		診療協力部門	末松文博(薬剤部)・瀧口雅晴(放射線室)・奥蘭学(中央検査室)林秀俊(リハビリテーション室)・三輪真紀子(栄養部)・吉国健司(薬剤部)
事 務 部 他		三島俊彦(事務部長)・島田正行(総務企画課)・安達信(医事課)・多治見司(院長)・内山明彦(副院長)・家根茂(総務企画課)	
会 議			1回/月 開催 (毎月第4水曜日) 8時00分～
活 動 内 容			<p>平成 29 年 5 月 24 日 (水)、6 月 28 日 (水)、7 月 26 日 (水)、8 月 23 日 (水)、9 月 27 日 (水)、10 月 25 日 (水)、11 月 22 日 (水)、12 月 27 日 (水)、平成 30 年 1 月 24 日 (水)、2 月 28 日 (水)、3 月 28 日 (水)</p> <p><b>【医療事故を防止し、安全かつ適切な医療の提供体制を確立】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療事故防止対策の検討及び研究に関すること</li> <li>・医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること</li> <li>・医療事故防止のための職員に対する指示に関すること</li> <li>・医療事故防止のために行う提言に関すること</li> <li>・医療事故発生防止のための啓発、教育、広報及び出版に関すること</li> <li>・医療訴訟に関すること</li> <li>・その他、医療事故の防止に関すること</li> </ul> <p>4月: インシデント・アクシデント報告 (3月分)、事例報告 (25件)、平成28年度活動報告、平成29年度重点目標、CVC認定医・指導医申請</p> <p>5月: インシデント・アクシデント報告 (4月分)、事例報告 (9件)、平成29年度リスクマネジメント部会活動計画、平成29年度委員会目標</p> <p>6月: インシデント・アクシデント報告 (5月分)、事例報告 (12件)、課題検討 (アナフィラキシーショック時の対応)、ラウンド報告 (患者誤認防止)、プレアボイド報告、CVC指導医申請、医療安全全体研修について、JCHO共通重点報告基準について</p> <p>7月: インシデント・アクシデント報告 (6月分)、事例報告 (14件)、課題検討 (患者誤認防止)、ラウンド報告 (誤薬防止)、医薬品安全管理ラウンド報告、CVC研修会報告、CVC認定医・指導医申請</p> <p>8月: インシデント・アクシデント報告 (7月分)、事例報告 (10件)、医療安全全体研修会予定</p> <p>9月: インシデント・アクシデント報告 (8月分)、事例報告 (14件)、課題検討 (転倒転落予防)、ラウンド報告 (アナフィラキシーショック時の対応)、プレアボイド報告、CVC認定医申請</p> <p>10月: インシデント・アクシデント報告 (9月分)、事例報告 (10件)、課題検討 (誤薬防止)、ラウンド報告 (患者誤認防止)、医薬品安全管理ラウンド報告、医療安全研修会報告、CVC認定申請、産婦人科カルテの入院前作成について</p> <p>11月: インシデント・アクシデント報告 (10月分)、事例報告 (12件)、課題検討 (アナフィラキシーショック時の対応)、ラウンド報告 (転倒転落予防)、プレアボイド報告</p> <p>12月: インシデント・アクシデント報告 (11月分)、事例報告 (17件)、課題検討 (アナフィラキシーショック時の対応)、ラウンド報告 (ME機器の安全な操作)、CVC認定医申請、医療安全指針の改訂とホームページ掲載について</p>



## 委員会活動

活 動 内 容	<p>1月: インシデント・アクシデント報告 (12月分)、事例報告 (11件)、課題検討 (転倒転落予防)、プレアボイド報告、コンフリクト研修会報告、CVC研修会報告、医療安全推進大会予定、リスクマネジメント部会・リスクマネジャーの名称について</p> <p>2月: インシデント・アクシデント報告 (1月分)、事例報告 (7件)、課題検討 (誤業防止)、ラウンド報告 (患者誤認防止)、医薬品安全管理ラウンド報告、医療安全推進大会予定、リスクマネジメント部会・リスクマネジャーの名称について、保健所医療監視報告</p> <p>3月: インシデント・アクシデント報告 (2月分)、事例報告 (7件)、医療安全推進大会報告、医療安全要綱改訂について、医療安全対策地域連携加算取得について</p>
---------	---

委員会活動

◆法定関係

○医療安全管理対策委員会 - リスクマネジメント部会

構 成 人 員	委員 長	一木康則 (内科医長)	
	副 委 員 長	中村勝也 (外科医長)・中村哲郎 (リハビリテーション科医長)・山本順子 (小児科医長)・原田大志 (内科医長)・松隈真紀子 (看護部長室看護師長)	
	メン バ ー	診 療 部	川上剛史 (産婦人科医長)・芥野絵理 (総合診療部医師)・河村奈津美 (内科医師)・井上公代 (放射線科医師)・村島浩二 (麻酔科医師)
		看 護 部	木本妙子 (看護部長室副看護部長)・村上貴子 (8階北病棟看護師長)・松浦洋子 (集中治療室看護師長)・山田弥生 (5階北病棟看護師長)・池田浩子 (手術室看護師長)・後藤貴子 (特殊外来副看護師長)・大蔵敦子 (8階南病棟副看護師長)・稲田妙子 (7階南病棟副看護師長)・大畑桂子 (4階北病棟副看護師長)・有村博江 (外来副看護師長)
		診療協力部門	小倉秀美 (薬剤部主任薬剤師)・居塚しのぶ (薬剤部主任薬剤師)・吉国健司 (薬剤部主任薬剤師)・前原裕一 (放射線室主任診療放射線技師)・甲斐瑞之 (放射線室主任放射線技師)・立岩友美 (中央検査室臨床検査技師)・黒川佳代 (中央検査室臨床検査技師)・谷政範 (臨床工学室主任臨床工学技士)・佐藤憲明 (リハビリテーション室主任理学療法士)・三輪真紀子 (栄養部副栄養管理室長)・杉本光徳 (リハビリテーション室主任言語聴覚士長)
事 務 部 他	島田正行 (総務企画課総務企画課長)・山本勇 (総務企画課一般職員)・佐竹優子 (医事課一般職員)・水島明 (副院長)・上村哲郎 (副院長)・家根茂 (総務企画課)		
会 議		2回/月 8時00分～ (毎月第1木曜日…分科会・毎月第3木曜日…全体会)	
活 動 内 容		<p>平成 29 年 5 月 18 日 (木)、6 月 1 日 (木)、6 月 15 日 (木)、7 月 5 日 (水)、7 月 20 日 (木)、9 月 7 日 (木)、9 月 21 日 (木)、10 月 5 日 (木)、10 月 19 日 (木)、11 月 2 日 (木)、11 月 16 日 (木)、12 月 7 日 (木)、12 月 21 日 (木)、平成 30 年 1 月 5 日 (金)、1 月 18 日 (木)、2 月 1 日 (木)、2 月 15 日 (木)、3 月 1 日 (木)、3 月 15 日 (木)</p> <p>【リスクマネジメント部会は、医療安全管理対策委員会の傘下であり、医療事故の減少及び医療事故防止に関する対策の立案、実行及び評価等を行っていく実務的活動を担当する】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 月2回の定期的会合を開催</li> <li>② インシデント・アクシデントの発生状況の確認及び把握と分析</li> <li>③ 対策の検討・実践・指導             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) インシデント・アクシデントの防止策を立案し、医療安全管理委員会に提出</li> <li>2) 事故防止策に関するコンサルテーション</li> <li>3) 病棟訪問及び指導</li> <li>4) 事故防止対策マニュアル、ガイドラインの作成及び改訂 (毎年)</li> <li>5) 実践した事故防止対策の評価</li> </ol> </li> <li>④ 啓蒙、教育活動</li> <li>⑤ 研修会への参加、学習会・講演会の開催</li> </ol> <p>5月: 1.平成30年度 活動内容について 2.インシデント・アクシデント集計報告 (4月)</p> <p>6月: 1.課題検討【Aチーム】アナフィラキシーショック時の対応 2.ラウンド【Dチーム】肺塞栓予防 3.プレアポイド報告 4.インシデント・アクシデント集計報告 (5月)</p> <p>7月: 1.課題検討【Bチーム】患者誤認防止 2.ラウンド【Cチーム】誤薬防止 3.医薬品安全管理ラウンド 4.インシデント・アクシデント集計報告 (6月)</p> <p>9月: 1.課題検討【Dチーム】転倒転落予防 2.ラウンド【Bチーム】アナフィラキシーショック時の対応 3.プレアポイド報告 4.インシデント・アクシデント集計報告 (8月)</p> <p>10月: 1.ラウンド【Bチーム】患者誤認防止 2.課題検討【Cチーム】誤薬防止 3.医薬品安全管理ラウンド 4.インシデント・アクシデント集計報告 (9月)</p>	



## 委員会活動

活 動 内 容	<p>11月: 1.ラウンド【Dチーム】転倒転落予防 2.課題検討【Aチーム】アナフィラキシーショック時の対応 3.プレアボイド報告 4.インシデント・アクシデント集計報告(10月)</p> <p>12月: 1.ラウンド【Cチーム】心電図モニタが適切に使用できているか 2.課題検討【Aチーム】アナフィラキシーショック時の対応 3.インシデント・アクシデント集計報告(11月)</p> <p>1月: 1.ラウンド【Bチーム】患者誤認防止 2.課題検討【Dチーム】転倒転落予防 3.プレアボイド報告 4.インシデント・アクシデント集計報告(12月)</p> <p>2月: 1.ラウンド【Aチーム】アナフィラキシーショック時の対応 2.課題検討【Cチーム】誤薬防止 3.医薬品安全管理ラウンド 4.インシデント・アクシデント集計報告(1月) 5.3月リスクマネジメント部会と医療安全推進大会について</p> <p>3月: 医療安全推進大会        ・アナフィラキシーショック時の対応 …… 【Aチーム】        ・患者誤認防止 …… 【Bチーム】        ・誤薬防止 …… 【Cチーム】        ・転倒転落予防 …… 【Dチーム】</p>
---------	---

委員会活動

◆法定関係

○安全衛生委員会

構 成 人 員	委員 長	副院長 内山 明彦	
	副 委 員 長	総務企画課長 島田 正行	
	メン バ ー	診 療 部	高橋 保彦, 中原 博正, 一木 康則, 宮田 健二, 山本 英雄(産業医), 多治見 司(オブザーバー)
		看 護 部	二見 喜美子, 武下 宣子, 森本 麗華,
		診療協力部門	居塚 しのぶ, 瀧口 雅晴, 松田 裕代, 西山 純司, 谷 政範
事 務 部 他	三島 俊彦, 瀬川 明美, 中島 浩, 古海政浩, 常盤 欣宏		
会 議		月 1 回(第 4 金曜日)	
活 動 内 容		<p>平成 29 年度安全衛生委員会の活動</p> <p>1. (1) 定期健康診断の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定業務従事者健診 H29. 7.10~H29.8.31 受診者数 875 名(受診率 100%)</li> <li>・定期健診 H29.11.13~H30.2.28 受診者数 1,090 名(受診率 100%)</li> </ul> <p>(2) 雇用時健康診断の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4 月採用者 H29.4.6~H27.4.23 136 名(受診率 100%)</li> <li>・5 月以降の採用者は随時実施</li> </ul> <p>2. 院内感染、血液曝露等の事故防止</p> <p>(1) 血液・体液曝露事例報告による検討(平成 29 年度 22 件)</p> <p>(2) 職員のウイルス抗体価の把握とワクチン接種の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HB ワクチン接種 1 回目 5/15,5/16,5/17 接種者数 136 名(接種率 76.8%) 2 回目 6/12,6/13,6/14 接種者数 99 名(接種率 96.1%) 3 回目 10/30,10/31,11/1 接種者数 95 名(接種率 98%)</li> <li>・インフルエンザワクチン集団接種 11/13,11/14,11/15 接種者数 1,095 名(接種率 93.2%)</li> </ul> <p>(3) 職業感染(院内感染)への対応</p> <p>3. メンタルヘルスを含む健康管理の推進</p> <p>(1) メンタルヘルス相談室報告による検討</p> <p>(2) ハートメールボックス報告による検討</p> <p>4. 労働時間の把握・管理</p> <p>(1) 時間外労働時間報告による検討</p>	



## ◆法定関係

## ○医療ガス安全管理部会

構 成 人 員	部 会 長	上村哲郎 (副院長)	
	副 部 会 長	三村大介 (施設管理室)	
	メン バ ー	診 療 部	茅島顕治 (麻酔科)・落合由恵 (心臓血管外科)・中原博正 (産婦人科)・山本順子 (小児科)・笹栗毅和 (臨床病理検査科)
		看 護 部	木本妙子 (副看護部長)・池田浩子 (手術室)
		診療協力部門	濱本英治 (臨床工学室)・末松文博 (薬剤部)・奥園学 (中央検査室)・林秀俊 (リハビリテーション室)
事 務 部 他	三島俊彦 (事務部長)・家根茂 (総務企画課)・古海政浩 (施設管理室)・山本勇 (総務企画課)		
会 議		平成 29 年 12 月 27 日 (水)	
活 動 内 容		<p>議題</p> <p>平成 29 年度 医療ガス設備点検の報告について</p> <p>715 通知の改定について</p> <p>① 715 通知の概要</p> <p>② 改定に伴う対応</p> <p>平成 30 年度 医療ガス安全管理部会 役割分担について</p>	

委員会活動

◆法定関係

○防災施設部会

構 成 人 員	部 会 長		酒井賢一郎 (総合診療部)
	副 部 会 長		菊池幹 (総合診療部) 家根茂 (総務企画課)
	メン バ ー	診 療 部	水島明 (副院長) 内山明彦 (副院長) 中村哲郎 (リハビリテーション科) 梅田修洋 (外科) 毛利正博 (循環器科) 小池浩次 (耳鼻咽喉科) 伊藤浩司 (医療情報部)
		看 護 部	木本妙子 (副看護部長) 松浦洋子 (看護師長) 村上貴子 (看護師長)
		診療協力部門	末松文博 (薬剤部)・奥園学 (中央検査室)・林秀俊 (リハビリテーション室)・井上英一 (放射線室) 三輪真紀子 (栄養管理室)
事 務 部 他		多治見司 (院長) [オブザーバー]・三島俊彦 (事務部長)・鳥田正行 (総務企画課)・古田彰 (経理課)・安達信 (医事課) 古海政浩 (施設管理室) 山本勇 (総務企画課) 安武敏弘 (外部)	
会 議			
活 動 内 容			<p>2014 年 4 月 15 日 議題 災害マニュアル整備について 29年度防災訓練実施日程について</p> <p>2014 年 9 月 17 日 課題 消防避難訓練実施について 消防計画の配布について 今年度の大規模災害訓練について</p> <p>22014 年 10 月 27 日 大規模災害訓練の実施について</p>



## ◆法定関係

## ○院内感染対策委員会

構 成 人 員	委員 長	内科医長 小川 亮介	
	副 委 員 長	整形外科診療部長 土屋邦喜, 小児科医長 山本順子, 内科医長 原田大志, 副看護師長 堀江恭子, 看護師 森本麗華	
	メン バ ー	診 療 部	院長 多治見 司, 副院長 水島 明, 副院長 上村哲郎, 副院長 内山明彦, 副院長 山本英雄, 外科医長 梅田修洋, 心臓血管外科部長 徳永滋彦, 泌尿器科部長 原野正彦, 内科医師 川上 覚, 外科医師 梁井公輔
		看 護 部	看護部長 元嶋文恵, 副看護部長 木本妙子, 看護師長 池田浩子, 看護師長 後藤芳子, 看護師長 松山美佐紀, 看護師長 松隈眞紀子, 副看護師長 三ノ丸理江, 副看護師長 川原さおり
		診療協力部門	薬剤部長 末松文博, 主任薬剤師 桑村恒夫, 副診療放射線技師長 安川浩介, 臨床検査技師長 奥蘭 学, 臨床工学室技士長 濱本英治, 臨床検査技師 廣永道隆, 主任臨床検査技師 芳賀由美, 主任理学療法士 中野政弘, 副栄養管理室長 三輪真紀子
事 務 部 他	事務部長 三島俊彦, 総務企画課長 島田正行, 経理課長 古田 彰, 医事課長 安達信, 一般職員 青谷 浩, 九州美装株式会社 秋本 正 (院外部会員) 九州地区事務所 崎野有美 (院外委員)		
会 議		月1回 (第3水曜日)	
活 動 内 容		<p>○院内感染対策委員会の活動目標</p> <p>【院内感染の防止とその対策を推進し安全な医療体制を構築する】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・耐性菌の発生状況に関すること</li> <li>・保健所への届出に関すること</li> <li>・感染防止のための巡視、点検、改善に関すること</li> <li>・職員教育に関すること</li> <li>・感染症発生時の対応に関すること</li> <li>・近隣施設や北九州感染制御チーム (KRICT) との連携に関すること</li> <li>・その他院内感染対策の推進に関すること</li> </ul> <p>○院内感染対策委員会の活動実績</p> <p>4月19日</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定例報告 <ol style="list-style-type: none"> <li>①耐性菌報告</li> <li>②抗菌薬適正使用</li> <li>③感染症の届出</li> <li>④血液・体液曝露事例</li> </ol> </li> <li>2. VRE 対応</li> <li>3. 2016 年度の活動報告</li> <li>4. 2017 年度 ICT 活動計画</li> </ol> <p>5月17日</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定例報告 (4月の①～④含む)</li> <li>2. 検討事項 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) MRSA・ESBL 産生菌検出時の隔離基準</li> <li>2) HIV 針刺し後の曝露後予防について</li> </ol> </li> </ol>	



## 委員会活動

## 活 動 内 容

6月21日

1. 定例報告(4月の①～④含む)
2. NICUにおけるMRSA対策
3. 第1回感染対策全体研修会開催案内

7月19日

1. 定例報告(4月の①～④含む)
2. 7階南病棟におけるMRSA対策
3. 結核対応報告
4. 第1回感染対策全体研修会開催報告
5. 地域連携カンファレンス開催案内

8月19日

1. 定例報告(4月の①～④含む)
2. 結核対応報告:濃厚接触者について
3. 第1回感染対策全体研修会結果報告
4. 地域連携カンファレンス・相互ラウンド開催案内
5. N95マスクフィットチェック開催について
6. ポケットマニュアル改訂について

9月20日

1. 定例報告(4月の①～④含む)
2. CRE検出への対応報告
3. 結核対応報告
4. 第1回感染対策全体研修会結果報告・第2回開催案内
5. 地域連携カンファレンスの開催報告
6. 積極的保菌調査対象者についての検討

10月18日

1. 定例報告(4月の①～④含む)
2. 結核接触者健診結果
3. 相互ラウンド結果
4. 第2回感染対策全体研修会結果報告
5. 流行時の発熱者フローについて
6. 院内感染対策指針について

11月15日

1. 定例報告(4月の①～④含む)
2. 第2回感染対策全体研修会結果報告
3. 新型インフルエンザ連絡訓練

12月20日

1. 定例報告(4月の①～④含む)
2. 第2回感染対策全体研修会結果報告
4. 結核対応報告
5. 入職時の結核健診方法の見直し

1月17日

1. 定例報告(4月の①～④含む)
2. 結核対応



活 動 内 容	<ul style="list-style-type: none"><li>3. NICU アウトブレイク対応</li><li>4. GCU CRE アウトブレイク対応</li></ul> <p>2月21日</p> <ul style="list-style-type: none"><li>1. 定例報告(4月の①~④含む)</li><li>2. NICU アウトブレイク対応報告</li><li>3. CRE 対応<ul style="list-style-type: none"><li>1) GCU アウトブレイク対応</li><li>2) 7階北病棟 CRE 遺伝子検査結果</li></ul></li><li>4. インフルエンザ対応</li><li>5. 遺伝子検査機器について</li></ul> <p>3月29日</p> <ul style="list-style-type: none"><li>1. 定例報告(4月の①~④含む)</li><li>2. 結核接触者健診対応</li><li>3. 医療監視報告</li><li>4. 平成 30 年度診療報酬改定について</li></ul>
---------	--

委員会活動

◆法定関係

○院内感染対策委員会 - ICT (Infection control team: 感染制御チーム) 部会

構 成 人 員	部 会 長	整形外科診療部長 土屋邦喜	
	副 委 員 長	内科医師 川上 覚, 外科医長 梅田修洋, 小児科医長 山本順子, 副看護師長 堀江恭子, 副看護師長 川原さおり, 看護師 森本麗華	
	メン バ ー	診 療 部	麻酔科診療部長 茅島顕治, 内科医長 原田大志, 整形外科医長 中村哲郎, 外科医師 梁井公輔, 心臓血管外科医師 安東勇介, 産婦人科医師 川上剛史, 泌尿器科医師 筒井顕郎, 心臓血管外科医師 馬場啓徳, 副院長 上村哲郎(オブザーバ), 内科医長 小川亮介(オブザーバ)
		看 護 部	副看護部長 木本妙子, 看護師長 松山美佐紀, 副看護師長 三ノ丸理江
		診療協力部門	主任薬剤師 桑村恒夫, 薬剤師 上原奈緒, 薬剤師 阿部名月, 副診療放射線技師長 安川浩介, 主任臨床検査技師 芳賀由美, 主任臨床検査技師 嶋田 薫, 主任栄養士 原裕子, 臨床工学技士 松村考志, 理学療法士 津崎裕司, 臨床検査技師 廣永道隆(オブザーバ)
事 務 部 他	総務企画課長 島田正行, 一般職員 青谷 浩, 一般職員 上村香奈子, 九州美装株式会社 秋本 正(院外部会員)		
会 議		月 1 回 (第 2 水曜日)	
活 動 内 容		<p>○ ICT 部会の活動目標</p> <p><b>【院内感染の防止とその対策を推進し安全な医療体制を構築する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・耐性菌の発生状況に関すること</li> <li>・保健所への届出に関すること</li> <li>・感染防止のための巡視、点検、改善に関すること</li> <li>・職員教育に関すること</li> <li>・感染症発生時の対応に関すること</li> <li>・近隣施設や北九州感染制御チーム (KRICT) との連携に関すること</li> <li>・その他院内感染対策の推進に関すること</li> </ul> <p>○ ICT 部会の活動実績</p> <p>4月13日</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定例報告             <ol style="list-style-type: none"> <li>①耐性菌報告</li> <li>②抗菌薬投与報告                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・抗 MRSA 投与患者</li> <li>・長期投与患者</li> </ul> </li> <li>③感染症届出</li> <li>④血液・体液曝露事例</li> <li>⑤環境ラウンド</li> <li>⑥抗菌薬適正使用</li> </ol> </li> <li>2. VRE 対応</li> <li>3. 2016 年度活動まとめ</li> <li>4. 2017 年度活動計画</li> <li>5. HIV の針刺し予防薬について</li> </ol> <p>5月10日</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定例報告 (4月の①～⑥含む)</li> <li>2. 検討事例             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) MRSA、ESBL 産生菌の隔離基準</li> <li>2) HIV の針刺し曝露後予防薬</li> </ol> </li> </ol> <p>6月14日</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定例報告 (4月の①～⑥含む)</li> <li>2. NICU の MRSA 検出状況と対策</li> <li>3. 第 1 回感染対策全体研修会開催案内</li> <li>4. ミニレクチャー「標準予防策」</li> </ol>	



活 動 内 容	<p>7月12日</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定例報告(4月の①～⑥含む)</li> <li>2. 結核対応</li> <li>3. 第1回感染対策全体研修会開催報告</li> <li>4. 地域連携カンファレンス開催案内</li> </ol> <p>8月10日</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定例報告(4月の①～⑥を含む)</li> <li>2. 結核対応報告</li> <li>3. 第1回感染対策全体研修会結果報告</li> <li>4. 地域連携カンファレンス・相互ラウンド開催案内</li> <li>5. N95 マスクフィットチェック開催について</li> <li>6. ポケットマニュアル改訂について</li> </ol> <p>9月13日</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定例報告(4月の①～⑥含む)</li> <li>2. CRE 検出への対応報告</li> <li>3. 結核対応報告</li> <li>4. 第1回感染対策全体研修会結果報告・第2回開催案内</li> <li>5. 地域連携カンファレンス開催案内</li> <li>6. 保菌調査対象者についての検討</li> </ol> <p>10月11日</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定例報告(4月の①～⑥含む)</li> <li>2. 結核接触者健診結果</li> <li>3. 相互ラウンド結果報告</li> <li>4. 第2回感染対策全体研修会開催報告</li> <li>5. 流行時期の発熱者フローについて</li> <li>6. 院内感染対策指針について</li> </ol> <p>11月8日</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定例報告(4月の①～⑥含む)</li> <li>2. 第2回感染対策全体研修会結果報告</li> <li>3. 新型インフルエンザ連絡訓練</li> </ol> <p>12月13日</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定例報告(4月の①～⑥含む)</li> <li>2. 第2回感染対策全体研修会結果報告</li> <li>3. CRE 保菌患者に対する耐性遺伝子型検査の実施について</li> <li>4. 結核対応報告</li> <li>5. 検討事項:入職時の結核健診方法の見直し</li> </ol> <p>1月10日</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定例報告(4月の①～⑥含む)</li> <li>2. NICU アウトブレイク対応</li> <li>3. GCU CRE アウトブレイク対応</li> <li>4. 結核対応</li> <li>5. 医療監視についての注意事項</li> </ol> <p>2月14日</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定例報告(4月の①～⑥含む)</li> <li>2. NICU アウトブレイク対応報告</li> <li>3. GCU CRE 対応</li> <li>4. 7階北病棟 CRE 遺伝子検査結果</li> <li>5. インフルエンザ対応</li> <li>6. 遺伝子検査機器の運用法について</li> </ol> <p>3月14日</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定例報告(4月の①～⑥含む)</li> <li>2. 結核接触者健診対応</li> <li>3. 入院時監視培養導入に向けて</li> <li>4. 医療監視報告</li> <li>5. 平成30年度診療報酬改定について</li> </ol>
---------	--

委員会活動

◆法定関係

○薬事委員会

構 成 人 員	委員 長	山本英雄 (副院長)	
	副 委 員 長	内山明彦 (副院長)、末松文博 (薬剤部長)	
	メン バ ー	診 療 部	中原博正 (産婦人科)、高橋保彦 (小児科)、原田大志 (内科)、 毛利正博 (内科)、立石貴久 (神経内科)、藤澤 聖 (内科)、 牟田 毅 (内科)、梅田修洋 (外科)、中村哲郎 (整形外科)、原野正彦 (泌尿器科)
		看 護 部	元嶋文恵 (看護部長)、武下宣子 (外来)、久保由美子 (8 北病棟)、
		診療協力部門	奥 菌 学 (中央検査室)、小倉秀美 (薬剤部)
事 務 部 他	安達 信 (医事課)、古田 彰 (経理課)		
会 議		1 回 / 月 開催 (毎月第 3 金曜日) 8 時 00 分～	
活 動 内 容		<p>平成 29 年 4 月 21 日 (金)、6 月 16 日 (金)、7 月 21 日 (金)、 9 月 15 (金)、10 月 20 日 (金)、11 月 14 日 (火)、12 月 15 日 (金)、 平成 30 年 1 月 19 日 (金)、2 月 16 日 (金)</p> <p><b>【医薬品を科学的・倫理的に使用し、適正に管理すること】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品の新規採用に関すること</li> <li>・医薬品の採用取消に関すること</li> <li>・院内医薬品集などの作成に関すること</li> <li>・その他薬事に関すること</li> </ul> <p>4 月： 2 品目の正式採用 新開発医薬品の件</p> <p>6 月： 9 品目の正式採用、10 品目の採用取消 院内特殊製剤「青色色素」消化管内への散布について承認</p> <p>7 月： 8 品目の正式採用、7 品目の採用取消 日本医薬品集の院内配置部署について承認 7 品目の後発医薬品への切り替え承認</p> <p>9 月： 1 品目の正式採用、1 品目の採用取消 採用医薬品の見直し手順説明提案 脊髄性院萎縮症治療剤「スピラザ髄注 12mg」について説明・承認</p> <p>10 月： 2 品目の正式採用、2 品目の採用取消 採用医薬品の見直し提示 (37 品目の採用取消候補医薬品) インフルエンザワクチン供給遅延の件</p> <p>11 月： 採用医薬品の見直し承認 (33 品目の採用取消候補医薬品) 発売前承認医薬品ヒト抗 CD38 モノクローナル抗体「ダラザレックス 点滴静注液」についての承認</p> <p>12 月： 12 品目の正式採用、8 品目の採用取り消し 9 品目の後発医薬品への切り替え承認</p> <p>1 月： 6 品目の正式採用、1 品目の採用取消</p> <p>2 月： 7 品目の正式採用、6 品目の採用取消</p>	



## ◆法定関係

## ○レジメン審査部会

構 成 人 員	部 会 長		内山明彦 (副院長)
	副 部 会 長		牟田 毅 (内科)
	メ ン バ ー	診 療 部	衛藤貴子 (産婦人科)、牧山明資 (内科)、山本英雄 (内科, オブザーバー)
		看 護 部	友田恭子 (外来化学療法室)
事 務 局		桑村恒夫 (薬剤部)	
会 議			年 2 ~ 3 回程度 (不定期)
活 動 内 容			<p>平成29年7月25日(火)、平成30年3月22日(木)</p> <p><b>【がん化学療法の治療計画(レジメン)を科学的根拠に基づき審査し、組織的に統括、管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 院内で行われるがん化学療法の治療計画 (レジメン) を科学的根拠に基づき、実施可能か否かの審査</li> <li>・ 登録済がん化学療法レジメンの改訂時の変更の承認</li> <li>・ 登録済がん化学療法レジメンの管理</li> <li>・ その他がん化学療法レジメンの申請、承認、登録、管理に関すること</li> </ul> <p>平成29年7月25日:</p> <p>血液内科(1), 呼吸器内科(1), 耳鼻科(1), 腫瘍内科(2), 婦人科(3)のレジメンが審査された。</p> <p>各レジメンの薬剤が、該当疾患に保険適応上問題ないこと、エビデンスとなる論文・資料が審査され、提出された8レジメンすべてが承認された。</p> <p>平成30年3月30日:</p> <p>血液内科(7), 腫瘍内科(2), 泌尿器科(1)のレジメンが審査された。</p> <p>各レジメンの薬剤が、該当疾患にエビデンスとなる論文・資料が審査され、提出された10のレジメンすべてが承認された。</p>

委員会活動

◆法定関係

○診療録管理委員会

構 成 人 員	部 会 長	山本英雄 (副院長)	
	副 部 会 長	伊藤浩司 (医療情報部)	
	メン バー	診 療 部	土屋邦喜 (整形外科)・川本雅彦 (外科)・牟田毅 (内科) 酒井賢一郎 (総合診療部)・中原博正 (産婦人科) 高橋保彦 (小児科)・毛利正博 (循環器科)・小池浩次 (耳鼻咽喉科) オブザーバー：水島明 (副院長)・内山明彦 (副院長)
		看 護 部	二見美喜子 (副看護部長)・松隈真紀子 (看護部長室) 宮原寛子 (医療支援部)・村瀬恭子 (4 南病棟看護長)
事 務 部 他		三島俊彦 (事務部長)・島田正行 (総務企画課長) 古田彰 (経理課長)・安達信 (医事課長) 尾茂田幸子・奥野愛子・山脇敏恵 / (医療情報部)	
会 議		1 回 / 3 か月 開催 (第 1 金曜日) 8 時 5 分～	
活 動 内 容		<p>H29 年 4 月 7 日・5 月 10 日・6 月 2 日・7 月 7 日・10 月 6 日・11 月 1 日・12 月 1 日 H30 年 1 月 5 日・3 月 2 日</p> <p><b>【診療録管理に関すること】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療情報及び診療録の管理、運用に関すること</li> <li>・診療情報の分析、評価に関すること</li> <li>・診療情報に係る提言に関すること</li> <li>・診療録の監査に関すること</li> <li>・その他「診療録」にかかる、委員会が決定した業務</li> </ul> <p>4 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入院カルテ内のスキャン文書について</li> <li>・救急外来での診療情報提供書のスキャンについて</li> <li>・ベビーの名前表示について</li> </ul> <p>5 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規文書登録申請について</li> <li>・HANAデンタルクリニックの歯科往診依頼書について</li> <li>・スキャンの削除手順について</li> <li>・院外画像 CD 取り込みの運用追加について</li> <li>・きしのうらネットの同意方法について</li> <li>・スキャン業務の現状について</li> </ul> <p>6 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・院外薬局からのジェネリック変更の連絡 FAX について</li> <li>・ベビーの名前表示について</li> <li>・文書の新規登録について</li> <li>・廃棄カルテのスキャンについて</li> <li>・カルテの現状とスキャンした用紙の廃棄について</li> </ul>	



## 委員会活動

<p>活 動 内 容</p>	<p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心電図データ長期保存に関することについて</li> <li>・廃棄カルテの今後について</li> <li>・スキャン後の検査伝票について</li> </ul> <p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スキャン文書の精査結果について</li> <li>・スキャン係からの問題点と廃棄カルテの進捗状況について</li> <li>・ID番号二重登録後の運用について</li> </ul> <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規文書登録について</li> <li>・廃棄カルテのスケジュールについて</li> <li>・ID番号二重登録後の運用について</li> </ul> <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄カルテのスケジュールについて</li> <li>・ID番号二重登録後の運用について</li> </ul> <p>1月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄カルテの進捗状況について</li> <li>・二重ID登録について</li> <li>・記事記録時のタイトル追加について (ME 室より)</li> </ul> <p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄カルテの進捗状況について</li> <li>・システム停止時に使用する記録用紙や説明同意書について</li> <li>・電子カルテ看護師の記事記録に関して</li> <li>・各文書のスキャン分類について・電子カルテ更新後からの診療録に関する運用上の問題について</li> <li>・スキャンの現状と今後の見通しについて</li> </ul>
----------------	---



## 委員会活動

## ◆法定関係

## ○診療録監査部会

構 成 人 員	部 会 長		高橋保彦 (小児科)
	副 部 会 長		毛利正博 (循環器内科)・二見美喜子 (看護部長室)
	メン バ ー	診 療 部	川本雅彦 (外科)・小池浩次 (耳鼻科)・原田大志 (内科) 山本英雄 (副院長 / オブザーバー)
		看 護 部	村瀬恭子 (4 南)・松隈真紀子 (看護部長室)・白石由紀 (5 南) 松木香奈枝 (5 南)・久保由美子 (6 北)・片山朋子 (副看護師長)
		診療協力部門	野村公子 (薬剤部)・高永康弘 (リハビリ)
		事 務 部 他	安達 信 (医事課長)・尾茂田幸子・奥野愛子 / (医療情報部)
会 議			原則的に、毎月第 4 火曜日カルテ監査を行う
活 動 内 容			<ul style="list-style-type: none"> <li>・監査後の結果は診療会議等でフィードバックを行う</li> </ul> <p>(監査日程)</p> <p>平成 29 年 5 月 23 日・・・ 7 名参加 (14 冊)</p> <p>平成 29 年 6 月 27 日・・・ 9 名参加 (17 冊)</p> <p>平成 29 年 7 月 25 日・・・ 7 名参加 (13 冊)</p> <p>平成 29 年 8 月 22 日・・・ 6 名参加 (11 冊)</p> <p>平成 29 年 9 月 26 日・・・ 7 名参加 (13 冊)</p> <p>平成 29 年 10 月 24 日・・・ 8 名参加 (14 冊)</p> <p>平成 29 年 11 月 28 日・・・ 9 名参加 (16 冊)</p> <p>平成 30 年 1 月 23 日・・・ 8 名参加 (14 冊)</p> <p>平成 30 年 2 月 27 日・・・ 8 名参加 (15 冊)</p> <p>平成 30 年 3 月 27 日・・・ 7 名参加 (13 冊)</p>



## ◆法定関係

## ○臨床検査管理・運営委員会

構 成 人 員	委 員 長		副院長 水島 明
	副 委 員 長		笹栗毅和
	メン バ ー	診 療 部	内山明彦、徳永滋彦、牟田 毅、一木康則 酒井賢一郎、高橋保彦、牧角健司、
		看 護 部	二見美喜子、古賀美砂紀
		診療協力部門	瀧口雅晴、奥蘭 学、廣永道隆、嶋田 薫、松田裕代
事 務 部 他		古田 章、島田正行	
会 議			年 1 回 (9 月 11 日)
活 動 内 容			<p>1. 検査(検体・病理・生理・細菌)部会提案事項</p> <p>①蛋白分画分析について 分析装置の保守期限終了に伴い、故障による検査不能時は外部委託とする運用を検討。 運用変更時は、事前に通知を行い、支障を来さないように手配する</p> <p>②超音波検査(腹部)の人材育成について 職員の転勤と退職に伴い、腹部超音波検査担当技師の育成が急務である為、育成に関わる技師を当面夜勤業務を免除し、育成業務に専念する運用を提案。</p> <p>③検査部署の変更 βD グルカン、エンドトキシンの検査については、検体系人員の減により、検査対応が困難になったため、細菌検査業務とする運用に変更した。</p> <p>④検査試薬の棚卸 検査試薬の在庫管理を確実にし、記録を残すため、毎月月末に棚卸を行い、適正な試薬在庫管理を行う運用に変更した。</p> <p>⑤機器更新(希望申請機種の理由) 免疫分析装置:コバス 8000 (ロシュ) 微量検体での測定が可能(新生児、小児に有用) 測定時間が短い(迅速報告) 基準値等の変更の必要がない 尿分析装置:ノーバス(シーメンス社) 微量アルブミンの測定が可能(早期に腎障害の検出可能)</p>

委員会活動

◆法定関係

○臨床検査適正化委員会

構 成 人 員	委員 長	笹栗毅和	
	副 委 員 長	一木康則、奥 菌 学	
	メン バ ー	診 療 部	牧山明資、小川亮介、高橋保彦、落合由恵、梁井公輔
		看 護 部	二見美喜子、武下宣子
		診療協力部門	廣永道隆、嶋田 薫、豊嶋憲子、松田裕代
事 務 部 他		古田 彰、島田正行	
会 議		年 2 回 (5 月 18 日、11 月 16 日)	
活 動 内 容		<p>平成 29 年度第一回 (5 月 18 日)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>件数 (平成 28 年度) 2,442,515 件 (前年度比 102.1%) 前年度とほぼ同様</li> <li>超勤 (平成 28 年度) 4,771 時間 (前年度比 118.2%) 前年度に比べ定員 1 名減の為増加</li> <li>外部精度管理 (平成 28 年度) ほぼ順調 日本医師会・・・96.3% 日臨技・・・・・・99.1% 福岡県医師会 (九州精度)・・・98.9%</li> <li>内部精度管理 大きな問題はなかった。</li> <li>人事 JCHO 本部からの定数調査実施に伴い、定員 1 名減となった。 諫早総合病院から金子育美技師転勤 (2 月 1 日付) 田中隆一、岡田明彦技師、福岡ゆたか中央病院へ転勤 (4 月 1 日付) 新規採用者：長房蓮 (検体検査室)、石田優衣 (生理検査室)</li> <li>臨床検査項目導入及び廃止について 蛋白分画分析装置の保守期間の終了に伴い、現行機種が修理不能の場合、外部委託とする。</li> <li>各部屋の状況 特に大きな問題はなかった。 腹部エコー担当技師育成のため、腹部担当者の技師 3 名の夜勤を免除。</li> <li>実習・病院見学 5/8 から 7/19 美萩野専門学校 金澤佑妃子、渡邊瑛</li> <li>その他 中央検査室は、順調に業務が行われている。</li> </ol> <p>平成 28 年度第二回 (11 月 16 日)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>件数 (4 月から 10 月) 1,471,859 件 (前年度比 103.7%) 前年度とほぼ同様</li> <li>超勤 (4 月から 10 月) 2,831 時間 (前年度比 107.7%) 前年度に比べ定員 1 名減の為増加</li> <li>外部精度管理 ほぼ順調 日臨技・・・・・・98.7%</li> <li>内部精度管理 大きな問題はなかった。</li> <li>人事 臨時採血看護師 甲斐和代退職 (8 月 31 日付)</li> <li>臨床検査項目導入及び廃止について β D グルカン検査を細菌検査室で実施する運用に変更 (4 月) 試薬棚卸を毎月実施する運用に変更 (9 月)</li> <li>各部屋の状況 特に大きな問題はなかった。</li> <li>その他 中央検査室は、順調に業務が行われている。</li> </ol>	



## ◆法定関係

## ○地域医療連携推進委員会

構 成 人 員	委員 長	水島明 (副院長)	
	副 委 員 長	宮原寛子 (医療支援部室長) 林秀俊 (リハビリテーション士長)	
	オブザーバー	多治見司 (院長)	
	メン バ ー	診 療 部	内山明彦 (副院長)・山本英雄 (副院長)・上村哲郎 (副院長) 土屋邦喜 (整形外科診療部長)・原野正彦 (泌尿器科診療部長) 中原博正 (産婦人科診療部長)・高橋保彦 (小児科診療部長) 川本雅彦 (外科医長)・折口秀樹 (内科医長) 立石貴久 (神経内科医長)・出雲明彦 (総合診療部医長) 伊野波論 (脳神経外科医師)
		看 護 部	元嶋文恵 (看護部長)・二見美喜子 (看護師長) 尾野肖子 (看護師長)・武下宣子 (看護師長) 高田由美子 (副看護師長)
診療協力部門		末松文博 (薬剤部長)・瀧口雅晴 (診療放射線技師長) 奥 蘭 学 (臨床検査技師長)・三輪真紀子 (副栄養管理室長) 峯 修 平 (医療社会事業専門員)	
事 務 部 他		三島俊彦 (事務部長)・島田正行 (総務企画課長) 古田 彰 (経理課長)・安達 信 (医事課長)・中村省三 (経理係長) 伊地知法 (医事課課長補佐)・家根 茂 (総務係長) 曾我美穂子 (医療支援部事務員)	
会 議	2回/年 開催 17:30～		
活 動 内 容	<p>第1回 平成 29 年 11 月 28 日 (火) 第2回 平成 30 年 3 月 20 日 (火)</p> <p><b>【定例報告】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登録医数 ・紹介率、逆紹介率 ・事前紹介件数</li> <li>・転院件数、転院先医療機関 ・在宅復帰率</li> <li>・救急車受け入れ率、救急外来からの転送件数</li> <li>・開放型病床稼働率</li> <li>・救急外来 (休日勤務帯) 急患専用電話回線設置</li> <li>・地域連携クリティカルパス (新規開始数、大腿骨、脳卒中)</li> <li>・医科歯科連携 ・きしのうらネット ・とびうめネット</li> </ul> <p><b>【地域包括ケア推進室活動報告】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケア推進室活動 ・事例報告 ・退院支援システム</li> <li>・退院支援カンファレンス ・効果的なカンファレンスの方法</li> <li>・退院支援スクリーニングシート提出数、医療支援部介入数と割合</li> <li>・地域連携室 (MSW・退院支援看護師) 介入状況と加算</li> <li>・連携施設との面会状況 ・医療機関連携会参加状況</li> </ul> <p><b>【その他】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・転送の目的、療養施設への転院件数</li> <li>・連携誌「連携のかけ橋」次年度計画</li> <li>・入院患者のかかりつけ医への文書管理</li> <li>・事前紹介患者の受診後の返書管理</li> <li>・地域医療研修報告</li> <li>・地域医療連携推進委員会規定</li> </ul>		

## ◆法定関係

### ○保険診療対策委員会 - DPC 部会

構 成 人 員	委員 長	山本英雄	
	副 委 員 長	安達 信	
	メン バー	診 療 部	多治見司 (オブザーバー)、内山明彦 (オブザーバー) 土屋邦喜、梅田修洋、今本尚之 一木康則、中原博正、藤澤公彦、小池浩次、高橋保彦
		看 護 部	元嶋文恵、木本妙子
		診療協力部門	末松文博、瀧口雅晴、奥蘭 学
事 務 部 他	三島俊彦、古田 彰、伊地知法、西田就之、山本 勇、 中村朋代、尾茂田幸子、大塚陽子 (オブザーバー) 山田貴代加 (オブザーバー)、藤浪瑞香 (オブザーバー)		
会 議		DPC 部会 年 4 回開催	
活 動 内 容		<p>標準的な診断及び治療方法の周知を徹底し、適切な診断を含めた診断群分類の決定(コーディング)を行う体制を確保し、診療内容の標準化及び健全経営の向上に寄与する。</p> <p>部会は次に掲げる事項を所掌する。</p> <p>①適切な診断を含めた診断群分類の決定に関すること。 ②標準的な診断及び治療方法に関すること。 ③診療内容の標準化に関すること。 ④DPC分析による健全経営の向上に関すること。</p> <p>平成29年度は8月・11月・1月・3月に開催した。 上記内容に基づき、院内のコーディング事例に関する検討やDPCデータを使用した分析内容を報告した。</p>	



## ◆法定関係

### ○保険診療対策委員会 - 査定対策部会

構 成 人 員	委員 長	内山副院長	
	副 委 員 長	安達医事課長	
	メン バ ー	診 療 部	山本副院長・上村副院長・土屋部長・中原部長、小池部長 高橋部長、牟田医長
		看 護 部	元嶋看護部長
		診療協力部門	
事 務 部 他	古田経理課長、医事課：入院係、外来係等 30 名		
会 議		毎月、最終水曜日に開催	
活 動 内 容		<p>毎月、副院長を交え査定の状況を報告し、査定が減少する対策を講じるため、検討会を実施しています。</p> <p>毎月支払基金・国保連合会から通知される減点連絡書により、査定状況表・査定項目集計表等を医事課職員が月当番で作成し、それを元に協議しています。</p> <p>入院係は各担当診療科、外来係は診療区分ごとの担当グループに分かれ、各査定の理由、再審査、対策等を各診療科部長と相談し、検討会で発表します。再審査の判断や注意事項を今後の査定対策として、業務に生かすように行っています。</p>	



## ◆法定関係

### ○がん診療連絡委員会

構 成 人 員	委 員 長		内山明彦 (副院長)
	副 委 員 長		水島 明 (副院長)、牟田 毅 (内科)、高田由美子 (9南病棟)
	メン バー	診 療 部	多治見 司 (院長:オブザーバー)・山本英雄 (副院長:オブザーバー)・小池浩次 (耳鼻咽喉科)・笹栗毅和 (臨床病理検査科)・中村勝也 (外科)・小川亮介 (内科)・一木康則 (内科)・原田大志 (内科)・今村 秀 (外科)・衛藤貴子 (産婦人科)・渥美和重 (放射線科)・宮嶋公貴 (放射線科)
		看 護 部	元嶋文恵 (看護部長)・尾野肖子 (看護部)・宮原寛子 (医療支援部)・後藤芳子 (7北病棟)・近藤恵子 (9南病棟)・三好典子 (医療支援部)
		診療協力部門	伊藤浩司 (医療情報部)・末松文博 (薬剤部)・桑村恒夫 (薬剤部)・瀧口雅晴 (診療放射線)・奥 蘭 学 (臨床検査技師)・峯 修平 (医療支援部)
事 務 部 他		三島俊彦 (事務部長)・島田正行 (総務企画課)・古田 彰 (経理課)・安達 信 (医事課)・家根 茂 (総務企画課)・山脇敏恵 (医療情報部)	
会 議			
活 動 内 容			<p>定例会議：奇数月第2水曜日 平成29年5月10日(水)、7月12日(水)、9月13日(水)、11月8日(水) 平成30年1月10日(水)、3月14日(水)</p> <p><b>【定例報告】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がん治療 (がん治療部) 部会報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>┌ キャンサーボードの状況</li> <li>├ 外来化学療法の状況</li> <li>└ 放射線治療の状況</li> </ul> </li> <li>・がん登録部会報告</li> <li>・地域連携・がん相談支援センター報告</li> <li>・緩和ケア病棟報告</li> <li>・がんサポートチーム報告</li> <li>・緩和ケア外来報告</li> <li>・がん看護外来報告</li> </ul> <p><b>【決定事項・協議内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2015年度全国集計へのデータ提出について承認</li> </ul>

## ◆法定関係

### ○がん治療部会

構 成 人 員	委 員 長		内山明彦
	副 委 員 長		牟田 毅、高田由美子、渥美和重、近藤恵子
	メン バー	診 療 部	原野正彦、中村勝也、衛藤貴子、小池浩次、梅田修洋、牧山明資 笹栗毅和、川本雅彦、一木康則、小川亮介
		看 護 部	友田恭子・宮原留美
		診療協力部門	桑村恒夫
事 務 部 他		石田真由美	
会 議			年 1 回開催
活 動 内 容			<p>がん診療および腫瘍カンファレンスの充実と、がん診療に附帯する関係業務の円滑な運営を図ることを目的とし、がん治療(手術・化学療法・放射線治療など)に関すること、腫瘍カンファレンス(カンサーボード)に関すること、その他「がん」にかかる部会が決定した業務について所掌する。</p> <p>開催日：平成 29 年 12 月 22 日(金) 17:30～18:00</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 腫瘍カンファレンスについて</li> <li>2. 化学療法同意書について</li> <li>3. 治療前、治療中の結核患者のチェックについて</li> <li>4. がん疼痛緩和指導料 1 について</li> </ol> <p>カンサーボード</p> <p>第 25 回 平成 29 年 7 月 5 日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・喉頭癌治療後に拒食行動に陥った高齢者の 1 例</li> <li>・異所性粘膜に合併し、存在診断・範囲診断が困難であった早期胃がんの 2 例</li> </ul> <p>第 26 回 平成 29 年 11 月 1 日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中枢神経系原発のリンパ腫様肉芽腫症の 1 例</li> <li>・間質性肺炎安定期に肺大細胞癌を発症し、キイトルーダ投与で間質性肺炎増悪をきたした 1 例</li> </ul> <p>第 27 回 平成 30 年 3 月 7 日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・抗 NMDA 受容体脳炎を併発し、人工呼吸器管理下に化学療法を開始した卵巣未熟奇形主の 1 例</li> <li>・腎腫瘍・肺腫瘍を合併した進行性乳癌の診断・治療ストラテジー</li> </ul>



## ◆法定関係

## ○がん診療連絡委員会 - がん患者等ケア検討部会

構 成 人 員	委員 長	内山明彦	
	副 委 員 長	今村 秀 (外科医長) 村上聡一郎 (外科) 宮原寛子 (医療支援部看護師長) 高田由美子 (9 南病棟看護師長) 近藤恵子 (9 南病棟看護師)	
	メン バー	診 療 部	原野正彦 (泌尿器部長) 梅田修洋 (外科医長) 一木康則 (内科医長) 牟田 毅 (内科医長) 衛藤貴子 (産婦人科医長) 平野 元 (内科) 天津透彦 (精神科)
		看 護 部	尾野 肖子 (看護部看護師長)
		診療協力部門	居塚 しのぶ (薬剤部主任薬剤師) 三輪 真紀子 (栄養部副栄養管理室長) 三好 典子 (医療支援部看護師) 瀬川 明美 (臨床心理室心理療法士) 峯 修平 (医療支援部医療社会事業専門員) 豊田 笑子 (リハビリ室理学療法士)
		事 務 部 他	進藤 美舟 (9 南病棟副看護師長)
会 議	年に 2 回開催		
活 動 内 容	毎週火曜日、9 南病棟・がんサポートチーム回診後にミーティングをもち、がん患者等ケア検討部会で報告する。  議題 1. がん患者等ケア検討部会活動指針について 2. 9 南病棟・がんサポートチーム・緩和ケア外来・がん看護外来・がん相談支援センターの活動状況の把握と分析 3. 対策の検討・評価 4. 緩和ケアに関する各部署との連携・協力体制の確認 5. 緩和ケアに関する啓蒙・リソースの整備 ・緩和ケアマニュアルの整備 ・症状緩和マニュアルの整備 ・苦痛スクリーニングの周知・拡大 ・緩和ケアの質の向上への取り組み 6. 教育活動 ・医師のための緩和ケア研修会開催と評価 7. リンクナースの育成・支援		

## ◆法定関係

### ○移植委員会

構 成 人 員	委員 長	上村哲郎	
	副 委 員 長	小川亮介、今本尚之、藤澤公彦、武下宣子	
	メン バ ー	診 療 部	立石貴久、青木健一、芳野博臣
		看 護 部	木本妙子、久保由美子
		診療協力部門	末松文博、田中隆一
事 務 部 他		鳥田正行、山崎和樹、平島望美、佐竹優子	
会 議		移植委員会 年 2 回開催	
活 動 内 容		<p>移植の実際にあたり、その適正な運営と推進を図り、最適の医療の提供と健全経営に貢献する。</p> <p>委員会は移植の適正な運営と推進のために、以下の事項を審議する。</p> <p>①移植の現状の定期報告 ②問題点の検証と対策 ③目的達成のために必要な事項</p> <p>平成 29 年度は以下の内容について、平成 29 年 5 月 31 日と平成 30 年 2 月 27 日の 2 回開催した。</p> <p>①移植症例報告 ②骨髄バンクコーディネート近況報告 ③問題点提起と改善策の提示 ④角膜移植について</p> <p>また、当院における脳死下臓器提供体制の整備について、平成 27 年 10 月 30 日に臨時委員会を開催した。</p>	

委員会活動

◆法定関係

○医学倫理委員会

構 成 人 員	委員 長	多治見 司	
	副 委 員 長	水島 明、内山明彦、山本英雄、上村哲郎	
	メン バ ー	診 療 部	高橋保彦、中原博正、毛利正博、笹栗毅和、茅島顕治、難波江俊永、一木康則、立石貴久
		看 護 部	元嶋文恵、二見美喜子、松隈眞紀子
		診療協力部門	末松文博、奥菌学
	事 務 部 他	尾倉洋文、正木文久、垣内龍介、三島俊彦、島田正行、安達信、古田彰、家根 茂	
会 議		委員会開催数：11 回 / 年 31 申請 新技術 5 申請	
活 動 内 容		<p>新技術申請</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「新 15」：早期子宮体がんに対する腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術</li> <li>・「新 16」：THA（人工股関節全置換術）脱臼肢位での腰椎と骨盤傾斜角の相関について</li> <li>・「新 17」：皮下植込み型除細動器植込み</li> <li>・「新 18」：リードスペースメーカー植込み</li> <li>・「新 19」：心房細動カテーテルアブレーションでの SATAKE-HotBalloon の使用</li> </ul> <p>一般申請</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未治療多発性骨髄腫に対する新規薬剤を用いた寛解導入療法、自家末梢血幹細胞移植、地固め・維持療法の有効性と安全性を確認する第Ⅱ相臨床試験 -JSCTMM16-</li> <li>・非弁膜症性心房細動を有する後期高齢者を対象とした前向き観察研究～ All Nippon AF In Elderly ANAFIE study（企業主導臨床研究）</li> <li>・眼局所における組織プラスミノゲンアクチベーター（tissue plasminogen activator：t-PA）を用いた線溶療法</li> <li>・既治療の進行・再発非小細胞肺癌に対するドセタキセルと nab- パクリタキセルのランダム化比較第Ⅲ相試験</li> <li>・転移性非扁平上皮非小細胞肺癌を対象としたオシメルチニブ単剤療法とオシメルチニブ/カルボプラチン/ペメトレキセド療法の無作為化非盲検第Ⅱ相試験</li> <li>・骨髄破壊的前処置による移植後シンクロホスファミドを用いた血縁者間 HLA 半合致移植後における併用免疫抑制剤の減量および早期中止の多施設共同第Ⅱ相試験 -JSCT Haplo17 MAC-</li> <li>・骨髄破壊的前処置による移植後シンクロホスファミドを用いた血縁者間 HLA 半合致移植後における併用免疫抑制剤の減量および早期中止の多施設共同第Ⅱ相試験 -JSCT Haplo17 RIC-</li> <li>・重症型原発性アルドステロン症の診療の質向上に資するエビデンス構築</li> <li>・切除不能進行・再発大腸がん初回化学療法例に対する FOLFORI+ramucirumab 療法と FOLFOXIRI+ramucirumab 療法のランダム化第Ⅱ相試験 (WJOG9216G ver.2.0)</li> <li>・RAS 野生型進行大腸癌患者における FOLFOXIRI+ セツキマブと FOLFOXIRI+ ベバシマブの最大腫瘍縮小率 (DpR) を検討する無作為化第Ⅱ相臨床試験 (JACCO CC-13 Ver.1.0)</li> <li>・RAS 野生型進行大腸癌患者における FOLFOXIRI+ セツキマブと FOLFOXIRI+ ベバシマブの最大腫瘍縮小率 (DpR) を検討する無作為化第Ⅱ相臨床試験における</li> </ul>	



## 活動内容

- ・バイオマーカー研究 (JACCRO CC-13AR Ver.1.0)
- ・Omegaven (オメガベン) 精製魚油
- ・移植非適応多発性骨髄腫患者に対するレナリドミドーデキサメタゾン (Rd) 療法に効果不十分の症例に対しボルテゾミブを追加するレスポンスガイドセラピーの有用性と安全性
- ・脳転移 (放射線未治療) のある T790M 陽性非小細胞肺癌に対するオシメルチニブの第Ⅱ相試験
- ・マルチカラー・フローサイトメトリーを使用した MGUS およびくすぶり型骨髄腫からの多発性骨髄腫発症の危険予知マーカーの探索
- ・高齢者進行・再発胃癌に対する 1 次治療としての S-1+ ラムシルマブ療法の実施共同第Ⅱ相試験 (KSCC1701 ver.1.0)
- ・特発性肺線維症合併進行非小細胞肺癌に対するカルボプラチン+ nab- パクリタキセル+ ニンテダニブ療法とカルボプラチン+ nab- パクリタキセル療法のランダム化第Ⅱ相試験
- ・FOLFOX plus panitumumab による 1 次治療抵抗または不耐となった RAS wild-type、切除不能進行・再発大腸癌に対する 2 次治療としての FOLFIRI plus panitumumab 療法の有効性に関する他施設共同第Ⅱ相試験 - Liquid Biopsy によるバイオマーカー発現の変化と抗腫瘍効果についての検討 - (PBPstudy ver.2.0)
- ・切除不能進行再発大腸癌の 2 次治療患者を対象とした fluoropyrimidine+irinotecan +bevacizumab 療法と trifluridine/tipiracil+bevacizumab 療法のランダム化比較第 2/3 相試験 (TRUSTY)
- ・未治療高齢者多発性骨髄腫に対する新規薬剤を用いた寛解導入療法、自家末梢血幹細胞 移植、地固め・維持療法の有効性と安全性を確認する第Ⅱ相臨床試験 - FB-MTG EMM17 -
- ・抗 EGFR 抗体に不応となった RAS 野生型の切除不能・進行再発結腸 / 直腸癌を対象とした TAS-102+ セツキシマブ療法の有効性・安全性の検討 (臨床第Ⅱ相試験) (WJOG8916G ver.1.00)
- ・抗 EGFR 抗体に不応となった RAS 野生型の切除不能・進行再発結腸 / 直腸癌を対象とした TAS-102+ セツキシマブ療法の有効性・安全性の検討 (臨床第Ⅱ相試験) 付随研究 (WJOG8916GTRver.1.00)
- ・標準化学療法に不応・不耐な切除不能・再発結腸・直腸癌患者を対象とした biweekly TAS-102 と Bevacizumab の同時併用療法に関する第Ⅱ相臨床試験 (BITS study ver.1.1)
- ・切除不能進行・再発大腸癌患者の二次治療におけるベバシズマブ併用療法とラムシルマブ併用療法の安全性・有効性を比較・検討する観察研究 (大腸癌 2 次治療観察研究 ver.1.0)
- ・第 3 世代 EGFR-TKI (オシメルチニブ) の耐性機序にかかわるバイオマーカー探索に関する研究
- ・RET 融合遺伝子等の低頻度の遺伝子変化陽性肺癌の臨床病理学的、分子生物学的特徴を明らかにするための前向き観察研究
- ・悪性腫瘍の病態、治療抵抗性に関連する免疫担当細胞の解明 (ver.4.0)
- ・高齢者化学療法未施行 III B/ IV 期扁平上皮癌に対する nab-paclitaxel+carboplatin 併用療法と Docetaxel 単剤療法のランダム化第Ⅲ相試験
- ・日本人新生児を対象とした脊髄性筋萎縮症マス・スクリーニングのパイロット研究: SMN1 遺伝子欠失の検出を目的とした新しいマス・スクリーニングシステムの確立
- ・標準化学療法に不応・不耐な切除不能・再発大腸癌患者に対する TFTD (ロンサーフ®) +Bevacizumab 併用療法の RAS 遺伝子変異有無別の有効性と安全性を確認する第Ⅱ相臨床試験 (JFMC51-1702-C7) (プロトコル ver.1.2、説明同意文書 ver.1.1)
- ・レパーサ® 皮下注 特定使用成績調査 (長期使用) [プロトコル No.RPA001]

委員会活動

活 動 内 容

迅速 55 申請

- ・ロタウイルスワクチン接種開始後の軽症下痢に伴うけいれんによる小児入院例数および臨床的特徴の変化の検討
- ・女性中堅看護師の職業性ストレスへの対処に及ぼすヒーリングタッチの影響 - 準実験デザインによるチャクラコネクションを用いて -
- ・EGFR 遺伝子変異型非小細胞肺癌における血中ヘレグリン値と EGFR チロシinkinase 阻害剤の抗腫瘍効果の関係に関する後方視的研究
- ・超音波長軸像を利用した小児における気管チューブカフ位置の確認
- ・1 型糖尿病患者の就職にまつわる体験
- ・前処置法としてコロフォートをを用いた大腸 CT 検査の導入
- ・胎児期発症心筋症の臨床像に関する全国調査
- ・本邦小児におけるカンデサルタン シレキセチルの使用実態調査
- ・手術患者における禁煙の調査
- ・日本における頭頸部癌悪性腫瘍登録事業の実施
- ・乳癌患者へのアナストロゾール療法における服薬アドヒアランス評価
- ・多発性骨髄腫患者におけるカルフィルゾミブ治療後の心血管合併症および心電図異常についての後方視的検討 (多施設共同研究)
- ・自家末梢血幹細胞移植施行多発性骨髄腫におけるマルチパラメーターフローサイトメトリーによる微小残存病変の検出法の確立: 次世代シーケンサー法との比較検討
- ・心不全患者における自律神経機能評価の有用性検討
- ・福岡県における母体搬送患者の状況調査 (他施設共同研究)
- ・睡眠時無呼吸症候群患者の重症度と最終糖化物質量の関連性
- ・当院の Open ICU に関する調査
- ・ロンサーフ (TFTD) 使用症例の後ろ向き観察 (コホート) 研究 (JFMC50-1701-C6 ver.1.1)
- ・喉頭気管超音波軸像による頸部伸展前後の小児用気管内チューブカフ位置の評価
- ・後天性慢性赤芽球癆における免疫抑制療法と予後追跡調査  
後発性造血障害赤芽球癆コホート調査 (PRCA2016)
- ・集中治療室の処置および安静に適する照度の調査
- ・福岡腹膜透析データベース研究
- ・本邦集中治療室における早期リハビリテーション実施に関する横断研究
- ・障がいを持つ小児の家庭における保護者の就業状況の調査
- ・医療的ケアが必要な患者の災害時の準備に関する調査
- ・糖尿病患者におけるアルコールについての実態調査
- ・看護師のモチベーション維持、勤務継続意思に影響を及ぼす要因の検討
- ・切除不能大腸がん患者の複合的 unpleasant symptom と療養生活に関する質的記述的研究
- ・パートナーとの関係性や性の問題に対する支援方法に関する研究—性相談における療会的  
会話の抽出—
- ・北九州市の小児救急医療に対する保護者の意識調査
- ・18トリソミーの予後調査
- ・Fontan 手術の遠隔期の予後に及ぼす因子についての研究
- ・当院における手術室稼働数と手術収入の関係
- ・カテーテルアブレーション症例全例登録プロジェクト (J-AB レジストリ)
- ・切除不能・再発膀胱癌に対するゲムシタビン+ナブパクリタキセル療法および FOLFIRI-NOX 療法に関する多施設共同後方視的研究 (NAPOLEON ver.1.0)
- ・新生児低体温療法レジストリによる我が国の新生児蘇生法がドラインの普及と効果の評価



## 委員会活動

<p>活 動 内 容</p>	<p>に関する研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レセプト及び DPC データを用いた心疾患における医療の質に関する研究</li> <li>・初回自家移植後の再発難治性の多発骨髄腫に対するサルベージ目的の自家移植の成績を明らかにする。</li> <li>・手術前に喫煙中であった患者の術後喫煙状態調査</li> <li>・より安全な人工呼吸を目的とした輪状甲状腺の解剖に関する調査</li> <li>・ALK 陽性肺癌に関するレトロスペクティブ研究～ ALK 陽性肺癌に対するクリゾチニブ後にアレクチニブを投与する治療シーケンスの臨床効果の他施設共同後ろ向き研究</li> <li>・急性心筋梗塞患者の外来心臓リハビリテーション参加が心血管イベントに及ぼす影響の検討</li> <li>・造血幹細胞移植時に発症するシクロフォスファミド関連心臓合併症の後方視的研究</li> <li>・多発性骨髄腫に対する自家末梢血幹細胞移植を伴った大量メルファラン療法後二次発がんに関する検討 後方視的研究</li> <li>・レストレスレッグス症候群で生じる知覚・運動症状へのツボ刺激治療の効果観察</li> <li>・北九州市における加齢黄斑変性の治療の病診連携</li> <li>・心肺停止患者を対象とした使用薬剤の長期予後への寄与についての研究</li> <li>・妊娠 7 週 卵巣未熟奇形腫 (Grade3)、辺縁系脳炎 (抗 NMDA 受容体関連脳炎の疑い)</li> <li>・プロスタグランジン / <math>\beta</math> 遮断薬配合点眼液による単回点眼の視神経乳頭血流の及ぼす影響</li> <li>・入退院を繰り返す慢性心疾患 患児への他病棟における保育実践</li> <li>・進行非小細胞肺癌に対する PD-1 阻害薬投与後の化学療法の有効性や安全性を検討する後方視的多施設研究 (WJOG10217L)</li> <li>・座位心拍数と臥位心拍数の違いと高血圧発症リスク</li> <li>・座位心拍数と臥位心拍数の違いとその臨床的意義</li> <li>・手術室見学学習における学び</li> <li>・再発危険因子を有するハイリスク Stage II 結腸がん治癒切除例に対する術後補助化学療法としての mFOLFOX6 療法または XELOX 療法の至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験 ACHIEVE-2 Trial (JFMC48-1301-C4) (Ver.1.3)</li> </ul>
----------------	--

委員会活動

◆業務関係

○集中治療室等運営委員会

構 成 人 員	委 員 長		内山明彦
	副 委 員 長		落合由恵、毛利正博、松浦洋子
	メン バ ー	診 療 部	徳永滋彦、今本尚之、田村恭久、立石貴久、高橋保彦、 山本順子、茅島顕治、原田大志、
		看 護 部	木本妙子、松隈真紀子、古賀美砂紀、松山美佐紀、麻生真智子、 白石明子、細川知子
		診療協力部門	瀧口雅晴、濱本英治、松村孝志、小倉秀美
事 務 部 他		三島俊彦、家根 茂、安達 信	
会 議			毎月第 2 木曜日 8:00 ~ 8:30 大会議室にて実施
活 動 内 容			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 8月を除く11回、ICU・NICU・GCU・6S救急室・HCUにおける定例報告とインシ デント報告</li> <li>2. MEによる人工呼吸器管理報告</li> <li>3. 関連部署における検討事項が発生した場合、委員長の判断により議題として検討</li> </ol>



## ◆業務関係

## ○手術室運営委員会

構 成 人 員	委員 長	内山明彦 (副病院長)	
	副 委 員 長	茅島顕治 (麻酔科)・池田浩子 (手術室)	
	メン バ ー	診 療 部	水島 明 (副病院長)・山本英雄 (副病院長)・上村哲郎 (副病院長) 土屋邦喜 (整形外科)・徳永滋彦 (心臓血管外科)・川本雅彦 (外科) 難波江俊永 (外科)・一木康則 (内科)・伊野波論 (脳神経外科) 毛利正博 (循環器科)・原野正彦 (泌尿器科)・宗内 淳 (小児科) 中原博正 (産婦人科)・藤澤公彦 (眼科)・宮嶋公貴 (放射線科) 小池浩次 (耳鼻咽喉科)
		看 護 部	木本妙子 (看護部)・松隈真紀子 (医療安全管理室) 松浦洋子 (集中治療室)・和田裕子 (手術室)
		診療協力部門	瀧口雅晴 (放射線室)・奥 蘭 学 (中央検査室) 濱本英治 (臨床工学室)・松本一志 (臨床工学室) 居塚しのぶ (薬剤部)
		事 務 部 他	三島俊彦 (事務局長)・古田 彰 (経理課)・安達信 (医事課) 山本 勇 (総務企画課)・常盤弘欣 (経理課)・藤田美咲 (医事課)
会 議	1 回 / 月 開催 (毎月第 2 火曜日) 8:00 ~		
活 動 内 容	平成 29 年 4 月 11 日、5 月 9 日、6 月 13 日、7 月 11 日、9 月 12 日、10 月 10 日、 11 月 14 日、12 月 12 日、平成 30 年 1 月 9 日、2 月 13 日、3 月 13 日  【定例報告】 ・手術症例数、年齢別分類、急患症例数、時間帯別手術数 ・手術室回復室利用状況 ・インシデント報告 ・バリエーション報告  4 月：定例報告 (3 月分・平成 28 年度年間報告)、 平成 28 年度手術室運用目標評価 5 月：定例報告 (4 月分)、各科の週間手術予定提出について ウォーターレス手指消毒の進捗状況 6 月：定例報告 (5 月分)、新人看護師の独り立ちについて 7 月：定例報告 (6 月分)、手術中の DVD の取扱いについて 9 月：定例報告 (7 月・8 月分) PM・ICD 植え込み患者の対応について 10 月：定例報告 (9 月分)、内視鏡システム録画装置の共有化について 11 月：定例報告 (10 月分)、手術室入室時間の短縮の改善について 12 月：定例報告 (11 月分)、手術室運用の改善活動の報告 (4G) ウォーターレス手指消毒のアンケート調査結果報告 1 月：定例報告 (12 月分)、手術室運用の改善活動の報告 (4G) 2 月：定例報告 (1 月分)、内視鏡システムの一括管理について 手術時間短縮についての活動報告 3 月：定例報告 (2 月分)、4 月からの麻酔医の人員について 手術時間短縮についての活動報告		

委員会活動

◆業務関係

○診療情報提供委員会

構 成 人 員	委員 長		上村哲郎 (副院長)
	副 委 員 長		伊藤浩司 (医療情報部診療部長)
	メン バ ー	診 療 部	水島 明 (副院長)・高橋保彦 (小児科)・中原博正 (産婦人科)・川本雅彦 (外科)・ 牟田 毅 (内科)
		看 護 部	元嶋文恵 (看護部長)・宮原寛子 (医療支援部)・松隈真紀子 (看護部長室)
		診療協力部門	
事 務 部 他		三島俊彦 (事務部長)・島田正行 (総務企画課長)・安達 信 (医事課長)・ 山本 勇 (総務企画課)	
会 議			委員長の必要に応じ開催する。 診療情報の開示申請の都度、委員へ持ち回り決裁する。
活 動 内 容			<p>【インフォームド・コンセントの理念に基づき、患者の求めに対して診療情報を積極的に提供する】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院における診療情報の提供の具体的方策及び実施要項等を定める。</li> <li>・要項等に基づき個々の申請に関して、申請者の適否・提供する診療情報の範囲について審議し、診療情報提供の可否 (提供、一部提供、非提供等) について公平かつ慎重に検討する。</li> <li>・申請書に基づき、該当する診療科の主治医、部長並びに看護師長等に意見を聞く。</li> <li>・委員会で検討した審議事項を踏まえて、委員会としての意見をまとめて院長に諮る。</li> <li>・医師と患者との間の診療情報の提供、診療記録等の開示に関する苦情の受付、処理等を担う。</li> </ul>



## ◆業務関係

## ○広報委員会

構 成 人 員	委員 長	小児科診療部長	高橋保彦	
	副委員 長	副院長 リハビリテーション室 医療支援部	山本英雄 林 秀俊 是永 緑	
	メン バー	診 療 部	外科 外科 内科 総合診療部	梅田修洋 川本雅彦 折口秀樹 酒井賢一郎
		看 護 部	副看護部長	二見美喜子
		診療協力部門	薬剤部 放射線室 医療支援部 栄養管理室 中央検査室	吉国健司 甲斐瑞之 峯 修平 三輪真紀子 酒谷幸雄
事 務 部 他		総務企画課 経理課 院長 (オブザーバー) 副院長 (オブザーバー) 総務企画課 (事務局)	家根 茂 古田 彰 多治見司 水島 明 海野聡美	
会 議		2 回 / 年		
活 動 内 容		<p>ホームページ：一般市民向け及び医療関係者向けの診療最新情報 (2 週間ごとの更新)</p> <p>診療案内誌：医療機関向け、病院診療内容 (スタッフ、治療成績など) の紹介 (年 1 回 7 月発行)</p> <p>診療情報誌：医療機関向けのタイムリーな情報、院外情報 (毎月発行 連携の架橋) (年 4 回発行 メディカルナウ)</p> <p>院内広報：院内のトピックス (毎月発行 風の広場)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルサイネージ運用</li> <li>・外来プラズマディスプレイ</li> </ul>		

## ◆業務関係

### ○外来救急運営部会

構 成 人 員	委員 長	山本英雄 (副院長)	
	副 委 員 長	出雲明彦 (医長)、梁井公輔 (医師) 高橋保彦 (診療部長)、武下宣子 (看護師長)	
	メン バー	診 療 部	水島 明、内山明彦、上村哲郎、土屋邦喜、今本尚之、平賀聖久 牟田 毅、毛利正博、立石貴久、一木康則、菊池 幹
		看 護 部	木本妙子、松浦洋子、古賀美砂紀 松山美佐紀、宮原寛子
		診療協力部門	末松文博 (薬剤部)、瀧口雅晴 (放射線室)、松田裕代 (中央検査室) 松村考志 (臨床工学室) 小倉秀美 (薬剤部)、吉國健司 (薬剤部)
事 務 部 他		古田 彰 (経理課)、安達 信 (医事課)、西田就之 (医事課) 伊地知 法 (医事課)、山本 勇 (総務企画課) 藤田美咲 (医事課)、中村朋代 (医事課)、藤浪瑞香 (医事課) 坂本美香、乾 道子 (外来)	
会 議			
活 動 内 容		<p><b>【目的】</b> 業務改善の推進を通じて独立行政法人 地域医療機能推進機構 九州病院運営の効率化と職員の意欲向上を図り、もって患者等サービスの向上に資することを目的。 外来および救急にかかわるさまざまな問題を討議、解決し、診療における業務の円滑化、健全経営の向上を図る。</p> <p><b>【組織】</b> 診療部門：副院長、診療科部長、診療各科職員 診療協力部門：薬剤部・放射線室・臨床工学室・中央検査室・医療支援部</p> <p>看護部：看護部に所属する職員 事務局：総務企画課・経理課・医事課 外来救急運営部会は上記にあげる部門の職員をもって構成する。</p> <p><b>【29年度の活動目標】</b> 1) 外来・救急の普遍的問題を討議し、当部会内解決できる内容とできない内容を明確にする。 2) 解決できる内容については、速やかに対策を決定し実行する。 3) 解決できない内容については、当部会内の意見を管理会議に提出。</p> <p><b>【29年度定例会議】</b> 4月19日(水)、5月17日(水)、6月21日(水)、7月19日(水)、9月20日(水) 10月18日(水)、11月15日(水)、12月20日(水)、1月17日(水)、2月21日(水) 3月29日(水)</p> <p><b>【29年度活動報告】</b> 総務企画課、救急外来、外来、薬剤部、医療支援部から定例報告を実施。その他に検討事項があれば当部会で検討をする。(以下、検討事項の一部を掲載) ・外来待ち時間調査を実施。問題点の分析を進め、待ち時間の減少を図った。 ・他院での健康診断の結果に対して当院での診療を指示されている患者について、診断結果から4ヶ月以上たった来院については選定療養費を算定することを決定した(患者からのクレームより議論) ・逆紹介やかかりつけ医への報告書が、名称の似た別の医療機関へ誤って送付している事例に対し、名称の似ている医療機関の一覧の作成と、デジタルサイネージと診療会議で注意喚起を行った。</p>	



## ◆業務関係

### ○病棟運営部会

構 成 人 員	部 会 長	内山副院長	
	副 部 会 長	山本副院長 木本副看護部長	
	メン バ ー	診 療 部	土屋部長、徳永部長、原野部長、中原部長、藤澤（公）部長 小池部長、高橋部長、中村（勝）医長、落合医長、立石医長 一木医長、菊池医長、牟田医長
		看 護 部	二見副看護部長、尾野看護師長 各病棟等看護師長 17 名
		診療協力部門	林リハビリテーション士長
事 務 部 他	鳥田総務企画課長、古田経理課長 安達医事課長、伊地知課長補佐（医事）		
オブザーバー		多治見院長、三島事務部長、元嶋看護部長	
会 議			
活 動 内 容		<p>（目 的）</p> <p>地域医療機能推進機構九州病院の入院病床を有効に活用し、診療科別の効率的な配分を行い、健全経営に寄与することを目的とする。</p> <p>部会は次の各号にあげる事項を所掌する。</p> <p>① 科別病床配分の再編検討に関すること。</p> <p>② その他病床管理及び運営に関すること。</p> <p>【平成29年度開催】</p> <p>平成29年12月1日 8：00～8：30</p> <p>議 題 （1）病棟の編成について （2）その他</p>	



## ◆業務関係

### ○内視鏡室運営部会

構 成 人 員	委員 長	藤澤 聖 (内科)	
	副 委 員 長	内山明彦 (副院長)・平賀聖久 (放射線科)	
	メン バ ー	診 療 部	酒井賢一郎 (総合診療部)・川本雅彦 (外科)・原田大志 (内科) 難波江俊永 (外科)・ 上平幸史 (内科)
		看 護 部	木本妙子 (看護部長室)・松隈真紀子 (看護部長室) 古賀美砂紀 (特殊外来)・後藤貴子 (特殊外来)
		診療協力部門	濱本英治 (臨床工学室)・松本一志 (臨床工学室) 長富有樹 (臨床工学室)・矢川結香 (薬剤部)
	事 務 部 他	家根 茂 (総務企画課)	
会 議		1 回 / 月開催 (毎月第 1 火曜日)	
活 動 内 容		<p>H29 年度 開催日: 4/4、5/2、6/6、7/4、9/5、11/7、12/5、2/6、3/7</p> <p><b>【定例報告】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出張内視鏡件数</li> <li>・宅直呼出し件数</li> <li>・ESD 症例件数・内容</li> <li>・時間外開始の予定症例件数・内容</li> <li>・鎮静剤使用患者数・内容</li> <li>・外来内視鏡患者の待ち時間について</li> <li>・高周波機器 (VIO) の待ち時間について</li> <li>・臨床工学技師より機器故障・修理状況</li> <li>・バリエーション件数・詳細</li> </ul> <p><b>【検討・決定・報告事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4 月: 平成 28 年度 まとめ</li> <li>・ 6 月: 麻生飯塚病院 内視鏡センターへの施設見学報告</li> <li>・ 9 月: インシデント事例についての報告・検討</li> <li>・ 11 月: 職員健診 (上部消化管検査) の運用について 消化器内視鏡技師学会での発表報告</li> <li>・ 12 月: 現在の内視鏡室の問題点について</li> <li>・ 2 月: 職員健診 (上部消化管検査) の報告・問題点</li> <li>・ 3 月: OPR での長時間 ESD の報告</li> </ul>	

## ◆業務関係

### ○透析室運営部会

構 成 人 員	委 員 長		田村恭久 (腎臓内科)
	副 委 員 長		日高ひとみ (外来)
	メ ン バ ー	診 療 部	山本英雄 (副院長)
		看 護 部	木本妙子 (副看護部長)・武下宣子 (外来) 武富須磨子 (8南病棟)・松岡絵美子 (5南病棟) 細川知子 (集中治療室)・清末寿美 (外来)
診療協力部門		三輪真紀子 (栄養部)・野村公子 (薬剤部) 濱本英治・谷政範 (臨床工学室)	
会 議			1回 / 月 開催 (毎月第3or 4木曜日) 16時00分～
活 動 内 容			<p>平成 29 年 7 月 27 日 (木)、12 月 28 日 (木)、 平成 30 年 1 月 25 日 (木)、2 月 22 日 (木)、3 月 29 日 (木)</p> <p>7 月: 血液透析室 平成 28 年度報告 平成 29 年度 4・5・6 月報告 CAPD 外来診療の移行準備</p> <p>12 月: 血液透析室 平成 29 年度 7・8・9・10・11 月報告 血液透析室にて、CAPD 外来の診療開始</p> <p>1 月: 血液透析室 平成 29 年度 12 月報告</p> <p>2 月: 血液透析室 平成 29 年度 1 月報告 透析中の昼食摂取について検討</p> <p>3 月: 血液透析室 平成 29 年度 2 月報告 シンシデント報告・対策検討 CAPD 診療日 (金曜日) 以外の外来対応方法を検討</p> <p>【平成 29 年度 血液透析室 年間計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入院透析患者の情報共有方法を構築し、病棟との連携を深めて、安全な透析治療が行える。</li> <li>・自己血採血の新システムを構築し、一般外来の協力を得て安全に実施できる。</li> <li>・CAPD 外来の新システムを構築し、内科外来での診療からスムーズに移行できる。</li> </ul>

委員会活動

◆業務関係

○画像センター運営部会

構 成 人 員	部 会 長		宮嶋公貴 (放射線科)
	副 部 会 長		瀧口雅晴 (放射線室)
	メン バ ー	診 療 部	内山明彦 (副院長)・山本英雄 (副院長)・酒井賢一郎 (総合診療部)・渥美和重 (放射線科)・宗内 淳 (小児科)・今本尚之 (脳神経外科)
		看 護 部	木本妙子 (副看護部長)・古賀美砂紀 (特殊外来)
		診療協力部門	安川浩介 (放射線室)・白石政弘 (放射線室)
		事 務 部 他	山本 勇 (総務企画課)
会 議			4回/年 開催 (1・4・7・10)
活 動 内 容			<p>議題</p> <p>定例報告 (画像センターにおける検査・治療症例数報告)</p> <p>バリエーション報告</p> <p>その他、インシデント、他院における事故事例報告等</p>



## ◆業務関係

## ○改善活動連絡委員会 - クリティカルパス部会

構 成 人 員	委員 長	山本英雄 (副院長)	
	副 委 員 長	松山美佐紀 (6 南師長)	
	メン バー	診 療 部	内山明彦 (オブザーバー)、水島明 (オブザーバー) 梁井公輔、中原博正、山本順子、原野正彦、一木康則、平賀聖久、落合由恵、 青木健一、上平幸史、立石貴久、渡邊まみ江
		看 護 部	尾野肖子、宮原寛子、本田久美、山田弥生、白石明子、片山朋子、平方多美子、 山下 梢、山際みゆき、蔵本 潤、瓜生麻里子、福田佳那子、森田久美子、上田知穂、 伊東典子、加藤真由美、岡本芽衣子、若島里昂、阿部淳子、井上千恵美、水橋麻衣子、 藤本いずみ、宮原留美
		診療協力部門	林秀俊、藤村弥生、石田真由美、坂本悦子、村田真知子、十時浩二、三輪真紀子
事 務 部 他	中村朋代、藤浪瑞香		
会 議		1 回 / 月 第 1 月曜日 17 時 30 分～	
活 動 内 容		<p>【定例会議】 平成 28 年 4 月 3 日 (月)、6 月 5 日 (月)、7 月 3 日 (月) 9 月 4 日 (月)、10 月 2 日 (火)、11 月 6 日 (月)、12 月 4 日 (月) 平成 29 年 1 月 15 日 (月)、2 月 5 日 (月)、3 月 5 日 (月)</p> <p>【議題】 効率的なパスの検討 4 月 8 南：橈骨遠位端骨折後抜釘パス 6 月 平成 28 年度の目標決定 7 月 6 南：乳腺手術パス 9 月 6 北：HOT 導入パス 10 月 8 北：慢性硬膜下血腫当日 OP 用パス 11 月 7 北：発表練習 12 月 8 南：【骨密度】大腿骨近位部骨折パス 1 月 5 北：心臓カテーテルパス 2 月 5 南：ロボット支援腹腔鏡下根治的摘除術パス 7 北：R-トレアキシン療法パス 3 月 9 北：扁桃摘出パス</p> <p>【パス大会】 &lt; 演題 &gt; 8 南：TKA パス 6 南：乳癌手術パス 整形外科：大腿骨近位部骨折統一カルテの導入 ICU：AMI パス (ステージ 1～3)</p> <p>&lt; 教育講演 &gt; DPC とパス (医事課・中村) パスを作成するときのポイント (リハビリ室・林技士長)</p>	

委員会活動

◆業務関係

○改善活動連絡委員会 - TQM推進部会

構 成 人 員	部 会 長	宮田健二 (健康診断部診療部長)	
	副 部 会 長	後藤芳子 (7北病棟)	
	メン バ ー	診 療 部	内山明彦 (副院長、オブザーバー) 後藤貴子 (産婦人科) 横田千恵 (小児科) 牧角健司 (放射線科) 鬼塚健 (健康診断部)
		看 護 部	尾野肖子 (看護部長室) 村瀬恭子 (4南病棟) 早田真由美 (4南病棟) 古賀裕子 (4北病棟) 白石由紀 (5南病棟) 古賀和代 (5南病棟) 有田麻美 (5北病棟) 守田純子 (6南病棟) 磯本知恵 (6北病棟) 岡本育美 (7南病棟) 守田知恵 (7北病棟) 栗永沙季 (8南病棟) 村上貴子 (8北病棟) 柳田 茜 (8北病棟) 高田由美子 (9南病棟) 村上美代子 (9北病棟) 久目形好子 (9南病棟) 藤田 絢 (集中治療室) 麻生眞智子 (新生児集中治療室) 平田優香 (特殊外来) 奥 哲代 (手術室) 白石雅世 (外来)
		診療協力部門	矢川結香 (薬剤部) 秋吉尚雄 (薬剤部) 川崎直正 (放射線室) 日野祥吾 (放射線室) 石田真由美 (放射線室) 濱本英治 (臨床工学室) 松本一志 (臨床工学室) 芳賀由美 (中央検査室) 古野和美 (中央検査室) 畚野陽子 (中央検査室) 高永康弘 (リハビリテーション室) 十時浩二 (リハビリテーション室) 三輪真紀子 (栄養部)
事 務 部 他		山本 勇 (総務企画課) 中村祐己 (総務企画課)	
	会 議	1回/月 第2月曜日 17時30分～	
	活 動 内 容	<p><b>【目 的】</b> TQM活動を病院全体の活動として展開し、職員全員の問題解決能力を高め、快適で安全な環境で業務を行うための思考を培い、病院全体の医療の質向上を実現させ、患者サービスの向上に資することを目的とする。</p> <p><b>【定例会議】</b> 平成 29 年 05 月 08 日 (月), 平成 29 年 06 月 12 日 (月), 平成 29 年 07 月 10 日 (月) 平成 29 年 09 月 11 日 (月), 平成 29 年 10 月 10 日 (火), 平成 29 年 11 月 13 日 (月) 平成 29 年 12 月 11 日 (月), 平成 30 年 01 月 09 日 (火), 平成 30 年 02 月 13 日 (火)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容の進捗状況報告</li> <li>・活動サークルの補助、教育</li> <li>・発表大会等の催物の企画・運営</li> </ul> <p><b>【活動サークル】</b> ・ICU ・NICU ・4北病棟 ・7南病棟 ・7北病棟 ・8北病棟 ・特殊外来 ・放射線室 ・リハビリテーション室</p> <p><b>【第12回TQMキックオフ大会】</b> 平成 29 年 06 月 20 日 (火) 17 時 30 分～ 別館 4 階 講堂</p> <p><b>【第12回TQM発表大会】</b> 平成 30 年 01 月 24 日 (水) 17 時 30 分～ 別館 4 階 講堂 最優秀賞 特殊外来 「転転転送 ～君(あなた)の転送・帰宅は～」 優 秀 賞 8北病棟 「ダメウーマン With J」 優 秀 賞 リハビリテーション室 「コピー用紙の発注減らし隊」</p> <p><b>【院外発表大会】</b> 第11回TQM発表大会成績上位サークルが参加 ◎医療のTQM推進協議会 第19回フォーラム「医療の改善活動」全国大会 平成 29 年 11 月 17 日 (金)・18 日 (土) (松山市総合コミュニティーセンター) 特殊外来 「ナースのお仕事!!」</p>	



## ◆業務関係

## ○医療情報システム委員会

構 成 人 員	委員 長	水島 明 (副院長)	
	副 委 員 長	伊藤浩司 (医療情報部長)	
	メン バ ー	診 療 部	内山明彦 (副院長)、山本英雄 (副院長)、上村哲郎 (副院長)、茅島顕治 (麻酔科)、宮嶋公貴 (放射線科)、川本雅彦 (外科)、毛利正博 (循環器科)、宮田健二 (健康診断部)、高橋保彦 (小児科)、原野正彦 (泌尿器科)、衛藤貴子 (産婦人科)、 オブザーバー: 多治見司 (院長)
		看 護 部	元嶋文恵 (看護部長室)、二見美喜子 (看護部長室)、松山美佐紀 (6階南病棟)、宮原寛子 (医療支援部)、片山朋子 (7階北病棟)
		診療協力部門	末松文博 (薬剤部)、瀧口 雅晴 (放射線室)、奥菌学 (中央検査室)、林秀俊 (リハビリテーション室)、濱本英治 (臨床工学室)、三輪真紀子 (栄養部)、桑村恒夫 (薬剤部)
事 務 部 他	鳥田正行 (総務企画課)、西田就之 (総務企画課)、古田彰 (経理課)、安達信 (医事課)、伊地知法 (医事課)、石橋寛明 (医事課)、 オブザーバー: 家根茂 (総務企画課)、事務局: 村井真臣 (医療情報部)		
会 議		原則として隔月1回の定例会を開催 第4火曜日 8:00~	
活 動 内 容		<p>【地域医療機能推進機構九州病院における最適の医療情報システムを構築し、安定的かつ適切な運用維持に関すること】</p> <p>①医療情報システムの検討及び研究に関すること ②医療情報の管理・運用に関すること ③医療情報の適切な運用にかかる職員教育に関すること ④医療情報システムの構築にかかる提言に関すること ⑤個人情報保護に関すること ⑥医療情報システムの危機管理に関すること ⑦医療情報システムの分析に関すること</p> <p>2017年4月25日 大会議室 定例報告、システム利用不能時の運用変更について、電子カルテ更新後の状況について、JCHO院有端末台数確認作業について、電子カルテヘルプデスク開設について、電子カルテ端末へのUSB接続について</p> <p>2017年6月27日 大会議室 定例報告、システム更新後状況について、電子カルテ端末接続USBメモリー運用について、インターネット利用認証システムハードメンテナンス実施について、電子カルテ用プリンターナーの仕様変更について</p> <p>2017年8月22日 大会議室 システム更新後状況について、電子カルテ端末接続USBメモリー運用について、他院預かり画像の他院提供について、医療情報システム定期再起動について、プリンターナー、コピー用紙について</p> <p>2017年10月24日 大会議室 定例報告、電子カルテ更新後の状況について、平成 30年度 器械備品購入申請について (医療情報部申請分)、院有端末からのインターネット利用について</p>	



委員会活動

<p>活 動 内 容</p>	<p>2017年11月28日 大会議室 定例報告、電子カルテ更新後の状況について、預り情報「直近画像」画像の一時保管について、本部対応について、医療情報システムサーバ再起動について</p> <p>2018年1月23日 大会議室 定例報告、電子カルテ更新後の状況について、医療情報システムサーバ再起動について、医療情報部システム業務委託化について、今年度予定のIT整備について</p> <p>2018年3月27日 大会議室 電子カルテ不正閲覧について、電子カルテ更新後の状況について、平成30年度以降のIT整備調達における本部からの指示について、JCHOネット利用端末追加設定作業について、医療情報部体制の変更について</p>
----------------	--



## ◆業務関係

## ○地域包括ケア推進委員会

構 成 人 員	委員 長		水島 明 (副院長)
	副 委 員 長		宮原寛子 (医療支援部室長)
	メン バー	診 療 部	
		看 護 部	元嶋文恵 (看護部長)・尾野肖子 (看護師長) 高田由美子 (看護師長)・谷口由美子 (副看護師長)
		診療協力部門	林秀俊 (リハビリテーション士長) 末松文博 (薬剤部長)・小倉秀美 (主任薬剤師) 三輪真紀子 (副栄養管理室長) 峯修平 (医療社会事業専門員)・吉松朋代 (医療社会事業専門員)
事 務 部 他		家根茂 (総務係長)・藤田美咲 (医事課事務員) 曾我美穂子 (医療支援部事務員)	
会 議			9回/年 開催 16:00～
活 動 内 容			<p>第1回 4月26日(水)      第2回 6月7日(水)      第3回 8月2日(水)  第4回 9月6日(水)      第5回 10月4日(水)      第6回 11月1日(水)  第7回 1月10日(水)      第8回 2月7日(水)      第9回 3月7日(水)</p> <p>【定例報告】  地域連携関連、退院支援関連  ・事例報告      ・退院支援システム  ・退院支援カンファレンス  ・効果的なカンファレンスの方法  ・退院支援スクリーニングシート提出数  ・医療支援部介入数と割合  ・地域連携室 (MSW・退院支援看護師) 介入状況と加算  ・連携施設との面会状況  ・医療機関連携会参加状況</p> <p>各部門関連  ・リハビリ室  ・薬剤部  ・看護部  ・栄養管理室  ・医事課</p> <p>【その他】  ・年度目標  ・健康教室  ・健康フェア  ・メディカルネットワークフォーラム  ・死亡届 届出人のサイン  ・地域連携パス  ・地域包括ケア推進室会議事前アンケート  ・地域医療研修予定</p>

委員会活動

◆教育関係

○教育研修委員会 - 臨床研修管理委員会

構 成 人 員	委員 長	酒井賢一郎 (総合診療部診療部長)	
	副 委 員 長	山本英雄 (副院長)	
	メン バ ー	診 療 部	水島 明 (副院長)・内山明彦 (副院長)・高橋保彦 (小児科)・茅島顕治 (麻酔科) 牟田 毅 (内科)・中原博正 (産婦人科)
		看 護 部	二見美喜子 (看護部長室)・宮原寛子 (医療支援部)
		診療協力部門	
事 務 部 他	藤岡耕太郎 (院外委員)・早川知宏 (院外委員)・三好 (安) (院外委員)・ 鍵山明弘 (院外委員)・西田就久 (総務企画課)		
会 議		1回/年 開催	
活 動 内 容		<p>平成30年3月14日 (水)</p> <p><b>【九州病院に勤務する医師の医学並びに医療技術の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「臨床研修要領に関する内規」に関すること</li> <li>・臨床研修医の募集及び勤務に関すること</li> <li>・研修カリキュラムの作成と実施に関すること</li> <li>・その他臨床研修医に関すること</li> <li>・医学研究の企画運営に関すること</li> <li>・医学研究の刊行物の編集企画に関すること</li> <li>・その他医学研究教育に関すること</li> </ul> <p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016 年度採用臨床研修医の研修終了について</li> <li>・研修終了後の進路について</li> <li>・研修後評価アンケート結果</li> <li>・臨床研修指導医講習会・ワークショップ報告</li> <li>・2017 年度採用臨床研修医の研修状況・予定</li> <li>・2018 年度採用予定臨床研修医</li> <li>・地域医療機能推進機構九州病院医師臨床研修プログラムについて (平成 31 年度実施案)</li> </ul>	



## ◆教育関係

## ○教育研修委員会 - 臨床研修指導者部会

構 成 人 員	委員 長	酒井賢一郎 (総合診療部診療部長)	
	副 委 員 長	山本英雄 (副院長)	
	メン バ ー	診 療 部	内山 明彦 (副院長)・高橋 保彦 (小児科)・牟田 毅 (内科)・一木 康則 (内科)・梅田 修洋 (外科)・茅島 顕治 (麻酔科)・宗内 淳 (小児科)・中原 博正 (産婦人科)・川上 剛史 (産婦人科)
		看 護 部	二見美喜子 (看護部長室)・宮原寛子 (医療支援部)
		診療協力部門	
事 務 部 他	鳥田 正行 (総務企画課)・國重 顕 (総務企画課)		
会 議		4回/年	
活 動 内 容		<p>平成29年7月25日 (火)、8月8日 (火)、8月16日 (水)、平成30年3月7日 (水)</p> <p><b>【臨床研修管理委員会の求めに応じて、検討及び企画・立案を行う】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修プログラムの作成に関すること</li> <li>・研修プログラム相互間の調整に関すること</li> <li>・研修医の採用、中断、修了の際の評価などの臨床研修の実施の管理に関すること</li> <li>・研修医の教育・研修の実施に関すること</li> <li>・その他部会において必要な事項に関すること</li> </ul> <p>7月: ・外科研修期間の変更について ・緩和研修について ・救急研修について ・外科研修短縮に伴う、1年次の研修期間の変更について ・平成 30 年度臨床研修医採用試験について</p> <p>8月: ・平成 30 年度採用臨床研修医採用試験について</p> <p>3月: ・2016 年度採用臨床研修医の研修終了について ・研修終了後の進路について ・研修後評価アンケート結果 ・臨床研修指導医講習会・ワークショップ報告 ・2017 年度採用臨床研修医の研修状況・予定 ・2018 年度採用予定臨床研修医 ・地域医療機能推進機構九州病院医師臨床研修プログラムについて (平成 31 年度実施案)</p>	

委員会活動

◆教育研修関係

○図書部会

構 成 人 員	委員 長	土屋邦喜 (整形外科診療部長)	
	副 委 員 長	伊藤浩司 (医療情報部診療部長)	
	メン バー	診 療 部	水島 明 (副院長)・藤澤 聖 (内科)・中原博正 (産婦人科)・高橋保彦 (小児科)・ 一木康則 (内科)・毛利正博 (循環器科)・小池浩次 (耳鼻咽喉科)・ 菊池 幹 (総合診療部)・山田大輔 (外科)
		看 護 部	尾野肖子 (看護部長室)・宮原寛子 (医療支援部)・高田由美子 (9階南病棟)
		診療協力部門	山脇敏恵 (医療情報部)
事 務 部 他	古田 彰 (経理課)・安達 信 (医事課)・笠 千恵子 (総務企画課)		
会 議		1回/年 開催 (定例会)	
活 動 内 容		<p>平成 29 年 9 月 12 日 (火)</p> <p><b>【図書室業務、及び附帯する関係業務の円滑な運営を図るため必要な事項を決定する】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員用図書室及び患者図書室 (以下図書室等という) の管理、運用に関すること。</li> <li>・図書室等の適正な使用・運用の監視、監督業務。</li> <li>・図書室等の本類、設置機器類の保守・監督業務。</li> <li>・図書類 (冊子及び電子的媒体を含む) の購入にかかる契約、所管業務の監督。</li> <li>・その他、図書室等にかかる図書部会が決定した業務。</li> </ul> <p>9月: 平成 28 年度図書費報告 平成 29 年度図書費について 2018 年 購読雑誌 (叢書) 等について Up to date の契約について 「今日の診療」の購入について 「メディカルオンライン」の契約更新について 他施設への文献複写依頼費用について</p>	



## ◆医療安全関係

## ○医療の質向上委員会

構 成 人 員	委員 長	上村哲郎 (副院長 / 小児外科)	
	副 委 員 長	一木康則 (内科)	
	メン バ ー	診 療 部	水島 明 (服院長 / 放射線科) ・ 山本英雄 (副院長 / 内科) 内山明彦 (副院長 / 外科) ・ 土屋邦喜 (整形外科) 徳永滋彦 (心臓血管外科) ・ 原野正彦 (泌尿器科) ・ 茅島顕治 (麻酔科) 宮田健二 (内科) ・ 川本雅彦 (外科) ・ 牟田 毅 (内科) 田村恭久 (内科) ・ 小川亮介 (内科) 《オブザーバー》 多治見 司 (院長) ・ 元嶋文恵 (看護部長) ・ 宮原寛子 (医療支援部長)
		看 護 部	木本妙子 ・ 二見美喜子 ・ 尾野肖子 ・ 松隈眞紀子 ・
		診療協力部門	末松文博 (薬剤部) ・ 瀧口雅晴 (放射線室) ・ 奥蘭 学 (中央検査室) 林 秀俊 (リハビリテーション室) ・ 峯 修平 (医療支援部)
事 務 部 他	島田正行 (総務企画課) ・ 家根 茂 ( ) ・ 山本 勇 ( ) 有村博江 (看護部) ・ 吉国健司 (薬剤部)		
会 議		時宜に即した定期開催	
活 動 内 容		不定期開催 8:00 ~  2016/6/8 (水) 1. 本委員会の主旨・活動内容について 2. 今後の活動内容について ・ 鏡視下手術機器全体の管理 (購入、共有、点検など) ・ 手術適応の確認、遵守 (保険収載やガイドラインを参照) ・ 手術手技の向上、教育 3. 手術手技の向上、教育 ・ 手術手技に関する検討会 4. ロボット (da Vinci) 手術について 5. その他  2016/12/16 (金) ロボット支援腎部分切除術の症例検討	



委員会活動

平成 29 年度  
諸 活 動

Japan Community Health care Organization JCHO



独立行政法人 地域医療機能推進機構 九州病院



## 諸 活 動

### ◆メディカルネットワークフォーラム

1. 目 的 地域の医療機関（医師・メディカルスタッフ）との連携を深め地域医療の充実に貢献する
2. 日 時 2017 年 7 月 13 日（木）19：00 ～ 21：00
3. 場 所 ホテルクラウンパレス北九州
4. 内 容
  - ・地域連携関連の実績報告  
診療実績 在宅復帰率 開放型病床の利用例 救急外来受診患者数  
年間救急車搬入台数 救急車搬入患者数（成人・小児）  
救急外来受診者の処置等件数 救急車受け入れ率 救急外来からの転送件数  
診療科別入院患者数（年間） 地域連携パス 医科歯科連携  
高度医療機器の共同利用件数 登録医数 きしのうらネット  
地域包括ケア推進委員会より 地域包括ケアにむけた看護部の取り組み  
在宅療養支援研修
  - ・新任者講演 脳神経外科医長：今本尚之  
神経内科医長：立石貴久  
放射線科医長（画像診断担当）：宮嶋公貴  
内科医長（呼吸器担当）：原田大志
  - ・新任者紹介 内科医長（腎臓担当）：田村恭久  
産婦人科医長（周産期担当）：川上剛史
  - ・看護部の活動
  - ・情報交換会
5. 参加者（参加人数） 324 名（外部参加者 235 名・院内参加者 89 名）

【外部参加者】 医師…98 名  
メディカルスタッフ…252 名

【院内参加者】 医師…41 名  
メディカルスタッフ…60 名



## ◆健康フェア

1. 目 的 「地域住民の生活に役立つ情報を発信し社会に貢献する」を目的とし、年1回開催

テーマ：心臓病についてもっとよく知ろう  
～予防から最新治療まで～

2. 日 時 2017年11月11日(土) 10:00～14:00

3. 場 所 JCHO九州病院 別館4階

4. 内 容

・講演会

「これからの医療・福祉」

院長：多治見 司

「心臓病の予防と早期発見」

健康診断部部长：宮田 健二

「胸痛と虚血性心疾患：心筋梗塞と狭心症」

循環器部部长：毛利 正博

「動悸と不整脈」

内科医長：菊池 幹

「心臓病と運動」

内科医師：鬼塚 健

・ランチョンセミナー 試食…250食

「食事療法について」

栄養管理室副管理室長：三輪 真紀子

「薬を飲んで血管を守ろう」

主任薬剤師：吉国 健司

「運動のやり方と続けるコツ」

副理学療法士長：高永 康弘

・測定コーナー

・血管年齢 ・骨密度 ・体組成 ・血圧測定

・体験コーナー

・AED

・健康相談

医師、看護師、理学療法士、薬剤師、管理栄養士、MSW

・展示・紹介コーナー

カテーテル、ペースメーカー、IABP、心臓エコー、3DCT

5. 参加者(参加人数)

地域住民 116名(男性36名、女性80名)

## 諸 活 動

## ◆健康教室

1. 目 的 「地域住民の生活に役立つ情報を発信し社会に貢献する」を目的とし、月1回開催
2. 日 時 年 9 回 11:00～12:00
3. 場 所 JCHO 九州病院 別館4階講堂
4. 内 容  
2017年 7月4日 脳卒中を予防しよう!  
脳卒中リハビリテーション看護認定看護師:白石 志穂  
7月25日 肺の生活習慣病予防  
集中ケア認定看護師:古賀 美砂紀  
7月27日 誤嚥の予防  
言語聴覚士:吉岡幹人  
8月24日 お薬の飲み方  
主任薬剤師:小倉秀美  
9月8日 がん化学療法の皮膚トラブルとスキンケア  
がん化学療法看護認定看護師:倉元 宏美、友田 恭子  
9月21日 肩の健康体操  
作業療法士:渡邊 勇樹  
10月6日 骨粗しょう症と骨折  
理学療法士:和田 あゆみ  
10月24日 認知症の症状や治療について  
認知症看護認定看護師:倉本 佳代子  
11月10日 終活 ～よりよく生きるために～  
緩和ケア認定看護師:進藤 美舟、三好 典子  
12月8日 冬本番!インフルエンザとノロウィルスの予防と対策  
感染管理認定看護師:松山 美佐紀、三ノ丸 理恵、森本 麗華  
12月15日 バランスのとれた食事について  
管理栄養士:大庭 久実  
2018年 1月11日 当院の退院支援について ～転院、在宅調整、介護保険活用など～  
医療社会事業専門員:峯 修平  
1月19日 心不全について ～心臓を守るために知っておきたいこと～  
慢性心不全看護認定看護師:櫻井 栄子  
2月1日 腰痛の予防と対策  
理学療法士:溝上 拓也  
2月15日 肌(皮膚)のトラブル悩んでいませんか  
～傷や内出血など WOC が関わる皮膚トラブル～  
皮膚・排泄ケア認定看護師:池田 佳子  
3月1日 減塩食について  
管理栄養士:川地 尚子  
3月5日 高齢者のお薬  
薬剤部長:末松 文博

## 5. 参加者(参加人数) 地域住民 764人

7月4日…42名	7月25日…71名	8月24日…58名	9月8日…52名
9月21日…61名	10月6日…33名	10月24日…85名	11月10日…76名
12月8日…46名	12月15日…38名	1月11日…16名	1月19日…35名
2月1日…48名	2月15日…30名	3月1日…45名	3月5日…28名



## ◆大規模災害訓練

1. 目 的 全職種が災害レベル 3 の初動を行うことができるか、また大規模災害発生時に的確な治療体制がとれるかを検証する。
2. 日 時 平成 30 年 2 月 28 日 (水) 15:00 ~
3. 場 所
  - ①患者トリアージエリア
    - 赤エリア：本館救急センター処置室
    - 黄エリア：本館救急センターオーバーナイトベッド
    - 緑エリア：本館 1 階 B プース
  - ②対策本部
    - 入退院センター
4. 内 容 直下型大地震（南海トラフの巨大地震）を想定
  - ※北九州では小倉東断層プレート境界の地震
  - 2018 年 2 月 28 日、午後 2 時 50 分に北九市内に震度 5 強の大規模地震が発生した。
  - 岸の浦付近でも、立ってられないほどの揺れを感じた。
  - 病院周辺では家屋が倒壊し、多数の被災者受け入れが予測された。
5. 参加人員 120 人【模擬患者含む】 全職種

### 目的と目標

- 1) 目的：全職種が災害レベル 3 の初動を行うことができる
- 2) 目標：
  - (1) 院内の被災状況の把握・報告・災害レベルの決定ができる
    - ・院内共通の被災状況報告書が使用できる
    - ・報告書に基づき、院内の被災状況を把握することができる
    - ・被災状況に応じて物的・人的な対応ができる
  - (2) 地震時の受け入れ準備から初療・入院までの対応がアクションカードに沿って行える
    - ・紙カルテ、オーダーリングシステムダウン時の書類を使用して初療が行える
    - ・別館患者（保育所、リハビリ室）の避難誘導ができる
    - ・別館での被災患者の対応ができる
    - ・被災者のトリアージエリア変更時の受け入れがマニュアルに沿って行える
    - ・入院患者の受け入れ準備ができる
  - (3) EMIS の使用方法がわかる
    - ・市の災害対策本部 (DMOC) への報告シミュレーションができる

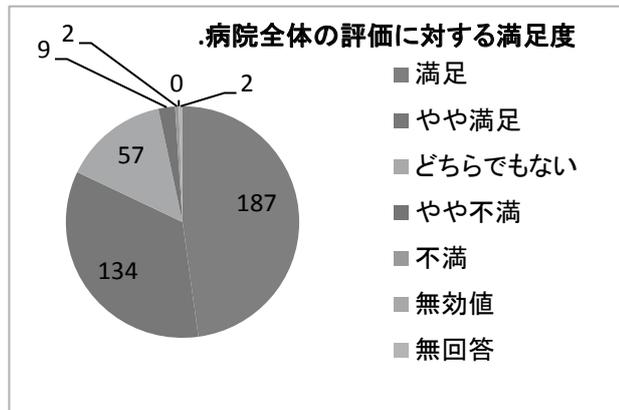
## ◆患者満足度調査報告書

1. 目的 当院が提供している医療サービスに対する、患者の要望・評価を把握し、医療サービスの更なる向上を図るとともに、運営の基礎資料として活用する。
2. 実施期間 平成29年10月16日 ～ 平成29年10月27日
3. 対象者 入院 …… 調査期間に退院した患者 (10/16～10/27)  
外来 …… 調査日に外来診察を受けた患者 (10/20)
4. アンケート回収数 入院 …… 395 件  
外来 …… 391 件

### 5. 満足度集計結果

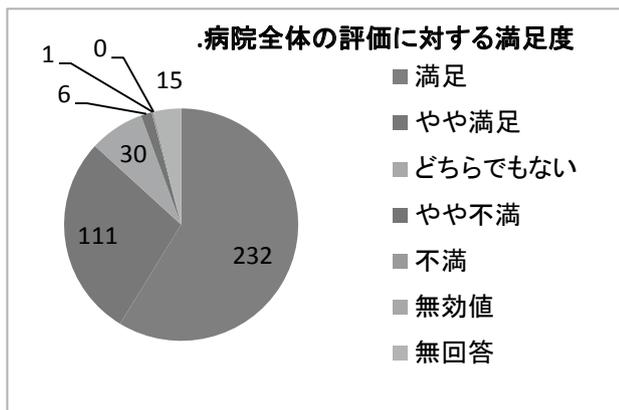
#### 入院患者

選択肢	回答数	
満足	232	58.73%
やや満足	111	28.10%
どちらでもない	30	7.59%
やや不満	6	1.52%
不満	1	0.25%
無効値	0	0.00%
無回答	15	3.80%
合計	395	100.00%



#### 外来患者

選択肢	回答数	
満足	187	47.83%
やや満足	134	34.27%
どちらでもない	57	14.58%
やや不満	9	2.30%
不満	2	0.51%
無効値	0	0.00%
無回答	2	0.51%
合計	391	100.00%



平成 29 年度  
業 績 目 録

Japan Community Health care Organization JCHO



独立行政法人 地域医療機能推進機構 九州病院

**業績目録**
**◆総合診療部 (講演・学会発表等)**

氏名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
児島啓介, 百名洋平, 菊池 幹	非医療従事者により一次救命処置が施行され完全 社会復帰を果たした冠攣縮性狭心症による心室細 動の一例	第30回 心臓性急死研究会	2017.12.16	東 京
森麻里母, 塩月一生, 淵上忠史, 池田祥記, 池上幸治, 上平幸史, 藤澤 聖, 一木康則	保存的加療にて軽快した門脈ガス血症の1例	第 317 回日本内科学会九 州地方会	2017.5.20	沖縄県・ 沖縄県医師会館
森麻里母, 一木康則, 笹栗毅和, 田岡奈央子, 塩月一生, 秋吉大輔, 池上幸治, 藤澤 聖, 酒井賢一郎	壊死性軟部組織感染症の一剖検例	第 319 回日本内科学会九 州地方会	2017.10.29	福岡市・ 福岡大学
池上幸治, 森麻里母 河野健太郎, 阿部 巧, 秋吉大輔, 塩月一生, 田岡奈央子, 上平幸史, 藤澤 聖, 一木康則	真性多血症に合併した上腸間膜静脈血栓症の1例	第 14 回日本消化管学会総 会学術集会	2018.2.9-10	東京・ 京王プラザ ホテル
竹内実芳, 橋本 侑, 松尾美央子, 立石貴久.	片側の多発脳神経障害で発症した悪性外耳道炎 の1例.	第 221 回日本神経学会九 州地方会	2018.3.10	福岡市
坂口嘉彬, 謝柯智, 高畑百合子 粥川貴文, 増本 駿, 岡松佑樹, 井上勝博, 川上 覚, 原田 大志	気胸をきたした非結核性抗酸菌症の一例	第 80 回日本呼吸器学会、 日本結核病学会 九州支 部 春季学術講演会	2018.3.10	長崎



## ◆循環器内科 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
阿部巧、芥野絵理、 宮田健二、山本英雄、 毛利正博	好酸球性腸炎、プロテインS欠損症に合併した右 下肢深部静脈血栓症に対し、多様な静脈内治療を 行った症例	第25回日本心血管インター ベンション治療学会 九州・沖縄地方会	2017.9.8-9.9	長崎
川村奈津美、宮田健二、 永田拓也、山本英雄、 毛利正博	院外心肺停止にて搬送されたが完全血行再建を行 い救命しえた急性心筋梗塞の1症例	第25回日本心血管インター ベンション治療学会 九州・沖縄地方会	2017.9.8-9.9	長崎
古澤峻、鬼塚健、 毛利正博、山本英雄	カテコラミンとIABPが心原性ショックを助長させ た急性心筋梗塞の1例	第65回日本心臓病学会学 術集会	2017.9.29-10.1	大阪
百名洋平、毛利正博	高齢化の進む北九州市における急性冠症候群の治 療と短期予後：多施設前向き登録研究	第65回日本心臓病学会学 術集会	2017.9.29-10.1	大阪
櫻井栄子、永島万紗美、 安河内純子、山田弥生、 有吉雄司、芥野絵里、 毛利正博	高齢心不全患者の再入院予防のために、随時尿に よる塩分摂取量簡易測定を導入した1例	第21回日本心不全学会学 術集会	2017.10.12- 10.14	秋田
梶島寛子、折口秀樹、 毛利正博	外来心臓リハビリテーションは高齢心不全患者の 再入院率を減少させるか	第21回日本心不全学会学 術集会	2017.10.12- 10.14	秋田
Keshino E, Nagata T, Mohri M	Aortic Regurgitation due to Aortic Root Dila- tion with Aneurysms-Osteoarthritis Syndrome Caused by SMAD3 Variant.	第21回日本心不全学会学 術集会	2017.10.12- 10.14	秋田
Onitsuka K, Tadokoro T, Miyata K, Mohri M, Yamamoto H	A case of improved functional mitral regurgita- tion and severe LV dysfunction after the closure of hemodialysis fistula.	第21回日本心不全学会学 術集会	2017.10.12- 10.14	秋田
阿部 巧、田所知命、 宮田健二、毛利正博、 一木康則、川本雅彦	切除不能の肝細胞癌を合併した高度大動脈弁狭窄 症に対して多施設で連携して治療し得た1例	第123回日本循環器学会 九州地方会	2017.12.2	福岡
古澤峻、川村奈津美、 毛利正博、山本英雄	血管拡張薬(PGI2)及び凝固薬が有効であった肺 腫瘍源性塞栓性微小血管の1例	第123回日本循環器学会 九州地方会	2017.12.2	福岡
Onitsuka K, Mohri M, Ueki U, Suwa S, Takahashi H, Hokama Y, Tanaka N, Kadokami T, Matoba T, Fukuhara R, Yagi T, Tachibana E, Yonemoto N, Nagao K.	Clinical characteristics and in-hospital mortality of very elderly patients with cardiovascular shock in Japan: the results from Japanese Cir- culation Society Shock Registry.	The 67th Annual Scientif- ic Session of the Ameri- can College of Cardiology.	2017.3.17-19	Washington, USA



## 業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
Sonoda S, Ogita M, Matoba T, Mohri M, Tanaka N, Hokama Y, Fukutomi M, Hashiba K, Fukuhara R, Ueki Y, Matsuura H, Suwa S, Tachibana E, Yonemoto Y, Nagao K.	Association between presentation time and short-term mortality in patients with cardiogenic shock complicating acute coronary syndrome: from JCS Shock Registry.	The 67th Annual Scientific Session of the American College of Cardiology.	2017.3.17-19	Washington, USA
馬場功士、石北綾子、菊池 幹、永田拓也、末永友康、鬼塚健、宮田健二、折口秀樹、毛利正弘、山本英雄	心筋梗塞後のElectrical Stormに対して心房ペーシング及びトリガーVPCアブレーションが有効であった1例	第 319 回日本内科学会九州地方会	2017.10.29	福岡
伊藤浩司、福光 梓、秋光起久子、村田真知子、奥田知世、黒川佳代、小川明希、毛利正博、山本英雄	正常 LVEF 患者における Global Function Index 上昇要因の検討	第 90 回日本超音波医学会学術集会	2017.5.26-28	宇都宮
折口秀樹	Clinical experience of Freezor MAX after Cryoablation for paroxysmal atrial fibrillation	第 64 回日本不整脈心電学会	2017.09.17	横浜
折口秀樹	心血管疾患入院患者のポリファーマシー（多剤併用）についての検討	第 65 回日本心臓病学会	2017.09.29	大阪
阿部 巧、池上幸治、馬場功士、芥野絵理、小原鉄兵、川村奈津美、山本英雄、藤澤 聖、笹栗毅和、野村幸博	深部静脈血栓症を合併した好酸球性胃腸炎の1例	第 317 回日本内科学会九州地方会	2017.5.20	沖縄県・沖縄県医師会館
足立雅広、勝原俊亮、古澤 峻、川村奈津美、牟田 毅	全身リンパ節腫脹、汎血球減少、可溶性 IL-2 受容体高値を認め、造血系疾患の関与が疑われたバセドウ病の二例	第 90 回日本内分泌学会学術総会	2017.4.20-22	京都
折口秀樹	フレイルへの介入と予防 -糖尿病との関わり-	第 9 回遠賀中間循環器連携セミナー	2017.4.17	遠賀郡
折口秀樹	血管疾患の予防	心血管疾患としての糖尿病 Kyushu PRvent in 2017	2017.4.23	福岡市
折口秀樹、菊池 幹	心房細動カテーテルアブレーション治療に関する前期高齢者と後期高齢者の比較検討	第 59 回日本老年医学会	2017.6.16	名古屋市
折口秀樹	Onco-Cardiology -腫瘍循環器病学という新しい分野について-	第 173 回北筑カンファレンス	2017/7/26	北九州市



## 業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
折口秀樹	フレイル高齢者の抗凝固療法の課題	八幡内科医会	2017.9.21	北九州市
折口秀樹	シームレスな高齢者薬物療法を目指して	八幡薬剤師会研修会	2017.9.28	北九州市
折口秀樹	検査値の見かた	北九州地区検査値記載のある処方箋に関する研修会	2017.10.16	北九州市
折口秀樹	シンポジウム「心リハにおける多職種の調和：現状と展望」地域包括的な多職種協働と「常若」の未来	第3回日本心臓リハビリテーション学会九州支部地方会	2017.10.29	鹿児島市
折口秀樹	コメディカルセッション 心臓リハビリテーション	心不全患者の心臓リハビリテーションARIA2017	2017.11.23	福岡市
上田知恵 折口秀樹 安藤幸子 赤木篤子 永島万紗美 鍛塚圭子 辻郷裕美 富田美砂 山田弥生	心房細動カテーテルアブレーションクリニカルパスの評価と課題	第18回日本クリニカルパス学会	2017.12.1	大阪市
折口秀樹	加齢に伴う障害の予防改善と健康寿命延伸への期待	平成29年度第2回日本健康運動指導士会福岡県支部研修会	2017.12.3	北九州市
折口秀樹	心肺運動負荷試験の基礎	第17回フクダ電子心臓リハビリテーション開設セミナー	2017.12.10	徳山市
折口秀樹	心臓リハビリテーションの今後の展開	福岡西部地区医療連携講演会	2018.1.24	福岡市
折口秀樹	心房細動の Total Management -心臓リハビリテーションの可能性を含めて-	循環器疾患 Total Care Conference	2018.1.30	松山市
折口秀樹	高齢者の薬物療法を考える	八幡内科医会 シリーズ勉強会	2018.2.13	北九州市



## 業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
阿部名月 折口秀樹他	JCHO 九州病院におけるポリファーマシーカンファレンスの取り組み	第 28 回日本老年医学会九州地方会	2018.3.3	沖縄市
末松文博 折口秀樹他	医師と薬剤師が協働して、地域で取り組むポリファーマシー対策 ～北九州高齢者薬物療法研究会の立ち上げと取り組み・その1～	第 28 回日本老年医学会九州地方会	2018.3.3	沖縄市
小倉秀美 折口秀樹他	医師を対象としたポリファーマシー対策に対するアンケート調査 ～北九州高齢者薬物療法研究会の立ち上げと取り組み・その1～	第 29 回日本老年医学会九州地方会	2018.3.3	沖縄市
伊藤浩司、宮田健二、毛利正博	各季節における血圧、心拍数と習慣的味噌汁摂取との関連	第 6 回臨床高血圧フォーラム	2017.5.12-13	岡山
伊藤浩司	習慣的味噌汁摂取は寒冷期の心拍数上昇を抑制する	第 4 回みそサイエンス研究会総会	2017.6.6	東京
伊藤浩司	塩と血圧の関係と味噌と血圧の関係は似て非なるもの？ 一杯の味噌汁に秘められた可能性	第 3 回 Hypertension Round Rable Discussion	2017.7.3	遠賀郡
伊藤浩司	みそ汁摂取量と血圧および心拍数の関係	第 65 回丸紅食料味噌会	2017.7.18	東京
伊藤浩司	医療現場からの「味噌汁と血圧・心拍数」	H29 年度第 2 回中央味噌研究所技術講習会 三重県桑名市	2017.9.21	三重
児島啓介、百名洋平、菊池 幹	非医療従事者により一次救命処置が施行され完全社会復帰を果たした冠攣縮性狭心症による心室細動の一例	第 30 回 心臓性急死研究会	2017.12.16	東京
百名洋平	心房細動診断の最前線	直方不整脈セミナー	2018.1.26	直方
百名洋平、宮崎秀明（臨床工学室）、菊池 幹	当院における MRI 対応デバイス植込みと MRI 撮影の現状と課題	第 10 回 植込みデバイス関連冬季大会	2018.2.10-12	横浜
百名洋平	Micra 経カテーテルペースングシステムを用いた徐脈性心房細動の 2 症例	第 3 回 COSMOS の会	2018.2.16	北九州



## ◆循環器内科 (論文等)

氏 名	論 題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
折口秀樹	心臓リハビリテーション導入のコツ	心臓 49 (9)		983 - 985	2017
折口秀樹	ポリファーマシー 病院医師の立場から	北九州市医報平成 29 年 10 月	第 723 号	5-7	2017
Ito K, Miyata K, Mohri M, Origuchi H, Yamamoto H.	The effects of the habitual consumption of miso soup on the blood pressure and heart rate of Japanese adults: a cross-sectional study of a health examination.	Intern Med	56	23-29	2017
Nagata T, Hyakuna Y, Miyata K, Mohri M.	Contemporary practice and outcomes of an elderly cohort of Japanese patients with non-ST-elevation acute coronary syndrome in the era of routine early invasive strategy.	Int J Cardiol	240	49-54	2017
Nagata T, Mohri.	The clinical features and outcomes of patients with takotsubo syndrome: the experience at an emergency general hospital.	Int Med	57	641-5	2017
Tadokoro T, Katsuki S, Ito K, Onitsuka K, Nakashima A, Sasaguri T, Miyata K, Yamamoto H, Mohri M.	Inoperable primary ovarian carcinoid led to the progression of carcinoid heart disease from right-sided to both-sided involvement.	Circ Heart Fail	10	e003719	2017

**業績目録**
**◆消化器内科 (講演・学会発表等)**

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
森麻里母、塩月一生、 瀧上忠史、池田祥記、 池上幸治、上平幸史、 藤澤 聖、一木康則	保存的加療にて軽快した門脈ガス血症の1例	第 317 回日本内科学会九州 地方会	2017.5.20	沖縄県・ 沖縄県医師会館
阿部 巧、池上幸治、 馬場功士、芥野絵理、 小原鉄兵、川村奈津美、 山本英雄、藤澤 聖、 笹栗毅和、野村幸博	深部静脈血栓症を合併した好酸球性胃腸炎の1例	第 317 回日本内科学会九州 地方会	2017.5.20	沖縄県・ 沖縄県医師会館
森麻里母、一木康則、 笹栗毅和、田岡奈央子、 塩月一生、秋吉大輔、 池上幸治、藤澤 聖、 酒井賢一郎	壊死性軟部組織感染症の一剖検例	第 319 回日本内科学会九州 地方会	2017.10.29	福岡市・ 福岡大学
秋吉大輔、池上幸治、 難波江俊永、藤澤 聖、 塩月一生、田岡奈央子、 坂梨溪太、柳親 茂、 西村志帆、牧山明資、 山家 覚、笹栗毅和、 江崎幹宏	比較的早期に発見しえた胃 mixed adenoneuroendocrine carcinoma (MANEC) の一例	第 110 回日本消化器病学会九州 支部例会	2017.11.17-18	沖縄県・ 沖縄かりゆし アーバンリゾート・ナハ
田岡奈央子、藤澤 聖、 塩月一生、秋吉大輔、 池上幸治、上平幸史、 一木康則	食道異物肉芽腫の一例	第 104 回日本消化器内視 鏡学会九州支部例会	2017.11.17-18	沖縄県・ 沖縄かりゆし アーバンリゾート・ナハ
一木康則、上平幸史、 下田慎治	インターフェロンフリー治療後の再燃に際し、早期にペグインターフェロン療法を導入した C 型慢性肝炎の一例	第 42 回日本肝臓学会西部会	2017.11.30-12.1	福岡市・ ヒルトン福岡 シーホーク
池上幸治、森麻里母、 河野健太郎、阿部 巧、 秋吉大輔、塩月一生、 田岡奈央子、上平幸史、 藤澤 聖、一木康則	真性多血症に合併した上腸間膜静脈血栓症の1例	第 14 回日本消化管学会総 会学術集会	2018.2.9-10	東京・ 京王プラザ ホテル
阿部 巧、田所知命、 宮田健二、毛利正博、 一木康則、川本雅彦	切除不能の肝細胞癌を合併した高度大動脈弁狭窄症に対して多施設で連携して治療し得た1例	第 123 回日本循環器学会九州 地方会	2017.12.2	福 岡
一木康則、上平幸史、 田岡奈央子、塩月一生、 秋吉大輔、池上幸治、 藤澤 聖、山本英雄、 笹栗毅和	心肺停止で救急搬送された肝硬変の一例	第 6 回肝疾患合併症を考 える研究会	2017.6.12	北九州市・ 千草ホテル



## 業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
一木康則、上平幸史、田岡奈央子、塩月一生、秋吉大輔、池上幸治、藤澤 聖	当院における肝細胞癌に対するソラフェニブ投与の検討	北九州肝癌分子標的セミナー	2017.9.29	北九州市・リーガロイヤルホテル小倉
一木康則、上平幸史、田岡奈央子、塩月一生、秋吉大輔、池上幸治、藤澤 聖、下田慎治	DAAs 治療後の再燃に際し、早期にペグイントロン+レボトル併用療法を導入し SVR となった C 型慢性肝炎の一例 ～下田理論の実践～	第 46 回福岡肝疾患・感染症治療研究会	2017.11.11	福岡市・パピヨン 24
上平幸史、一木康則	オムビタスビル/パリタプレビル/リトナビル投与中に呂律不全を呈した高齢者 C 型慢性肝炎の 1 例	第 46 回福岡肝疾患・感染症治療研究会	2017.11.11	福岡市・パピヨン 24
池上幸治、塩月一生、森麻里母、池田祥記、田岡奈央子、秋吉大輔、藤澤 聖	多種薬剤不耐または抵抗性のステロイド依存性クローン病に対しウスチキヌマブを導入した 1 例	IBD Management Conference in 北九州	2017.11.30	北九州市・TKP 小倉シティセンター
一木康則、上平幸史、田岡奈央子、塩月一生、秋吉大輔、池上幸治、藤澤 聖	A 型肝炎後に自己免疫性肝炎を発症したと考えられる一例	第 8 回肝疾患合併症を考える研究会	2018.1.29	北九州市・千草ホテル
田岡奈央子、一木康則、上平幸史、塩月一生、秋吉大輔、池上幸治、藤澤 聖	IgG4 関連肝炎症性偽腫瘍が疑われる症例	第 47 回福岡肝疾患・感染症治療研究会	2018.2.24	北九州市・パークサイドビル
一木康則、河野 聡、柳田公彦、下田慎治	肝細胞癌における分子標的治療薬の治療成績	Liver Cancer Forum in 福岡	2018.3.24	福岡市・ホテルセントラザ博多
一木康則	造影超音波を駆使してみる	第 97 回北九州肝腫瘍研究会 教育講演	2017.5.25	北九州市・パークサイドビル
一木康則	ここまで進化した、C 型肝炎に対する IFN フリー治療 ～“万能な”薬剤の登場～	第 222 回遠賀アーベント	2018.2.26	水巻町・遠賀中間医師会館

**業績目録**
**◆血液腫瘍内科 (講演・学会発表等)**

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
牟田 毅, 山戸和貴, 河野健太郎, 青木健一, 小川亮介	LDH 高値の症候性骨髄腫における予後解析と臨床的特徴	第 42 回骨髄腫学会	2017.5.28	東京
Tsuyoshi Muta, Teppei Obara, Kazutaka Yamato, Kentaro Kohno, Kenichi Aoki, Ryosuke Ogawa	多発性骨髄腫における初回導入療法後の早期進行と予後の関係	第 79 回日本血液学会学術集会	2017.10.21	東京
牧山 明資	高齢者がん患者へのアプローチ ～胃がん編～	第 15 回臨床腫瘍学会	2017.7.27-29	神戸
稲富 享子, 草場 仁, 牧山 明資	切除不能進行・再発胃癌におけるオキサリプラチン至適初回用量の検討	第 15 回臨床腫瘍学会	2017.7.27-29	神戸
有水 耕平, 牧山 明資, 平野 元, 牧山 千夏, 牟田 毅	Ewing 肉腫に準じた化学療法が奏効した鼻腔原発 NUT midline carcinoma の 1 例	第 15 回臨床腫瘍学会	2017.7.27-29	神戸
中野 倫孝, 伊東 守, 田中 吏佐, 有山 寛, 牧山 明資	癌性腹水中 TIL は疲弊マーカーを高頻度で発現する (フローサイトメトリーによる癌性腹水 TIL 解析)	第 15 回臨床腫瘍学会	2017.7.27-29	神戸
坂本 佐奈枝, 下瀬 徳之, 豊田 建, 牧山 明資	KSCC による医師主導臨床研究における目標症例達成へのアプローチ 登録・データセンターでのサポートの考察と課題	第 15 回臨床腫瘍学会	2017.7.27-29	神戸
沖英次, 佐伯浩司, 牧山明資	70 歳以上の結腸・直腸癌患者に対する TFTD-(TAS-102) と Bevacizumab の第 II 相臨床試験	第 55 回癌治療学会	2017.10.20-22	横浜
沖英次, 佐伯浩司, 牧山明資	医師主導臨床試験グループが果たす役割: KSCC における取り組み	第 55 回癌治療学会	2017.10.20-22	横浜
岩槻政晃, 牧山明資	HER2 陽性胃癌に対するトラスツズマブ併用療法の多施設共同コホート研究 (KSCC1105)	第 55 回癌治療学会	2017.10.20-22	横浜
宮本裕士, 砂川優, 関川高志, 佐竹悠良, 中村将人, 片岡政人, 塩澤学, 牧山明資	RAS 変異大腸癌に対する modified-FOLFOX-IRI+bevacizumab 療法の第 II 相試験: JACCRO CC-11	第 55 回癌治療学会	2017.10.20-22	横浜



## 業績目録

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
白石猛、牧山明資	大腸癌レゴラフェニブ療法に対する経口ステロイドの検討 (KSCC1402/HGCSG1402)	第 55 回癌治療学会	2017.10.20-22	横浜
岩槻政晃、佐竹悠良、宮本裕士、谷岡洋亮、辻晃仁、朝山雅子、結城敏志、牧山明資	KSCC における効率的な医師主導臨床研究の実施環境構築の検討	第 55 回癌治療学会	2017.10.20-22	横浜
草場 仁志、牧山 明資	進行再発胃癌におけるオキサリプラチン併用療法の血小板減少、末梢神経障害のリスク因子に関する探索的研究	第 90 回胃癌学会	2018.3.7-9	横浜
Tomomi Kashiwada、Katsunori Shinozaki、Satoshi Yuki、Tetsuya Kusumoto、Masaaki Iwatsuki、Hironaga Satake、Shoji Tokunaga、Yasunori Emi、Akitaka Makiyama	A phase II study (KSCC-1501B) of HER-SOX130 for HER2-positive advanced gastric cancer	第 90 回胃癌学会	2018.3.7-9	横浜
Katsunori Shinozaki、Satoshi Yuki、Tomomi Kashiwada、Tetsuya Kusumoto、Masaaki Iwatsuki、Hironaga Satake、Kazuma Kobayashi、Taito Esaki、Yuichiro Nakashima、Nobuhide Kubo、Shoji Tokunaga、Takayuki Shimose、Akitaka Makiyama	A phase II study (KSCC/HGCSG/CCOG/PerSeUS1501B) of trastuzumab plus S-1 and oxaliplatin for HER2-positive advanced gastric cancer.	2017 ASCO Annual Meeting	2017.6.2-5	シカゴ
Shota Fukuoka、Toshikazu Moriwaki、Hiroya Taniguchi、Atsuo Takashima、Yosuke Kumekawa、Takeshi Kajiwara、Kentaro Yamazaki、Taito Esaki、Akitaka Makiyama	Regorafenib (REG) versus trifluridine/tipiracil (TAS-102) as salvage-line in patients with metastatic colorectal cancer refractory to standard chemotherapies (REGOTAS): A propensity score analysis from a JSCCR multicenter observational study.	2017 ASCO Annual Meeting	2017.6.2-5	シカゴ
Wataru Okamoto、Akitaka Makiyama	Plasma VEGF-A (pVEGF-A) level in efficacy analysis of metastatic colorectal cancer patients (mCRC) treated with mFOLFOX6/XELOX plus bevacizumab (BV) (WJOG7612GTR).	2018 Gastrointestinal Cancers Symposium	2018.1.18-20	サンフランシスコ
Yoshiyuki Yamamoto、Wataru Okamoto、Akitaka Makiyama	Plasma ICAM-1 (pICAM-1) and plasma IL-8 (pIL-8) level as biomarker of metastatic colorectal cancer patients (mCRC) treated with mFOLFOX6/XELOX plus bevacizumab (BV) (WJOG7612GTR).	2018 Gastrointestinal Cancers Symposium	2018.1.18-20	サンフランシスコ



## 業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
Tomohiro Nishina, Hiroya Taniguchi, Daisuke Sakai, Hisato Kawakami, Naotoshi Sugimoto, Hiroki Hara, Taito Esaki, Tadamichi Denda, Akitaka Makiyama	Analysis of RAS/BRAF mutations in a randomized phase II WJOG6510G study of panitumumab plus irinotecan versus cetuximab plus irinotecan in chemorefractory metastatic colorectal cancer.	2018 Gastrointestinal Cancers Symposium	2018.1.18-20	サンフランシスコ
Y. Sunakawa, T. Sekikawa, J. Usher, H. Satake, Y. Jaimes, Y. Miyamoto, M. Nakamura, H. Nakayama, K. Kazama, A. Takagane, A. Makiyama	Dynamic changes in levels of gene mutations using circulating tumor DNA (ctDNA) and efficacy of 1st-line modified (m)-FOLFOXIRI plus bevacizumab (bev) for metastatic colorectal cancer (mCRC) harboring RAS mutation (mt) (JACCRO CC-11)	ESMO 2017 Congress	2017.9.8-12	マドリッド
河野健太郎、中尾 文彦、 門脇 賢典、高瀬 謙、 山崎 聡、岩崎 浩己	Clinical feature of CNS lymphome	第 79 回日本血液学会総会	2017.10.20-22	東京
河野健太郎、牟田 毅、 小川 亮介、谷本 一樹、 上村 智彦、大野 裕樹、 衛藤 徹也、宮本 敏弘、 赤司 浩	FBMTG におけるシクロフォスファミド関連心臓合併症の後方視的解析	第 40 回日本造血細胞移植学会総会	2018.2.1-3	札幌
牧山明資	「胃がん化学療法 2 次治療の現状と展望」	Gastric Cancer Expert Seminar in 北九州 パネルディスカッション	2017.4.5	北九州
牧山明資	「進行大腸癌に対する薬物療法」	CRC Expert Meeting Session 1	2017.4.13	北九州
牧山明資	症例提示	GI Cancer Academy in Fukuoka	2017.4.21	福岡
牧山明資	最先端の胃がん・大腸がん薬物療法	消化器がん市民公開講座	2017.4.22	北九州
牧山明資	一般演題	第 2 回メディカルオンコロジーカンファレンス	2017.5.22	福岡



## 業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
牧山明資	Closing Remarks	九州 young oncologists' conference Closing Remarks	2017.6.16	鹿児島
牧山明資	大腸がん化学療法 ～ガイドラインと最近のエビデンス～	Nagasaki Colorectal Cancer Educational Seminar	2017.6.17	長崎
牧山明資	大腸がん化学療法 ～ガイドラインと最近のエビデンス～	北九州大腸癌最新情報セミナー	2017.8.29	北九州
牧山明資	大腸癌化学療法 最近の話題	川崎医科大学消化器癌講演会	2017.8.29	北九州
牧山明資	スインプロイクの使用経験から	がん患者さんの QOL を考える会	2017.9.19	北九州
牧山明資	術後補助化学療法を考える	北九州大腸がん化学療法研究会	2017.9.26	北九州
牧山明資	胃がん化学療法 エビデンスを踏まえた実際の治療	Advanced GI & Liver Forum 9th	2017.10.6	鹿児島
牧山明資	Session2	九州 young oncologists' conference Special edition	2017.10.13	福岡
牧山明資	変化する化学療法とチーム医療	第 10 回県北消化器癌化学療法をつどい	2017.10.27	別府市
牧山明資	大腸がん治療における血管新生阻害の Best Sequence	腫瘍統計学セミナー	2017.10.31	福岡
牧山明資	大腸癌治療における血管新生阻害の Best Sequence	神奈川県西部大腸癌学術講演会	2017.11.7	海老名



## 業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
牧山明資	使用経験をふまえた副作用対策と新たな展開を考える	北九州大腸癌後方ライン治療を考える会 2017 ディスカッション	2017.11.28	北九州
牧山明資	Nivolumab をどう活かすべきか?	免疫チェックポイント阻害剤 Gastric Cancer Expert Meeting in Fukuoka	2017.11.30	福岡
牧山明資	大腸癌化学療法 血管新生阻害薬のベストシーケンス ～ロンサーフの新たな展開～	Colorectal Cancer Expert Meeting	2017.12.8	佐賀
牧山明資	基調講演	腫瘍免疫セミナー in 北九州	2018.1.11	北九州
山家覚	ケーススタディ	第 2 回北九州九一の会	2018.1.19	北九州
牧山明資	Her2 陽性例 Data review	YOUNG GI ONCOLOGIST SEMINAR CQ	2018.1.27	東京
牧山明資	大腸癌治療における血管新生阻害の Best Sequence を再考する	第 2 回 香川県消化器がんセミナー 大腸がんセッション	2018.2.8	高松
牧山明資	切除不能大腸癌化学療法 最近のエビデンスをスッキリと整理する	第 2 回大腸癌化学療法 web 講演会	2018.2.13	福岡



## 業績目録

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
牧山明資	特別講演 座長	福 岡 Local Leader' s Meeting	2018.2.27	福岡
牧山明資	大腸癌 2017 年度のトピックス	Colorectal Cancer Seminar in 北九州	2018.3.19	北九州
牧山明資	大腸癌化学療法の UPDATE	消化器がんセミナー in Akashi	2018.3.22	明石
牧山明資	総合司会	九 州 young oncologists' conference	2018.3.30	久留米
牧山明資		胃がんに関するアドバイザー会議	2018.3.31	東京都
河野 健太郎	aggressive な経過を示す形質細胞性腫瘍の一例	関門血液疾患研究会	2017.9.14	小倉
河野 健太郎	中枢神経悪性リンパ腫の臨床像	海峡血液疾患研究会	2017.11.1	小倉
河野 健太郎	中枢神経悪性リンパ腫の臨床像	金曜会	2017.11.10	小倉

**業績目録**
**◆血液腫瘍内科 (論文等)**

氏名	論題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
Muta T, Miyamoto T, Kamimura T, Kanda Y, Nohgawa M, Ueda Y, Iwato K, Sasaki O, Mori T, Uchida N, Iida S, Fukuda T, Atsuta Y, Sunami K.	Significance of Salvage Autologous Stem Cell Transplantation for Relapsed Multiple Myeloma: A Nationwide Retrospective Study in Japan.	Acta Haematol	139(1)	doi:10.1159/000484652.	2018 Jan 17
Minami M, Muta T, Adachi M, Higuchi M, Aoki K, Ogawa R	Bilateral Adrenal Hemorrhage in a Patient with Antiphospholipid Syndrome During Chronic Graft-versus-host Disease.	Intern Med		doi: 10.2169/internalmedicine.9820-17.	2017 Dec 27
Muta T, Yoshihiro T, Jinnouchi F, Aoki K, Kochi Y, Shima T, Takenaka K, Ogawa R, Akashi K, Oshima K.	Expansion of NKG2C-expressing Natural Killer Cells after Umbilical Cord Blood Transplantation in a Patient with Peripheral T-Cell Lymphoma with Cytotoxic Molecules.	Intern Med		doi: 10.2169/internalmedicine.9437-17.	2017 Dec 21
Kawamoto K, Miyoshi H, Suzuki T, Kozai Y, Kato K, Miyahara M, Yujiri T, Oishi N, Choi I, Fujimaki K, Muta T, Kume M, Moriguchi S, Tamura S, Kato T, Tagawa H, Makiyama J, Kanisawa Y, Sasaki Y, Kurita D, Yamada K, Shimono J, Sone H, Takizawa J, Seto M, Kimura H, Ohshima K	A distinct subtype of Epstein Barr virus positive T/NK-cell lymphoproliferative disorder: Adult patients with chronic active Epstein Barr virus infection-like features.	Haematologica		doi: 10.3324/haematol.2017.174177	2017 Dec 14.
Tsukune Y, Sasaki M, Odajima T, Sunami K, Takei T, Moriuchi Y, Iino M, Isoda A, Nakaya A, Muta T, Miyake T, Miyazaki K, Shimizu T, Nakajima K, Igarashi A, Nagafuji K, Kurihara T, Aoyama T, Sugimori H, Komatsu N	Incidence and risk factors of hepatitis B virus reactivation in patients with multiple myeloma in an era with novel agents: a nationwide retrospective study in Japan.	Blood Cancer J	7(12): 631	doi: 10.1038/s41408-017-0002-2	2017 Nov 23
Muta T, Aoki K, Ogawa R, Sasaguri T	In vivo attraction of myeloma cells by renal cell carcinoma.	Br J Haematol.	178(4): 499	doi: 10.1038/s41408-017-0002-2	2017 Aug
Kawamoto K, Miyoshi H, Yanagida E, Yoshida N, Kiyasu J, Kozai Y, Morikita T, Kato T, Suzushima H, Tamura S, Muta T, Kato K, Eto T, Seki R, Nagafuji K, Sone H, Takizawa J, Seto M, Ohshima K.	Comparison of clinicopathological characteristics between T-cell prolymphocytic leukemia and peripheral T-cell lymphoma, not otherwise specified.	Eur J Haematol.	98(5): 459-466	doi: 10.1111/ejh.12856	2017 May



## 業績目録

氏名	論題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
Tsuyoshi Muta, Toshihiro Miyamoto, Tomoaki Fujisaki, Koichi Osaki, Ryosuke Ogawa, Koji Kato, Kenichi Aoki, Takashi Haro, Tomohiko Kamimura, Kenjiro Kamezaki, Goichi Yoshimoto, Satoshi Yamasaki, Katsuto Takenaka, Yuju Ohno, Hiromi Iwasaki, Testuya Eto, Koji Nagafuji, Koichi Akashi	Significance of salvage autologous stem cell transplantation ( ASCT) for patients with multiple myeloma Relapsing after up-front ASCT	Fukuoka Blood and Marrow Transplant Group (FB-MTG) Journal of Hematopoetic Cell Transplantation	6(2)	98-107	2017. 6
Makiyama A	First-line chemotherapy with S-1 alone or S-1 plus cisplatin for elderly patients with advanced gastric cancer: a multicenter propensity score matched study.	Gastric Cancer		doi: 10.1007/ s10120-018 -0797-y	2018 Jan 20
Kajitani T, Makiyama A	Anti-Epidermal Growth Factor Receptor Antibody Readministration in Chemorefractory Metastatic Colorectal Cancer.	Anticancer Res	37(11)	6459-6468	2017 Nov
Ito M, Kusaba H, Mukaide S, Kishimoto J, Shimokawa H, Tamura S, Makiyama A, Hirano G	Early tumor shrinkage indicates a favorable response to bevacizumab-based first-line chemotherapy for metastatic colorectal cancer.	Anticancer Drugs	28(10): 1166-1173	doi: 10.1097/ CAD.000000 0000000562	2017 Nov
Makiyama A, Arimizu K, Hirano G, Makiyama C	Irinotecan monotherapy as third-line or later treatment in advanced gastric cancer.	Gastric Cancer		doi: 10.1007/ s10120-017 -0759-9.	2017 Aug 10
Takayoshi K, Kusaba H, Uenomachi M, Mitsugi K, Makiyama C, Makiyama A	Suggestion of added value by bevacizumab to chemotherapy in patients with unresectable or recurrent small bowel cancer.	Cancer Chemother Pharmacol.	80(2): 333-342	doi: 10.1007/ s00280-017 -3371-0	2017 Aug
Inadomi K, Kusaba H, Matsushita Y, Tanaka R, Mitsugi K, Arimizu K, Hirano G, Makiyama A	Efficacy and Safety Analysis of Oxaliplatin-based Chemotherapy for Advanced Gastric Cancer.	Anticancer Res	37(5)	2663-2671	2017 May
Moriwaki T, Fukuoka S, Taniguchi H, Takashima A, Kumekawa Y, Kajiwara T, Yamazaki K, Esaki T, Makiyama C	Propensity Score Analysis of Regorafenib Versus Trifluridine/Tipiracil in Patients with Metastatic Colorectal Cancer Refractory to Standard Chemotherapy (REGO-TAS): A Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum Multicenter Observational Study.	Oncologist	23(1):7-15	doi: 10.1634/ theoncologist. 2017-0275	2018 Jan:23
Tanioka H, Miyamoto Y, Tsuji A, Asayama M, Shiraishi T, Yuki S, Kotaka M, Makiyama A, Shimokawa M, Shimose T, Masuda S, Yamaguchi T, Komatsu Y, Saeki H, Emi Y, Baba H, Oki E, Maehara Y	Prophylactic Effect of Dexamethasone on Regorafenib-Related Fatigue and/or Malaise: A Randomized, Placebo-Controlled, Double-Blind Clinical Study in Patients with Unresectable Metastatic Colorectal Cancer (KSCC1402/HGCSG1402).	Oncology		doi: 10.1159/ 000486624	2018 Mar 7



## 業績目録

## ◆呼吸器内科 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
高畑百合子、謝柯 智、 粥川貴文、増本 駿、 岡松佑樹、井上勝博、 川上 覚、原田大志	間質性肺炎安定期に肺大細胞癌を発症し、Pembrolizumab投与で間質性肺炎増悪をきたした一例	第79回日本呼吸器学会、 日本結核病学会 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会 九州支部 秋季学術講演会	2017.9.22-23	別 府
謝柯 智、高畑百合子、 粥川貴文、増本 駿、 岡松佑樹、井上勝博、 川上 覚、原田大志	Nivoiumabによる薬剤性間質性肺炎の既往があり、同薬剤を再投与した肺扁平上皮癌の1例	第79回日本呼吸器学会、 日本結核病学会 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会 九州支部 秋季学術講演会	2017.9.22-23	別 府
坂口嘉彬、謝柯 智、 高畑百合子 粥川貴文、 増本 駿、岡松佑樹、 井上勝博、川上 覚、 原田大志	気胸をきたした非結核性抗酸菌症の一例	第80回日本呼吸器学会、 日本結核病学会 九州支部 春季学術講演会	2018.3.10	長 崎
SHUN MASUMOTO, KATI SHA, TAKAFUMI KAYUKAWA, YURIKO TAKAHATA, YUUKI OKAMATU, KATUHIRO INOUE, SATORU KAWAKAMI, TAISHI HARADA	A CACE STUDY OF CHRONIC INTERSTITIAL PNEUMONIA WITH A HISTORY OF BIRD-EXPOSURE	Congress of Asian Pasific Society of Respiriology	2017.11.23-26	SYDNEY



## ◆内科（内分泌代謝）（講演・学会発表等）

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
足立雅広、勝原俊亮、古澤 峻、川村奈津美、牟田 毅	全身リンパ節腫脹、汎血球減少、可溶性 IL-2 受容体高値を認め、造血系疾患の関与が疑われたバセドウ病の二例	第 90 回日本内分泌学会学術総会	2017.4.20-22	京 都
足立雅広	SGLT-2 阻害剤の投与後短期間にインスリンを中止し、有意な体重減少を認めた高度肥満の 2 型糖尿病の 2 例	第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会	2017.5.18-20	名古屋
城尾正彦、山田明子、河野倫子、足立雅広	当科における 1 型糖尿病患者の移行期医療の現状と課題	第 55 回日本糖尿病学会九州地方会	2017.10.13-14	名古屋



業績目録

◆腎臓・透析部門 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
菰田圭佑、日高ひとみ、白石由紀、田村恭久	カテーテル関連感染症を伴い出口部移動をきたしたため出口部変更術を施行した一例	第 23 回日本腹膜透析医学会学術集会	2017/10/7	北九州



## ◆神経内科 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
橋本 侑, 立石貴久, 山本明史.	透析患者におけるセフトリアキソン関連脳症の1例.	第 319 回日本内科学会九 州地方会	2017.10.29	福岡
竹内実芳, 橋本 侑, 松尾美央子, 立石貴久.	片側の多発脳神経障害で発症した悪性外耳道炎 の1例.	第 221 回日本神経学会九 州地方会	2018.3.10	福岡
橋本 侑, 立石貴久	片側の多発脳神経障害で発症した悪性外耳道炎の 1例.	第 460 回北九州神経カン ファレンス.	2017.10.5	北九州市 (JCHO 九州病 院)

**業績目録**
**◆小児科（講演・学会発表等）**

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
黒川佳代、宗内 淳、長友雄作、渡邊まみ江、福光 粹、秋光起久子、村田真知子、奥田知世、小川明希、伊藤浩司	経皮的心房中隔欠損閉鎖遠隔期における心房細動発症と左房容積増加	第 19 回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会	2017.1.14-15	津ホテルグリーンパーク津
山崎啓子、宗内 淳、坂本一郎、山村健一郎、大草知子、樗木晶子	先天性心疾患合併妊婦におけるコメディカル（看護職）の役割	第 19 回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会	2017.1.14-15	津ホテルグリーンパーク津
長友雄作、宗内 淳、渡邊まみ江、松岡良平、白水優光、岡田清吾、飯田千晶	Fontan 術後における下垂体腫大～もう一つの門脈循環～	第 19 回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会	2017.1.14-15	津ホテルグリーンパーク津
岡田清吾、宗内 淳、長友雄作、飯田千晶、白水優光、松岡良平、渡邊まみ江	フォンタン術後遠隔期患者における RTX を用いたリハビリテーションの有用性	第 19 回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会	2017.1.14-15	津ホテルグリーンパーク津
長友雄作、宗内 淳、渡邊まみ江、松岡良平、白水優光、岡田清吾、飯田千晶、城尾邦彦、落合由恵、城尾邦隆	起死回生のカテーテル治療～周術期における肺血流制御の手段として	第 28 回日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会	2017.1.26-28	東京一橋講堂
松岡良平、宗内 淳、白水優光、岡田清吾、飯田千晶、長友雄作、渡邊まみ江、城尾邦隆	心内修復適応外と判断される患児における肺動脈絞扼術に対する桂皮的バルーン拡大術	第 28 回日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会	2017.1.26-28	東京一橋講堂
長友雄作、宗内 淳、渡邊まみ江、松岡良平、白水優光、岡田清吾、飯田千晶、城尾邦彦、落合由恵、城尾邦隆	Fontan 術前の体肺側副血管に対する予防的コイル塞栓治療	第 28 回日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会	2017.1.26-28	東京一橋講堂
萩尾泰明、是松辰哉、鳥袋 渡、城尾正彦、米田 哲、山本順子、高橋保彦、和田桃子、上村哲郎	小児在宅医療症例に対する胃瘻造設の検討	第 493 回日本小児科学会福岡地方会例会	2017.2. 4	久留米大学 筑水会館
是松辰哉、江上直樹、萩尾泰明、松岡良平、白水優光、飯田千晶、大村隼也、岡田清吾、鳥袋 渡、長友雄作、城尾正彦、横田千恵、米田 哲、渡邊まみ江、宗内 淳、山本順子、高橋保彦、和田桃子、上村哲郎、落合由恵	当院で経験した縦隔気腫 13 例の検討	第 493 回日本小児科学会福岡地方会例会	2017.2. 4	久留米大学 筑水会館
堤親範、和田桃子、上村哲郎、江上直樹、高橋保彦	急性膀胱炎を繰り返した非拡張型胆管合流異常症の 1 例	第 493 回日本小児科学会福岡地方会例会	2017.2. 4	久留米大学 筑水会館



## 業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
長友雄作、宗内 淳、 渡邊まみ江、松岡良平、 白水優光、岡田清吾、 飯田千晶、江上直樹、 城尾邦彦、落合由恵、 城尾邦隆	総肺静脈還流異常症術後に遅発性肺高血圧を認めた Trisomy 21 の一例	第 23 回日本小児肺循環研究会	2017. 2.1 4	東京 笹川記念館
川床有香、宗内 淳、 渡邊まみ江、長友雄作、 岡田清吾、飯田千晶、 白水優光、松岡良平、 落合由恵、城尾邦彦	Down 症の肺血管特性と肺血管コンプライアンス及び術後肺高血圧	第 23 回日本小児肺循環研究会	2017. 2.1 4	東京 笹川記念館
松岡良平、渡邊まみ江、 白水優光、飯田千晶、 岡田清吾、長友雄作、 宗内 淳	Glenn 手術後に間質性肺炎を発症した PA.IVS の一例	第 23 回日本小児肺循環研究会	2017. 2.1 4	東京 笹川記念館
江上直樹、相良優佳、 大村隼也、飯田千晶、 横田千恵、宗内 淳、 山本順子、高橋保彦、 川上剛史	最近経験した非免疫性胎児水腫 / 先天性乳び胸の 2 例	北九州新生児懇話会	2017.2.21	北九州市立 医療センター
松下友香、橋本 侑、 酒井賢一郎、菊池 幹	髄液 ADA が上昇し水頭症と脳梗塞を合併したりステリア髄膜炎	第 34 回北九州市医師会勤務医医学集談会 優秀研修医賞	2017.2.21	北九州市
江上直樹、米田 哲、 長友雄作、高橋保彦	右胸郭低形成、肺高血圧症のため著しい発育不良から致死的な経過を得た乳児例	第 14 回八幡地区病院小児科合同カンファレンス	2017.3.13	産業医科大学
Yusaku Nagatomo, Jun Muneuchi, Seigo Okada, Kenichiro Yamamura, Eiji Morihana, Kiyoshi Uike, Eiko Terashi, Yasutaka Nakashima, Yasuo Suzuki, Kunitaka Joo, Shoichi Ohga,	nfluence of infliximab therapy on the early regression of coronary arterial aneurysm in patient with Kawasaki disease	The 82th Annual Scientific Meeting of the Japanese	March 17-19, 2017	Circulation Society In Kanazawa
芳野三和、西村真直、 郭義胤(福岡こども腎)、 伊藤大輔、此元竜雄、 鯉川弥須宏、 山口孝則(同泌)	5 年以上観察した膀胱尿管逆流防止術後の腎機能	第 494 回日本小児科学会福岡地方会例会	2017.4.8	福大メディカル ホール
是松辰哉、米田 哲、 萩尾泰明、鳥袋 渡、 城尾正彦、 高橋保彦(小児科) 和田桃子、 上村哲郎(小児外科)、 落合由恵(心臓血管外科)	当院で経験した気管腕頭動脈瘻の 4 例	第 494 回日本小児科学会福岡地方会例会	2017.4.8	福大メディカル ホール
松下友香、萩尾泰明、 鳥袋 渡、城尾正彦、 横田千恵、米田 哲、 山本順子、高橋保彦	乳幼児揺さぶられ症候群(Shaken Baby Syndrome) の 3 例	第 494 回日本小児科学会福岡地方会例会	2017.4.8	福大メディカル ホール

**業績目録**

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
宗内淳、渡邊まみ江、長友雄作、白水優光、飯田千晶、岡田清吾、松岡良平、城尾邦隆	無脾症候群（右側相同）の予後	第 120 回日本小児科学会 学術集会	2017.4.14-16	
岡田清吾、宗内 淳、長友雄作、渡邊まみ江、飯田千晶、白水優光、松岡良平、城尾邦隆	子宮内胎児発育遅延児における肺血管抵抗と肺血管コンプライアンスの関係	第 120 回日本小児科学会 学術集会	2017.4.14-16	
清水大輔、保科隆之、五十嵐亮太、山本 晃、神代万壽美、宗内 淳、楠原浩一	川崎病発症の季節変動と季節による臨床的所見の違いの検討	第 120 回日本小児科学会 学術集会	2017.4.14-16	
松岡良平、宗内 淳、長友雄作、渡邊まみ江、白水優光、飯田千晶、岡田清吾、高橋保彦	心室細動を合併したウエステルマン肺吸虫症の 1 例	第 120 回日本小児科学会 学術集会	2017.4.14-16	
飯田千晶、長友雄作、松岡良平、白水優光、岡田清吾、渡邊まみ江、宗内 淳、落合由恵、和田桃子、上村哲郎	22 トリソミーモザイクの治療経験	第 120 回日本小児科学会 学術集会	2017.4.14-16	
芳野三和、西村真直、島袋 渡、郭義嵐	シクロスポリン長期投与後の離脱は困難：当科の使用実態から	第 120 回日本小児科学会 学術集会	2017.4.14-16	
吉田卓矢、米田 哲、高橋保彦、和田桃子、上村哲郎	睪石性睪炎を起こし、輪状睪・十二指腸狭窄と診断した 14 歳の 1 例	第 120 回日本小児科学会 学術集会	2017.4.14-16	
飯田千晶、田代克弥、松尾宗明、樋渡 敦、挽地 裕、野口 亮、古川浩二郎、森田茂樹	複数の血管病変に対して内科・外科治療で救命しえた ehlers-Danlos 症候群（EDS）の 1 例	第 120 回日本小児科学会 学術集会	2017.4.14-16	
福田智文、下野昌幸、五十嵐亮太、松田夢子、石井雅宏、千手絢子、高野志保、楠原浩一、米田哲、高橋保彦	上衣下巨細胞性星細胞腫を伴った結節性硬化症の治療方針の検討	第 120 回日本小児科学会 学術集会	2017.4.14-16	
川口直樹、宗内 淳、白水優光、岡田清吾、飯田千晶、長友雄作、杉谷雄一郎、高橋保彦	RIT1 遺伝子変異を認めた Noonan 症候群の 1 例	第 495 回日本小児科学会 福岡地方会例会	2017.6.10	福大メディカル ホール
大村隼也、横田千恵、山本順子、高橋保彦（小児科）、古野 渉、和田桃子、上村哲郎（小児外科）	胎児期に巨大腹腔内嚢胞として指摘された左多嚢胞性異形成腎（MCDK）を伴う精嚢嚢胞の 1 例	第 495 回日本小児科学会 福岡地方会例会	2017.6.10	福大メディカル ホール



## 業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
相良優佳、渡辺ゆか、 芳野三和、城尾正彦、 鳥袋 渡、米田 哲、 高橋保彦	小児期の非外傷性脳出血に関する検討	第 495 回日本小児科学会 福岡地方会例会	2017.6.10	福大メディカル ホール
松下友香、橋本 侑、 酒井賢一郎、菊池 幹	頭痛を主訴として搬送された脳静脈洞血栓症も妊婦の1例	日本救急医学会九州地方 会	2017.6.16	沖 縄
飯田千晶、宗内 淳、 渡邊まみ江、長友雄作、 岡田清吾、黒川佳代、 白水優光、松岡良平	経皮的心房中隔欠損閉鎖術後の心房容量変化と新規発症心房細動	第 122 回日本循環器学会 九州地方会	2017.6.24	アクロス福岡
岡田清吾、宗内 淳、 折口秀樹、松岡良平、 長友雄作、渡邊まみ江、 飯田千晶、白水優光、 城尾 邦隆	室中隔瘤をともなった WPW 症候群：3 次元マッピング装置を用いたカテーテル焼灼術前後での左室内伝導変化	第 122 回日本循環器学会 九州地方会	2017.6.24	アクロス福岡
長友雄作、宗内 淳、 落合由恵、白水優光、 岡田清吾、飯田千晶、 城尾邦彦、渡邊まみ江	青年期 Partial PA sling の一修復例	第 122 回日本循環器学会 九州地方会	2017.6.24	アクロス福岡
飯田千晶、宗内 淳、 長友 雄作、松岡良平、 白水優光、岡田清吾、 渡邊まみ江、城尾邦彦、 落合由恵、 城尾邦隆 (心臓血管外科)	Trisomy18 に対する積極的外科治療の意義～早期の在宅移行を実現するために～	第 53 回日本小児循環器学 会総会・学術集会	2017.7.7- 9	アクトシティ 浜松展示イベ ントホール・研修 交流センター
岡田清吾、宗内 淳、 野中香里、長友雄作、 飯田千晶、白水優光、 松岡良平、渡邊まみ江	フォンタン循環不全患者における陽・陰圧体外式人工呼吸器を用いた心臓リハビリテーションの有用性	第 53 回日本小児循環器学 会総会・学術集会	2017.7.7- 9	アクトシティ 浜松展示イベ ントホール・研修 交流センター
長友雄作、宗内 淳、 松岡良平、白水優光、 岡田清吾、飯田千晶、 渡邊まみ江、城尾邦彦、 落合由恵、城尾邦隆	新生児重症大動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療後の機能的動脈弁逆流	第 53 回日本小児循環器学 会総会・学術集会	2017.7.7- 9	アクトシティ 浜松展示イベ ントホール・研修 交流センター
飯田千晶、宗内 淳、 渡邊まみ江、長友雄作、 岡田清吾、白水優光、 松岡良平、落合由恵、 城尾邦彦、城尾邦隆	右室低形成を伴う純型肺動脈閉鎖の冠動脈形態の検討	第 53 回日本小児循環器学 会総会・学術集会	2017.7.7- 9	アクトシティ 浜松展示イベ ントホール・研修 交流センター
落合由恵、城尾邦彦、 恩塚龍士、久原 学、 佐野由佳、幾島栄悟、 徳永滋彦、宗内 淳、 渡邊まみ江	PHACE 症候群に合併した 1 歳の遠位弓部大動脈瘤に対する手術	第 53 回日本小児循環器学 会総会・学術集会	2017.7.7- 9	アクトシティ 浜松展示イベ ントホール・研修 交流センター
松岡良平、宗内 淳、 白水優光、飯田千晶、 岡田清吾、長友雄作、 渡邊まみ江 (九州病院 小児科)	ウェステルマン肺吸虫症に合併したたこつぼ心筋症	第 53 回日本小児循環器学 会総会・学術集会	2017.7.7- 9	アクトシティ 浜松展示イベ ントホール・研修 交流センター

**業績目録**

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
渡邊まみ江、宗内 淳、長友雄作、白水優光、飯田千晶、岡田清吾、松岡良平、城尾邦隆、城尾邦彦、落合由恵	成人期に Fontan 手術を行った 3 例 一何が QOL 向上につながったか？	第 53 回日本小児循環器学会総会・学術集会	2017.7.7- 9	アクトシティ 浜松展示イベントホール・研修交流センター
城尾邦彦、落合由恵、徳永滋彦、松岡良平、白水優光、飯田千晶、岡田清吾、長友雄作、渡邊まみ江、宗内 淳	乳幼児期に共通房室弁置換術を行った心房内蔵錯位症候群 (Heterotaxy) の 3 症例	第 53 回日本小児循環器学会総会・学術集会	2017.7.7- 9	アクトシティ 浜松展示イベントホール・研修交流センター
岡田清吾、宗内 淳、長友雄作、渡邊まみ江、飯田千晶、白水優光、松岡良平、城尾邦隆	早期産児における肺血管抵抗-コンプライアンス関係の特徴	第 53 回日本小児循環器学会総会・学術集会	2017.7.7- 9	アクトシティ 浜松展示イベントホール・研修交流センター
宗内 淳、岡田清吾、飯田千晶、松岡良平、白水優光、長友雄作、渡邊まみ江	肺血管抵抗 - 肺血管コンプライアンス連関を考慮した肺高血圧患者における肺生検適応の決定	第 53 回日本小児循環器学会総会・学術集会	2017.7.7- 9	アクトシティ 浜松展示イベントホール・研修交流センター
飯田千晶、宗内 淳、渡邊まみ江、長友雄作、松岡良平、白水優光、岡田清吾、城尾邦彦、落合由恵、城尾邦隆	右房へ直接還流する稀な levoatrio-cardinal vein を合併した心房中隔欠損を伴わない左心低形成症候群の 2 例	第 53 回日本小児循環器学会総会・学術集会	2017.7.7- 9	アクトシティ 浜松展示イベントホール・研修交流センター
宗内 淳、長友雄作、飯田千晶、岡田清吾、白水優光、松岡良平、渡邊まみ江 (九州病院 小児科)	経皮的心房中隔欠損閉鎖術後の心房容量変化と新規発症心房細動	第 53 回日本小児循環器学会総会・学術集会	2017.7.7- 9	アクトシティ 浜松展示イベントホール・研修交流センター
白水優光、宗内 淳、渡邊まみ江、松岡良平、飯田千晶、岡田清吾、長友雄作、城尾邦隆	血管内エコー補助下に心臓カテーテル検査・治療を施行した造影剤アレルギーの 2 例	第 53 回日本小児循環器学会総会・学術集会	2017.7.7- 9	アクトシティ 浜松展示イベントホール・研修交流センター
清水大輔、宗内 淳、岡田清吾、白水優光、飯田千晶、長友雄作、渡邊まみ江、神代万壽美、楠原浩一	若年性特発性関節炎の治療管理中に発症した閉塞性肥大型心筋症：シベンゾリンが奏功した一例	第 53 回日本小児循環器学会総会・学術集会	2017.7.7- 9	アクトシティ 浜松展示イベントホール・研修交流センター
大村隼也、山本順子、横田千恵、高橋保彦	当院 NICU における過去 10 年間の死亡退院例の検討	第 53 回日本周産期新生児医学会	2017.7.16-18	神戸市
横田千恵、山本順子、大村隼也、高橋保彦	出生直後より吸気性喘息および筋緊張低下を呈した先天性核上性球麻痺の 1 例	第 53 回日本周産期新生児医学会	2017.7.16-18	神戸市
相良優佳、大村隼也、横田千恵、山本順子、高橋保彦、古野 渉、上村哲郎	最近 5 年間で経験した Hirschsprung 病のまとめ	第 5 回北九州新生児懇話会学術集会	2017 年 9 月 12 日	北九州市



## 業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
横田千恵、山本順子、大村隼也、高橋保彦	Dandy-Walker 症候群を合併した DAX 1 重複による 46,XY 性分化疾患の 1 例	第 62 回日本新生児生育医学会	2017.10.12-14	大宮市
大村隼也、山本順子、横田千恵、高橋保彦	左多嚢胞性異型性腎の合併が診断の一助となった巨大精嚢嚢胞の 1 例	第 62 回日本新生児生育医学会	2017.10.12-14	大宮市
森麻里母、大村隼也、城尾正彦、芳野三和、鳥袋 渡、米田 哲、山本順子、高橋保彦、古野 渉、石原 潤、高木祐吾、水落建輝	眼皮膚白皮症 (OCA) に合併した超早期発症型炎症性腸疾患 (VED-IBD) の 1 例	第 496 回日本小児科学会福岡地方会例会	2017.10.21	福大メディカルホール
岩屋悠生、宗内 淳、川口直樹、白水優光、岡田清吾、飯田千晶、杉谷雄一郎、渡邊まみ江、高橋保彦、清水大輔 (産医大 小児科)	総肺静脈還流異常症 (TAPVC) の肺動脈狭窄 (PVO) に対して出生後緊急ステント留置術を行った複雑型先天性心疾患の 2 例	第 496 回日本小児科学会福岡地方会例会	2017.10.21	福大メディカルホール
渡辺ゆか、米田 哲、芳野三和、城尾正彦、鳥袋 渡、高橋保彦、梅津美穂、下野昌幸	免疫吸着療法 (IAPP) が有効だった抗 AQP4 抗体陽性視神経炎の 1 例	第 496 回日本小児科学会福岡地方会例会	2017.10.21	福大メディカルホール
米田 哲、松岡良平、長友雄作、宗内 淳、保科隆之、森内浩幸、濱野真二郎、丸山治彦	致死的不整脈で発症し、多発嚢梗塞を合併したウエステルマン肺吸虫症の一例 (ポスター)	第 49 回日本小児感染症学会	2017.10.22	クラウンプラザホテル金沢
相良優香、大村隼也、横田千恵、山本順子、高橋保彦、古野 渉、上村哲郎	呼吸管理に難渋している Bronchopulmonary foregut malformation (BPFM) の 1 例	第 71 回九州新生児研究会	2017.11.18	北九州市
岩屋友香、宗内 淳、川口直樹、白水優光、飯田千晶、岡田清吾、杉谷雄一郎、渡邊まみ江、高橋保彦	ダウン症における肺血管抵抗とコンプライアンスの連関	第 497 回日本小児科学会福岡地方会	2017.12.9	産医大ラマッチーニホール
米田哲、鳥袋 渡、城尾正彦、大村隼也、横田千恵、山本順子、高橋保彦	当科における、自宅で医療的ケアを受けている患者の災害に対する準備状況	第 497 回日本小児科学会福岡地方会	2017.12.9	産医大ラマッチーニホール
Yuka Matusita, Jun Muneuchi, Yuka Inoue, Seigo Okada, Chiaki Iida, Hiromitsu Sirouzu, Naoki Kawaguchi, Yuichiro Sugitani, Mamie Watanabe,	Plumunary arterial resistance and compliance in Down syndrome	Asia Pacific Society of Pediatric Research	2017.10.5-8	香港



## 業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
宗内 淳	大動脈縮窄症のカテーテル治療	第 28 回 日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会	2017.1.26-28	東京一橋講堂
岡田清吾	胎児超音波および MRI 検査で先天性肺リンパ管拡張症が疑われた 1 例	第 23 回日本胎児心臓病学会学術集会	2017.3.3-4	御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター
飯田千晶	Torisomy18 症例における胎児診断の役割～早期在宅医療に向けた胎児診断の役割～	第 23 回日本胎児心臓病学会学術集会	2017.3.3-4	御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター
米田 哲	早期に在宅移行した医療的ケア児とその家族の育ちを支える	小児在宅医療 事例検討会	2017.3.15	総合医療センター
芳野三和	膀胱尿管逆流症術後の腎機能推移	第 52 回日本小児腎臓病学会学術集会	2017.6.1-3	京王プラザホテル
米田 哲	被災地でみる医療の原点	第 5 回八幡地区病院小児科合同カンファレンス	2017.9.5	産業医科大学
高橋保彦	医療的ケアを要する重症小児脳性マヒに対するボツリヌス療法	第 4 回日本ボツリヌス治療学会学術大会	2017.9.29-30	東京
岡田清吾	深頸部感染症類似の CT 所見を呈した川崎病患児の扁桃病理所見：慢性扁桃炎患者との比較検討	第 37 回日本川崎病学会・学術集会	2017.10.27-28	
山本順子	新生児期に問題となる感染症の実際	北九州周産期母子医療講習会	2017.11.9	北九州市
米田 哲	心肺停止状態で搬送された 11 歳男児	第 58 回日本熱帯医学会大会 (グローバルヘルス合同大会)	2017.11.25	臨床熱帯感染症ワークショップ 東京大学
Toru Yoneda	Acute paragonimiasis in a child presenting circital arrhythmia and takotsubo cardiomyopathy (ポスター)	第 58 回日本熱帯医学会大会 (グローバルヘルス合同大会)	2017.11.26	臨床熱帯感染症ワークショップ 東京大学



## ◆小児科 (論文等)

氏 名	論 題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
横田千恵、山本順子、 大村隼也、高橋保彦、 川上剛史、中原博正	胎児超音波・MRI 検査により先天性肺リンパ 管拡張症と診断した 1 例	日本周産期新生児 会誌	53	202-5	2017
Takashi Yorifuji, Takushi Sato, Toru Yoneda, Yoshiomi Kishida, Sumie Yamamoto, Taro Sakai, Hiroshi Sashiyama, Shuko Takahashi, Hayato Orui, Daisuke Kato, Taro Hasegawa, Yoshihiro Suzuki, Maki Okamoto, Hideki Hayashi, Shireru Suganami	Disease and injury trends among evacuees in a helter located at the epicenter of the 2016 Kumamoto earthquakes, Japan	Archives of Envi- ronmental & Occu- pational Health	16	1-8	2017 Jun

**業績目録**
**◆放射線科 (講演・学会発表等)**

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
牧瀬 智、渥美和重、井上公代、平賀聖久、牧角健司、水島 明、宮嶋公貴、渡部浩史 (病理) 笹栗毅和	食道に多発した扁平上皮乳頭腫の1例	第185回日本医学放射線学会九州地方会	平成29年6月11日	久留米市
渡部浩史、渥美和重、井上公代、平賀聖久、牧角健司、牧瀬 智、水島 明、宮嶋公貴 (産婦人科) 衛藤貴子、東條伸平 (病理) 笹栗毅和	嚢胞成分が目立った子宮筋腫の1例	第185回日本医学放射線学会九州地方会	平成29年6月11日	久留米市
平賀聖久、渥美和重、井上公代、平賀聖久、牧角健司、牧瀬 智、水島 明、宮嶋公貴、渡部浩史 (外科) 難波江俊永 (病理) 笹栗毅和 (たけうち医院) 竹内憲夫 (西日本産業衛生会 北九州産業衛生診療所) 平山久美、櫻井 剛	Helicobacter pylori 除菌から7年5ヶ月後に発見された早期胃癌の1例	第47回日本消化器がん検診学会九州地方会	平成29年9月30日	熊本市
渡部浩史、渥美和重、井上公代、平賀聖久、牧角健司、牧瀬 智、水島 明、宮嶋公貴	当院で経験した胎児 MRI の有用性の検討	第186回日本医学放射線学会九州地方会	平成30年2月11日	長崎市
牧瀬 智、渥美和重、井上公代、平賀聖久、牧角健司、水島 明、宮嶋公貴、渡部浩史 (外科) 難波江俊永 (病理) 笹栗毅和	腹腔内出血を来した小サイズ GIST の1例	第186回日本医学放射線学会九州地方会	平成30年2月11日	長崎市



## ◆麻酔科 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
山崎 遼、土井 拓、 茅島顕治.	小児カフ付き気管チューブの一回換気量から見た カフ使用妥当性の検討.	日本麻酔科学会	2017.6.8.	神戸市
茅島顕治、菅友里、 市来亜由美.	帝王切開における脊麻後低血圧の予測因子.	日本麻酔科学会	2017.6.8.	神戸市
今井敬子、茅島顕治.	小児において気管横径と輪状軟骨横径は良く相関 する.	日本麻酔科学会	2017.6.9	神戸市
武末美幸、茅島顕治、 今井敬子、芳野博臣、 村島浩二.	当院 7 年間の帝王切開 1,434 例における同種血 12 および貯血自己血 37 輸血例の検討	日本麻酔科学会	2017.6.9	神戸市

## ◆麻酔科 (論文等)

氏名	論題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
Sato M, Kayashima K	Difficulty in inserting left double-lumen endobronchial tubes at the cricoid in small- statured women: A retrospective study	Indian J Anaesthesia	61	p393-7	2017 年 5 月
Kayashima K, Kajita M	Displayed hypocapnia caused by a cracked water trap	Displayed hypocapnia caused by a cracked water trap	45	p320	2017 年 12 月
Kayashima K, Doi T, Yamasaki R, Imai K	Long-axis ultrasonic images of the pediatric larynx and trachea with a cuffed endotracheal tube	Anesthesiology	127	p1016	2017 年 12 月
Kayashima K, Imai K	Mispositioning the end of a cuff inflating line in long-axis ultrasound imaging of the pediatric larynx and trachea: a case report	Pediatric Anesthesia	28	p75-6	2018 年 1 月
茅島顕治	III 知っておきたい小児麻酔のポイント. 14 血 管アクセス). 上園晶一編.	小児麻酔臨床実践 ガイド (小児麻酔 Q&A) 総合医学社	第 2 版	p254-60	2017.5.15
山崎 遼、茅島顕治、 武末美幸、土井 拓、 市来亜由美、亀谷彩花、 今井敬子、村島浩二、 芳野博臣.	2 歳未満の小児におけるカフ付き気管チューブ の使用経験	臨床麻酔	41	p776	2017 年 5 月



## 業績目録

氏 名	論 題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
茅島顕治、今井敬子、 武末美幸、佐藤美佳、	当院の麻酔管理におけるヒューマンエラー	麻酔	66	p658-62	2017 年 6 月
丸岡 司、村島浩二、 茅島顕治	保険診療上の麻酔困難症例における術後合併症発生予測因子の検討	麻酔	67	p213-7	2018 年 2 月



## ◆上部消化管外科 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
Toshinaga Nabae, Toshitatu Ogino, Hideyo Kimura Takanori Mei, Shiho Nishimura, Yutaka Yamada Kouki Oyama, Akihiko Uchiyama	Short-term results of laparoscopic esophagojejunostomy using linear staplers after total gastrectomy for gastric cancer	DDW2018	2017/5/6 ~ 5/9	Chicago, USA
難波江俊永、西村志帆、 柳親 茂、村上聡一郎、 荻野利達、内山明彦	食道悪性黒色腫の2切除例	第 71 回日本食道学会	2017/6/15 ~ 6/16	軽井沢プリン スホテル(長野)
難波江俊永、荻野利達、 目井孝典、西村志帆、 山田 裕、小山虹輝、 内山明彦	当院での腹腔鏡下胃全摘術における linear stapler を用いた消化管再建法	第 72 回日本消化器外科学 会総会	2017/7/20 ~ 7/22	金沢県立音楽 堂他(金沢)
荻野利達、難波江俊永、 村上聡一郎、内山明彦	pStage I B 以上における腹腔鏡下幽門側胃切除 (LDG) の検討	第 72 回日本消化器外科学 会総会	2017/7/20 ~ 7/22	金沢県立音楽 堂他(金沢)
木村英世、難波江俊永、 荻野利達、目井孝典、 西村志帆、山田 裕、 小山虹輝、内山明彦	腹腔鏡下幽門側胃切除術における腹腔内 Roux-en Y 再建	第 72 回日本消化器外科学 会総会	2017/7/20 ~ 7/22	金沢県立音楽 堂他(金沢)
目井孝典、難波江俊永、 木村英世、荻野利達 村上聡一郎、内山明彦	腹腔鏡下幽門側胃切除術の早期合併症の検討	第 72 回日本消化器外科学 会総会	2017/7/20 ~ 7/22	金沢県立音楽 堂他(金沢)
坂梨溪太、難波江俊永、 荻野利達、内山明彦	腹腔内出血を契機に診断がついた胃 GIST の 1 例	第 79 回日本臨床外科学会 総会	2017/11/23 ~ 11/25	東京国際 フォーラム (東京)
西村志帆、難波江俊永、 内山明彦	上部消化管穿孔に対する腹腔鏡下穿孔部閉鎖術 - Knotless barbed suture の有用性	第 30 回日本内視鏡外科学 会総会	2017/12/7 ~ 12/9	国立京都国際 会館(京都)
木村英世、難波江俊永、 西村志帆、柳親 茂、 村上聡一郎、林 晃史、 内山明彦	当院における腹腔鏡下幽門側胃切除術後早期合併 症の検討	第 30 回日本内視鏡外科学 会総会	2017/12/7 ~ 12/9	国立京都国際 会館(京都)
柳親 茂、難波江俊永、 青山諒平、久保顕博、 坂梨溪太、堤親範、 西村志帆、木村英世 林 晃史、内山明彦	頸胸境界部の食道異物に対して胸腔鏡下異物摘出 術を施行した一例	第 30 回日本内視鏡外科学 会総会	2017/12/7 ~ 12/9	国立京都国際 会館(京都)



## 業績目録

## ◆上部消化管外科 (論文等)

氏 名	論 題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
柳親成、難波江俊永 内山明彦ほか、	頸胸境界部の食道異物に対して胸腔鏡下異物摘出術を施行した一例	臨床と研究	94 (10)	79-82	2017
Hideyo Kimura, Mikimasa Ishikawa, Toshinaga Nabae, Akihiko Uchiyama, et al	Internal hernia after laparoscopic gastrectomy with Roux-en-Y reconstruction for gastric cancer	Asian Journal of Surgery	40	203 ~ 209	2017



## ◆下部消化管外科 (講演・学会発表等)

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
村上聡一郎、梁井公輔、久保顕博ほか	上腸間膜静脈浸潤が疑われたリンパ節転移を伴う横行結腸癌の一切除例	第 14 回北九州内視鏡外科手術手技研究会	2017/6/1	リーガロイヤルホテル小倉(北九州)
村上聡一郎、梁井公輔、西村志帆ほか	上腸間膜静脈浸潤が疑われたリンパ節転移を伴う横行結腸癌に対して腹腔鏡補助下に根治切除し得た 1 例	第 30 回日本内視鏡外科学会総会	2017/12/7～12/9	国立京都国際会館(京都)



## ◆肝胆膵外科 (講演・学会発表等)

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
堤親範、木村英世、 山田大輔、川本雅彦ほか	魚骨の胃壁穿通による肝膿瘍に対して腹腔鏡下摘 出術を行った1例	第130回北九州外科研究 会	2017/9/1	北九州市
川本雅彦、山田大輔、 木村英世ほか	膵頭十二指腸切除術後の上部胆管癌に対する肝切 除術	北九州肝胆膵外科フォーラ ム	2017/11/2	北九州市
堤親範、木村英世、 山田大輔、川本雅彦ほか	魚骨の胃壁穿通による肝膿瘍に対して腹腔鏡下摘 出術を行った1例	第30回日本内視鏡外科学 会総会	2017/12/7～ 12/9	国立京都国際 会館(京都)
木村英世、川本雅彦、 梅田修洋、山田大輔ほか	当科における腹腔鏡下総胆管切開切石術の手術手 技	第7回腹腔鏡下胆道手術 研究会	2018/2/1	名古屋



## ◆呼吸器外科 (講演)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
中村 勝也	有癭性アスペルギルス膿胸に対し、遊離大網充填・胸郭形成術を施行した1例	第 37 回北九州胸部疾患研究会	2017/2/21	当院大講堂
中村 勝也	小型肺癌の外科治療	第 6 回黒崎呼吸器カンファレンス	2017/3/2	黒崎ひびしんホール
中村 勝也	有癭性アスペルギルス膿胸に対し、遊離大網充填・胸郭形成術を施行した1例	第 34 回日本呼吸器外科学会総会	2017/5/18-5/19	国立京都国際会館
内山 明彦	バイポーラーソフト凝固を用いた肺癌手術：利点を活かすコツ	第 34 回日本呼吸器外科学会総会	2017/5/18-5/19	国立京都国際会館
中村 勝也	期肺癌長期生存例の検討	第 7 回福岡胸部外科疾患研究会	2017/7/8	JR 博多シティ
坂梨 溪太	肺炎を契機に発見された肺癌の1例	第 6 回黒崎呼吸器カンファレンス	2017/9/25	黒崎ひびしんホール

## ◆呼吸器外科 (論文等)

氏名	論題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
中村 勝也	The effects of anesthetic agents on pupillary function during general anesthesia using the automated infrared quantitative pupillometer.	J Clin Monit Comput.	31(2)	291-296	2017/4
内山 明彦	Internal hernia after laparoscopic gastrectomy with Roux-en-Y reconstruction for gastric cancer.	Asian J Surg.	40(3)	203-209	2017/5
中村 勝也	Brain-derived neurotrophic factor/tropomyosin-related kinase B signaling pathway contributes to the aggressive behavior of lung squamous cell carcinoma.	Laboratory investigation	97(11)	1332-1342	2017/9
中村 勝也	Hedgehog inhibition upregulates TRK expression to antagonize tumor suppression in small cell lung cancer cells.	Anticancer Res	37(9)	4987-4992	2017/9

**◆乳腺外科 (講演・学会発表等)**

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
梅田修洋、村上聡一郎、田中晴生、西村志帆、中村勝也、内山明彦、西山純司、笹栗毅和	化学療法中断後も内分泌療法のみで長期生存した浸潤性微小乳頭癌の1例	第 25 回日本乳癌学会学術総会	2017/7/13	福岡
村上聡一郎、梅田修洋、田中晴生、西村志帆、中村勝也、内山明彦、西山純司、笹栗毅和	手術不能・再発乳癌に対するエリブリン療法の検討-忍容性・次治療移行の有無を中心に-	第 25 回日本乳癌学会学術総会	2017/7/13	福岡

**◆乳腺外科 (論文等)**

氏名	論題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
梅田修洋、石川幹真、矢永博子、島田和生	乳房温存術後の乳癌局所再発との鑑別に難渋した遊離真皮脂肪片硬化の1例	Oncoplastic Breast Surgery	2(1)	16-20	2017



## ◆小児外科（講演・学会発表等）

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
萩尾泰明、是松辰哉、 島袋 渡、城尾正彦、 米田 哲、山本順子、 高橋保彦、和田桃子、 上村哲郎	小児在宅医療症例に対する胃瘻造設の検討	第 493 回日本小児科学会 福岡地方会例会	2017/2/4	久留米
是松辰哉、江上直樹、 萩尾泰明、松岡良平、 白水優光、飯田千晶、 大村隼也、岡田清吾、 島袋 渡、長友雄作、 城尾正彦、横田千恵、 米田 哲、渡邊まみ江、 宗内 淳、山本順子、 高橋保彦、和田桃子、 上村哲郎、落合由恵	当院で経験した縦隔気腫 13 例の検討	第 493 回日本小児科学会 福岡地方会例会	2017/2/4	久留米
堤親範、和田桃子、 上村哲郎、江上直樹、 高橋保彦	急性膵炎を繰り返した非拡張型膵胆管合流異常症 の 1 例	第 493 回日本小児科学会 福岡地方会例会	2017/2/4	久留米
木村英世、川本雅彦、 山田大輔、小山虹輝、 山田 裕、西村志帆、 目井孝典、柳親 茂、 村上聡一郎、萩野利達、 田中晴生、梁井公輔、 中村勝也、出雲明彦、 難波江俊永、梅田修洋、 上村哲郎、内山明彦	中央二区域切除 の 3 例	第 96 回北九州肝腫瘍研究会	2017/2/9	北九州
中村勝也、西村志帆、 山田 裕、小山虹輝、 目井孝典、木村英世、 和田桃子、柳 親茂、 萩野利達、村上聡一郎、 田中晴生、梁井公輔、 山田大輔、川本雅彦、 出雲明彦、難波江俊永、 梅田修洋、上村哲郎、 川上 覚、吉田 聖、 内山明彦	有瘻性アスペルギルス膿胸に対し、遊離大網充填・胸 郭形成術を施行した 1 例	第 37 回 北九州胸部疾患 研究会	2017/2/21	北九州
飯田千晶、長友雄作、 松岡良平、白水優光、 岡田清吾、渡辺まみ江、 宗内 淳、落合由恵、 和田桃子、上村哲郎	Trisomy18 症例における胎児診断の役割 ～早期 在宅医療へ向けた胎児診断の役割	第 23 回日本胎児心臓病学 会学術集会	2017/3/3	東 京
是松辰哉、米田 哲、 萩尾泰明、島袋 渡、 城尾正彦、高橋保彦、 和田桃子、上村哲郎、 落合由恵	当院で経験した気管腕頭動脈瘻の 4 例	第 494 回日本小児科学会 福岡地方会例会	2017/4/8	福 岡
飯田千晶、長友雄作、 松岡良平、白水優光、 岡田清吾、渡辺まみ江、 宗内 淳、落合由恵、 和田桃子、上村哲郎	22 トリソミーモザイクの治療経験	第 120 回日本小児科学会 学術集会	2017/4/14 - 16	東 京
古野 渉、和田桃子、 上村哲郎	急性膵炎を繰り返した非拡張型膵胆管合流異常症 の 1 例	第 54 回日本小児外科学会 学術集会	2017/5/11-13	仙 台

**業績目録**

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
上村哲郎、古野 渉、 和田桃子	多脾症候群に十二指腸二重狭窄症を伴った1例	第 54 回日本小児外科学会 学術集会	2017/5/11-13	仙 台
上村哲郎、青山諒平、 古野 渉、和田桃子	食道閉鎖根治術を施行した 18 トリソミー被災児の 1 例	第 54 回九州小児外科学会	2017/5/27	熊 本
大村隼也、横田千恵、 山本順子、高橋保彦、 古野 渉、和田桃子、 上村哲郎	胎児期に巨大腹腔内嚢胞として指摘された左多嚢 胞性異形成腎 (MCDK) を伴う精嚢嚢胞の1例	第 495 回日本小児科学会 福岡地方会例会	2017/6/10	福 岡
中村勝也、坂梨溪太、 堤親 範、青山諒平、 久保顕博、西村志帆、 古野 渉、木村英世、 柳親 茂、村上聡一郎、 林 晃史、田中晴生、 梁井公輔、山田大輔、 川本雅彦、難波江俊永、 梅田修洋、上村哲郎、 笹栗毅和、内山 明彦	p-III 期肺癌長期生存例の検討	第 7 回 福岡胸部外科疾患 研究会	2017/7/8	福 岡
古野 渉、上村哲郎、 大村隼也、酒井賢一郎	熊本地震における当院の活動と小児外科診療の報 告	第 47 回九州小児外科研究会	2017/8/26	福 岡
相良優佳、大村隼也、 横田千恵、山本順子、 高橋保彦、古野 渉、 上村哲郎	最近 5 年間で経験した Hirschsprung 病のまとめ	第 5 回北九州新生児懇話 会学術集会	2017/9/12	北九州
森麻里母、大村隼也、 城尾正彦、芳野三和、 鳥袋 渡、米田 哲、 山本順子、高橋保彦、 古野 渉、石原 潤、 高木祐吾、水落建輝	眼皮膚白皮症 (OCA) に合併した超早期発症型炎 症性腸疾患 (VED-IBD) の1例	第 496 回日本小児科学会 福岡地方会例会	2017/10/21	福 岡
相良優香、大村隼也、 横田千恵、山本順子、 高橋保彦、古野 渉、 上村哲郎	呼吸管理に難渋している Bronchopulmonary fore- gut malformation (BPFM) の1例	第 71 回九州新生児研究会	2017/11/18	北九州
古野 渉、荒 桃子、 上村哲郎	僧帽弁逸脱を伴う漏斗胸に対する Nuss 手術の1 例	第 17 回 Nuss 法漏斗胸手 術手技研究会	2017/11/24	高 松
坂梨溪太、柳親 茂、 難波江俊永、堤親 範、 木村英世、村上聡一郎、 梁井公輔、川本雅彦、 梅田修洋、上村哲郎、 内山明彦	腹腔内出血を契機に診断がついた胃 GIST の1例	第 79 回臨床外科学会総会	2017/11/23-25	東 京



## 業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
古野 渉、上村哲郎	僧帽弁逸脱を伴う漏斗胸に対する Nuss 手術の 1 例	第 11 回北部九州小児外科研究会	2017/12/1	福岡
青山諒平、古野 渉、上村哲郎	腸回転異常を伴わない小腸捻転の 1 例	第 497 回日本小児科学会福岡地方会例会	2017/12/9	北九州
中村勝也、久保顕博、坂梨溪太、青山諒平、堤 親範、木村英世、古野 渉、柳親 茂、林 晃史、村上聡一郎、田中晴生、梁井公輔、山田大輔、川本雅彦、出雲明彦、難波江俊永、梅田修洋、上村哲郎、井上勝博、川上 覚、原田大志、渥美和重、内山明彦	当科における肺尖部胸壁浸潤癌の手術症例	第 39 回北九州胸部疾患研究会	2018/2/19	小倉
古野 渉、青山諒平、上村哲郎	サイロ形成を併施した左横隔膜ヘルニアの 1 例	第 74 回北九州小児外科研究会	2018/3/1	小倉
上村哲郎、古野 渉、青山諒平、荒 桃子	多脾症候群の脾腫瘍に対する脾血管温存脾体尾部切除術の 1 例	第 31 回日本小児脾臓研究会	2018/3/10	福岡
古野 渉、上村哲郎	腸回転異常を伴わない小腸捻転の 1 例	第 128 回九州大学小児外科合同症例検討会	2018/3/22	福岡

## ◆整形外科 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
土屋邦喜 宮崎幸政	腰椎外側病変に対する内視鏡手術 - MED と PED の特徴を生かす使い分け -	第 46 回日本脊椎脊髄病学会	2017.4.13	札幌
土屋邦喜	頸椎疾患に対する PED (CPED) の適応、留意点	第 90 回北九州脊椎脊髄研究会	2017.5.29	北九州
土屋邦喜	慢性腎不全患者における脊椎疾患に対する手術適応と合併症対策	腎不全外科合併症学術講演会	2017.6.6	北九州
土屋邦喜	脊椎疾患に対する顕微鏡および各種内視鏡デバイスの特徴と使い分け	第 8 回和歌の浦低侵襲脊椎外科セミナー	2017.6.16 - 17	和歌山市
土屋邦喜	脊椎疾患の診断と治療のピットフォール - プライマリ・ケアにおけるポイントと脊椎小侵襲手術の現況 -	小倉整形外科医会研修会	2017.6.28	小倉
土屋邦喜	transforaminal approach の基本手技、ワークショップインストラクター	第 17 回 PED セミナーワークショップ	2017.7.15 - 16	タイ (バンコク)
土屋邦喜	脊椎小侵襲手術の現況と展望 - 内視鏡の特徴とその適応、保存加療の位置づけ -	第 3 回痛みの研究会	2017.7.18	飯塚
土屋邦喜 伊藤田慶	脊椎内視鏡手術における術中併発症の検討	第 20 回 JASMISS	2017.7.27 - 28	札幌
土屋邦喜	脊椎内視鏡手術におけるトラブルと回避の工夫	第 92 回北九州脊椎脊髄研究会	2017.8.7	小倉
土屋邦喜	腰痛、下肢痛の診断と治療 - 慢性疼痛に対する薬剤の使い分けと手術の適応 -	小倉薬剤師会学術研修会	2017.8.22	小倉
土屋邦喜 伊藤田慶	血液透析患者に対する腰椎後方インストゥルメンテーション手術の適応と問題点 - 術後 2 年以上経過例での検討 -	第 26 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会	2017.10.13 - 14	金沢



氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
土屋邦喜	脊椎インストゥルメンテーションの基本手技	若手医師と看護師のための 脊椎インストゥルメン テーションセミナー	2017.10.15	金 沢
土屋邦喜	第 19 回日本整形外科学会内視鏡技能講習会 インストラクター (MED)		2017.11.25	神 戸

### ◆整形外科 (論文等)

氏名	論 題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
土屋邦喜	腰椎椎間板ヘルニアに対する PED 法	関節外科	36	771 - 9	2017
中村哲郎、進 悟史 山本典子、土屋邦喜	股関節疾患ならびに骨折	透析患者の侵襲性 治療 臨床透析	33	914 - 920	2017
土屋邦喜、宮崎幸政	経皮的内視鏡を用いた腰部脊柱管狭窄症除 圧術 (Percutaneous Endoscopic Laminotomy) の成績、問題点と手法における工夫	J.Spine Res.	8	1402- 1406	2017
土屋邦喜	腰椎椎間板ヘルニア切除術	整形外科看護	2017 秋季 増刊	182 - 7	2017 メディカ出版

## ◆心臓血管外科 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
徳永滋彦 (座長)	"Veno - Venous ECM() for Respratory Support"	Dr. Gurmeet Singh 講演会	2017 年 4 月 3 日	JCHO 九州病院 大会議室 (別館 4 階)
落合由恵	三次元心臓モデルによる治療方針の決定	第 21 回福岡心臓血管外科 カンファレンス	2017 年 6 月 9 日	大丸別荘
落合由恵 (座長)	講演：九州地区における慢性血栓塞栓性肺高血圧 症 (CTEPH) の新時代	第 122 回日本循環器学会 九州地方会	2017 年 6 月 24 日	アクロス福岡
落合由恵	歴史ある当院での心臓血管外科手術	いばらぎ心臓血管外科 フォーラム	2017 年 6 月 29 日	筑波大学附属 病院
落合由恵 (座長)	一般口演 21(I-OR21) 成人先天性心疾患 3	第 53 回日本小児循環器学 会総会・学術集会	2017 年 7 月 7 日	アクロシティ 浜松
落合由恵	PHACE 症候群に合併した 1 才の遠位弓部大動脈 瘤の手術	第 53 回日本小児循環器学 会総会・学術集会	2017 年 7 月 7 日	アクロシティ 浜松
徳永滋彦	会長要望演題 3：CABG 術後遠隔期における再開 心術の注意点	第 22 回日本冠動脈外科学会	2017 年 7 月 14 日	千里阪急 ホテル
徳永滋彦	指定講演：川崎病 (炎症性心疾患) における冠動 脈バイパスの Pit f all	WEP2017	2017 年 7 月 22 日	ヒルトン大阪
安東勇介	青年期に手術を施行した PA sling の一例	第 50 回日本胸部外科学会 九州地方会総	2017.7.27. 福岡	アクロス福岡
落合由恵	ビデオ：PHACE 症候群 1 歳女児の遠位弓部大動 脈瘤に対する手術	第 50 回日本胸部外科学会 九州地方会総	2017.7.27. 福岡	アクロス福岡
宮城ちひろ	先天性左冠動脈主幹部閉塞に外科治療を施行した 一例	第 50 回日本胸部外科学会 九州地方会総	2017.7.27. 福岡	アクロス福岡



氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
瀧川友哉	副僧帽弁を合併した中間型房室中隔欠損症の1例	第50回日本胸部外科学会九州地方会総会	2017.7.27. 福岡	アクロス福岡
落合由恵 (座長)	先天性心疾患3	第50回日本胸部外科学会九州地方会総会	2017.7.27. 福岡	アクロス福岡
徳永滋彦 (座長)	特別セッション: My favorite papers and Once rejected papers	第55回日本文工臓器学会総会	2017年9月2日	法政大学市ヶ谷キャンパス
松本一志	一般講演3: VA ECMO 管理中に発生した薬剤誤投与に関する検討	第55回日本文工臓器学会総会	2017年9月2日	法政大学市ヶ谷キャンパス
徳永滋彦	市民公開講座、～高校生のための～人工臓器体験講座	第55回日本文工臓器学会総会	2017.9.3. 東京	法政大学市ヶ谷キャンパス
徳永滋彦	Surgical Technique Session: 活動性感染性心内膜炎による広範囲大動脈弁輪膿瘍除去後の左室流出路再建法: 自己心膜折り紙パッチ法	第70回日本胸部外科学会総会	2017年9月28日	さっぽろ芸術文化の館 / ロイトン札幌
徳永滋彦	Surgical Technique Session: 重症先天性僧帽弁閉鎖不全症に対する Partial Normo-Valve 法による僧帽弁形成術	第70回日本胸部外科学会総会	2017年9月28日	さっぽろ芸術文化の館 / ロイトン札幌
安東勇介	Ross 術後の Autograft 拡張に関する検討: ポスター	第70回日本胸部外科学会総会	2017年9月28日	さっぽろ芸術文化の館 / ロイトン札幌
落合由恵	Sutureless pericardial marsupialization for the repair of congenital right pulmonary vein atresia	51th EACTS	2017年10月8日	Vienna
徳永滋彦	大動脈疾患治療の現況と最新の知見	第10回遠賀中間循環器連携セミナー	2017年10月16日	遠賀中間医師会館
安東勇介	当院におけるアイノフローの使用経験	第2回九州 iNO フォーラム	2017年11月10日	サットンホテル博多シティ

業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
徳永滋彦	ポスター 3: Complex スコア 9 点 Barlow 病に Techniqu スコア 12 点の多手技形成で逆流制御した 1 例	第 8 回 日本心臓弁膜症学会	2017 年 11 月 24 日	ステーション コンファレンス 東京
徳永滋彦、(座長)	Case Report Award 2	第 123 回日本循環器学会 九州地方会	2017 年 12 月 2 日	久留米シテイ プラザ
落合由恵	特別講演: 歴史ある当院での心臓血管外科手術 ある女性心臓外科医の思い	第 123 回日本循環器学会 九州地方会	2017 年 12 月 2 日	久留米シテイ プラザ
落合由恵 (座長)	一般口演 8: 外科治療	第 20 回日本成人先天性心 疾患学会総会	2018 年 1 月 28 日	学術総合 センター 一橋講堂
徳永滋彦	ビデオ演題 2: 脆弱弁輪に対する後尖温存僧帽弁 置換術における後尖 Detach & Retouch 法	第 48 回日本心臓血管外科 学会学術総会	2018 年 2 月 19 日	三重県 総合文化センター
落合由恵 (座長)	パネルディスカッション 2 Fontan 術後遠隔成績 向上をめざす外科治療	第 48 回日本心臓血管外科 学会学術総会	2018 年 2 月 19 日	三重県 総合文化センター
落合由恵 (座長)	特別企画 5 男女共同参画	第 48 回日本心臓血管外科 学会学術総会	2018 年 2 月 20 日	三重県 総合文化センター
安東勇介	当院における新生児・乳児期早期の重症大動脈弁 狭窄の治療成績	第 48 回日本心臓血管外科 学会総会	2018 年 2 月 21 日	三重県 総合文化センター
宮城ちひろ	一般講演 18、肺高血圧を伴う先天性心疾患にお ける肺血管コンプライアンスの問題点	第 48 回日本心臓血管外科 学会学術総会	2018 年 2 月 21 日	三重県 総合文化センター



## ◆心臓血管外科 (論文等)

氏 名	論 題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
城尾邦彦 他	大動脈弓離断症術後遠隔期に発生した胸部大動脈瘤	日本小児循環器学会雑誌、	33(5):	404-408	2017
徳永滋彦	1. 開心術の基本テクニックと心房中隔欠損症手術の注意点、	心臓・大動脈外科手術-基本・コツ・勘所 2018		(in press)	
落合由恵	No one but you, 親愛なる野尻知里先生へ	人工臓器	46(1):	8	2017
Ochiai et al.	Sutureless pericardial marsupialization for the repair of congenital right pulmonary veins atresia.	Interact Cardio-Vasc Thorac Surg	27	151-152	2018



## 業績目録

## ◆脳神経外科 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
今本尚之	前交通動脈瘤の手術	第 4 回北九州友好脳神経外科研究会	2017.07.21	北九州
今本尚之	Angiographiccal occult aneurysm の一例	第 8 回関門 CVD カンファレンス	2017.10.20	小倉
白水寛理	中枢神経原発のリンパ腫様肉芽種の一例	第 127 回日本脳神経外科学会九州支部会	2017.10.21	長崎



## 業績目録

## ◆産婦人科 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
愛甲悠希代、川上剛史、村上孟司、尾崎美華、桑原正裕、西村和泉、河野善明、衛藤貴子、中原博正	肥大型心筋症合併双胎妊娠の一例	第 155 回福岡産科婦人科学会	2017/9/24	北九州国際会議場
村上孟司、衛藤貴子、尾崎美華、愛甲悠希代、西村和泉、河野善明、川上剛史、中原博正	子宮頸癌Ⅱa期に対する放射線治療の6年後に子宮体部癌肉腫を発症した1例	第 155 回福岡産科婦人科学会	2017/9/24	北九州国際会議場
村上孟司、衛藤貴子、尾崎美華、愛甲悠希代、西村和泉、河野善明、川上剛史、中原博正	直腸転移巣を契機に発見された子宮頸癌Ⅱa期に対する放射線治療の6年後に子宮体部癌肉腫を発症した1例	第 156 回福岡産科婦人科学会	2018/1/28	JR 博多シティ会議室
村上孟司、川上剛史、魚住彩沙、尾崎美華、桑原正裕、愛甲悠希代、西村和泉、河野善明、衛藤貴子、中原博正	異型適合輸血を必要とした産褥出血による搬送症例の検討	第 156 回福岡産科婦人科学会	2018/1/28	JR 博多シティ会議室

## ◆産婦人科 (論文等)

氏名	論題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
梅田修洋、石川幹真、矢永博子、島田和生	乳房温存術後の乳癌局所再発との鑑別に難渋した遊離真皮脂肪片硬化の1例	Oncoplastic Breast Surgery	2(1)	16-20	2017



## 業績目録

## ◆皮膚科 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
井上明葉、廣正佳奈	第 X Ⅲ 因子製剤が著効した IgA 血管炎の 1 例	第 382 回日本皮膚科学会 福岡地方会	H29.9.10	KMM ビル

## ◆皮膚科 (論文)

氏名	論題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
濱田 薫、廣正佳奈	下肢の左側に原曲したペラグラの 1 例	臨床皮膚科	72 巻 1 号	35-40	2018.01



## ◆眼科（講演・学会発表等）

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
藤澤公彦	最近の話題 - CH が低いと緑内障は進行しやすいか -	第 6 回北九州眼科医療機器懇話会	2.12.2017	上関町
藤澤公彦	新しい AMD 治療指針 - 変更後 -	第 12 回北九州黄斑疾患研究会	3.16.2018	北九州市
藤澤公彦	新たにスタートした AMD の地域医療連携 Treat and Extend 北九州プロトコル	第 10 回北九州黄斑疾患研究会	3.24.2017	北九州市
藤澤公彦	加齢黄斑変性治療の北九州市における新しい病診連携	第 4 回 Akita Retina Conference	3.25.2017	秋田市
藤澤公彦	抗 VEGF 治療と病診連携の新しい取り組み	第 121 回 日本眼科学会総会ランチョンセミナー 20	4.7.2017	東京都
藤澤公彦	高齢者の眼の病気	九州病院 OB 会学術講演会 5.	27.2017	北九州市
藤澤公彦	PCV マネージメントの展望 - 拡がる治療選択 -	AMD 治療における医療連携	9.18. 2017	東京都
藤澤公彦	角膜剛性で補正する新しい眼圧計の未来	第 6 回めだかの会	10.7.2017	福岡市
藤澤公彦	加齢黄斑疾患治療の北九州における新しい病診連携	第 4 回 アイリーア黄斑疾患セミナー	3.31.2018	佐賀市
山名智志	ピリメタミンにより加療した眼トキソプラズマ症の 2 例	フォーサム 2017	7.14.2017	大阪市
清水瑞己	若年者にみられた乳頭出血の 3 例	第 71 回日本臨床眼科学会	10.12.2017	東京都
小野大地	視神経乳頭腫脹を合併した若年性後部強膜炎の 1 例	第 55 回六大学合同眼科研究会	9.11.2017	福岡市
岡本美里	家族性滲出性硝子体網膜症所見と全身疾患の関連	第 121 回日本眼科学会	4.6.2017	東京都
岡本美里	水晶体形成異常に胎生血管系遺残を合併した小眼球症の 2 症例	第 42 回日本小児眼科学会	6.16.2017	金沢市



## ◆眼科 (論文)

氏 名	論 題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
Oshima Y, Kimoto K, Yoshida N, Fujisawa K, Sonoda S, Kubota T, Murata T, Sakamoto T, Yoshida S, Sonoda KH, Ishibashi T.	One-Year Outcomes following Intravitreal Aflibercept for Polypoidal Choroidal Vasculopathy in Japanese Patients: The APOLLO Study.	Ophthalmologica	238(3)	163-171	2017
Momozawa Y, Akiyama M, Kamatani Y, Arakawa S, Yasuda M, Yoshida S, Oshima Y, Mori R, Tanaka K, Mori K, Inoue S, Terasaki H, Yasuma T, Honda S, Miki A, Inoue M, Fujisawa K, Takahashi K, Yasukawa T, Yanagi Y, Kadonosono K, Sonoda KH, Ishibashi T, Takahashi A, Kubo M.	Low-frequency coding variants in CETP and CFB are associated with susceptibility of exudative age-related macular degeneration in the Japanese population.	Hum Mol Genet	25(22)	5027-5034	2016 Nov 15



## 業績目録

## ◆耳鼻科 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
西嶋利光	鼻粘膜皮膚置換術を施行したオスラー病の親子の2例	北九州耳鼻咽喉科臨床懇話会	2016.7・21	ホテルクラウンパレス小倉
小池浩次	頭頸部がんを見逃さないポイント	直方鞍手医師会学術講演会	2016.11・28	直方鞍手医師会館
松尾美央子、次郎丸梨那、小池浩次	頭頸部領域発生の肺外小細胞癌の6症例	頭頸部癌学会	2016.6・9	さいたま市
松尾美央子、次郎丸梨那、小池浩次	口腔癌化学放射線治療後に骨髄異型性症候群にいたった1例	日本耳鼻咽喉科学会	2016.5・21	名古屋市
次郎丸梨那、松尾美央子、梅野好啓、小池浩次	初診時に脳転移を認めた頸部食道癌の一例	日本耳鼻咽喉科学会	2016.5・21	名古屋市

## ◆耳鼻科 (論文)

氏名	論題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
松尾 美央子	レンバチニブが奏功した甲状腺癌2症例の経験	頭部部外科	26巻2号	259-263	2016.10
松尾 美央子	頭部部腺様嚢胞癌に対する術後放射線療法と化学療法の有用性の検討	耳鼻咽喉科臨床	109巻8号	557-561	2016.8

**業績目録**
**◆泌尿器科 (講演・学会発表等)**

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
筒井顕郎	ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術後早期の尿禁制となる因子の検討	第 105 回日本泌尿器科学会総会	2017.04.21	鹿児島市
安達拓未	JCHO 九州病院におけるロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術の初期経験	第 105 回日本泌尿器科学会総会	2017.04.21	鹿児島市
牟田口淳	Birt-Hogg-Dube(BHD) 症候群が疑われた腎癌の症例	第 30 回北九州泌尿器病理研究会	2017.06.06	北九州市
安達拓未	前立腺体積が RALP に与える影響は?	第 300 回日本泌尿器科学会福岡地方会	2017.07.22	福岡市
永川祥平	JCHO 九州病院における進行腎癌に対する Pazopanib 治療の検討	第 300 回日本泌尿器科学会福岡地方会	2017.07.22	福岡市
牟田口淳	腎盂尿管癌症例に対する尿管鏡検査は必要か	第 300 回日本泌尿器科学会福岡地方会	2017.07.22	福岡市
井上智博	JCHO 九州病院泌尿器科における他科合同手術について	第 300 回日本泌尿器科学会福岡地方会	2017.07.22	福岡市
安達拓未	ロボット支援前立腺全摘術における神経温存と術後尿禁制についての検討	第 82 回日本泌尿器科学会東部総会	2017.09.17	東京都
永川祥平	前立腺体積が 50g を超える RALP 症例の検討	第 82 回日本泌尿器科学会東部総会	2017.09.18	東京都
牟田口淳	画像上 T3 前立腺癌に対するロボット支援前立腺全摘術の検討	第 55 回日本癌治療学会学術集会	2017.10.20	横浜市
筒井顕郎	当院における TUEB (Transurethral enucleation with bipolar) 前後の排尿機能評価	第 69 回西日本泌尿器科学会総会	2017.11.10	大分市



## 業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
牟田口淳	尿細胞診 class3 以上におけるランダム生検の有用性の検討	第 69 回西日本泌尿器科学会総会	2017.11.11	大分市
原野正彦	泌尿器腹腔鏡手術の進歩～ロボット支援手術について～	第 148 回八幡成人病懇話会	2017.11.14	北九州市
安達拓未	当院における TUL および ESWL の臨床的検討	第 31 回日本泌尿器内視鏡学会総会	2017.11.16	徳島市
井上智博	RENAL nephrometry score とロボット支援腎部分切除症例の周術期成績の検討	第 31 回日本泌尿器内視鏡学会総会	2017.11.16	徳島市
原野正彦	JCHO 九州病院泌尿器科におけるロボット手術の現状	第 15 回北九州内視鏡手術手技研究会	2017.11.21	北九州市
筒井顕郎	UDS (urodynamic study) を用いたロボット支援前立腺全摘術 (RALP) 前後での膀胱機能変化の検討	第 67 回日本泌尿器科学会中部総会	2017.11.25	大阪市
永川祥平	後腹膜到達法による RALP 症例の検討～経腹膜到達法との比較～	第 67 回日本泌尿器科学会中部総会	2017.11.26	大阪市
井上智博	ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術の周術期成績に関する検討	第 89 回日本泌尿器科学会宮崎地方会	2018.01.20	宮崎市
筒井顕郎	当院におけるロボット支援腎部分切除術 (RAPN) の経験	北九州腎がんセミナー	2018.01.30	北九州市
安達拓未	BPH に伴う二次性 VUR に対して膀胱拡大術と膀胱尿管新吻合を施行した一例	第 301 回日本泌尿器科学会福岡地方会	2018.02.24	久留米市
永川祥平	肝合併切除を伴った副腎皮質癌の 1 例	第 301 回日本泌尿器科学会福岡地方会	2018.02.24	久留米市



## 業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
牟田口淳	所属リンパ節に同一病変を認めた腎血管筋脂肪腫の1例	第301回日本泌尿器科学会福岡地方会	2018.02.24	久留米市
井上智博	Martius フラップにて膀胱膿瘍閉鎖術を行った一例	第301回日本泌尿器科学会福岡地方会	2018.02.24	久留米市

## ◆泌尿器科 (論文等)

氏名	論題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
筒井顕郎、他	骨転移が消失し膀胱全摘術を施行した2例	西日本泌尿器科	80	9-12	2017
辻田次郎、他	尿閉を契機に診断された前立腺導管腺癌の1例	西日本泌尿器科	80	9-12	2018



## ◆臨床病理検査科(講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
笹栗 毅和	肝硬変を背景とした高分化型肝細胞癌の一例	北若会	2017/4/19	JCHO 九州病院
奥菌 学、笹栗 毅和	濾胞癌から発生した甲状腺低分化癌の1例-その細胞診像	北若会	2017/4/19	JCHO 九州病院
笹栗 毅和	胃 mixed adenoneuroendocrine carcinoma の一例	北若会	2017/5/17	JCHO 九州病院
奥菌 学、笹栗 毅和	睪頭部癌腹膜播種の1例-その細胞診像	北若会	2017/5/17	JCHO 九州病院
西山純司、安部拓也、奥菌 学、笹栗毅和、岩井幸子、松山篤二、岡 春子、小原光祥、下釜辰朗、金城 満	Atypical cells 判定群に関する一考察	第 58 回日本臨床細胞学会総会	2017/5/27	大阪国際会議場
笹栗毅和、牟田口 淳、井上智博、永川祥平、安達拓未、筒井顕郎、原野正彦	Birt-Hogg-Dube 症候群が疑われた腎癌症例(病理組織所見)	第 30 回北九州泌尿器病理研究会	2017/6/6	パークサイドビル
笹栗毅和	腫瘍破裂、腹腔内出血を伴った小型胃 GIST の一例	北若会	2017/6/21	JCHO 九州病院
奥菌 学、笹栗毅和	急性胆嚢炎の胆汁細胞診に出現した異型細胞の検討	北若会	2017/6/21	JCHO 九州病院
大内清子	肺腫瘍(ciliated muconodular papillary tumor)の一例	第 358 回九州・沖縄スライドコンファレンス	2017/7/8	九州大学病院 地区コラボ・セッション1
笹栗毅和	細胞内外に粘液産生を有した前立腺導管腺癌の一例	北若会	2017/7/19	JCHO 九州病院
奥菌 学、笹栗毅和	急性胆嚢炎の胆汁細胞診に出現した異型細胞の検討	北若会	2017/7/19	JCHO 九州病院

**業績目録**

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
奥蘭 学、笹栗毅和	乳腺乳管癌・小葉癌混在型の細胞診像	北若会	2017/9/20	JCHO 九州病院
笹栗毅和	腎血管筋脂肪腫及び腎門部リンパ脈管平滑筋腫症の一例	北若会	2017/10/18	JCHO 九州病院
奥蘭 学、笹栗毅和	乳腺管状癌の細胞診像	北若会	2017/10/18	JCHO 九州病院
西山純司, 安部拓也, 奥蘭 学, 笹栗毅和, 岩井幸子, 松山篤二, 岡ハル子, 小原光祥, 下釜達朗, 金城 満	尿細胞診における Atypical cell category の検討	第 56 回日本臨床細胞学会 秋期大会	2017/11/18	福岡国際 会議場
安部拓也, 玉城真太, 西山純司, 立岩友美, 豊嶋憲子, 奥蘭 学, 大内清子, 笹栗毅和	リンパ腫様型 / 形質細胞様型浸潤性尿路上皮癌の 1 例	第 56 回日本臨床細胞学会 秋期大会	2017/11/19	福岡国際 会議場
笹栗 毅和	リンパ腫様肉芽腫症状変化を伴った脳膠芽腫の一例	北若会	2017/11/22	JCHO 九州病院
笹栗 毅和	肝細胞管細胞癌の一例	北若会	2017/12/20	JCHO 九州病院
立岩友美, 安部拓也, 玉城真太, 西山純司, 豊嶋憲子, 奥蘭 学, 大内清子, 笹栗毅和	腹水中に出現した卵巣未熟奇形腫の一例	第 33 回福岡県臨床細胞学 会総会	2018/1/21	国立病院機構 九州医療 センター
笹栗 毅和	脾炎症性偽腫瘍様濾胞樹状細胞肉腫一例	北若会	2018/2/28	JCHO 九州病院
笹栗 毅和	胃 GIST と 脾 sclerosing angiomatoid nodular transformation (SANT) が合併した一例	北若会	2018/3/28	JCHO 九州病院
奥蘭 学、笹栗 毅和	JCHO 九州病院病理検査科の医療安全への取り組み	北若会	2018/3/28	JCHO 九州病院



## ◆臨床病理検査科(論文等)

氏名	論題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
西山純司、安部拓也、 玉城真太、立岩友美、 豊嶋憲子、奥菌 学、 大内清子、岩井幸子、 笹栗毅和	腎盂 lymphoepithelioma-like carcinoma の1例	日本臨床細胞学会 誌九州連合会雑誌	48号	83-88	2017 7月
玉城真太、安部拓也、 西山純司、立岩友美、 豊嶋憲子、奥菌 学、 野口紘嗣、久岡正典、 笹栗毅和	腹腔内に破綻し腹水細胞診に出現した後腹膜 原発未分化型多形肉腫 / 悪性線維性組織球腫 の1例	日本臨床細胞学会 誌九州連合会雑誌	48号	107-111	2017 7月
Muta T, Aoki K, Ogawa R, Sasaguri T	In vivo attraction of myeloma cells by renal cell carcinoma	Br J Haematol	178(4)	499	2017 8月
後藤洋徳、中嶋美咲、 宮原弘明、末延聡一、 宗内 淳、落合由恵、 笹栗毅和、井原健二	経時的な画像検査により適切な手術範囲と時期 を検討し得た PHACE 症候群の1例	小児科臨床	70号	1289-1293	2017 8月
辻田 次郎、待鳥 亜沙子、 安達 拓未、筒井 顕郎、原 野 正彦、笹栗 毅和	尿閉を契機に診断された前立腺導管腺癌の1例	西日本泌尿器科	80巻1号	9-12	2018 1月
Morioka T, Suzuki SO, Murakami N, Shimogawa T, Mukae N, Inoha S, Sasaguri T, Iihara K	Neurosurgical pathology of limited dorsal myeloschisis	Childs Nerv Syst	34号	293-303	2018 2月



## 業績目録

## ◆看護部 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
尾野肖子	急性期病院における院内デイケアの導入	北九州六地区支部看護の 取り組み発表会	2017年 11月14日	中間 ハーモニー ホール
出口賢二	救急外来における看護介入率の向上	第19回 フォーラム 「医療の改善活動」 in 松山	2017年 11月18日	松山市総合 コミュニティ センター
若島里昂	悪性リンパ腫 R-CHOP療法パス バリエーション 分析と今後の課題	第18回 日本クリニカルパス学会 学術集会	2017年 12月1日	大阪国際会議場 (グランキューブ 大阪)
上田知穂	辛抱細動カテーテルアブレーションクリニカルパス の評価と課題	第18回 日本クリニカルパ ス学会学術集会	2017年 12月1日	JCHO 九州病院
近藤恵子	「セルフケア支援」研修プログラムの教育効果に 関する実態調査	第37回 日本看護化学会 学術集会	2017年 12月16日	仙台国際 センター
近藤恵子	新人看護師を対象としたセルフケア支援研修の 教育評価 事例展開指導担当者からみた受講生の変化と指導 者の変化	第32回 日本がん看護学会学術集会	2018年 2月3日	ホテル ニュー大谷 幕張
白石志穂	意識障害がある患者の覚醒を目指した口腔ケア 手順統一の効果～導入編～	第43回 日本脳卒中学会 学術集会 STROKE2018	2018年 3月17日	福岡国際 会議場 福岡サンパレス
川村幸恵	周術期口腔機能管理に関する入退院センターの 取り組み	第1回 がん患者の歯科 医療連携研修会	2018年 1月11日	JCHO 九州病院



## 業績目録

## ◆薬剤部 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
川久保充章、釘原瑤子、上津沙織、居塚しのぶ、小倉秀美、末松文博	薬剤師外来における麻薬導入指導後の薬剤師介入効果と課題	第 11 回日本緩和医療薬学会年会	2017 年 6 月 4 日	札幌コンベンションセンター
末松文博	医療の変革期は、"薬剤師の存在意義"を示す絶好のチャンス	薬剤師フォーラム in Fukuoka	2017 年 7 月 9 日	九州大学 百年講堂
小倉秀美 (薬剤部)、出雲明彦 (救急・総合診療部)、酒井賢一郎 (救急・総合診療部)	経口血糖降下薬により低血糖を発症し救急搬送された 1 症例	第 36 回福岡救急医学会	2017 年 9 月 9 日	北九州国際会議場
釘原瑤子、小倉秀美、末松文博	JCHO 九州病院における薬剤総合評価調整加算への取り組み	第 78 回九州山口薬学大会	2017 年 9 月 17 日	シーガイアコンベンションセンター
野村公子、小倉秀美、末松文博	高齢者糖尿病の血糖コントロール目標の現状調査	第 78 回九州山口薬学大会	2017 年 9 月 17 日	シーガイアコンベンションセンター
桑村恒夫	抗がん剤曝露とその対策について	第 106 回大分県病院薬剤師会県南地区研修会	2017 年 9 月 26 日	西田病院
吉国健司	薬剤師視点の心臓リハビリテーション～処方薬や服薬アドヒアランスの評価～	心不全のチーム医療を考える会	2017 年 9 月 19 日	リーガロイヤルホテル
桑村恒夫	薬物療法適正化にどう関わるか - 地域基幹病院での取り組み -	福岡大学市民カレッジ 第 51 回薬学部 卒業教育講座	2017 年 10 月 21 日	福岡大学
小倉秀美、桑村恒夫、上津沙織	肺癌患者の症例検討	平成 29 年度患者のための薬局ビジョン推進事業第 1 回多職種連携薬物療法症例検討会	2017 年 10 月 30 日	JCHO 九州病院講堂
川久保充章、釘原瑤子、上津沙織、居塚しのぶ、小倉秀美、末松文博	薬剤師外来における麻薬導入患者への関わり (第 2 報)	第 27 回 日本医療薬学会年会	2017 年 11 月 3 日	幕張メッセ
川久保充章、釘原瑤子、上津沙織、居塚しのぶ、小倉秀美、末松文博	薬剤師外来における麻薬導入患者への関わり (第 2 報)	第 27 回 日本医療薬学会年会	2017 年 11 月 3 日	幕張メッセ



## 業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
小倉秀美、川久保充章、 釘原瑠子、上津沙織、 吉国健司、桑村恒夫、 末松文博	JCHO 九州病院における検査値付き処方せん発行 後の疑義照会の検討	第 27 回 日本医療薬学会年会	2017 年 11 月 4 日	幕張メッセ
末松文博 (薬剤部)、 小倉秀美 (薬剤部)、 吉国健司 (薬剤部)、 折口秀樹 (内科)、 藤本裕司 (北九州市八幡医師会)、 成重賢司 (八幡薬剤師会)、 星野正俊 (八幡薬剤師会)、 有吉俊二 (八幡薬剤師会)、 脇園隆二 (八幡薬剤師会)、 土橋卓也 (製鉄記念八幡病院)、 後藤渉 (製鉄記念八幡病院)、 太崎博美 (北九州市立八幡病院)、 村本真由美 (北九州市立八幡病院)、 植木哲也 (産業医科大学病院)、 日高博司 (産業医科大学若松病院)、 入江利行 (小倉記念病院)、 園田美樹 (八幡厚生病院)、 江本伸哉 (九州国際大学)	医師と薬剤師が協働して、地域で取り組む ポリファーマシー対策	第 27 回 日本医療薬学会年会	2017 年 11 月 4 日	幕張メッセ
西村直朗、桑村恒夫、 末松文博	当院における多発性骨髄腫に対する KRd 療法の 治療成績や副作用の検討	第 27 回 日本医療薬学会年会	2017 年 11 月 4 日	幕張メッセ
吉国健司、宮本愛子、 白石史遠、末松文博、 井上英一 (放射線室)、 中野政弘 (リハビリテーショ ン室)、中村英樹 (検査室)、 松本一志 (臨床工学室)、 海野聡美 (総務企画課)、 川地尚子 (栄養部)、 古賀和代 (看護部)、 富田美砂 (看護部)、 馬渡由紀子 (看護部)、 中嶋恭子 (看護部)、 松隈真紀子 (看護部)、 百名洋平 (内科)、 宮田健二 (内科)	JCHO 九州病院における救急蘇生講習会の評価	第 27 回 日本医療薬学会年会	2017 年 11 月 4 日	幕張メッセ
秋吉尚雄、桑村恒夫、 末松文博	シスプラチン併用化学放射線治療における、マグネ シウム補充による腎障害抑制効果について	第 27 回 日本医療薬学会年会	2017 年 11 月 5 日	幕張メッセ
川久保充章	薬剤師外来における麻薬導入患者への関わり	第 55 回福岡県病院診療所 薬剤師研修会	2017 年 11 月 9 日	福岡県 吉塚合同庁舎
大西利彦	薬剤師の業務	平成 29 年度 山口県立下関西高等学校 キャリアセミナー	2017 年 11 月 10 日	山口県立 下関西高校



## 業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
川久保充章	薬剤師外来における麻薬導入患者への関わり	第 16 回 地域薬剤師会・JCHO 九州病院薬剤部合同研修会	2017 年 11 月 15 日	JCHO 九州病院講堂
阿部名月	JCHO 九州病院におけるポリファーマシー対策～退院後につなげる施設間情報連絡書作成の試み～	第 220 回 洞薬会例会	2017 年 11 月 16 日	ステーション ホテル小倉
大西利彦 (薬剤部)、 川久保充章 (薬剤部)、 末松文博 (薬剤部)、 古田彰 (経理課)、 山本英雄 (循環器科)	JCHO 九州病院における治験受託件数増加への取り組み	第 3 回 JCHO 地域医療 総合医学会	2017 年 11 月 17 日	TKP ガーデンシティ 品川
小倉秀美、川久保充章、 釘原瑤子、上津沙織、 吉国健司、桑村恒夫、 末松文博	九州病院における検査値付き処方せん発行後の 疑義照会の検討	第 3 回 JCHO 地域医療 総合医学会	2017 年 11 月 18 日	TKP ガーデンシティ 品川
末松文博 (薬剤部)、 小倉秀美 (薬剤部)、 吉国健司 (薬剤部)、 折口秀樹 (老年内科)	医師と薬剤師が協働して、地域で取り組むポリ ファーマシー対策～「北九州高齢者薬物療法研究 会」発足とその活動～	第 3 回 JCHO 地域医療 総合医学会	2017 年 11 月 18 日	TKP ガーデンシティ 品川
大西利彦 (薬剤部)、 川久保充章 (薬剤部)、 末松文博 (薬剤部)、 古田彰 (経理課)、 山本英雄 (循環器科)	JCHO 九州病院における治験実施体制強化への 取り組み － SMO・CRC との協働－	第 38 回 日本臨床薬理学会 学術総会	2017 年 12 月 8 日	パシフィコ横浜
小倉秀美	看護管理職が知っておくべき薬剤の基礎知識 ～糖尿病治療薬	(公社) 福岡県医師会 第 39 回 看護師卒後研修会	2017 年 12 月 11 日	福岡県 医師会館
桑村恒夫	看護師が知っておくべき薬剤の基礎知識 - 抗がん 剤と感染関係の薬について -	(公社) 福岡県医師会 第 39 回 看護師卒後研修会	2017 年 12 月 11 日	福岡県 医師会館
末松文博	医療の大変革期において薬剤師はどう変わるか	(公社) 福岡県医師会 第 39 回 看護師卒後研修会	2017 年 12 月 11 日	福岡県 医師会館
吉国健司	看護師が知っておくべき薬剤の基礎知識 循環器疾患の薬学的管理	(公社) 福岡県医師会 第 39 回 看護師卒後研修会	2017 年 12 月 11 日	福岡県 医師会館
吉国健司	薬剤師視点の心臓リハビリテーション ～心不全患者の薬学的管理～	第 31 回 日本冠疾患学会学術集会	2017 年 12 月 15 日	大阪 国際会議場



## 業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
末松文博	医師と薬剤師が協働して、地域で取り組むポリファーマシー対策～「北九州高齢者薬物療法研究会」発足とその成果～	(一社)北九州市小倉医師会第3回ポリファーマシー対策研修会	2017年 12月4日	小倉医師会 介護サービス 総合センター
末松文博	新しい検査値付き院外処方箋について ～発行後1年間の実績を踏まえて～	平成29年度患者のための薬局ビジョン：患者情報に基づく安全な薬物療法提供推進事業	2018年 1月23日	JCHO 九州病院教育 実習センター
吉国健司	高齢者薬物療法における薬剤師の役割	脳卒中を考える会 in 八幡	2018年 1月25日	千草ホテル
吉国健司、宮本愛子、 神宮司華子、長谷川真理子、 末松文博	外来心臓リハビリテーションにおける患者教育の有効性の検討	近畿薬剤師会合同学術大会2018	2018年 2月3日	国立京都国際 会館
末松文博	医師との協働を実現した薬剤部業務とポリファーマシー対策	山口県光市三師会講演会	2018年 2月2日	山口県 光商工会議所
神宮司華子(薬剤部)、 吉国健司(薬剤部)、 宮本愛子(薬剤部)、 末松文博(薬剤部)、 星木宏之(リハビリテーション)、 佐藤憲明(リハビリテーション)	冠動脈バイパス術後における処方適正化	近畿薬剤師会合同学術大会2018	2018年 2月3日	国立 京都国際会館
長谷川真理子、吉国健司、 宮本愛子、神宮司華子、 末松文博	経口凝固因子直接阻害薬の使用状況と薬剤変更理由に関する調査	近畿薬剤師会合同学術大会2018	2018年 2月4日	国立 京都国際会館
阿部名月	高齢大腿骨頸部骨折患者に対する処方適正化への介入	第21回北九州薬剤師ハートカンファレンス	2018年 2月16日	ステーション ホテル小倉
末松文博	高齢者薬物療法適正化に向けたポリファーマシー対策と病診薬連携	高知県病院薬剤師会2月例会	2018年 2月22日	高知県 高新文化 ホール
阿部名月(薬剤部)、 桑村恒夫(薬剤部)、 上原奈緒(薬剤部)、 小川亮介(九州病院ICT)、 森本麗華(九州病院ICT)、 芳賀由美(九州病院ICT)	抗菌薬長期投与患者におけるVREスクリーニングの評価	第33回日本環境感染学会総会	2018年 2月23日	グランドプリンス ホテル新高輪、 国際館パミール、 グランドプリンス ホテル高輪



## 業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
阿部名月(薬剤部)、 吉国健司(薬剤部)、 小倉秀美(薬剤部)、 末松文博(薬剤部)、 折口秀樹(内科)、 中村哲郎(整形外科)、 土屋邦喜(整形外科)	JCHO九州病院におけるポリファーマシーカンファレンスの取り組み	第28回 日本老年医学会九州地方会	2018年 3月3日	琉球大学医学部臨床講義棟 大会議室
末松文博(薬剤部)、 小倉秀美(薬剤部)、 吉国健司(薬剤部)、 折口秀樹(内科)、 藤本裕司(北九州八幡医師会)、 星野正俊(八幡薬剤師会)、 有吉俊二(八幡薬剤師会)、 成重賢司(八幡薬剤師会)、 太崎博美(北九州市立八幡病院)、 土橋卓也(製鉄記念八幡病院)	医師と薬剤師が協働して、地域で取り組むポリファーマシー対策	第28回 日本老年医学会九州地方会	2018年 3月3日	琉球大学医学部臨床講義棟 大会議室
小倉秀美(薬剤部)、 末松文博(薬剤部)、 折口秀樹(内科)、 藤本裕司(北九州八幡医師会)、 星野正俊(八幡薬剤師会)、 成重賢司(八幡薬剤師会)、 村本真由美(北九州市立八幡病院)、 太崎博美(北九州市立八幡病院)、 後藤 渉(製鉄記念八幡病院)、 土橋卓也(製鉄記念八幡病院)	医師を対象としたポリファーマシー対策に対するアンケート調査	第28回 日本老年医学会九州地方会	2018年 3月3日	琉球大学医学部臨床講義棟 大会議室

## ◆薬剤部(論文等)

氏名	論題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
松本 恵、矢川結香、 吉国健司、小倉秀美、 末松文博	入院患者における内服薬中止理由の分析 -ポリファーマシー対策への課題-	日本医療マネジメント 学会雑誌	Vol.18, No.1	pp.19-23	H29.5.1
小倉秀美、末松文博、 谷口由美子、 古賀美砂紀(看護部)、 酒井賢一郎(救急・総合診療部)	リスクマネジメント～院内での薬剤師の活動～九州病院リスクマネジメント部会におけるハイリスク薬誤薬防止に対する取り組み	医薬ジャーナル	Vol.53.No.9	pp.125-130	H29.9.1

**業績目録**
**◆放射線室 (講演・学会発表等)**

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
日野祥悟	当院における小児MR検査の実際	第 77 回北九州MR勉強会	2017 年 7 月 27 日	北九州パレス
川崎直正	小児の冠動脈CTの撮影法	第 16 回九州川崎病研究会	2017 年 5 月 20 日	JCHO 九州病院
鈴木洋平	足関節撮影法	第 28 回北九州撮影研究会	2018 年 1 月 11 日	産業医科大学 病院
鈴木洋平	股関節軸位撮影における散乱線補正処理 (VG) の検討	平成 29 年度 3 月 北水会	2018 年 3 月 22 日	八幡製鉄 記念病院
小屋松育子	変形性膝関節症に対するストレス撮影の有用性	第 26 回北九州撮影研究会 定例会	2017 年 6 月 29 日	産業医科大学 病院
有吉真弓	乳がん検診について	生涯学習市民講座	2017 年 6 月 6 日	上津役 市民センター
福田洋介	金属デバイスに対する画像処理	第 3 回 九州医用画像コミュニティ	2018 年 2 月 3 日	アステム福岡
日野祥悟、中田勇氣、 白石政弘、瀧口雅晴	Phase Contrast 法を用いた小児肺血流比算出の検討	第 4 回小児心臓MR研究会 学術集会	2018 年 3 月 17 日	東京大学 医学部 1 号館
日野祥悟、中田勇氣、 白石政弘、瀧口雅晴	Phase Contrast 法を用いた小児肺血流比算出の検討	第 78 回北九州MR勉強会	2018 年 2 月 8 日	製鉄記念 八幡病院
日野祥悟、中田勇氣、 白石政弘、瀧口雅晴	Phase Contrast 法を用いた小児肺血流比算出の検討	第 45 回日本放射線技術学会 秋季学術大会	2017 年 10 月 20 日～ 21 日	広島 国際会議場



## 業績目録

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
前之園康太、川崎直正、岡本典彦、福田洋介、坂本真理、末弘正人	小児頭部 CT 検査時の volume 撮影におけるアーチファクト補正機能の検討	第 3 回福岡県診療放射線技師会学術大会	2017 年 6 月 17 日～18 日	北九州 国際会議場
鈴木洋平、川崎直正、日野祥悟、甲斐瑞之、有吉真弓、江口慎一郎、安川浩介、瀧口雅晴	股関節軸位撮影における散乱線補正処理の検討	第 33 回 日本診療放射線技師会 学術大会	2017 年 9 月 22 日～24 日	函館市民会館・ 函館アリーナ
川崎直正、岡本典彦、鈴木洋平、前之園康太、山内大雅、境 杏美、坂本真理、野田大貴、江口慎一郎、瀧口雅晴	320 列 ADC T による冠動脈サブトラクションの検討	第 3 回 JCHO 地域医療 総合医学会	2017 年 11 月 17 日～18 日	TKP ガーデン シティ品川
岡本典彦、川崎直正	右主気管支食道起始症 (気管支肺前腸奇形：BPFM)	画論 25th The Best Image	2018 年 1 月 27 日	キャンノン本社



## 業績目録

## ◆中央検査室(講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
安部拓也 西山純司、豊嶋憲子、 奥蘭学	リンパ腫様型／形質細胞様型浸潤性尿路上皮癌 の一例	第 56 回 日本臨床細胞学会秋季大会	2017 年 11 月 18 日	福岡 国際会議場 福岡サンパレス
福光 梓 嶋田薫、秋光起久子	先天性心疾患合併妊娠における経産婦の心機能 ～初産時との比較～	第 20 回日本成人先天性 心疾患学会学術集会	2018 年 1 月 27 日	学術 総合センター 一橋講堂
草野一樹 福光 梓、嶋田 薫、 秋光起久子	心エコー検査で偶然発見された弁変性の著しい Ebstein 奇形の 1 例	JSS 九州第 24 回 地方会学術集会	2018 年 2 月 11 日	鳥取市民 文化会館
中村由希子、稲葉美紀	Clostridium difficile 毒素検査提出症例の 栄養指標に関する検討	第 33 回静脈経腸栄養学会	2018 年 2 月 22 日	パシフィコ横浜



## ◆栄養管理室(講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
福山千穂、三輪真紀子、 足立雅広(内科医長)、 山田明子(副看護師長)	当院糖尿病教育入院患者の経過 ～調理教室を通しての管理栄養士の取り組み～	第3回 JCHO 地域医療総合医学会	2017年 11月17日 2017年 11月18日	TKP ガーデン シティー品川

**業績目録**
**◆リハビリテーション室(講演・学会発表等)**

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
小若女純	当院教育入院患者の筋量・筋力について	第 60 回 日本糖尿病学会年次学術集会	2017 年 5 月 19 日	ANA クラウンプラザ ホテルグラン コート名古屋
杉本光徳	嚥下時の舌アンカー：最大舌圧、喉頭運動・食道入口部開大との関係	第 29 回 日本嚥下障害臨床研究会	2017 年 7 月 1 日	島根県民会館 中ホール
星木宏之	待機的開心術後における身体機能と筋肉量の変化	第 23 回 日本リハビリテーション 学会学術大会	2017 年 7 月 16 日	岐阜メモリアル センター
佐藤憲明	パネルディスカッション 高齢慢性心不全患者におけるビタミン D 欠乏とサルコペニアの関係	第 23 回 日本リハビリテーション 学会学術大会	2017 年 7 月 16 日	岐阜都ホテル
佐藤憲明	循環器疾患のリハビリテーション ～最新の知見を踏まえて～	福岡県理学療法士会 第 1 回北九州支部研修会	2017 年 8 月 25 日	製鉄記念 八幡病院
梶島寛子	外来心臓リハビリテーションは高齢心不全患者の再入院を減少させるか	第 21 回 日本心不全学会学術集会	2017 年 10 月 14 日	秋田キャッスル ホテル
星木宏之	腹部大動脈瘤手術症例のリハビリ進捗状況と身体機能の変化	第 3 回 日本心臓リハビリテーション 学会九州支部地方会	2017 年 10 月 28 日	鹿児島市民 文化ホール
和田あゆみ	高齢女性における大腿骨近位部骨折術後の退院時歩行自立に影響を及ぼす因子の検討	福岡県理学療法士学会	2018 年 2 月 4 日	福岡 国際会議場
坂本明穂	脳卒中患者の急性期病院の状態が退院時歩行能力に影響を及ぼす因子の検討	第 27 回 福岡県理学療法士学会	2018 年 2 月 4 日	福岡 国際会議場
林 秀俊	小児：急性期に必要な理学療法技術	福岡県理学療法士会 北九州Ⅱ地区研修会	2018 年 3 月 8 日	製鉄記念 八幡病院



## 業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
豊田笑子	治療器から終末期へ移行する若年がん患者における理学療法士の役割	第7回 日本がんリハビリテーション 研究会	2018年 3月10日	神戸医療大学
廣田早織	左頭頂部脳出血により右不全片麻痺、高次脳機能障害を呈したが、早期に普通箸操作における食事動作が自立した症例	第3回 JCHO 地域医療総合医学会	2017年 11月18日	TKP ガーデン シティ品川
廣田早織	右 THA を施行したが、両変形性膝関節症、肥満により ADL 獲得に難渋した一症例	作業療法現職者共通研修	2018年 1月18日	産業医科大学
渡邊勇樹	カナダ作業遂行測定 (COPM) でわかった本人の思いに向けた自宅復帰への関わり	作業療法士現職者共通研修	2018年 1月18日	産業医科大学
有吉雄司	国際標準化身体活動質問票における中等度以上の身体活動時間が、急性心筋梗塞発症後の高比重リポ蛋白コレステロール値の変化に及ぼす影響についての検討	九州理学療法士・作業療法 士合同学会 in2017 宮崎	2017年 11月12日	シーガイア コンベンション センター
溝上拓也	TKA 患者の退院先に関与する因子の検討	九州理学療法士・作業療法 士合同学会 in2017 宮崎	2017年 11月12日	シーガイア コンベンション センター
井上智之	腰部脊柱管狭窄症患者における胸腰椎・股関節の回旋可動性の関与について	第5回日本運動器理学療法 学会	2017年 9月24日	札幌市 教育文化会館



平成 29 年度

# 診療実績及び診療統計

Japan Community Health care Organization JCHO



独立行政法人 地域医療機能推進機構 九州病院

**診療実績及び診療統計**
**◆臨床指標CI「医療の質を示す指標」**

	分類I	機能	総合的臨床指標	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
1	1. 総合指数	総合	外来患者数	185,843	177,893	178,738	178,785	181,465
2		総合	新入院患者数	14,026	13,670	14,023	14,061	14,167
3		標準化	平均在院日数	12.6	12.7	12.4	12	11.9
4		標準化	平均病床稼働率	91.1%	89.2%	89.8%	86.9%	87.5%
5		標準化	紹介率	80.3%	79.6%	80.4%	91.2%	88.3%
6			逆紹介率	98.7%	108.0%	116.1%	117.4%	135.7%
7			在院日数延長 DPC 対象患者 -2SD 越延日数 (率)	710 (8.5%)	753 (7.6%)	693 (5.2%)	885 (6.3%)	2,235 (3.8%)
8		教育	クリティカルパス使用率	55.0%	59.4%	58.0%	58.0%	52.6%
9			診療要約 (サマリー) 2 週以内完成率	93.8%	96.6%	95.4%	97.0%	97.9%
10			総合初期研修医数	25	22	23	23	24
		講習会受講指導医数	34	39	42	40	47	
11	2. 救急医療	救急	救急室受診者数: 成人	10,824	10,517	10,708	9,968	9,958
12			救急室受診者数: 小児	10,085	9,288	8,885	8,342	8,275
13			救急入院件数 (率)	成人 2,560 (23.7%)	成人 2,639 (25.1%)	成人 2,809 (26.2%)	成人 2,684 (26.9%)	成人 2,704 (27.2%)
				小児 413 (4.1%)	小児 398 (4.3%)	小児 456 (5.1%)	小児 527 (6.3%)	小児 464 (5.6%)
14		救急車受入台数 (救急センター受入数)	5,046 (4,337)	5,285 (4,564)	5,791 (5,314)	5,986 (5,527)	6,294 (5,786)	
15	3. 地域連携	診療・検査予約	画像診断センター院外利用件数	980	994	934	1,064	907
16			事前紹介外来患者数	12,370	11,871	11,935	11,642	11,740
17		開放病床	開放型病床利用率	62.3%	62.6%	54.9%	49.0%	40.1%
19		退院調整	退院調整件数 (医療支援部介入)	1,709	1,935	1,923	1,839	1,863
20		地域連携	大腿骨近位部骨折	99	102	89	95	110
21		クリティカルパス	脳卒中	139	139	155	111	124
22			AMI (2010 年 1 月開始)	80	75	83	85	78
23			胃がん	3	3	0	0	2
24			大腸がん	13	9	2	4	3
25			肺がん (2012 年 4 月開始)	32	25	18	22	20
26			乳がん (2012 年 4 月開始)	1	0	5	5	1
27			肝臓がん (2012 年 4 月開始)	0	0	0	0	0
28			前立腺がん (2014 年 10 月開始)	-	12	27	50	61
29			加齢黄斑変性症 (2012 年 4 月開始)	9	20	5	2	0
30		がん相談件数	入院外来患者相談件数 (医療支援部介入)	1,486	1,737	1,916	2,972	2,523
31			がん相談支援センター相談件数	290	314	242	199	208
32		保健	政府管掌検診: 日帰り	2,690	2,710	2,868	3,107	3,012
33			健康診断	658	699	846	781	711
34			個人検診: 一泊・日帰り	982	1,035	1,120	937	1,028
35			市乳癌検診	1,239	1,524	1,285	1,151	889



## 診療実績及び診療統計

	分類Ⅱ	機能	医療の質と安全に関する臨床指標	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	
1	4. 医療の質		死亡退院数 (率)	477 (3.4%)	408 (3.0%)	449 (3.1%)	430 (3.1%)	440 (3.1%)	
2			剖検数 (率)	14 (2.9%)	11 (2.7%)	14 (3.1%)	13 (3.0%)	17 (3.8%)	
3			予期せぬ 28 日以内再入院件数	200	233	266	801	709	
4			集中治療室 ICU 再入室 (率)	17 (1.8%)	25 (2.3%)	25 (2.3%)	34 (3.5%)	24 (2.6%)	
5			投書箱 (ご意見)	100	177	224	201	186	
6			投書箱 (おほめ)	53	68	87	89	57	
7	5. チーム医療	ICT	手術部位感染 (SSI) 発生率						
8			心臓外科 開心術	2.9%	2.9%	1.9%	1.6%	0.0%	
9			大血管手術	0.0%	2.8%	2.0%	8.9%	0.0%	
10			CABG (SGV なし)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
11			CABG (SGV あり)	5.0%	0.0%	0.0%	4.4%	0.0%	
13			整形外科 人工膝関節術	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	4.3%	
14			人工股関節術	1.2%	0.0%	0.0%	0.8%	1.7%	
15			椎弓切除術	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	0.0%	
16			脊椎固定術	9.1%	1.9%	1.8%	3.6%	0.0%	
18			外科 結腸手術	10.3%	16.2%	19.0%	16.7%	10.8%	
19			直腸手術	19.0%	16.7%	18.0%	11.6%	11.1%	
20				MRSA 感染治療報告件数	104	126	107	82	59
21			心臓リハビリ	心臓リハビリ導入総件数 (循環器内科/心臓血管外科)	597 (461/136)	662 (512/150)	794 (594/196)	727 (523/204)	632 (462/170)
22			NST	NST 回診件数	437	342	399	419	447
23	褥瘡ケア	褥瘡発生患者数	191	155	159	128	123		
24	6. 医療安全	医療安全	インシデント・アクシデントレポート総件数	1,635	1,556	1,505	1,361	2,238	
25			医師レポート提出件数 (率)	44 (2.7%)	44 (3.1%)	49 (3.3%)	79 (5.8%)	70 (3.1%)	
26			有害事象 (3b 以上) 件数	24	17	25	27	32	
27			インスリン誤薬 (3b 以上)	20 (0)	20 (0)	29 (0)	21 (0)	38 (0)	
28			アナフィラキシーショック発生件数	49	40	34	34	36	
29			緊急対応 (55) 放送件数	51	33	43	41	49	
30			心停止件数/心拍再開件数	31/17	20/12	16/10	12/5	25/19	
31			緊急 (O 型赤血球) 輸血件数	3	0	7	2	11	
32			中心静脈カテーテル (CV) 件数	844	884	986	626	861	
33			CV 関連感染症合併件数 (発生率)	13 (1.42)	17 (1.22)	19 (1.26)	13 (1.09)	13 (0.82)	
34			CV カテーテル平均使用日数	14.9	15.7	16.0	19.1	18.49	
35				術後血栓性肺塞栓発生件数	2	3	0	5	2



## 診療実績及び診療統計

	分類Ⅲ	機能	集学的センター医療に関する臨床指標	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
1	7. 診療センター	手術室	手術室使用総件数	8,072	7,938	7,952	7,959	8,005
2			麻酔科管理手術件数	4,680	4,640	4,538	4,244	4,289
3			全身麻酔件数	3,864	3,857	3,740	3,548	3,450
4			緊急手術・処置件数	1,376	1,354	1,329	1,220	1,155
5		集中治療室	ICU 入院患者数	3,975	4,154	4,166	4,230	3,870
6			〔診療科別〕心臓外科	1,146	1,512	1,563	1,585	1,196
7			〔診療科別〕内科	1,177	1,108	1,359	1,203	1,295
8			〔診療科別〕小児科	587	443	397	647	632
9			〔診療科別〕外科	486	534	403	369	411
10			〔診療科別〕脳外科	429	382	358	295	244
11		循環器センター	成人心臓カテーテル検査件数	1,249	1,077	1,229	1,233	1,250
12			PTCA Stent 件数	325	347	435	406	430
13			Door to balloon 所要時間：分	75	61	65	70	72
14			アブレーション件数（成功率）	126 (97.0%)	97 (92.0%)	96 (96.0%)	113 (93.8%)	130 (96.9%)
15			小児心臓カテーテル検査・治療総件数	328	371	354	313	350
16			同 新生児・乳児件数	150	174	158	132	138
17			同 カテーテル治療件数	72	102	106	100	154
18			先天性心疾患小児手術件数	133	153	163	129	122
19			冠動脈バイパス手術 (OPCAB 件数 / 率)	49 (42/85.7%)	44 (26/59.1%)	30 (23/76.6%)	40 (32/74.4%)	30 (21/70%)
20			弁膜症手術件数	35	24	38	45	48
21		大動脈瘤胸部解離手術	27	30	24	64	57	
22		ペースメーカー植込み手術件数	129	129	127	129	140	
23	周産期センター	分娩数	405	496	406	371	362	
24		帝王切開例数（率）	210 (51.9%)	239 (48.1%)	189 (46.6%)	178 (47.9%)	179 (49.4%)	
25	新生児室	母体搬送受入れ件数	53	50	40	46	65	
26		治療を必要とした胎児異常例数	29	42	36	63	36	
27	NICU	新生児入院治療件数	248	293	285	266	290	
28		新生児特定集中治療室（NICU）入院件数	199	250	200	233	249	
29		超低出生体重児 1000g 未満 入院数（生存率）	18 (94%)	15 (100%)	11 (91%)	13 (92%)	17 (100%)	
30	内視鏡室	内視鏡検査総件数	7,714	7,616	8,023	7,844	7,733	
31		緊急内視鏡件数（率）	1,307 (16.9%)	1,272 (16.7%)	1,450 (18.0%)	1,449 (18.5%)	1,512 (19.6%)	
32		内視鏡治療総件数	1,679	1,780	1,853	1,921	2,248	
33		緊急内視鏡治療件数（率）	488 (29.1%)	397 (22.3%)	469 (25.3%)	509 (26.5%)	631 (28.1%)	
34		内視鏡的ポリープ切除（H28'よりEMRへ）	101	135	136	-	-	
35		内視鏡的粘膜剥離術 ESD	120	111	113	94	117	
36		内視鏡的粘膜切除術 EMR	190	204	314	383	599	
37	透析室	透析新規導入	19	29	27	21	15	
38		維持透析	20	18	16	16	12	
39		外来腹膜透析	19	11	30	26	26	
40	8. 集学的 がん診療	がん拠点診療	がん登録件数（院内がん登録数） ※公開 1 年後	2,151	2,005	2,050	2,035	
41			外来化学療法実施件数	4,087	4,781	5,170	5,537	6,012
42			放射線新規治療がん患者数	344	329	369	396	362
43			放射線治療件数	7,993	8,473	9,769	10,040	9,928
44		緩和病棟	緩和ケア外来受診件数	365	264	268	243	193
45			緩和ケアチーム依頼件数	229	142	131	142	213
46	緩和病棟平均在院日数		33.0	35.0	37.2	35.0	36.5	



## 診療実績及び診療統計

	分類Ⅳ	機能	診療実績に関する臨床指標	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	
1	9. 診療科別指標	内科 循環器	成人心臓カテーテル検査件数	1,077	1,229	1,233	1,250	
2			PTCA Stent 件数	286	365	340	430	
3			アブレーション件数 (成功率)	97 (92.0%)	96 (96.0%)	113 (93.8%)	130 (96.9%)	
4			急性期心筋梗塞入院患者数	120	132	132	124	
5			同 死亡退院数 (率)	7 (5.8%)	6 (4.5%)	3 (2.3%)	9 (7.2%)	
6			心臓リハビリ導入総件数 (循環器内科/心臓血管外科)	662 (512/150)	794 (594/200)	727 (523/204)	632 (462/170)	
7			急性心筋梗塞心リハ導入件数 (同 導入率) (同 継続率)	101 (84.2%) (61.5%)	116 (88.5%) (37.5%)	112 (84.8%) (66.7%)	96 (77.4%) (75.9%)	
8	内科 腎臓・透析	透析新規導入	29	27	21	15		
9		維持透析	18	16	16	13		
10		外来腹膜透析	11	30	26	25		
11	内科 血液疾患	自家末梢幹細胞移植	6	8	7	12		
12		同胞間同種骨髄移植	0	0	0	0		
13		同胞間末梢幹細胞移植	3	7	1	2		
14		非血縁者間同種骨髄移植	3	7	4	6		
15		臍帯血移植	3	5	5	6		
		非血縁同種末梢血幹細胞	2	0	0	4		
16	神経内科	急性期脳梗塞(発症 1 週内) 治療例数	176	200	145	149		
17		TPA 投与件数	5	7	7	2		
18	小児科	時間外・休日救急受診件数	9,288	8,845	8,306	8,078		
19		川崎病入院治療数(冠動脈瘤発生数)	28 (0)	23 (1)	24 (0)	22 (1)		
20		小児心臓カテーテル検査・治療総件数	371	354	313	350		
21		同 新生児・乳児件数	174	158	132	138		
22		同 カテーテル治療件数	102	106	100	154		
23		バルーンによる肺動脈弁形成術	21	17	10	32		
24		Amplatzer による心房中隔欠損閉鎖術	18	15	19	35		
25		新生児入院治療件数	293	291	266	290		
26		新生児特定集中治療室 (NICU) 入院件数	250	260	233	249		
27		超低出生体重児 1000g 未満 入院数 (同生存率)	15 (100%)	8 (88%)	13 (92%)	17 (100%)		
28	外科	外科手術総件数	1,725	1,653	1,561	1,540		
29		胃がん	127	94	93	102		
30		大腸がん	185	182	164	165		
31		食道がん	10	16	12	14		
32		乳がん	174	195	172	161		
33		肝がん	24	28	26	25		
34		膵・胆道がん	28	23	24	31		
35		呼吸器外科 (肺がん)	165 (95)	176 (91)	154 (84)	161 (104)		
36		小児外科	182	177	190	188		
37		腹腔鏡下手術	592	535	499	581		
38		胸腔鏡下手術	159	166	135	126		
39		9. 診療科別指標	整形外科	整形外科手術総件数	897	858	805	742
40				人工関節手術件数	175	159	146	127
41				脊椎手術件数	188	185	174	163
42	大腿骨近位部骨折手術件数			143	153	121	145	

**診療実績及び診療統計**

43	心臓血管外科	先天性心疾患小児手術件数	133	153	163	129	122
44		冠動脈バイパス手術(OPCAB 件数 / 率)	49 (42/85.7%)	44 (26/59.1%)	30 (23/76.7%)	40 (32/74.4%)	30 (21/70%)
45		弁膜症手術件数	35	24	38	45	48
46		大動脈瘤胸部解離手術	27	30	82	64	57
47		ペースメーカー植込み手術件数	129	129	127	129	140
48	脳神経外科	くも膜下出血入院例数	15	12	27	16	17
49		破裂脳動脈瘤クリッピング術数	9	10	18	7	10
50		慢性硬膜下血腫手術数	28	32	30	32	36
51	産婦人科	分娩数	405	496	406	371	362
52		帝王切開例数 (率)	210 (51.9%)	239 (48.1%)	189 (46.6%)	178 (47.9%)	179 (49.4%)
53		母体搬送受入れ件数	53	50	40	46	65
54		母体偶発合併症件数	252	247	201	185	191
55		子宮頸癌 0 期 / I a-IV	22/40	11/28	6/21	12/28	13/27
56		子宮体癌	45	35	22	46	38
57		卵巣癌	30	13	12	21	24
58	眼科	網膜・硝子体手術	380	322	271	301	306
59		緑内障手術	57	76	93	129	122
60		緑内障 Laser 手術 k270 k273	28	30	58	48	52
61		光線力学的療法 PDT 件数	11	38	11	14	46
62		角膜移植術	5	6	5	6	15
63		抗 VEGF 薬硝子体注射	469	524	539	663	692
64		外来白内障手術	87	118	84	122	99
65		耳鼻咽喉科	頭頸部悪性腫瘍手術件数	82	80	82	60
66	内視鏡下副鼻腔手術件数		112	94	89	67	75
67	泌尿器科	腎臓癌手術件数	38	56	39	53	61
68		膀胱癌手術件数	158	135	196	152	175

	分類V	機能	診療協力部門に関する臨床指標	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	
1	10. 看護部	看護	認定看護管理者数	1	1	0	0	1	
2			専門看護師数	1	1	1	1	1	
3			認定看護師数	20	22	22	24	24	
4			離職率	9.7%	11.2%	11.0%	11.4%	11.3%	
5	11. 薬剤部	医薬品	薬剤管理指導実施件数	15,750	15,969	17,772	18,466	18,714	
6			疑義照会による処方変更件数 (率)	3,213 (0.74%)	3,377 (0.69%)	4,250 (0.86%)	5,958 (1.16%)	6,841 (1.20%)	
7	12. 放射線室	放射線検査	CT 検査件数	23,854	23,500	24,377	26,173	27,261	
8			MR 検査件数	6,445	6,287	6,369	6,761	6,829	
9	13. 臨床検査部	中央検査室	臨床検査技師会精度管理成績	95.3%	100.0%	99.6%	99.1%	98.8%	
10		輸血管理室	組織検査件数 (術中迅速検査)	8,030 (513)	7,932 (393)	8,197 (374)	7,711 (328)	8,056 (393)	
11			輸血製剤 (濃厚赤血球) 廃棄率	1.70%	1.20%	0.73%	0.75%	0.82%	
12	14. リハビリ室	理学療法等	リハビリ実施率	24.2%	35.0%	33.7%	37.5%	37.3%	
13			リハビリ対象者在院日数	23.5	22.9	22.7	21.7	22.2	
14			疾患別実績(単位数)	脳血管疾患等リハビリ (廃用も含む)	44,794	33,085	26,876	23,234	24,923
15				心大血管リハビリ	17,350	16,579	19,074	20,569	16,184
16				運動器リハビリ	25,780	30,596	28,069	22,682	24,871
17				呼吸器リハビリ	9,994	11,008	8,590	7,838	7,457
18				がん患者リハビリ	-	8,043	18,843	20,465	20,673
19				廃用症候群リハビリ(平成 28 年度より)	-	-	-	7,877	8,521
20	15. 栄養部	栄養指導	栄養指導実施件数	1,590	1,778	2,380	2,376	1,844	



## ◆入院・外来患者統計

## 1. 平成 29 年度入院科別・月別延患者数

診療科名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4-3月計
整形外科	1,462	1,194	1,149	1,473	1,392	1,129	1,178	1,199	1,497	1,387	1,485	1,553	16,098
外科	1,591	1,414	1,507	1,587	1,778	1,644	1,868	1,692	1,502	1,458	1,443	1,418	18,902
心臓血管外科	448	473	358	311	310	453	338	340	387	283	341	361	4,403
脳神経外科	566	437	481	489	598	562	704	457	448	488	481	549	6,260
内科	5,722	5,871	5,082	5,499	5,481	5,218	5,513	5,843	5,603	5,565	5,684	5,716	66,797
皮膚科	116	123	93	72	39	24	90	67	110	71	45	23	873
泌尿器科	521	565	598	740	837	694	774	622	694	662	811	854	8,372
産婦人科	1,009	922	809	842	873	735	684	822	789	666	676	877	9,704
眼科	454	457	514	368	446	317	377	346	328	331	385	454	4,777
耳鼻咽喉科	429	497	530	554	650	396	457	400	400	298	307	409	5,327
小児科	1,902	1,950	1,945	1,924	1,885	1,472	1,624	1,760	1,688	1,535	1,629	1,845	21,159
神経内科	339	352	323	382	389	302	254	317	388	447	306	330	4,129
放射線科	2	7	2	0	0	0	4	0	2	0	2	0	19
緩和ケア科	265	227	271	275	264	264	236	262	223	207	201	285	2,980
麻酔科	3	11	5	1	22	5	1	2	14	17	25	15	121
合計	14,829	14,500	13,667	14,517	14,964	13,215	14,102	14,129	14,073	13,415	13,821	14,689	169,921

## 2. 平成 29 年度入院科別・月別入退院患者数

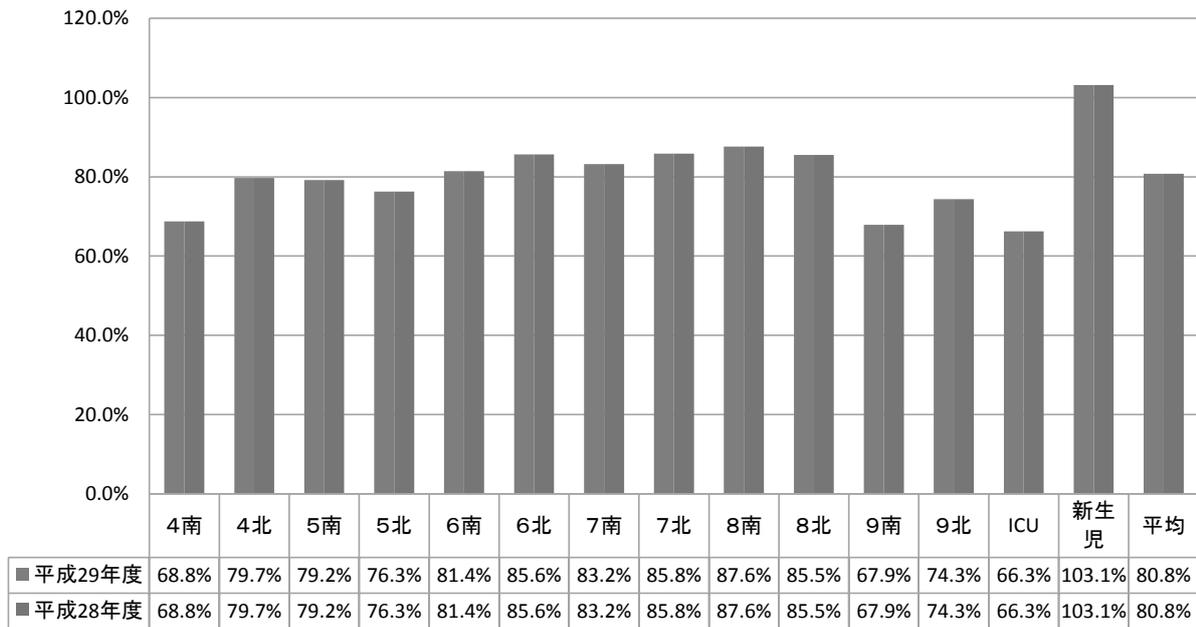
診療科名	入退院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4-3月計
整形外科	入院数	61	67	60	69	67	58	70	79	73	71	63	68	806
	退院数	64	66	63	69	70	63	69	73	74	58	66	71	806
外科	入院数	146	122	142	142	161	138	151	130	128	141	128	139	1,668
	退院数	145	129	124	156	147	138	163	125	157	112	133	152	1,681
心臓血管外科	入院数	21	18	21	14	23	19	14	19	15	17	17	17	215
	退院数	20	24	16	20	19	17	17	14	30	13	13	23	226
脳神経外科	入院数	19	22	26	25	32	29	31	18	27	26	30	24	309
	退院数	23	24	23	26	24	31	33	23	28	20	26	30	311
内科	入院数	478	482	394	498	465	422	471	453	408	451	455	387	5,364
	退院数	471	442	438	452	483	405	444	460	479	359	441	428	5,302
皮膚科	入院数	4	4	10	6	4	4	5	7	3	1	2	4	54
	退院数	3	5	9	9	6	3	6	2	6	3	2	5	59
泌尿器科	入院数	76	83	81	86	108	99	104	88	93	87	100	111	1,116
	退院数	78	75	76	82	106	110	100	83	104	72	98	123	1,107
産婦人科	入院数	141	125	130	130	142	105	115	126	119	114	103	114	1,464
	退院数	128	130	132	128	144	108	115	114	142	96	111	115	1,463
眼科	入院数	67	80	73	68	76	52	67	55	53	62	68	72	793
	退院数	66	65	81	72	75	63	55	57	62	51	63	87	797
耳鼻咽喉科	入院数	50	53	39	56	64	42	39	44	31	32	38	48	536
	退院数	49	47	39	59	63	43	37	46	37	25	37	52	534
小児科	入院数	133	137	112	122	133	138	134	137	115	113	83	130	1,487
	退院数	129	129	126	111	140	147	127	121	140	91	92	126	1,479
神経内科	入院数	24	29	21	25	26	19	22	22	21	23	24	19	275
	退院数	23	27	21	21	33	19	27	19	17	29	17	23	276
放射線科	入院数	1	1	1	0	0	0	2	0	1	0	1	0	7
	退院数	1	1	1	0	0	0	1	1	1	0	1	0	7
緩和ケア科	入院数	3	2	4	0	5	4	8	5	2	4	3	2	42
	退院数	14	14	8	5	9	14	10	7	11	12	10	9	123
共同	入院数	3	3	2	1	2	4	1	1	2	3	8	2	32
	退院数	3	3	2	1	2	3	1	1	2	2	4	1	25
合計	入院数	1,227	1,228	1,116	1,242	1,308	1,133	1,234	1,184	1,091	1,145	1,123	1,137	14,168
	退院数	1,217	1,181	1,159	1,211	1,321	1,164	1,205	1,146	1,290	943	1,114	1,245	14,196

診療実績及び診療統計

### 3. 各科別入院患者数推移 (過去 3 年間)

診療科名	在院延患者数			一日平均入院患者数			新入院患者数			平均在院日数		
	2015	2016	2017	2015	2016	2017	2015	2016	2017	2015	2016	2017
整形外科	17,243	15,267	16,059	47.1	41.8	44.0	881	768	806	19.5	19.8	19.9
外科	21,212	18,723	18,854	58.0	51.3	51.7	1,865	1,735	1,668	11.4	10.8	11.3
心臓血管外科	6,046	6,147	4,388	16.5	16.8	12.0	261	255	215	22.2	23.2	19.9
脳神経外科	6,035	5,523	6,245	16.5	15.1	17.1	370	344	309	16.2	16.1	20.1
内科	66,903	66,109	66,632	182.8	195.2	182.6	4,949	5,209	5,364	13.6	12.8	12.5
皮膚科	502	1,043	869	1.4	2.9	2.4	50	63	54	10.4	16.7	15.4
泌尿器科	6,368	6,646	8,362	17.4	18.2	22.9	918	932	1,116	7.0	7.1	7.5
産婦人科	12,092	10,898	9,671	33.0	29.9	26.5	1,605	1,503	1,464	7.5	7.3	6.6
眼科	4,772	5,408	4,769	13.0	14.8	13.1	702	835	793	6.8	6.5	6.0
耳鼻咽喉科	6,619	5,670	5,315	18.1	15.5	14.6	635	532	536	10.5	10.7	9.9
小児科	20,449	19,603	21,099	55.9	53.7	57.8	1,475	1,534	1,487	13.8	12.8	14.2
神経内科	3,029	3,891	4,117	8.3	10.7	11.3	215	262	275	14.4	15.1	14.9
放射線科	41	28	19	0.1	0.1	0.1	15	9	7	2.6	3.1	2.7
緩和ケア科	3,418	3,221	2,973	9.3	8.8	8.1	48	50	42	37.6	35.0	36.0
麻酔科	131	168	121	0.4	0.5	0.3	34	30	32	4.4	5.8	4.2
合計	174,860	168,345	169,493	477.8	475.3	464.4	14,023	14,061	14,168	12.5	12.0	12.0

### 4. 病棟別病床稼働率



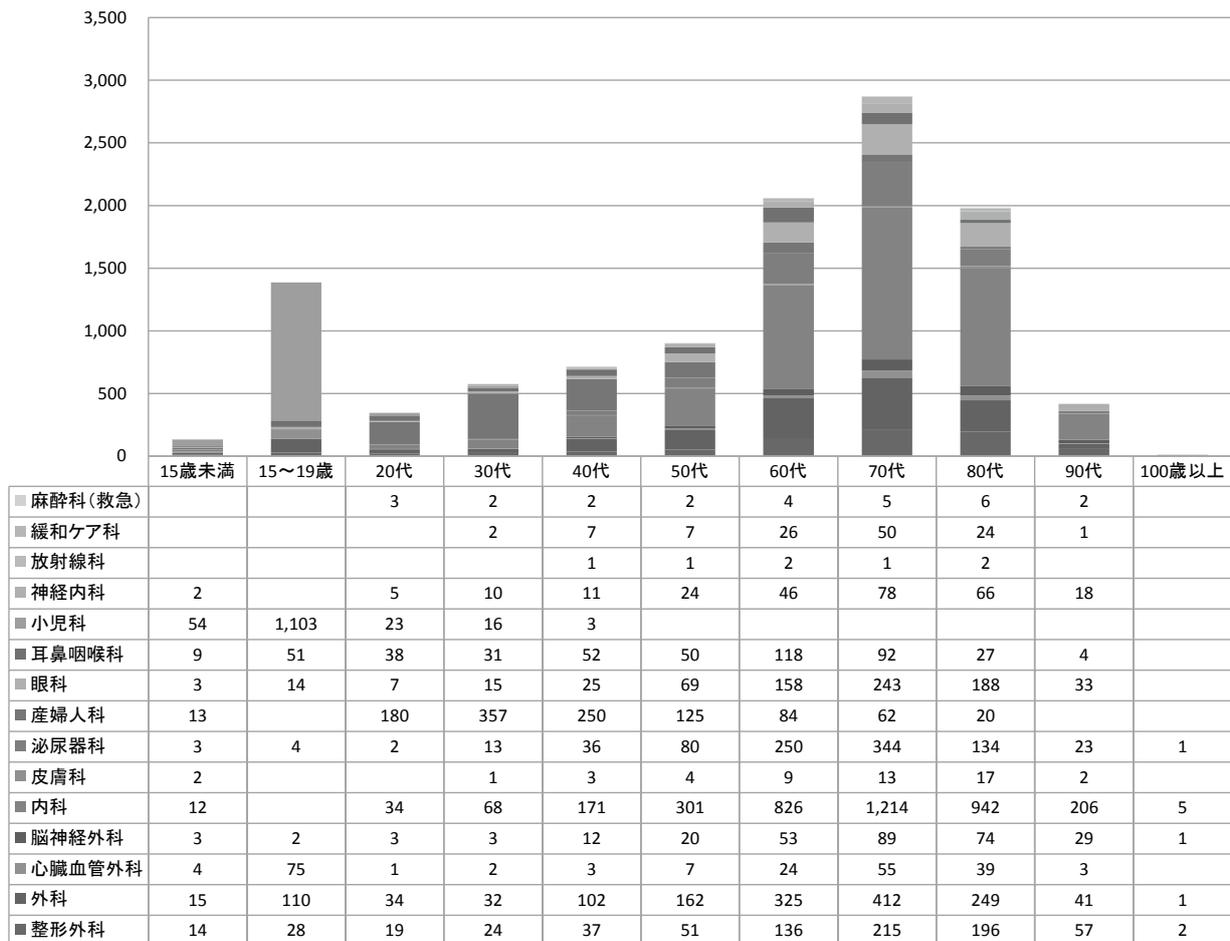


## 診療実績及び診療統計

## 5. 年齢別入院患者数

診療科名	15歳未満	15～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	100歳以上	総計
整形外科	14	28	19	24	37	51	136	215	196	57	2	779
外科	15	110	34	32	102	162	325	412	249	41	1	1,483
心臓血管外科	4	75	1	2	3	7	24	55	39	3		213
脳神経外科	3	2	3	3	12	20	53	89	74	29	1	289
内科	12		34	68	171	301	826	1,214	942	206	5	3,779
皮膚科	2			1	3	4	9	13	17	2		51
泌尿器科	3	4	2	13	36	80	250	344	134	23	1	890
産婦人科	13		180	357	250	125	84	62	20			1,091
眼科	3	14	7	15	25	69	158	243	188	33		755
耳鼻咽喉科	9	51	38	31	52	50	118	92	27	4		472
小児科	54	1,103	23	16	3							1,199
神経内科	2		5	10	11	24	46	78	66	18		260
放射線科					1	1	2	1	2			7
緩和ケア科				2	7	7	26	50	24	1		117
麻酔科(救急)			3	2	2	2	4	5	6	2		26
合計	134	1,387	349	576	715	903	2,061	2,873	1,984	419	10	11,411

## 年齢分布グラフ





## 診療実績及び診療統計

## 6. 平成 29 年度外来科別・月別新患者数

診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形外科	78	94	89	97	84	62	78	79	80	80	67	91	979
外科	123	111	144	128	114	128	121	117	101	104	109	114	1,414
心臓血管外科	9	12	11	5	13	13	10	16	14	13	3	17	136
脳神経外科	17	15	19	15	26	13	19	13	9	15	8	14	183
内科	319	289	329	333	323	292	295	287	271	272	267	268	3,545
皮膚科	44	49	67	52	45	53	27	37	26	27	37	48	512
泌尿器科	85	83	96	88	94	94	93	89	103	93	104	81	1,103
産婦人科	120	131	129	121	113	116	123	109	131	124	111	125	1,453
眼科	96	105	124	97	101	85	91	103	119	88	100	87	1,196
耳鼻咽喉科	143	136	139	138	140	120	93	110	111	73	95	91	1,389
小児科	588	600	485	653	630	507	493	474	796	922	598	533	7,279
心療科精神科	0	1	2	0	1	0	1	0	2	0	1	1	9
神経内科	50	49	47	40	34	39	41	39	48	41	35	43	506
放射線科	95	109	108	114	107	103	121	92	85	97	76	102	1,209
緩和ケア科	7	3	6	3	7	1	2	2	5	3	2	7	48
救急科	372	409	373	439	439	371	384	365	447	518	397	377	4,891
合計	2,146	2,196	2,168	2,323	2,271	1,997	1,992	1,932	2,348	2,470	2,010	1,999	25,852

## 一日平均数

診療実日数	20	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	21	244
診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形外科	3.9	4.7	4.0	4.9	3.8	3.1	3.7	4.0	4.0	4.2	3.5	4.3	4.0
外科	6.2	5.6	6.5	6.4	5.2	6.4	5.8	5.9	5.1	5.5	5.7	5.4	5.8
心臓血管外科	0.5	0.6	0.5	0.3	0.6	0.7	0.5	0.8	0.7	0.7	0.2	0.8	0.6
脳神経外科	0.9	0.8	0.9	0.8	1.2	0.7	0.9	0.7	0.5	0.8	0.4	0.7	0.8
内科	16.0	14.5	15.0	16.7	14.7	14.6	14.0	14.4	13.6	14.3	14.1	12.8	14.5
皮膚科	2.2	2.5	3.0	2.6	2.0	2.7	1.3	1.9	1.3	1.4	1.9	2.3	2.1
泌尿器科	4.3	4.2	4.4	4.4	4.3	4.7	4.4	4.5	5.2	4.9	5.5	3.9	4.5
産婦人科	6.0	6.6	5.9	6.1	5.1	5.8	5.9	5.5	6.6	6.5	5.8	6.0	6.0
眼科	4.8	5.3	5.6	4.9	4.6	4.3	4.3	5.2	6.0	4.6	5.3	4.1	4.9
耳鼻咽喉科	7.2	6.8	6.3	6.9	6.4	6.0	4.4	5.5	5.6	3.8	5.0	4.3	5.7
小児科	29.4	30.0	22.0	32.7	28.6	25.4	23.5	23.7	39.8	48.5	31.5	25.4	29.8
心療科精神科	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0
神経内科	2.5	2.5	2.1	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.4	2.2	1.8	2.0	2.1
放射線科	4.8	5.5	4.9	5.7	4.9	5.2	5.8	4.6	4.3	5.1	4.0	4.9	5.0
緩和ケア科	0.4	0.2	0.3	0.2	0.3	0.1	0.1	0.1	0.3	0.2	0.1	0.3	0.2
救急科	18.6	20.5	17.0	22.0	20.0	18.6	18.3	18.3	22.4	27.3	20.9	18.0	20.0
合計	107.3	109.8	98.5	116.2	103.2	99.9	94.9	96.6	117.4	130.0	105.8	95.2	106.0



## 診療実績及び診療統計

## 7. 平成 29 年度外来科別・月別再来患者数

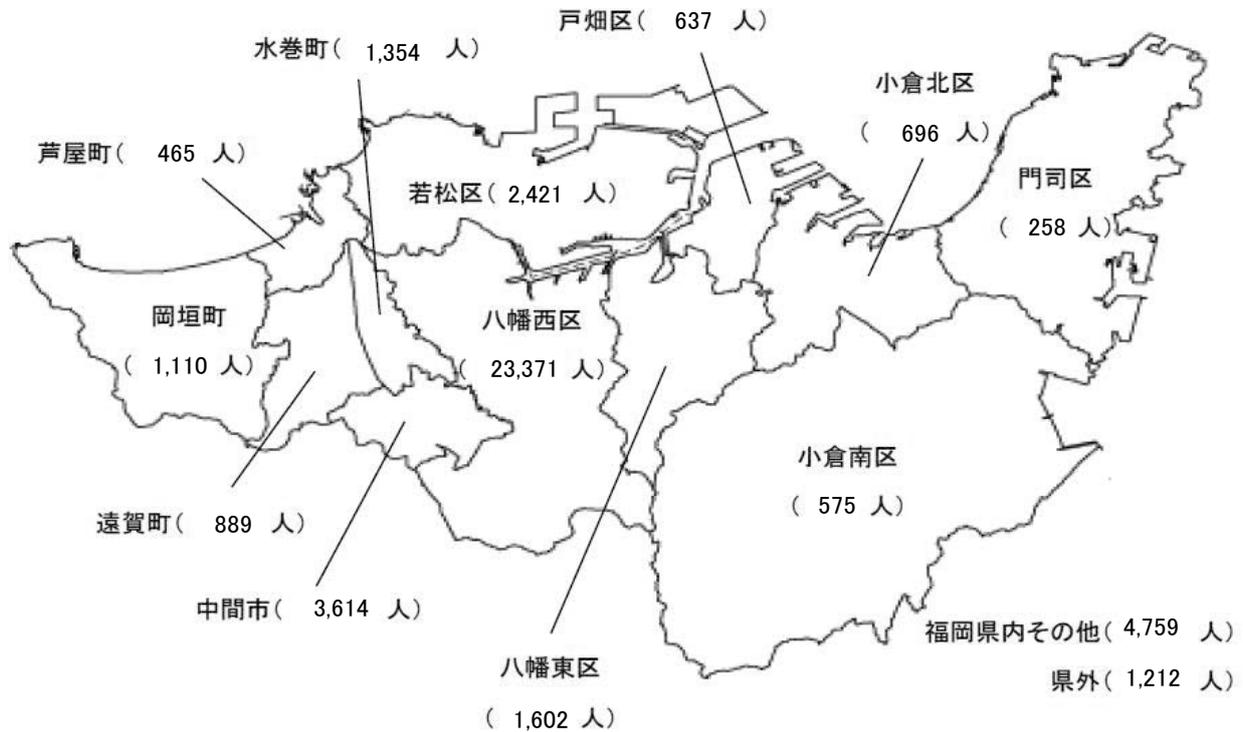
診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形外科	528	572	603	526	610	566	590	642	537	499	508	602	6,783
外科	1,842	1,752	2,125	1,954	1,837	1,960	2,082	1,981	1,939	1,875	1,796	1,892	23,035
心臓血管外科	296	301	353	299	257	277	291	277	275	268	214	347	3,455
脳神経外科	191	198	228	187	193	214	207	220	188	199	210	203	2,438
内科	3,417	3,664	3,858	3,633	3,705	3,596	3,752	3,837	3,897	3,631	3,550	4,022	44,562
皮膚科	418	483	530	528	554	510	421	482	466	335	395	435	5,557
泌尿器科	860	834	860	784	904	976	970	898	989	943	913	995	10,926
産婦人科	1,018	1,125	1,193	1,059	1,230	1,084	1,240	1,114	1,065	1,071	1,099	1,242	13,540
眼科	892	942	985	929	1,002	909	894	894	934	809	900	954	11,044
耳鼻咽喉科	627	548	596	598	626	631	536	526	549	433	461	612	6,743
小児科	1,260	1,357	1,290	1,330	1,772	1,427	1,353	1,386	1,485	1,402	1,377	1,572	17,011
心療科精神科	19	14	16	14	14	15	11	18	15	21	12	23	192
神経内科	189	180	206	198	202	196	201	209	194	212	219	212	2,418
放射線科	514	425	510	448	472	411	470	519	367	386	417	351	5,290
緩和ケア科	60	62	59	63	64	66	56	58	55	61	53	60	717
救急科	138	189	194	169	168	182	154	140	167	186	146	166	1,999
合計	12,269	12,646	13,606	12,719	13,610	13,020	13,228	13,201	13,122	12,331	12,270	13,688	155,710

## 一日平均数

診療実日数	21	18	22	22	21	19	21	19	19	19	20	22	243
診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形外科	25.1	31.8	27.4	23.9	29.0	29.8	28.1	33.8	28.3	26.3	25.4	27.4	27.9
外科	87.7	97.3	96.6	88.8	87.5	103.2	99.1	104.3	102.1	98.7	89.8	86.0	94.8
心臓血管外科	14.1	16.7	16.0	13.6	12.2	14.6	13.9	14.6	14.5	14.1	10.7	15.8	14.2
脳神経外科	9.1	11.0	10.4	8.5	9.2	11.3	9.9	11.6	9.9	10.5	10.5	9.2	10.0
内科	162.7	203.6	175.4	165.1	176.4	189.3	178.7	201.9	205.1	191.1	177.5	182.8	183.4
皮膚科	19.9	26.8	24.1	24.0	26.4	26.8	20.0	25.4	24.5	17.6	19.8	19.8	22.9
泌尿器科	41.0	46.3	39.1	35.6	43.0	51.4	46.2	47.3	52.1	49.6	45.7	45.2	45.0
産婦人科	48.5	62.5	54.2	48.1	58.6	57.1	59.0	58.6	56.1	56.4	55.0	56.5	55.7
眼科	42.5	52.3	44.8	42.2	47.7	47.8	42.6	47.1	49.2	42.6	45.0	43.4	45.4
耳鼻咽喉科	29.9	30.4	27.1	27.2	29.8	33.2	25.5	27.7	28.9	22.8	23.1	27.8	27.7
小児科	60.0	75.4	58.6	60.5	84.4	75.1	64.4	72.9	78.2	73.8	68.9	71.5	70.0
心療科精神科	0.9	0.8	0.7	0.6	0.7	0.8	0.5	0.9	0.8	1.1	0.6	1.0	0.8
神経内科	9.0	10.0	9.4	9.0	9.6	10.3	9.6	11.0	10.2	11.2	11.0	9.6	10.0
放射線科	24.5	23.6	23.2	20.4	22.5	21.6	22.4	27.3	19.3	20.3	20.9	16.0	21.8
緩和ケア科	2.9	3.4	2.7	2.9	3.0	3.5	2.7	3.1	2.9	3.2	2.7	2.7	3.0
救急科	6.6	10.5	8.8	7.7	8.0	9.6	7.3	7.4	8.8	9.8	7.3	7.5	8.2
合計	584	703	618	578	648	685	630	695	691	649	614	622	7,717

診療実績及び診療統計

8. 平成 29 年度入院・外来患者分布図 (患者実数)

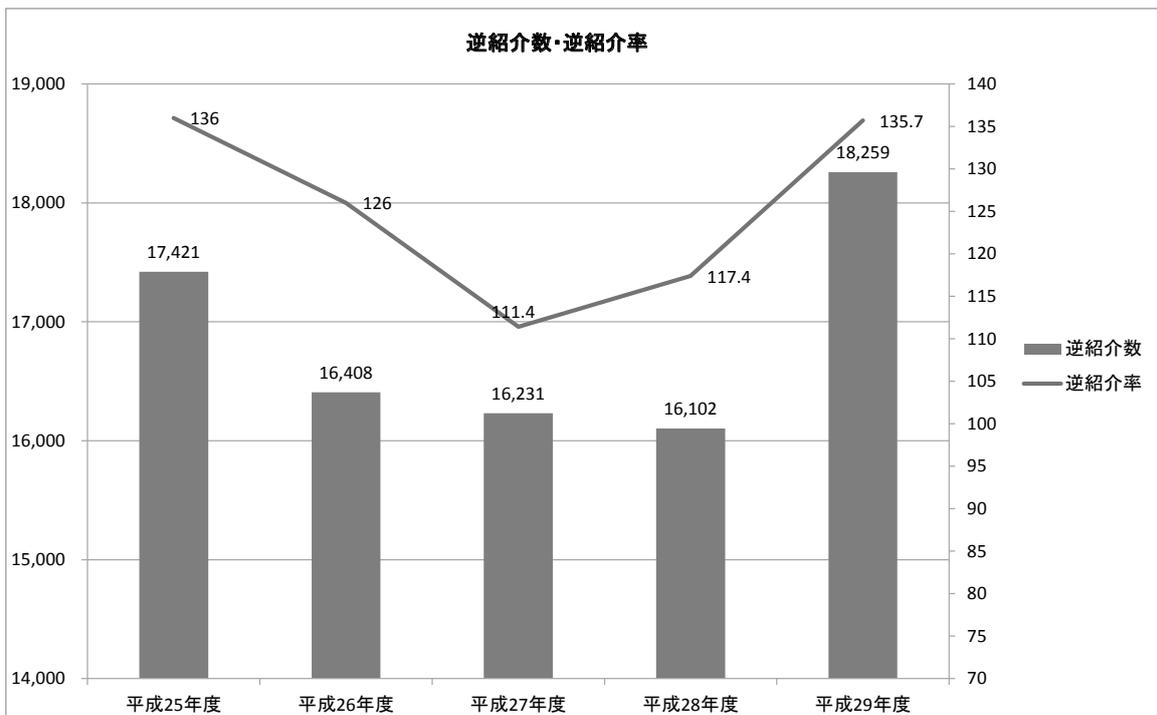
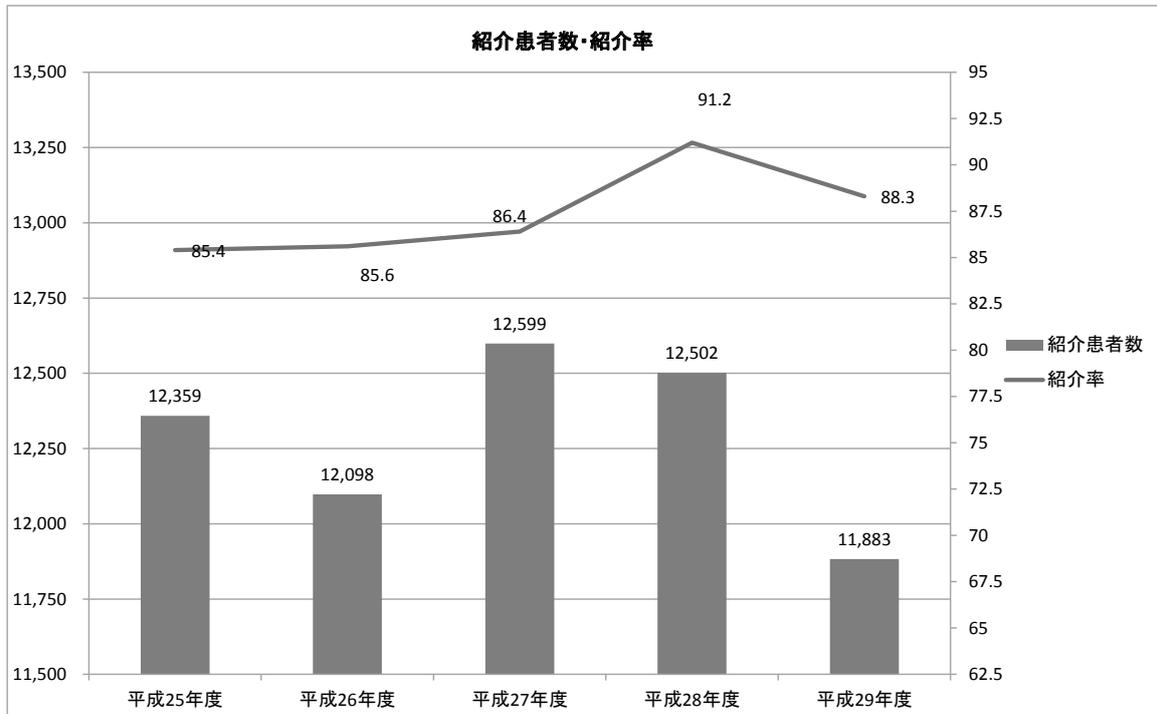


市区町村名	実数	割合
北九州市門司区	258	0.6%
北九州市小倉北区	696	1.6%
北九州市小倉南区	575	1.3%
北九州市若松区	2,421	5.6%
北九州市戸畑区	637	1.5%
北九州市八幡東区	1,602	3.7%
北九州市八幡西区	23,371	54.4%
中間市	3,614	8.4%
遠賀郡芦屋町	465	1.1%
遠賀郡遠賀町	889	2.1%
遠賀郡岡垣町	1,110	2.6%
遠賀郡水巻町	1,354	3.2%
福岡県内のその他医療圏	4,759	11.1%
県外	1,212	2.8%
総計	42,963	100.0%



## 9. 紹介患者数推移・紹介率、逆紹介患者数・逆紹介率推移

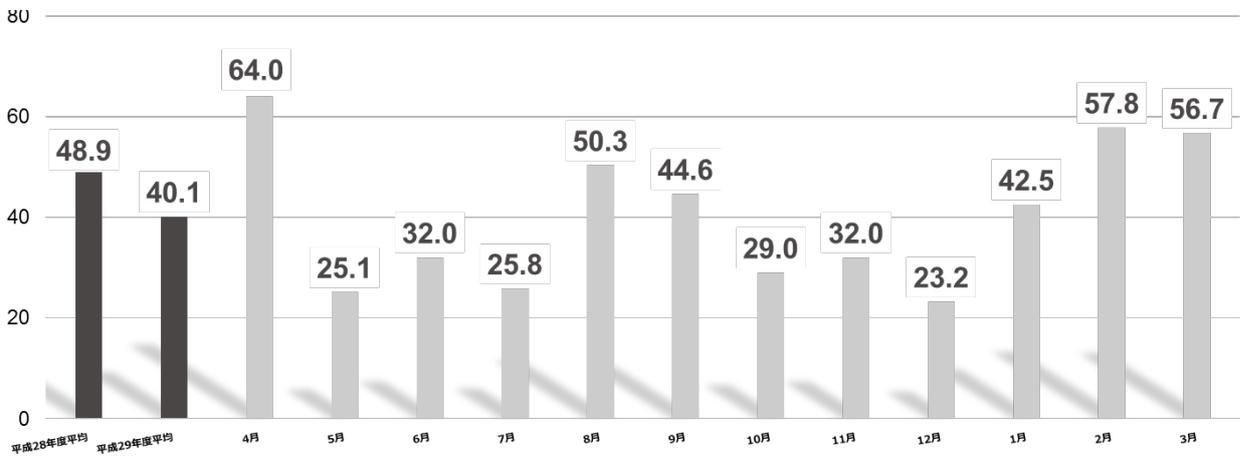
	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
紹介患者数	12,730	12,359	12,098	12,599	12,502
紹介率	75.9	85.4	85.6	86.4	91.2
逆紹介数	17,082	17,421	16,408	16,231	16,102
逆紹介率	127.1	136	126	111.4	117.4





診療実績及び診療統計

### 10. 平成 29 年度開放型病床の稼働率推移





診療実績及び診療統計

◆手術統計

1. 平成 29 年度診療科別手術件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	H29 年度	H28 年度
整形外科	51	67	70	57	53	70	66	72	57	54	67	58	742	805
(整形外科急患)	10	9	6	5	13	13	13	10	16	12	7	8	122	123
外科	127	113	126	128	121	132	131	146	135	143	117	123	1542	1561
(外科急患)	18	11	15	16	13	19	24	16	21	27	11	17	208	220
脳外科	7	15	14	7	14	17	12	12	7	19	13	15	152	166
(脳外科急患)	5	6	5	2	10	8	7	5	4	10	7	7	76	71
皮膚科	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
(皮膚科急患)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	50	50	58	47	55	59	56	68	67	63	52	59	684	578
(泌尿器科急患)	3	1	5	0	6	2	3	4	4	3	5	4	40	39
産婦人科	59	71	71	71	60	61	71	63	61	62	69	70	789	760
(産婦人科急患)	11	9	12	14	11	9	14	6	6	8	12	13	125	121
眼科	100	108	119	98	108	124	109	133	88	104	91	85	1267	1227
(眼科急患)	6	4	6	7	4	8	5	8	3	6	2	3	62	76
耳鼻咽喉科	27	27	32	37	36	32	39	51	34	29	32	31	407	453
(耳鼻科急患)	1	2	4	1	1	1	0	4	0	1	2	0	17	14
小児科 [総件数]	18	36	38	31	22	35	23	40	28	30	29	23	353	321
(小児科急患総数)	1	3	4	2	3	3	1	5	1	2	8	2	35	25
[小児循環器科]	18	36	38	31	22	35	23	40	28	29	29	23	352	317
(小児循環器急患)	1	3	4	2	3	3	1	5	1	2	8	2	35	24
[小児一般]	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	4
(小児一般急患)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
放射線科	10	7	15	11	9	10	5	10	8	8	10	8	111	139
(放射線科急患)	3	0	1	0	0	2	1	2	3	0	2	2	16	32
心臓血管外科	32	31	38	25	22	26	15	33	23	21	22	31	319	340
(心臓外科急患)	10	9	16	6	5	5	1	12	6	3	4	11	88	77
内科 [総件数]	148	125	123	149	126	121	130	156	114	135	146	153	1626	1569
(内科急患総数)	31	25	33	25	26	18	28	25	29	29	21	40	330	388
[循環器科心カテ]	117	96	99	116	98	84	94	125	94	106	117	116	1262	1258
(循内心カテ急患)	29	23	29	20	21	15	24	24	28	26	18	35	292	339
★ [循内心カテ以外]	6	7	8	13	8	12	17	10	0	12	9	20	122	107
★ (心カテ以外急患)	1	2	4	2	2	1	3	1	0	3	1	4	24	27
[血液内科]	1	1	1	0	1	0	1	1	1	1	0	1	9	7
(血液急患)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
[腎臓内科]	14	14	9	7	8	18	9	10	8	4	13	11	125	100
(腎急患)	1	0	0	1	3	2	1	0	1	0	2	1	12	20
[肝臓内科]	10	7	6	13	11	7	9	10	11	12	7	5	108	95
(肝急患)	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
[消化器内科]	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
(消化器内科急患)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
[呼吸器内科]	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
(呼吸器内科急患)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	2	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	6	4
(麻酔科急患)	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	2
合計	631	651	704	662	627	687	658	784	622	668	648	657	7999	7923
急患再掲 (CV 除く)	101	80	107	78	93	88	97	97	93	101	81	107	1123	1188
手術件数 (心カテ除く)	496	519	567	515	507	568	541	619	500	533	502	518	6385	6348
麻酔科管理数	329	346	388	350	331	363	363	416	354	367	341	359	4307	4297
CV 挿入 (急患症例)	2	5	3	4	5	3	4	2	6	2	1	6	43	55
CV 挿入 (定期症例)	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	3	0
手術室稼働数	633	658	707	667	634	692	662	786	630	670	649	665	8053	7978
急患総数	103	85	110	83	98	91	101	99	99	103	82	114	1168	1243
当日申込数 (CV 含む)	96	73	98	72	85	77	93	87	83	88	71	97	1020	1063
中止 (定例症例)	0	2	0	0	2	0	0	0	1	0	0	1	6	9
中止 (急患症例)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0
(科別)		眼		循内	整・泌				泌			外・循内		

★循内心カテ以外⇒PPMI・永久ペースメーカー植込み・ジェネレーター交換・ループレコーダー植込み・CRT-D 症例数の件数変更・・・2015年5月13日～施行術者の科別となる(心臓外科&循環器内科)

【心臓外科症例としていた永久ペースメーカー・ジェネレーター交換に関して】

手術記録システムバージョンアップ(インフォコム社対応)

2017年1月更新・・・症例数変更事項:2017年統計は1月より患者入室からOP開始前の中止症例は各科の症例数には含まない 但し、手術室稼働数は今後も、中止症例数を含む



## 診療実績及び診療統計

## 2. 手術統計 (診療科別・解釈番号別上位3項目)

診療科	手術コード	項目名称	件数
整形外科	K046	骨折観血の手術	151
	K082	人工関節置換術	139
	K142	脊椎固定術	59
外科	K672	胆嚢摘出術	193
	K721	内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術	171
	K476	乳腺悪性腫瘍手術	150
心臓血管外科	K600	大動脈バルーンパンピング法 (IABP法) (1日につき)	55
	K561	ステントグラフト内挿術	41
	K552	冠動脈、大動脈バイパス移植術	32
脳神経外科	K164	頭蓋内血腫除去術 (開頭して行うもの)	67
	K174	水頭症手術	17
	K177	脳動脈瘤頸部クリッピング	16
内科	K721	内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術	405
	K549	経皮的冠動脈ステント留置術	373
	K600	大動脈バルーンパンピング法 (IABP法) (1日につき)	205
皮膚科	K006	皮膚、皮下腫瘍摘出術 (露出部以外)	74
	K005	皮膚、皮下腫瘍摘出術 (露出部)	49
	K001	皮膚切開術	23
泌尿器科	K783	経尿道の尿管狭窄拡張術	250
	K803	膀胱悪性腫瘍手術	167
	K843	前立腺悪性腫瘍手術	136
産婦人科	K898	帝王切開術	183
	K877	子宮全摘術	148
	K888	子宮附属器腫瘍摘出術 (両側)	126
眼科	K282	水晶体再建術	1,215
	K280	硝子体茎頭微鏡下離断術	231
	K276	網膜光凝固術	158
耳鼻咽喉科	K377	口蓋扁桃手術	125
	K340	鼻茸摘出術	82
	K300	鼓膜切開術	60
小児科	K913	新生児仮死蘇生術	116
	K570	肺動脈狭窄症、純型肺動脈弁閉鎖症手術	61
	K000	創傷処理	58
神経内科	K615	血管塞栓術 (頭部、胸腔、腹腔内血管)	1
	K721	内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術	1
放射線科	K721	内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術	24
	K653	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術	1
緩和ケア科			
麻酔科 (救急)	K000	創傷処理	215
	K044	骨折非観血の整復術	37
	K654	内視鏡的消化管止血術	15

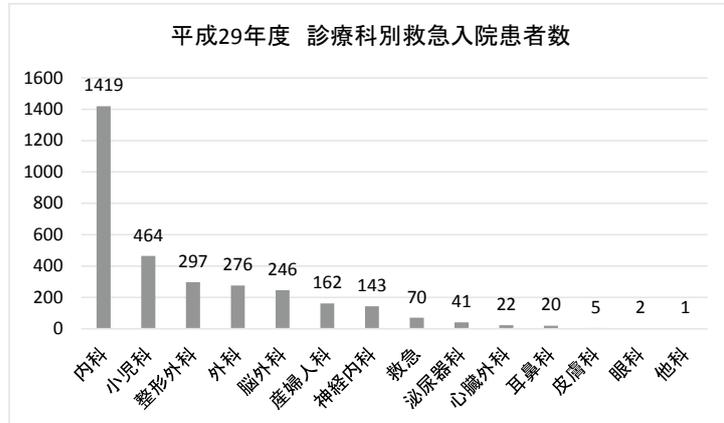


◆救急患者統計

1. 平成 29 年度月別救急患者数 (入・外別、成人・小児別)

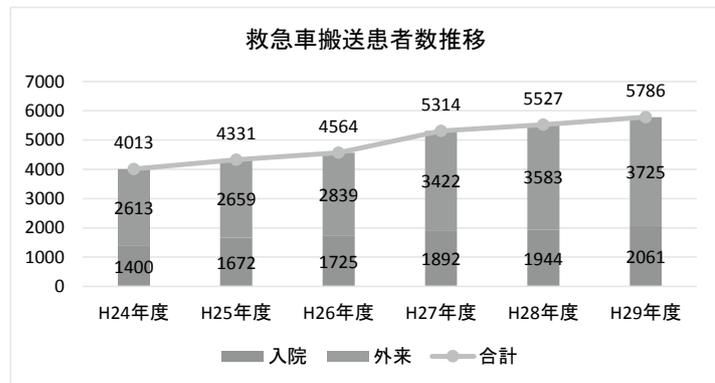
A 平成29年度 診療科別救急入院患者数

内科	1419
小児科	464
整形外科	297
外科	276
脳外科	246
産婦人科	162
神経内科	143
救急	70
泌尿器科	41
心臓外科	22
耳鼻科	20
皮膚科	5
眼科	2
他科	1
合計	3168



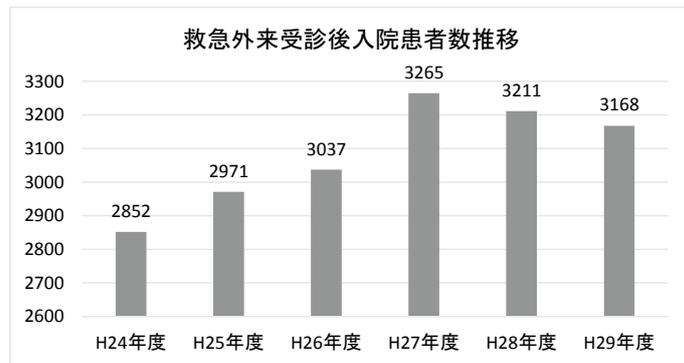
B 救急車搬送患者数推移

	入院	外来	合計
H24年度	1400	2613	4013
H25年度	1672	2659	4331
H26年度	1725	2839	4564
H27年度	1892	3422	5314
H28年度	1944	3583	5527
H29年度	2061	3725	5786



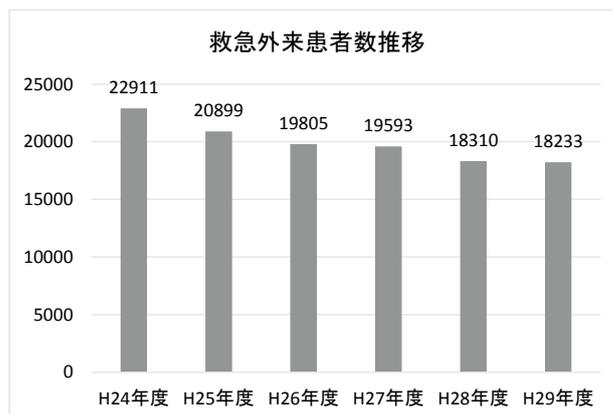
C 救急外来受診後入院患者数推移

H24年度	2852
H25年度	2971
H26年度	3037
H27年度	3265
H28年度	3211
H29年度	3168



D 救急外来患者数推移

H24年度	22911
H25年度	20899
H26年度	19805
H27年度	19593
H28年度	18310
H29年度	18233





## 診療実績及び診療統計

## 2. 救急隊別受け入れ状況

署別	救急隊	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
八幡西	八幡西	75	89	77	84	77	88	81	87	92	90	69	71	980
	黒崎	72	90	73	87	112	86	77	84	95	80	77	75	1,008
	折尾	39	42	39	40	39	29	41	35	38	41	35	26	444
	上津役	108	88	83	109	95	113	118	87	97	104	93	88	1,183
	楠橋	50	53	51	61	49	48	57	42	55	56	50	50	622
	小計	344	362	323	381	372	364	374	335	377	371	324	310	4,237
若松	島郷	4	1	5	9	3	4	3	4	3	5	2	3	46
	若松	25	33	30	33	32	28	25	27	42	38	22	32	367
	小計	29	34	35	42	35	32	28	31	45	43	24	35	413
八幡東	高度	21	24	20	18	22	19	20	17	19	28	25	33	266
	高見	5	3	3	5	2	6	10	4	7	11	5	5	66
	小計	26	27	23	23	24	25	30	21	26	39	30	38	332
戸畑	戸畑	0	5	6	6	4	3	2	4	2	2	3	2	39
小倉北	小倉北	4	4	2	3	3	2	2	2	4	4	0	2	32
	浅野	0	0	0	2	0	0	1	0	0	1	0	1	5
	井堀	1	4	2	4	5	1	1	0	1	0	4	0	23
	富野	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2
	小計	5	8	4	9	9	3	4	2	6	5	4	3	62
小倉南	小倉南	1	0	1	3	1	1	5	0	1	1	0	0	14
	臨空	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	三谷	0	0	0	1	0	0	1	1	1	0	2	0	6
	小計	1	0	2	4	2	1	6	1	2	1	2	0	22
門司	門司	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	老松	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	松ヶ江	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
中間	中間	46	40	40	36	36	24	38	35	26	43	39	35	438
遠賀	遠賀	13	29	9	21	18	11	9	11	25	20	21	12	199
	芦屋	8	13	5	8	5	6	5	5	12	11	3	12	93
	岡垣	2	5	4	8	9	3	3	5	10	16	4	4	73
	小計	23	47	18	37	32	20	17	21	47	47	28	28	365
福岡県内その他		26	25	24	32	33	25	29	31	39	42	39	30	375
県外		0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4
救急隊合計 (①)		500	549	477	570	547	497	528	481	570	593	494	482	6,288
救急自動車 (②)		0	0	0	2	1	4	2	0	3	4	3	3	22
救急ヘリ (③)		0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	3
救急搬送合計 (①+②+③)		500	549	477	572	549	501	530	482	574	597	497	485	6,313



## 診療実績及び診療統計

## 3. 平成 29 年度救急センター実績報告

## 来院患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
救急	495	595	562	595	591	540	528	482	608	684	545	538	6,763
小児	660	721	516	666	644	641	617	514	911	1136	687	562	8,275
整形	21	25	24	29	25	25	35	34	34	31	23	23	329
外科	25	24	30	23	23	22	35	24	26	27	22	29	310
心外	3	1	2	0	1	2	2	3	4	3	2	1	24
脳外	14	24	17	19	27	28	21	15	23	23	24	18	253
内科	136	152	101	142	135	121	116	108	134	138	120	110	1,513
皮膚	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1	2	6
泌尿器	3	3	4	5	2	1	6	4	9	14	1	4	56
産婦人	33	37	26	54	37	21	27	30	39	30	31	25	390
眼科	3	1	2	2	4	0	2	1	26	1	1	1	44
耳鼻	11	17	4	10	16	10	7	14	8	6	5	11	119
神内	11	14	11	13	12	8	16	13	11	17	13	11	150
他科	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	1415	1614	1300	1558	1517	1419	1413	1244	1833	2110	1475	1335	18,233
日勤	535	629	441	572	519	502	508	454	751	907	548	454	6,820
中勤	545	588	513	576	578	544	541	467	658	743	563	512	6,828
夜勤	335	397	346	410	420	373	364	323	424	460	364	369	4,585
入院患者数	253	296	225	296	270	267	288	248	266	292	232	235	3,168
救急車台数	453	505	436	523	501	457	491	427	536	550	458	449	5,786

入院率(全体)	17.9	18.3	17.3	19.0	17.8	18.8	20.4	19.9	14.5	13.8	15.7	17.6	17
小児科入院率	5.8	6.1	5.8	6.6	5.1	8.1	8.3	7.0	3.4	3.3	3.1	8.2	6
成人入院率	28.5	28.2	24.9	28.3	27.1	27.6	29.8	29.0	25.5	26.1	26.8	24.5	27
救急車搬入率	32.0	31.3	33.5	33.6	33.0	32.2	34.7	34.3	29.2	26.1	31.1	33.6	32

## 救急車で来院し入院となった件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
救急	495	595	562	595	591	540	528	482	608	684	545	538	6,763
小児	660	721	516	666	644	641	617	514	911	1136	687	562	8,275
整形	21	25	24	29	25	25	35	34	34	31	23	23	329
外科	25	24	30	23	23	22	35	24	26	27	22	29	310
心外	3	1	2	0	1	2	2	3	4	3	2	1	24
脳外	14	24	17	19	27	28	21	15	23	23	24	18	253
内科	136	152	101	142	135	121	116	108	134	138	120	110	1,513
皮膚	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1	2	6
泌尿器	3	3	4	5	2	1	6	4	9	14	1	4	56
産婦人	33	37	26	54	37	21	27	30	39	30	31	25	390
眼科	3	1	2	2	4	0	2	1	26	1	1	1	44
耳鼻	11	17	4	10	16	10	7	14	8	6	5	11	119
神内	11	14	11	13	12	8	16	13	11	17	13	11	150
他科	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	1415	1614	1300	1558	1517	1419	1413	1244	1833	2110	1475	1335	18,233



## 診療実績及び診療統計

## 入院患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
救急	4	6	4	6	4	5	6	3	7	7	13	5	70
小児	38	44	30	44	33	52	51	36	31	38	21	46	464
整形	16	25	22	29	23	24	32	30	28	31	21	16	297
外科	21	19	29	23	22	21	31	21	21	24	19	25	276
心外	3	1	2	0	1	2	0	3	4	3	2	1	22
脳外	14	24	17	19	26	27	20	14	22	22	23	18	246
内科	126	142	94	136	128	120	113	102	116	128	112	102	1,419
皮膚	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1	1	5
泌尿器	3	3	4	5	2	1	5	4	3	7	1	3	41
産婦人	17	16	10	17	15	7	12	17	20	17	8	6	162
眼科	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
耳鼻	0	3	1	4	4	0	2	3	1	0	0	2	20
神内	11	13	11	13	12	8	15	13	11	15	11	10	143
他科	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	253	296	225	296	270	267	288	248	266	292	232	235	3,168

## 処置

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心カテ		9	8	16	15	15	11	9	12	14	20	15	144
手術	10	13	9	10	10	11	19	7	19	18	11	19	156
内視鏡	23	16	11	13	19	13	10	13	12	17	7	11	165
アンギオ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
CPAOA	5	9	11	10	7	6	12	8	16	15	17	10	126
エンゼルケア	3	7	9	6	5	6	10	5	12	13	11	8	95
転送	15	7	15	8	25	16	16	7	8	16	15	12	160
へり搬送	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1

小児科救急車数	51	67	51	70	56	43	48	39	51	58	40	47	621
成人救急車数	402	438	385	453	445	414	443	388	485	492	418	402	5,165
救急車数計 (救外のみ)	453	505	436	523	501	457	491	427	536	550	458	449	5,786

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
救急車受け入れ 不能件数	43	45	22	27	42	26	34	31	61	86	86	59	562



## ◆退院患者統計

## 1. 疾病統計

## 1) 疾病別退院患者数 (大分類) (平成 28 年 1 月～12 月)

大分類表	退院患者数			延在院日数		
	男	女	計	男	女	計
1 感染症及び寄生虫症 A00-B99	135	111	246	1,344	1,083	2,427
2 新生物 C00-D48	2,754	2,412	5,166	37,699	28,142	65,841
3 血液及び造血器の疾患ならびに免疫機構の障害 D50-89	40	38	78	629	625	1,254
4 内分泌、栄養及び代謝疾患 E00-90	127	120	247	1,379	1,394	2,773
5 精神および行動の障害 F00-90	4	5	9	20	40	60
6 神経系の疾患 G00-99	169	149	318	2,263	1,991	4,254
7 眼および付属器の疾患 H00-59	338	424	762	2,440	2,931	5,371
8 耳および乳様突起の疾患 H60-95	21	16	37	142	171	313
9 循環器系の疾患 I00-99	1,126	628	1,754	15,420	10,872	26,292
10 呼吸器系の疾患 J00-99	643	401	1,044	8,062	4,151	12,213
11 消化器系の疾患 K00-93	759	590	1,349	7,766	5,926	13,692
12 皮膚および皮下組織の疾患 L00-99	55	37	92	921	642	1,563
13 筋骨格系および結合組織の疾患 M00-99	182	221	403	3,797	4,338	8,135
14 尿路生殖器系の疾患 N00-99	319	488	807	3,121	3,565	6,686
15 妊娠, 分娩および産じょく<褥> O00-99	0	495	495	0	4,635	4,635
16 周産期に発生した病態 P00-96	129	94	223	2,984	3,147	6,131
17 先天奇形, 変形および染色体異常 Q00-99	264	291	555	4,164	6,276	10,440
18 症状, 徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの R00-99	119	69	188	1,033	598	1,631
19 損傷, 中毒およびその他の外因の影響 S00-T98	314	423	737	4,738	6,796	11,534
21 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用 Z00-99	81	54	135	373	285	658
合 計	7,579	7,066	14,645	98,295	87,608	185,903

診療実績及び診療統計

2) 疾病別退院患者数(小分類) (平成 29 年1月~12月)

疾 病 名			男	女
c- 100	I 感染症および寄生虫症	A00-B99	135	111
c- 101	原因の明示された腸管感染症	A00-08	37	26
c- 102	感染症と推定される下痢および胃腸炎	A09	25	25
c- 103	呼吸器結核	A15-16	3	1
c- 104	その他の結核	A17-19	2	2
c- 105	百日咳	A37	0	0
c- 106	敗血症	A40-41	14	10
c- 107	その他の細菌性疾患	A20-36,38-39,42-49	11	16
c- 108	梅毒	A50-53	0	0
c- 109	淋菌感染症	A54	0	0
c- 110	主として性的伝播様式をとるその他の感染症	A55-64	0	1
c- 111	ヘルペスウイルス感染症	B00	1	0
c- 112	水痘	B01	0	0
c- 113	带状疱疹	B02	7	8
c- 114	麻疹	B05	0	0
c- 115	風疹	B06	0	0
c- 116	皮膚および粘膜の病変を伴うその他のウイルス疾患	B03-04,07-09	3	5
c- 117	B型ウイルス肝炎	B16-17,0,18,0-18.1	3	1
c- 118	C型ウイルス肝炎	B17.1,18.2	9	1
c- 119	その他の慢性ウイルス肝炎	B15-19の残り	0	0
c- 120	ヒト免疫不全ウイルス〔HIV〕病	B20-24	0	0
c- 121	ムンプス	B26	2	0
c- 122	その他のウイルス疾患	A80-99,B25,B27-34	12	10
c- 123	皮膚糸状菌症	B35	0	0
c- 124	カンジダ症	B37	0	0
c- 125	その他の明示された真菌症	B36,38-49	4	3
c- 126	結核の続発・後遺症	B90	0	0
c- 127	その他および詳細不明の感染症および寄生虫症の	B91-94	0	0
c- 128	その他の感染症及び寄生虫症	A00-B99の残り	2	2
小 計 (I)			135	111
c- 200	II 新生物	C00-D48	2,754	2,412
c- 201	口唇, 口腔および咽頭の悪性新生物	C00-14	77	12
c- 202	食道の悪性新生物	C15	152	21
c- 203	胃の悪性新生物	C16	231	109
c- 204	結腸の悪性新生物	C18	126	130
c- 205	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	C19-20	91	63
c- 206	肛門および肛門管の悪性新生物	C21	4	0
c- 207	肝および肝内胆管の悪性新生物	C22	122	50
c- 208	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物	C23-24	35	33
c- 209	膵の悪性新生物	C25	69	44
c- 210	その他の消化器の悪性新生物	C17,26	4	3
c- 211	喉頭の悪性新生物	C32	27	0
c- 212	気管, 気管支及び肺の悪性新生物	C33-34	654	314
c- 213	その他の呼吸器系および胸腔内臓器の悪性新生物	C30-31,37-39	20	13
c- 214	骨および関節軟骨の悪性新生物	C40-41	0	0
c- 215	皮膚の悪性黒色腫	C43	2	0
c- 216	その他の皮膚の悪性新生物	C44	2	4
c- 217	中皮および軟部組織の悪性新生物	C45-49	27	78
c- 218	乳房の悪性新生物	C50	1	263
c- 219	子宮頸(部)の悪性新生物	C53	0	66
c- 220	子宮体(部)の悪性新生物	C54	0	201
c- 221	子宮の部位不明の悪性新生物	C55	0	2
c- 222	卵巣の悪性新生物	C56	0	211
c- 223	その他の女性性器の悪性新生物	C51-52,57-58	0	4



## 診療実績及び診療統計

## 2) 疾病別退院患者数(小分類) (平成 29 年1月~12月)

疾病名	男	女
c- 224 前立腺の悪性新生物	359	0
c- 225 その他の男性性器の悪性新生物	7	0
c- 226 腎及び腎盂の悪性新生物	71	36
c- 227 膀胱の悪性新生物	129	63
c- 228 その他の尿路の悪性新生物	26	15
c- 229 眼および付属器の悪性新生物	0	0
c- 230 中枢神経系の悪性新生物	7	14
c- 231 甲状腺の悪性新生物	9	10
c- 232 ホジキン病	20	13
c- 233 非ホジキンリンパ腫	163	170
c- 234 白血病	85	59
c- 235 その他のリンパ組織、造血組織および関連組織	51	44
c- 236 その他の悪性新生物	61	50
c- 237 子宮頸(部)の上皮内癌	0	11
c- 238 その他の上皮内新生物	8	3
c- 239 皮膚の良性新生物	0	2
c- 240 乳房の良性新生物	0	1
c- 241 子宮平滑筋腫	0	116
c- 242 卵巣の良性新生物	0	75
c- 243 泌尿器の良性新生物	0	0
c- 244 中枢神経系のその他の新生物	3	12
c- 245 その他の新生物	111	97
小計 (II)	2,754	2,412
c- 300 III 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	40	38
c- 301 鉄欠乏性貧血	2	7
c- 302 その他貧血	16	8
c- 303 出血性の病態並びにその他の血液及び造血器の疾患	17	18
c- 304 免疫機構の障害	5	5
小計 (III)	40	38
c- 400 IV 内分泌、栄養および代謝疾患	127	120
c- 401 甲状腺中毒症	2	5
c- 402 甲状腺炎	0	1
c- 403 その他の甲状腺障害	1	14
c- 404 インスリン依存性糖尿病	3	5
c- 405 インスリン非依存性糖尿病	59	32
c- 406 その他の糖尿病	5	3
c- 407 卵巣機能障害	0	0
c- 408 栄養失調(症)及びビタミン欠乏症	1	2
c- 409 肥満(症)	0	1
c- 410 高脂血症	0	0
c- 411 体液量減少(症)	8	9
c- 412 その他の内分泌、栄養および代謝疾患	48	48
小計 (IV)	127	120
c- 500 V 精神および行動の障害	4	5
c- 501 血管性及び詳細不明の痴呆	0	0
c- 502 アルコール使用<飲酒>による精神および行動の障害	0	1
c- 503 その他の精神作用物質使用による精神および行動の障害	0	0
c- 504 精神分裂病、分裂病型障害および妄想性障害	0	0
c- 505 気分〔感情〕障害(躁鬱病を含む)	1	1
c- 506 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	2	3
c- 507 精神遅滞	0	0
c- 508 その他の精神および行動の障害	1	0
小計 (V)	4	5
c- 600 VI 神経系の疾患	169	149

診療実績及び診療統計

2) 疾病別退院患者数 (小分類) (平成 29 年 1 月～12 月)

疾 病 名			男	女
c- 601	髄膜炎	G00-03	5	5
c- 602	中枢神経系の炎症性疾患	G04-09	5	2
c- 603	脊髄性筋萎縮症および関連症候群	G12	2	13
c- 604	パーキンソン病	G20	0	2
c- 605	アルツハイマー病	G30	0	0
c- 606	多発性硬化症	G35	0	1
c- 607	てんかん	G40-41	26	28
c- 608	片頭痛及びその他の頭痛症候群	G43-44	1	0
c- 609	一過性脳虚血発作および関連症候群	G45	5	10
c- 610	睡眠障害	G47	29	16
c- 611	神経、神経根および神経そうの障害	G50-64	20	23
c- 612	脳性麻痺およびその他の麻痺性症候群	G80-83	23	30
c- 613	自律神経系の障害	G90	1	0
c- 614	その他の神経系の疾患	G00-99 の残り	52	19
小 計 (VI)			169	149
c- 700	VII 眼および付属器の疾患	H00-59	338	424
c- 701	麦粒腫およびさん粒腫	H00	0	0
c- 702	涙器の障害	H04	0	1
c- 703	結膜炎	H10	0	0
c- 704	角膜炎	H16	3	0
c- 705	白内障	H25-26	143	249
c- 706	網膜剥離および裂孔	H33	45	41
c- 707	網膜血管閉塞症	H34	0	3
c- 708	緑内障	H40-42	57	37
c- 709	斜視	H49-50	7	5
c- 710	屈折および調節の障害	H52	0	0
c- 711	盲<失明>および低視力	H54	0	0
c- 712	その他の眼および付属器の疾患	H00-59 の残り	83	88
小 計 (VII)			338	424
c- 800	VIII 耳および乳様突起の疾患	H60-95	21	16
c- 801	外耳炎	H60	1	0
c- 802	耳垢栓塞	H61.2	0	0
c- 803	その他の外耳障害	H61.0-61.1.61.3-62	0	0
c- 804	中耳炎	H65-67	9	1
c- 805	耳管炎	H68.0	0	0
c- 806	耳管閉塞	H68.1	0	0
c- 807	中耳真珠腫 (症)	H71	0	0
c- 808	その他の中耳および乳様突起の疾患	H69-70.72-75	0	0
c- 809	メニエール病	H81.0	1	2
c- 810	中枢性めまい	H81.4	0	0
c- 811	その他の内耳疾患	H80.81.1-81.3,	7	11
c- 812	難聴	H90-91	3	2
c- 813	その他の耳疾患	H92-95	0	0
小 計 (VIII)			21	16
c- 900	IX 循環器系の疾患	I00-99	1,126	628
c- 901	本態性 (原発性) 高血圧 (症)	I10	1	1
c- 902	高血圧性心疾患	I11	0	2
c- 903	高血圧性腎疾患	I12	1	0
c- 904	高血圧性心腎疾患	I13	0	0
c- 905	二次性高血圧症	I15	0	0
c- 906	狭心症	I20	144	58
c- 907	急性心筋梗塞	I21-22	103	23
c- 908	冠動脈硬化症	I25.0-25.1	9	7
c- 909	陳旧性心筋梗塞	I25.2	74	15



## 診療実績及び診療統計

## 2) 疾病別退院患者数(小分類) (平成 29 年1月~12月)

疾病名	男	女
c- 910 その他の虚血性心疾患	68	23
c- 911 慢性リウマチ性心疾患	10	8
c- 912 慢性非リウマチ性心内膜疾患	54	34
c- 913 心筋症	15	5
c- 914 不整脈及び伝導障害	154	115
c- 915 心不全	120	88
c- 916 その他の心疾患	26	16
c- 917 くも膜下出血	6	10
c- 918 脳内出血	57	38
c- 919 脳梗塞	126	78
c- 920 脳動脈硬化(症)	2	4
c- 921 その他の脳血管疾患	10	4
c- 922 肺塞栓症	4	6
c- 923 動脈硬化(症)	23	9
c- 924 大動脈瘤および解離	78	38
c- 925 レイノー症候群	0	0
c- 926 動脈の塞栓症および血栓症	2	3
c- 927 その他の動脈、細動脈及び毛細血管の疾患	4	14
c- 928 静脈炎、血栓(性)静脈炎並びに静脈の塞栓症及び血栓症	1	4
c- 929 下肢の静脈瘤	0	0
c- 930 痔核	2	1
c- 931 食道静脈瘤	20	8
c- 932 低血圧(症)	0	1
c- 933 その他循環器系の疾患	12	15
小 計 (IX)	1,126	628
c- 1000 X 呼吸器系の疾患	643	401
c- 1001 急性鼻咽頭炎[かぜ]	1	0
c- 1002 急性副鼻腔炎	1	0
c- 1003 急性咽頭炎及び急性扁桃炎	8	7
c- 1004 急性喉頭炎および気管炎	3	1
c- 1005 その他の急性上気道感染症	9	8
c- 1006 インフルエンザ	17	15
c- 1007 肺炎	213	124
c- 1008 急性気管支炎	43	34
c- 1009 急性細気管支炎	3	1
c- 1010 アレルギー性鼻炎	0	0
c- 1011 慢性副鼻腔炎	19	19
c- 1012 その他の鼻および副鼻腔の疾患	15	5
c- 1013 扁桃およびアデノイドの慢性疾患	30	21
c- 1014 その他の上気道疾患	30	17
c- 1015 急性または慢性と明示されない気管支炎	2	0
c- 1016 慢性閉塞性肺疾患	16	5
c- 1017 喘息	35	38
c- 1018 気管支拡張症	0	3
c- 1019 じん肺(症)	0	0
c- 1020 間質性肺疾患	37	30
c- 1021 気胸	34	13
c- 1022 その他呼吸器系の疾患	127	60
小 計 (X)	643	401
c- 1100 XI 消化器系の疾患	759	590
c- 1101 う蝕	0	1
c- 1102 歯肉炎および歯周疾患	0	0
c- 1103 その他の歯および歯の支持組織の障害	0	3
c- 1104 口内炎および関連疾患	0	0

**診療実績及び診療統計**
**2) 疾病別退院患者数 (小分類) (平成 29 年 1 月～12 月)**

疾 病 名	男	女
c- 1105 その他の口腔, 唾液腺及び顎の疾患	4	10
c- 1106 胃潰瘍	25	17
c- 1107 十二指腸潰瘍	11	8
c- 1108 部位不明の消化性潰瘍	0	1
c- 1109 胃炎および十二指腸炎	1	1
c- 1110 その他の食道, 胃および十二指腸の疾患	23	19
c- 1111 虫垂の疾患	51	39
c- 1112 単径ヘルニア	114	32
c- 1113 その他のヘルニア	13	27
c- 1114 クローン病	11	0
c- 1115 潰瘍性大腸炎	8	3
c- 1116 腸閉塞	57	68
c- 1117 過敏性腸症候群	0	1
c- 1118 便秘	3	1
c- 1119 裂肛および痔瘻	0	0
c- 1120 その他の胃腸の疾患	116	89
c- 1121 腹膜の疾患	9	8
c- 1122 アルコール性肝疾患	5	3
c- 1123 慢性肝炎 (アルコール性のものを除く)	0	0
c- 1124 肝硬変 (アルコール性のものを除く)	4	6
c- 1125 その他の肝疾患	15	29
c- 1126 胆石症	168	151
c- 1127 胆のう炎	12	6
c- 1128 急性膵炎	35	14
c- 1129 慢性膵炎	3	0
c- 1130 その他の膵疾患	4	2
c- 1131 その他の消化器系の疾患	67	51
小 計 (X I)	759	590
c- 1200 X II 皮膚および皮下組織の疾患	55	37
c- 1201 皮膚および皮下組織の感染症	30	23
c- 1202 アトピー性皮膚炎	0	0
c- 1203 接触皮膚炎	0	0
c- 1204 その他の皮膚炎及び湿疹	1	4
c- 1205 乾せん及びその他の丘疹落せつ性障害	0	0
c- 1206 じんま疹	1	0
c- 1207 爪の障害	0	0
c- 1208 脱毛症	0	0
c- 1209 ざ瘡<アクネ>	0	0
c- 1210 色素 (沈着) 異常症	0	0
c- 1211 うおのめおよびべんち	0	0
c- 1212 その他の皮膚および皮下組織の疾患	23	10
小 計 (X II)	55	37
c- 1300 X III 筋骨格系および結合組織の疾患	182	221
c- 1301 慢性関節リウマチ	0	2
c- 1302 痛風	0	0
c- 1303 その他の炎症性多発性関節障害	7	8
c- 1304 関節症	19	112
c- 1305 四肢の後天性変形	1	2
c- 1306 膝内障	0	0
c- 1307 関節痛	0	1
c- 1308 その他の関節障害	7	2
c- 1309 全身性エリテマトーデス <SLE>	0	0
c- 1310 乾燥症候群 [シェーグレン症候群]	0	0



## 診療実績及び診療統計

## 2) 疾病別退院患者数(小分類) (平成 29 年1月~12月)

疾 病 名	男	女
c- 1311 ベーチェット病	0	2
c- 1312 その他の全身性結合組織障害	18	21
c- 1313 脊椎障害(脊椎症を含む)	82	43
c- 1314 椎間板障害	22	10
c- 1315 頸腕症候群	0	0
c- 1316 腰痛症及び坐骨神経痛	0	1
c- 1317 その他の背部痛	0	0
c- 1318 その他の脊柱障害	2	0
c- 1319 軟部組織障害	6	2
c- 1320 肩の傷害	0	0
c- 1321 骨粗しょう症	0	0
c- 1322 その他の骨の密度および構造の障害	5	5
c- 1323 骨髄炎	5	1
c- 1324 若年性骨軟骨症<骨端症>	0	0
c- 1325 その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	8	9
小 計 (XIII)	182	221
c- 1400 XIV 尿路生殖器系の疾患	319	488
c- 1401 急性及び急速進行性腎炎症候群	2	2
c- 1402 ネフローゼ症候群	5	4
c- 1403 その他の糸球体疾患	1	16
c- 1404 腎尿細管間質性疾患	52	60
c- 1405 慢性腎不全	57	19
c- 1406 その他の腎不全	8	8
c- 1407 尿路結石症	89	51
c- 1408 膀胱炎	2	4
c- 1409 その他の尿路系の疾患	42	33
c- 1410 前立腺肥大(症)	40	0
c- 1411 その他の男性生殖器の疾患	21	0
c- 1412 乳房の障害	0	11
c- 1413 卵管炎および卵巣炎	0	4
c- 1414 子宮頸(部)の炎症性疾患	0	0
c- 1415 その他の女性骨盤炎症性疾患	0	10
c- 1416 子宮内膜症	0	57
c- 1417 女性生殖器脱	0	11
c- 1418 卵巣, 卵管および子宮広間膜の非炎症性障害	0	8
c- 1419 月経障害	0	5
c- 1420 閉経期およびその他の閉経周辺期障害	0	0
c- 1421 女性不妊症	0	0
c- 1422 その他の女性生殖器の疾患	0	185
小 計 (XIV)	319	488
c- 1500 XV 妊娠, 分娩および産じょく	0	495
c- 1501 自然流産	0	3
c- 1502 医学的人工流産	0	10
c- 1503 その他の流産	0	26
c- 1504 妊娠中毒症	0	11
c- 1505 妊娠早期の出血	0	5
c- 1506 前置胎盤, 胎盤早期剥離及び分娩前出血	0	5
c- 1507 その他の胎児及び羊膜腔に関連する母体のケア並びに 予想される分娩の諸問題	0	128
c- 1508 早産	0	19
c- 1509 分娩後出血	0	11
c- 1510 単胎自然分娩	0	126
c- 1511 その他の妊娠及び分娩の障害及び合併症	0	139
c- 1512 主として産じょくに関連する合併症及びその他の産科的	0	12

診療実績及び診療統計

2) 疾病別退院患者数 (小分類) (平成 29 年 1 月～12 月)

疾 病 名	男	女
病態、他に分類されないもの	0	495
小 計 (X V)	0	94
c- 1600 X VI 周産期に発生した病態	129	44
c- 1601 妊娠期間および胎児発育に関連する障害	46	2
c- 1602 出産外傷	0	20
c- 1603 周産期に特異的な呼吸障害および心血管障害	33	9
c- 1604 周産期に特異的な感染症	16	7
c- 1605 胎児および新生児の出血性障害および血液障害	23	12
c- 1606 その他の周産期に発生した病態	11	94
小 計 (X VI)	129	88
c- 1700 X VII 先天奇形、変形および染色体異常	264	291
c- 1701 二分脊椎<脊椎披裂>	1	1
c- 1702 その他の神経系の先天奇形	1	3
c- 1703 心臓の先天奇形	172	160
c- 1704 その他の循環器系の先天奇形	37	57
c- 1705 唇裂および口蓋裂	2	0
c- 1706 小腸の先天欠損、閉鎖および狭窄	0	0
c- 1707 その他の消化器系の先天奇形	9	14
c- 1708 停留精巣<睾丸>	13	0
c- 1709 その他の尿路器系の先天奇形	7	6
c- 1710 股関節部の先天(性)変形	0	2
c- 1711 足の先天変形	0	0
c- 1712 脊柱および骨性胸郭の先天奇形	2	0
c- 1713 その他の筋骨格系の先天奇形及び変形	6	10
c- 1714 その他の先天奇形	10	16
c- 1715 染色体異常、他に分類されないもの	4	22
小 計 (X VII)	264	291
c- 1800 X VIII 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他	119	69
c- 1801 腹痛および骨盤痛	3	3
c- 1802 めまい	1	0
c- 1803 不明熱	9	1
c- 1804 頭痛	0	0
c- 1805 老衰	0	0
c- 1806 その他の症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見	106	65
小 計 (X VIII)	119	69
c- 1900 X IX 損傷、中毒およびその他の外因の影響	314	423
c- 1901 頭蓋骨および顔面骨の骨折	4	3
c- 1902 頸部、胸部及び骨盤の骨折(脊椎を含む)	16	30
c- 1903 大腿骨の骨折	27	150
c- 1904 その他の四肢の骨折	75	93
c- 1905 多部位の骨折	2	1
c- 1906 明示された部位及び多部位の脱臼、捻挫及びストレッチ	4	10
c- 1907 眼球及び眼窩の損傷	6	0
c- 1908 頭蓋内損傷	57	38
c- 1909 その他の内臓の損傷	8	5
c- 1910 明示された部位及び多部位の挫滅損傷及び外傷性切断	0	1
c- 1911 その他の明示された部位、部位不明及び外部位の損傷	26	22
c- 1912 自然開口部からの異物侵入の作用	5	1
c- 1913 熱傷および腐食	1	1
c- 1914 薬物、薬剤および生物学的製剤による中毒	0	5
c- 1915 薬用を主としない物質の毒作用	0	0
c- 1916 虐待症候群	1	0
c- 1917 その他及び詳細不明の外因の作用	14	6
c- 1918 外傷の早期合併症並びに外科的及び内科的ケア	67	57



## 診療実績及び診療統計

## 2) 疾病別退院患者数(小分類) (平成 29 年1月~12月)

疾 病 名	男	女
c- 1919 損傷, 中毒およびその他の外因による影響の続発・後遺症 T90-T98	1	0
小 計 (XIX)	314	423
c- 2100 XXI 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービス Z00-Z99	81	54
c- 2101 検査および診査のための保健サービスの利用者 Z00-Z13	0	0
c- 2102 無症候性ヒト免疫不全ウイルス [HIV] 感染状態 Z21	0	0
c- 2103 予防接種 Z23-Z27	0	0
c- 2104 伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある Z20,Z22,Z28-Z29	0	0
c- 2105 避妊管理 Z30	0	0
c- 2106 分娩前スクリーニング及びその他の妊娠の管理 Z34-Z36	0	1
c- 2107 その他の生殖に関連する環境下での保健サービス Z31-Z33,Z37-Z38	0	1
c- 2108 分娩後のケアおよび検査 Z39	0	0
c- 2109 菌の補てつ Z46.3-Z46.4	0	0
c- 2110 特定の処置(菌の補てつを除く)及び保健ケア Z40-Z46.2,Z46.5-Z54	8	4
c- 2111 腎透析依存 Z99.2	0	0
c- 2112 その他の理由による保健サービスの利用者 Z55-Z99.1,Z99.3-Z99.9	73	48
小 計 (XXI)	81	54
合 計	7,579	7,066
	14,645	

診療実績及び診療統計

3) 疾病別死亡患者数 (小分類) (平成 29 年1月~12月)

疾 病 名			件数	延べ日数
c- 100	I 感染症および寄生虫症	A00-B99	13	268
c- 101	原因の明示された腸管感染症	A00-08	1	34
c- 102	感染症と推定される下痢および胃腸炎	A09	0	0
c- 103	呼吸器結核	A15-16	0	0
c- 104	その他の結核	A17-19	0	0
c- 105	百日咳	A37	0	0
c- 106	敗血症	A40-41	7	87
c- 107	その他の細菌性疾患	A20-36,38-39,42-49	1	2
c- 108	梅毒	A50-53	0	0
c- 109	淋菌感染症	A54	0	0
c- 110	主として性的伝播様式をとるその他の感染症	A55-64	0	0
c- 111	ヘルペスウイルス感染症	B00	0	0
c- 112	水痘	B01	0	0
c- 113	带状疱疹	B02	0	0
c- 114	麻疹	B05	0	0
c- 115	風疹	B06	0	0
c- 116	皮膚および粘膜の病変を伴うその他のウイルス疾患	B03-04,07-09	0	0
c- 117	B型ウイルス肝炎	B16-17,0,18,0-18.1	0	0
c- 118	C型ウイルス肝炎	B17.1,18.2	1	35
c- 119	その他の慢性ウイルス肝炎	B15-19の残り	0	0
c- 120	ヒト免疫不全ウイルス [HIV] 病	B20-24	0	0
c- 121	ムンプス	B26	0	0
c- 122	その他のウイルス疾患	A80-99,B25,B27-34	0	0
c- 123	皮膚糸状菌症	B35	0	0
c- 124	カンジダ症	B37	0	0
c- 125	その他の明示された真菌症	B36,38-49	0	0
c- 126	結核の続発・後遺症	B90	0	0
c- 127	その他および詳細不明の感染症および寄生虫症の	B91-94	0	0
c- 128	その他の感染症及び寄生虫症	A00-B99の残り	3	110
小 計 (I)			13	(268)
c- 200	II 新生物	C00-D48	236	5,675
c- 201	口唇, 口腔および咽頭の悪性新生物	C00-14	6	232
c- 202	食道の悪性新生物	C15	14	254
c- 203	胃の悪性新生物	C16	26	534
c- 204	結腸の悪性新生物	C18	17	350
c- 205	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	C19-20	7	146
c- 206	肛門および肛門管の悪性新生物	C21	0	0
c- 207	肝および肝内胆管の悪性新生物	C22	20	265
c- 208	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物	C23-24	7	76
c- 209	膵の悪性新生物	C25	22	530
c- 210	その他の消化器の悪性新生物	C17,26	0	0
c- 211	喉頭の悪性新生物	C32	0	0
c- 212	気管, 気管支及び肺の悪性新生物	C33-34	38	781
c- 213	その他の呼吸器系および胸腔内臓器の悪性新生物	C30-31,37-39	1	6
c- 214	骨および関節軟骨の悪性新生物	C40-41	0	0
c- 215	皮膚の悪性黒色腫	C43	1	9
c- 216	その他の皮膚の悪性新生物	C44	0	0
c- 217	中皮および軟部組織の悪性新生物	C45-49	2	30
c- 218	乳房の悪性新生物	C50	15	593
c- 219	子宮頸(部)の悪性新生物	C53	5	180
c- 220	子宮体(部)の悪性新生物	C54	2	16
c- 221	子宮の部位不明の悪性新生物	C55	1	23
c- 222	卵巣の悪性新生物	C56	4	92
c- 223	その他の女性性器の悪性新生物	C51-52,57-58	0	0
c- 224	前立腺の悪性新生物	C61	4	79
c- 225	その他の男性性器の悪性新生物	C60,62-63	0	0



## 診療実績及び診療統計

## 3) 疾病別死亡患者数 (小分類) (平成 29 年1月~12月)

疾病名	件数	延べ日数
c- 226 腎及び腎盂の悪性新生物	2	31
c- 227 膀胱の悪性新生物	8	134
c- 228 その他の尿路の悪性新生物	0	0
c- 229 眼および付属器の悪性新生物	0	0
c- 230 中枢神経系の悪性新生物	1	90
c- 231 甲状腺の悪性新生物	2	5
c- 232 ホジキン病	0	0
c- 233 非ホジキンリンパ腫	5	27
c- 234 白血病	19	698
c- 235 その他のリンパ組織、造血組織および関連組織	0	0
c- 236 その他の悪性新生物	3	86
c- 237 子宮頸(部)の上皮内癌	0	0
c- 238 その他の上皮内新生物	0	0
c- 239 皮膚の良性新生物	0	0
c- 240 乳房の良性新生物	0	0
c- 241 子宮平滑筋腫	0	0
c- 242 卵巣の良性新生物	0	0
c- 243 泌尿器の良性新生物	0	0
c- 244 中枢神経系のその他の新生物	0	0
c- 245 その他の新生物	4	408
小計 (II)	236	(5,675)
c- 300 III 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	4	64
c- 301 鉄欠乏性貧血	0	0
c- 302 その他貧血	1	4
c- 303 出血性の病態並びにその他の血液及び造血器の疾患	3	60
c- 304 免疫機構の障害	0	0
小計 (III)	4	(64)
c- 400 IV 内分泌、栄養および代謝疾患	3	9
c- 401 甲状腺中毒症	0	0
c- 402 甲状腺炎	0	0
c- 403 その他の甲状腺障害	0	0
c- 404 インスリン依存性糖尿病	0	0
c- 405 インスリン非依存性糖尿病	0	0
c- 406 その他の糖尿病	0	0
c- 407 卵巣機能障害	0	0
c- 408 栄養失調(症)及びビタミン欠乏症	0	0
c- 409 肥満(症)	0	0
c- 410 高脂血症	0	0
c- 411 体液量減少(症)	1	2
c- 412 その他の内分泌、栄養および代謝疾患	2	7
小計 (IV)	3	(9)
c- 500 V 精神および行動の障害	0	0
c- 501 血管性及び詳細不明の痴呆	0	0
c- 502 アルコール使用<飲酒>による精神および行動の障害	0	0
c- 503 その他の精神作用物質使用による精神および行動の障害	0	0
c- 504 精神分裂病、分裂病型障害および妄想性障害	0	0
c- 505 気分〔感情〕障害(躁鬱病を含む)	0	0
c- 506 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	0	0
c- 507 精神遅滞	0	0
c- 508 その他の精神および行動の障害	0	0
小計 (V)	0	(0)
c- 600 VI 神経系の疾患	0	0
c- 601 髄膜炎	0	0
c- 602 中枢神経系の炎症性疾患	0	0
c- 603 脊髄性筋萎縮症および関連症候群	0	0
c- 604 パーキンソン病	0	0

診療実績及び診療統計

3) 疾病別死亡患者数 (小分類) (平成 29 年1月~12月)

疾病名	件数	延べ日数
c- 605 アルツハイマー病	0	0
c- 606 多発性硬化症	0	0
c- 607 てんかん	0	0
c- 608 片頭痛及びその他の頭痛症候群	0	0
c- 609 一過性脳虚血発作および関連症候群	0	0
c- 610 睡眠障害	0	0
c- 611 神経、神経根および神経そうの障害	0	0
c- 612 脳性麻痺およびその他の麻痺性症候群	0	0
c- 613 自律神経系の障害	0	0
c- 614 その他の神経系の疾患	0	0
小計 (VI)	0	(0)
c- 700 VII 眼および付属器の疾患	0	0
c- 701 麦粒腫およびさん粒腫	0	0
c- 702 涙器の障害	0	0
c- 703 結膜炎	0	0
c- 704 角膜炎	0	0
c- 705 白内障	0	0
c- 706 網膜剥離および裂孔	0	0
c- 707 網膜血管閉塞症	0	0
c- 708 緑内障	0	0
c- 709 斜視	0	0
c- 710 屈折および調節の障害	0	0
c- 711 盲<失明>および低視力	0	0
c- 712 その他の眼および付属器の疾患	0	0
小計 (VII)	0	(0)
c- 800 VIII 耳および乳様突起の疾患	0	0
c- 801 外耳炎	0	0
c- 802 耳垢栓塞	0	0
c- 803 その他の外耳障害	0	0
c- 804 中耳炎	0	0
c- 805 耳管炎	0	0
c- 806 耳管閉塞	0	0
c- 807 中耳真珠腫 (症)	0	0
c- 808 その他の中耳および乳様突起の疾患	0	0
c- 809 メニエール病	0	0
c- 810 中枢性めまい	0	0
c- 811 その他の内耳疾患	0	0
c- 812 難聴	0	0
c- 813 その他の耳疾患	0	0
小計 (VIII)	0	(0)
c- 900 IX 循環器系の疾患	69	1,160
c- 901 本態性 (原発性) 高血圧 (症)	0	0
c- 902 高血圧性心疾患	0	0
c- 903 高血圧性腎疾患	0	0
c- 904 高血圧性心腎疾患	0	0
c- 905 二次性高血圧症	0	0
c- 906 狭心症	0	0
c- 907 急性心筋梗塞	11	314
c- 908 冠動脈硬化症	0	0
c- 909 陳旧性心筋梗塞	0	0
c- 910 その他の虚血性心疾患	0	0
c- 911 慢性リウマチ性心疾患	0	0
c- 912 慢性非リウマチ性心内膜疾患	3	50
c- 913 心筋症	0	0
c- 914 不整脈及び伝導障害	14	70
c- 915 心不全	4	112



## 診療実績及び診療統計

## 3) 疾病別死亡患者数 (小分類) (平成 29 年1月～12月)

疾病名	件数	延べ日数	
c- 916 その他の心疾患	I01-02.0,I27,I30-33,	0	0
c- 917 くも膜下出血	I60.69.0	2	12
c- 918 脳内出血	I61.69.1	15	71
c- 919 脳梗塞	I63.69.3	6	297
c- 920 脳動脈硬化(症)	I67.2	0	0
c- 921 その他の脳血管疾患	I62.64-67.1.67.3-68,	1	5
c- 922 肺塞栓症	I26	1	1
c- 923 動脈硬化(症)	I70	0	0
c- 924 大動脈瘤および解離	I71	11	168
c- 925 レイノー症候群	I73.0	0	0
c- 926 動脈の塞栓症および血栓症	I74	1	60
c- 927 その他の動脈、細動脈及び毛細血管の疾患	I72.77-79	0	0
c- 928 静脈炎、血栓(性) 静脈炎並びに静脈の塞栓症及び血栓症	I80-82	0	0
c- 929 下肢の静脈瘤	I83	0	0
c- 930 痔核	I84	0	0
c- 931 食道静脈瘤	I85	0	0
c- 932 低血圧(症)	I95	0	0
c- 933 その他循環器系の疾患	I00-99 の残り	0	0
小 計 (IX)		69	(1,160)
c- 1000 X 呼吸器系の疾患	J00-99	48	1,074
c- 1001 急性鼻咽頭炎[かぜ]	J00	0	0
c- 1002 急性副鼻腔炎	J01	0	0
c- 1003 急性咽頭炎及び急性扁桃炎	J02-03	0	0
c- 1004 急性喉頭炎および気管炎	J04	0	0
c- 1005 その他の急性上気道感染症	J05-06	0	0
c- 1006 インフルエンザ	J10-11	0	0
c- 1007 肺炎	J12-18	10	196
c- 1008 急性気管支炎	J20	0	0
c- 1009 急性細気管支炎	J21	0	0
c- 1010 アレルギー性鼻炎	J30	0	0
c- 1011 慢性副鼻腔炎	J32	0	0
c- 1012 その他の鼻および副鼻腔の疾患	J31.33-34	0	0
c- 1013 扁桃およびアデノイドの慢性疾患	J35	0	0
c- 1014 その他の上気道疾患	J36-39	0	0
c- 1015 急性または慢性と明示されない気管支炎	J40	0	0
c- 1016 慢性閉塞性肺疾患	J41-44	0	0
c- 1017 喘息	J45-46	0	0
c- 1018 気管支拡張症	J47	1	3
c- 1019 じん肺(症)	J60-65	0	0
c- 1020 間質性肺疾患	J80-84	10	176
c- 1021 気胸	J93	2	31
c- 1022 その他呼吸器系の疾患	J00-99 の残り	25	668
小 計 (X)		48	(1,074)
c- 1100 XI 消化器系の疾患	K00-93	12	333
c- 1101 う蝕	K02	0	0
c- 1102 歯肉炎および歯周疾患	K05	0	0
c- 1103 その他の歯および歯の支持組織の障害	K00-01.03-04.06-08	0	0
c- 1104 口内炎および関連疾患	K12	0	0
c- 1105 その他の口腔、唾液腺及び顎の疾患	K09-11.13-14	0	0
c- 1106 胃潰瘍	K25	0	0
c- 1107 十二指腸潰瘍	K26	1	23
c- 1108 部位不明の消化性潰瘍	K27	0	0
c- 1109 胃炎および十二指腸炎	K29	0	0
c- 1110 その他の食道、胃および十二指腸の疾患	K20-23.28.30-31	0	0
c- 1111 虫垂の疾患	K35-38	0	0
c- 1112 単径ヘルニア	K40	0	0

**診療実績及び診療統計**

**3) 疾病別死亡患者数 (小分類) (平成 29 年1月~12月)**

疾 病 名	件数	延べ日数
c- 1113 その他のヘルニア	0	0
c- 1114 クロウン病	0	0
c- 1115 潰瘍性大腸炎	0	0
c- 1116 腸閉塞	4	45
c- 1117 過敏性腸症候群	0	0
c- 1118 便秘	0	0
c- 1119 裂肛および痔瘻	0	0
c- 1120 その他の胃腸の疾患	2	13
c- 1121 腹膜の疾患	1	25
c- 1122 アルコール性肝疾患	0	0
c- 1123 慢性肝炎 (アルコール性のものを除く)	0	0
c- 1124 肝硬変 (アルコール性のものを除く)	1	11
c- 1125 その他の肝疾患	1	151
c- 1126 胆石症	0	0
c- 1127 胆のう炎	0	0
c- 1128 急性膵炎	0	0
c- 1129 慢性膵炎	0	0
c- 1130 その他の膵疾患	1	63
c- 1131 その他の消化器系の疾患	1	2
小 計 (X I)	12	(333)
c- 1200 X II 皮膚および皮下組織の疾患	0	0
c- 1201 皮膚および皮下組織の感染症	0	0
c- 1202 アトピー性皮膚炎	0	0
c- 1203 接触皮膚炎	0	0
c- 1204 その他の皮膚炎及び湿疹	0	0
c- 1205 乾せん及びその他の丘疹落せつ性障害	0	0
c- 1206 じんま疹	0	0
c- 1207 爪の障害	0	0
c- 1208 脱毛症	0	0
c- 1209 ざ瘡<アクネ>	0	0
c- 1210 色素 (沈着) 異常症	0	0
c- 1211 うおのめおよびべんち	0	0
c- 1212 その他の皮膚および皮下組織の疾患	0	0
小 計 (X II)	0	(0)
c- 1300 X III 筋骨格系および結合組織の疾患	0	0
c- 1301 慢性関節リウマチ	0	0
c- 1302 痛風	0	0
c- 1303 その他の炎症性多発性関節障害	0	0
c- 1304 関節症	0	0
c- 1305 四肢の後天性変形	0	0
c- 1306 膝内障	0	0
c- 1307 関節痛	0	0
c- 1308 その他の関節障害	0	0
c- 1309 全身性エリテマトーデス <SLE>	0	0
c- 1310 乾燥症候群 [シェーグレン症候群]	0	0
c- 1311 ベーチェット病	0	0
c- 1312 その他の全身性結合組織障害	0	0
c- 1313 脊椎障害 (脊椎症を含む)	0	0
c- 1314 椎間板障害	0	0
c- 1315 頸腕症候群	0	0
c- 1316 腰痛症及び坐骨神経痛	0	0
c- 1317 その他の背部痛	0	0
c- 1318 その他の脊柱障害	0	0
c- 1319 軟部組織障害	0	0
c- 1320 肩の傷害	0	0



## 診療実績及び診療統計

## 3) 疾病別死亡患者数 (小分類) (平成 29 年 1 月～12 月)

疾 病 名	件数	延べ日数
c- 1321 骨粗しょう症	0	0
c- 1322 その他の骨の密度および構造の障害	0	0
c- 1323 骨髄炎	0	0
c- 1324 若年性骨軟骨症<骨端症>	0	0
c- 1325 その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	0	0
小 計 (XⅢ)	0	(0)
c- 1400 XⅣ 尿路性器系の疾患	4	98
c- 1401 急性及び急速進行性腎炎症候群	0	0
c- 1402 ネフローゼ症候群	0	0
c- 1403 その他の糸球体疾患	0	0
c- 1404 腎尿細管間質性疾患	0	0
c- 1405 慢性腎不全	1	7
c- 1406 その他の腎不全	1	1
c- 1407 尿路結石症	0	0
c- 1408 膀胱炎	0	0
c- 1409 その他の尿路系の疾患	2	90
c- 1410 前立腺肥大(症)	0	0
c- 1411 その他の男性性器の疾患	0	0
c- 1412 乳房の障害	0	0
c- 1413 卵管炎および卵巣炎	0	0
c- 1414 子宮頸(部)の炎症性疾患	0	0
c- 1415 その他の女性骨盤炎症性疾患	0	0
c- 1416 子宮内膜症	0	0
c- 1417 女性性器脱	0	0
c- 1418 卵巣、卵管および子宮広間膜の非炎症性障害	0	0
c- 1419 月経障害	0	0
c- 1420 閉経期およびその他の閉経周辺期障害	0	0
c- 1421 女性不妊症	0	0
c- 1422 その他の女性性器の疾患	0	0
小 計 (XⅣ)	4	(98)
c- 1500 XⅤ 妊娠、分娩および産じょく	0	0
c- 1501 自然流産	0	0
c- 1502 医学的人工流産	0	0
c- 1503 その他の流産	0	0
c- 1504 妊娠中毒症	0	0
c- 1505 妊娠早期の出血	0	0
c- 1506 前置胎盤、胎盤早期剥離及び分娩前出血	0	0
c- 1507 その他の胎児及び羊膜腔に関連する母体のケア並びに 予想される分娩の諸問題	0	0
c- 1508 早産	0	0
c- 1509 分娩後出血	0	0
c- 1510 単胎自然分娩	0	0
c- 1511 その他の妊娠及び分娩の障害及び合併症	0	0
c- 1512 主として産じょくに関連する合併症及びその他の産科的 病態、他に分類されないもの	0	0
小 計 (XⅤ)	0	(0)
c- 1600 XⅥ 周産期に発生した病態	1	102
c- 1601 妊娠期間および胎児発育に関連する障害	0	0
c- 1602 出産外傷	0	0
c- 1603 周産期に特異的な呼吸障害および心血管障害	0	0
c- 1604 周産期に特異的な感染症	0	0
c- 1605 胎児および新生児の出血性障害および血液障害	0	0
c- 1606 その他の周産期に発生した病態	1	102
小 計 (XⅥ)	1	(102)
c- 1700 XⅦ 先天奇形、変形および染色体異常	7	1,297

診療実績及び診療統計

3) 疾病別死亡患者数 (小分類) (平成 29 年1月~12月)

疾 病 名	件数	延べ日数
c- 1701 二分脊椎<脊椎披裂>	0	0
c- 1702 その他の神経系の先天奇形	0	0
c- 1703 心臓の先天奇形	2	74
c- 1704 その他の循環器系の先天奇形	1	88
c- 1705 唇裂および口蓋裂	0	0
c- 1706 小腸の先天欠損、閉鎖および狭窄	0	0
c- 1707 その他の消化器系の先天奇形	1	68
c- 1708 停留精巣<睾丸>	0	0
c- 1709 その他の尿路性器系の先天奇形	1	429
c- 1710 股関節部の先天(性)変形	0	0
c- 1711 足の先天変形	0	0
c- 1712 脊柱および骨性胸郭の先天奇形	0	0
c- 1713 その他の筋骨格系の先天奇形及び変形	0	0
c- 1714 その他の先天奇形	0	0
c- 1715 染色体異常、他に分類されないもの	2	638
小 計 (XVII)	7	(1,297)
c- 1800 XVIII 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他	9	86
c- 1801 腹痛および骨盤痛	0	0
c- 1802 めまい	0	0
c- 1803 不明熱	0	0
c- 1804 頭痛	0	0
c- 1805 老衰	0	0
c- 1806 その他の症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見	9	86
小 計 (XVIII)	9	(86)
c- 1900 XIX 損傷、中毒およびその他の外因の影響	10	154
c- 1901 頭蓋骨および顔面骨の骨折	0	0
c- 1902 頸部、胸部及び骨盤の骨折(脊椎を含む)	1	2
c- 1903 大腿骨の骨折	3	78
c- 1904 その他の四肢の骨折	0	0
c- 1905 多部位の骨折	0	0
c- 1906 明示された部位及び多部位の脱臼、捻挫及びストレッチ	0	0
c- 1907 眼球及び眼窩の損傷	0	0
c- 1908 頭蓋内損傷	3	22
c- 1909 その他の内臓の損傷	0	0
c- 1910 明示された部位及び多部位の挫減損傷及び外傷性切断	0	0
c- 1911 その他の明示された部位、部位不明及び外部位の損傷	0	0
c- 1912 自然開口部からの異物侵入の作用	0	0
c- 1913 熱傷および腐食	0	0
c- 1914 薬物、薬剤および生物学的製剤による中毒	0	0
c- 1915 薬用を主としない物質の毒作用	0	0
c- 1916 虐待症候群	0	0
c- 1917 その他及び詳細不明の外因の作用	1	1
c- 1918 外傷の早期合併症並びに外科的及び内科的ケア	2	51
c- 1919 損傷、中毒およびその他の外因による影響の続発・後遺症	0	0
小 計 (XIX)	10	(154)
c- 2100 XXI 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービス	0	0
c- 2101 検査および診査のための保健サービスの利用者	0	0
c- 2102 無症候性ヒト免疫不全ウイルス〔HIV〕感染状態	0	0
c- 2103 予防接種	0	0
c- 2104 伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある	0	0
c- 2105 避妊管理	0	0
c- 2106 分娩前スクリーニング及びその他の妊娠の管理	0	0
c- 2107 その他の生殖に関連する環境下での保健サービス	0	0
c- 2108 分娩後のケアおよび検査	0	0
c- 2109 菌の補てつ	0	0



## 診療実績及び診療統計

## 3) 疾病別死亡患者数 (小分類) (平成 28 年1月～12月)

疾 病 名	件数	延べ日数	
c- 2110 特定の処置(歯の補てつを除く)及び保健ケアの	Z40-Z46.2,Z46.5-Z54	0	0
c- 2111 腎透析依存	Z99.2	0	0
c- 2112 その他の理由による保健サービスの利用者	Z55-Z99.1,Z99.3-Z99.9	0	0
小 計 (X X I)	0	(0)	
合 計	416	10,320	

## I. 死亡原因別死亡数

	整 形 外 科	形 成 外 科	リ ハ ビリ 科	外 科	心 外 科	臓 器 外 科	脳 神 経 外 科	内 科	循 環 器 科	皮 膚 科	泌 尿 器 科	産 婦 科	眼 科	耳 鼻 科	小 児 科	神 経 精 神 科	神 内 科	経 理 科	放 射 線 科	歯 科	麻 酔 科	リ ウ マチ 科	緩 和 ケア 科	合 計
診療科別死亡数	4			20	9	22	215				6	2		8	12		8				2		108	416
麻酔による死亡数																								0
術後1ヶ月以内の死亡数				8	6	6	28				3			1	4						1		2	59
産婦出生による死亡数												0												0
新生児(生後28日以内)死亡数															1									1
(再掲)															(1)									(1)
入院48時間以内死亡数				4	3	11	42				1			4	2						2		1	70

注) 新生児死亡数欄で院外出生の死亡数は( )をもって再掲とする。

## II. 麻酔件数・手術件数・分娩件数・新生児数

	整 形 外 科	形 成 外 科	リ ハ ビリ 科	外 科	心 外 科	臓 器 外 科	脳 神 経 外 科	内 科	循 環 器 科	皮 膚 科	泌 尿 器 科	産 婦 科	眼 科	耳 鼻 科	小 児 科	神 経 精 神 科	神 内 科	経 理 科	放 射 線 科	歯 科	麻 酔 科	リ ウ マチ 科	緩 和 ケア 科	合 計
麻酔件数	742			1,540	318	152	1,621		1	647	789	1,267	407	356				109			42			7,991
手術件数	742			1,542	319	152	1,630		1	684	789	1,267	407	359				111			42			8,045
分娩件数												388												388
新生児数												411												411
(再掲)																								(0)

注) 新生児数欄で院外出生の数は( )をもって再掲とする。

## III. 退院患者診療科別転帰統計

	整 形 外 科	形 成 外 科	リ ハ ビリ 科	外 科	心 外 科	臓 器 外 科	脳 神 経 外 科	内 科	循 環 器 科	皮 膚 科	泌 尿 器 科	産 婦 科	眼 科	耳 鼻 科	小 児 科	神 経 精 神 科	神 内 科	経 理 科	放 射 線 科	歯 科	麻 酔 科	リ ウ マチ 科	緩 和 ケア 科	合 計
治 癒	1			51	11	16	219			18	4	59	25	222	11		5				2			644
軽 快	775			1513	255	259	2882			49	752	1288	759	258	1211		215	7			13		11	10,247
不 変	30			152	15	17	1718			3	169	180	6	24	100		40				9		2	2,465
増 悪	2			6	2	6	39				4	5			8		5							77
死 亡	4			20	9	22	215				6	2		8	12		8				2		108	416
そ の 他	2			4	1	3	405				126	15		13	217		8				1		1	796
合 計	814	0	0	1746	293	323	5478	0	70	1061	1549	790	525	1559	0	281	7	0	27	0	122			14,645

## IV. 剖 検 数

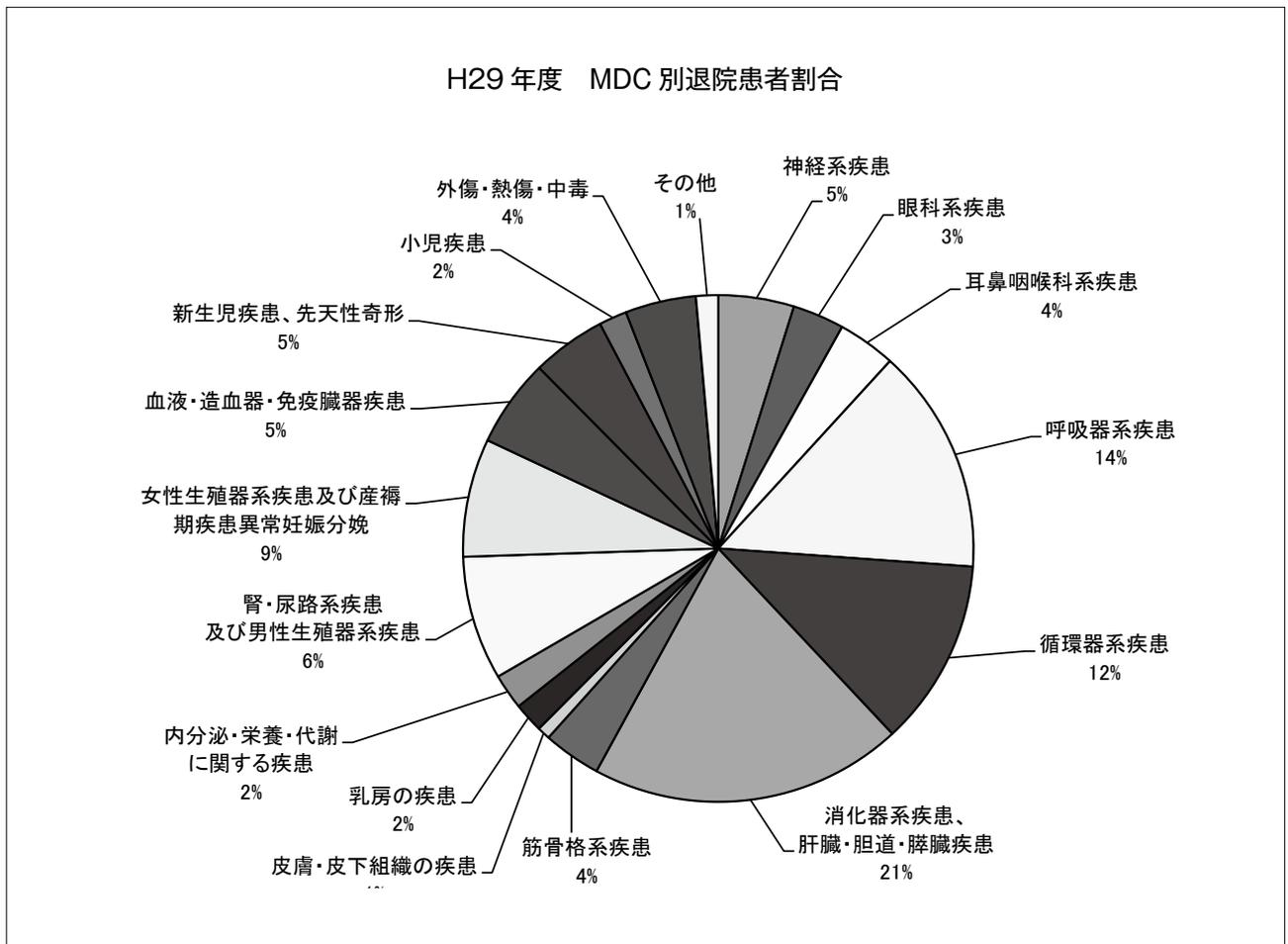
16	件
----	---

診療実績及び診療統計

2. DPC 統計

1) MDC 別退院患者数

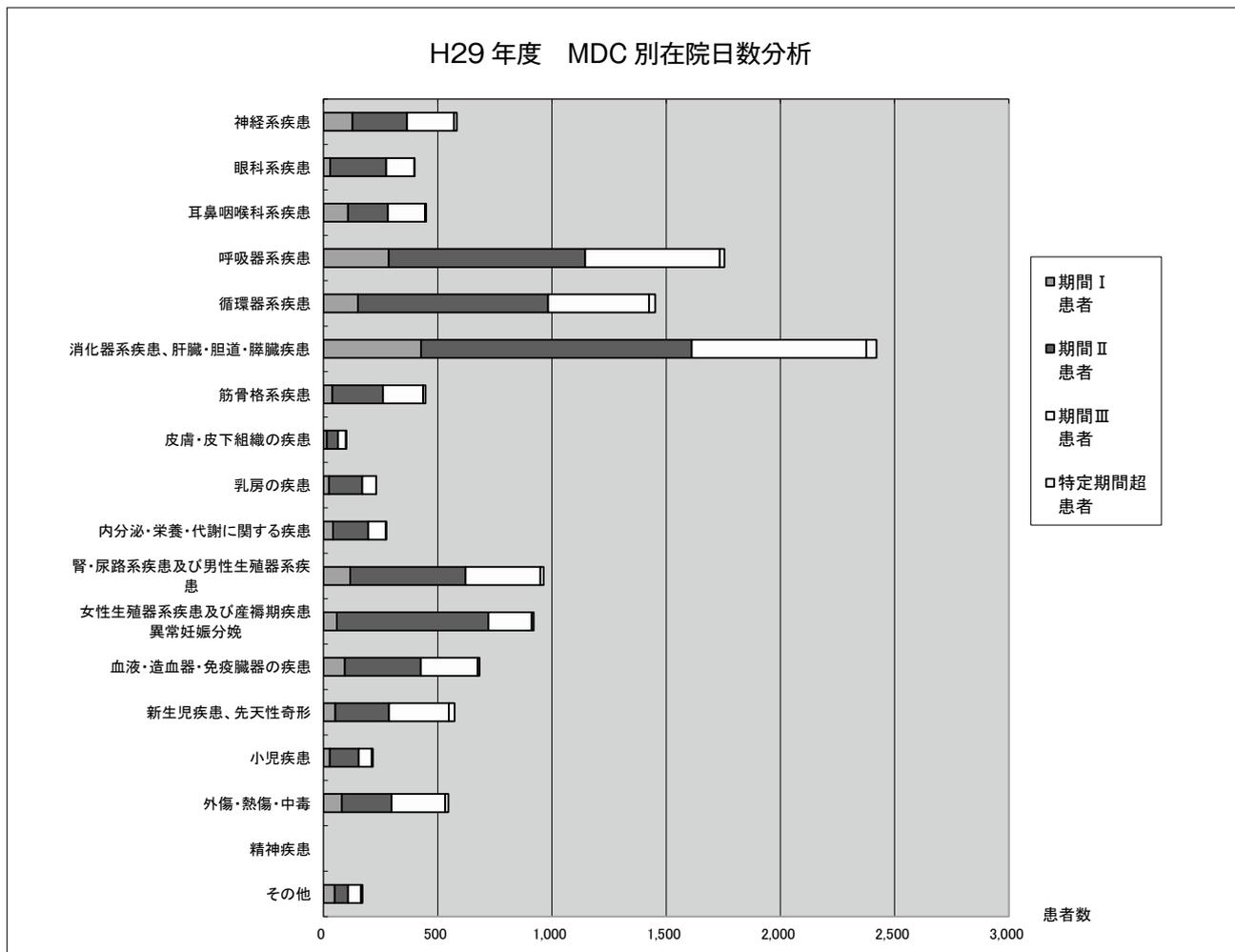
MDC 番号	MDC 名称	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
01	神経系疾患	48	48	44	48	67	44	55	45	40	49	45	51	584
02	眼科系疾患	37	38	41	30	37	33	25	29	30	21	34	44	399
03	耳鼻咽喉科系疾患	42	44	37	53	49	43	28	31	31	24	27	40	449
04	呼吸器系疾患	148	154	150	129	139	160	178	145	163	123	116	150	1,755
05	循環器系疾患	143	113	98	129	126	93	119	119	137	94	134	147	1,452
06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	231	207	185	213	212	193	207	220	212	163	187	191	2,421
07	筋骨格系疾患	30	38	29	41	36	31	44	40	48	33	35	42	447
08	皮膚・皮下組織の疾患	9	4	13	14	14	8	9	2	8	9	5	5	100
09	乳房の疾患	20	22	19	17	17	21	22	14	23	21	20	15	231
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	16	15	23	23	35	20	19	28	30	20	21	26	276
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	66	77	76	81	98	90	79	61	89	65	84	98	964
12	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患 異常妊娠分娩	83	70	78	79	99	71	72	67	96	60	69	76	920
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患	44	55	73	60	67	52	60	59	59	47	53	54	683
14	新生児疾患、先天性奇形	57	52	54	38	60	55	47	44	62	26	36	43	574
15	小児疾患	20	25	13	15	23	17	14	21	25	16	11	16	216
16	外傷・熱傷・中毒	46	42	47	41	48	58	47	43	44	37	51	43	547
17	精神疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	その他	20	15	14	12	14	12	13	19	10	11	13	18	171
合計		1,060	1,019	994	1,023	1,141	1,001	1,038	987	1,107	819	941	1,059	12,189





## 2) MDC 別在院日数分析

MDC 番号	MDC 名称	平均在院日数	期間Ⅰ患者	期間Ⅱ患者	期間Ⅲ患者	特定期間超患者	合計
01	神経系疾患	20.7	127	239	206	12	584
02	眼科系疾患	8.4	30	245	122	2	399
03	耳鼻咽喉科系疾患	11.1	108	174	163	4	449
04	呼吸器系疾患	12.3	286	860	588	21	1,755
05	循環器系疾患	12.6	151	832	442	27	1,452
06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	12.4	427	1,185	764	45	2,421
07	筋骨格系疾患	20.0	39	222	175	11	447
08	皮膚・皮下組織の疾患	13.9	15	49	34	2	100
09	乳房の疾患	7.8	24	146	60	1	231
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	11.0	42	154	76	4	276
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	11.9	117	505	328	14	964
12	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患 異常妊娠分娩	7.1	58	664	190	8	920
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患	19.2	94	332	249	8	683
14	新生児疾患、先天性奇形	23.3	52	235	262	25	574
15	小児疾患	7.3	28	126	58	4	216
16	外傷・熱傷・中毒	17.1	81	217	235	14	547
17	精神疾患	0.0	0	0	0	0	0
18	その他	15.0	49	59	56	7	171
	合計		1,728	6,244	4,008	209	12,189





## 診療実績及び診療統計

## 3) 年齢別・性別退院患者数

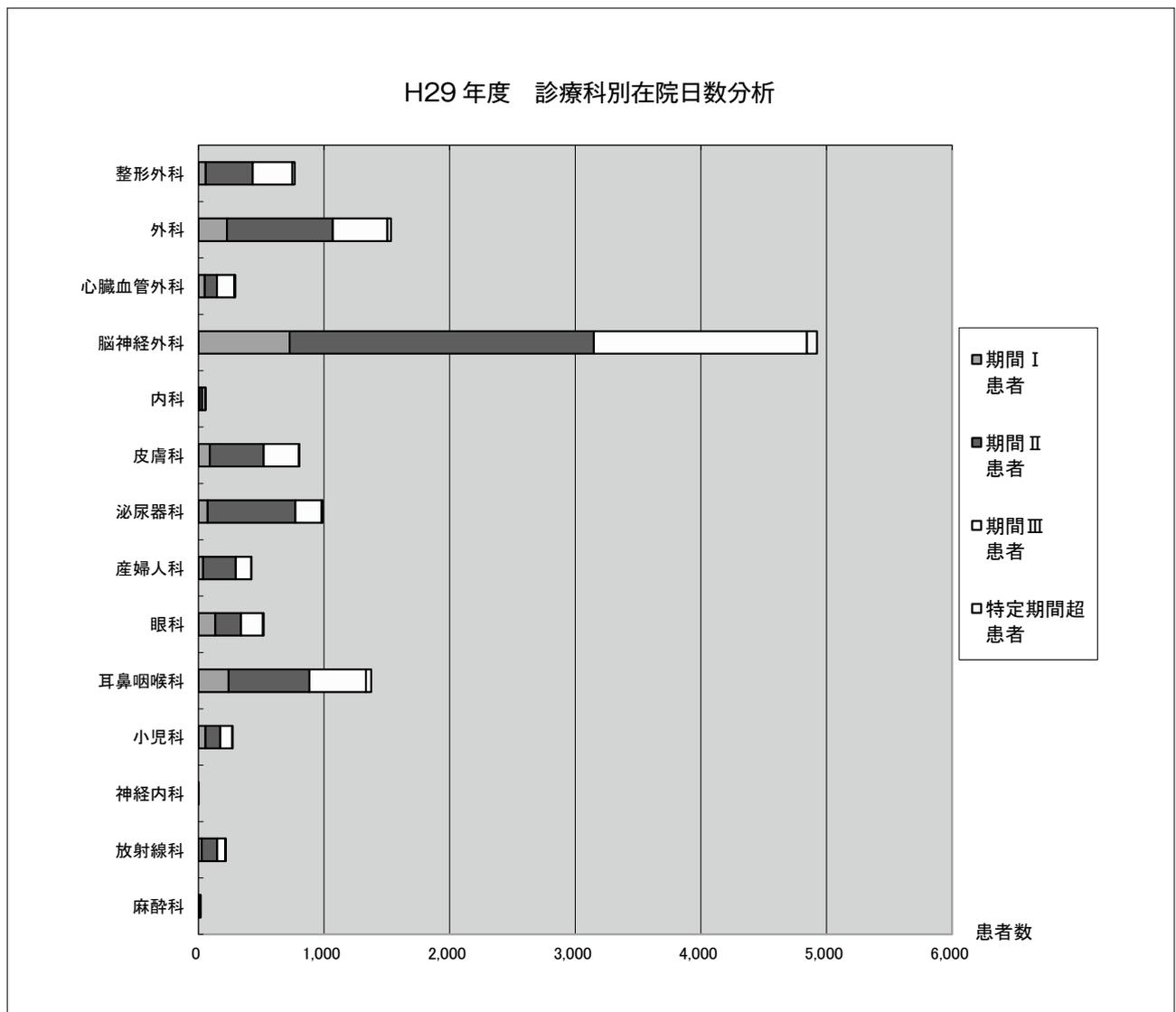
MDC 番号	MDC 名称	性別	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳～	合計
01	神経系疾患	男	21	24	2	8	15	32	56	88	52	12		310
		女	15	11	17	7	12	18	43	74	56	21		274
		計	36	35	19	15	27	50	99	162	108	33		584
02	眼科系疾患	男	5	3	5	4	14	34	42	57	31	3		198
		女	4	2	4	8	10	26	58	55	30	4		201
		計	9	5	9	12	24	60	100	112	61	7		399
03	耳鼻咽喉科系疾患	男	48	12	25	15	27	31	94	44	13			309
		女	20	9	17	11	11	14	31	21	5	1		140
		計	68	21	42	26	38	45	125	65	18	1		449
04	呼吸器系疾患	男	155	12	16	12	31	50	237	359	195	30		1,097
		女	137	25	6	10	23	32	113	160	117	35		658
		計	292	37	22	22	54	82	350	519	312	65		1,755
05	循環器系疾患	男	10	12	11	12	51	92	209	302	175	31		905
		女	9	10	4	6	10	34	101	159	170	44		547
		計	19	22	15	18	61	126	310	461	345	75		1,452
06	消化器系疾患、 肝臓・胆道・膵臓 疾患	男	31	31	18	18	57	133	405	467	253	27		1,440
		女	21	14	12	21	79	105	201	275	188	65		981
		計	52	45	30	39	136	238	606	742	441	92		2,421
07	筋骨格系疾患	男	8	4	4	7	20	16	43	58	26	1		187
		女	6	7	5	6	16	19	59	83	56	3		260
		計	14	11	9	13	36	35	102	141	82	4		447
08	皮膚・皮下組織の 疾患	男	7	4			1	5	11	13	11	1		53
		女	5	2	1		3	3	4	11	14	4		47
		計	12	6	1		4	8	15	24	25	5		100
09	乳房の疾患	男									1			1
		女				3	40	49	71	48	15	4		230
		計				3	40	49	71	48	16	4		231
10	内分泌・栄養・ 代謝疾患	男	18	7	3	7	9	13	20	21	13	3		114
		女	19	6		10	11	21	24	45	23	3		162
		計	37	13	3	17	20	34	44	66	36	6		276
11	腎・尿路系疾患及び 男性生殖器系疾患	男	19	7	4	10	27	52	210	232	84	14		659
		女	15	9	2	11	19	29	49	86	70	15		305
		計	34	16	6	21	46	81	259	318	154	29		964
12	女性生殖器系疾患及び 産褥期疾患異常妊娠 分娩	男												0
		女		9	60	148	191	163	198	96	54	1		920
		計		9	60	148	191	163	198	96	54	1		920
13	血液・造血器・ 免疫臓器疾患	男	8	1	9	4		21	99	150	79	5		376
		女	3	1	7	1	14	18	82	111	67	3		307
		計	11	2	16	5	14	39	181	261	146	8		683
14	新生児疾患、 先天性奇形	男	267	23	4	2		3			1			300
		女	233	16	5	6	7			3	3	1		274
		計	500	39	9	8	7	3	3	3	3	2		574
15	小児疾患	男	84	13	3	4		4	1	2	3			114
		女	63	23	4	2	1		1	2	6			102
		計	147	36	7	6	1	4	2	4	9			216
16	外傷・熱傷・中毒	男	29	29	4	10	6	7	30	48	42	15		220
		女	16	9	3	8	10	17	30	74	113	47		327
		計	45	38	7	18	16	24	60	122	155	62		547
17	精神疾患	男												0
		女												0
		計												0
18	その他	男	9	1		1	5	9	30	27	21	2		105
		女	3	4	2	4	4	3	15	20	9	2		66
		計	12	5	2	5	9	12	45	47	30	4		171
合計		男	719	183	108	114	263	502	1,487	1,868	1,000	144	0	6,388
		女	569	157	149	262	461	551	1,083	1,323	994	252	0	5,801
		計	1,288	340	257	376	724	1,053	2,570	3,191	1,994	396	0	12,189



## 4) 診療科別在院日数分析

診療科名	平均在院日数	期間Ⅰ患者	期間Ⅱ患者	期間Ⅲ患者	特定期間超患者	合計
整形外科	20.9	57	374	316	18	765
外科	13.0	227	842	434	30	1,533
心臓血管外科	21.2	50	97	138	9	294
脳神経外科	13.4	726	2,422	1,696	80	4,924
内科	18.3	7	23	23	4	57
皮膚科	10.4	90	428	280	5	803
泌尿器科	7.2	73	698	210	8	989
産婦人科	8.4	36	261	123	2	422
眼科	10.8	134	205	174	6	519
耳鼻咽喉科	14.9	239	645	450	40	1,374
小児科	15.4	56	117	96	3	272
神経内科	8.0	0	1	0	0	1
放射線科	22.7	25	124	65	4	218
麻酔科	5.6	8	7	3	0	18
合計		1,728	6,244	4,008	209	12,189

※麻酔科は、救急科を含みます。



**診療実績及び診療統計**
**5) MDC6 桁分類別疾患件数 (上位 20 分類)**

MDC6 コード	MDC6 分類名称	件数	平均在院日数	構成比率
040040	肺の悪性腫瘍	797	11.6	6.5%
050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	491	5.3	4.0%
130030	非ホジキンリンパ腫	346	16.7	2.8%
060020	胃の悪性腫瘍	304	14.3	2.5%
040080	肺炎等	292	13.1	2.4%
12002x	子宮頸・体部の悪性腫瘍	275	8.3	2.3%
050130	心不全	248	24.6	2.0%
090010	乳房の悪性腫瘍	225	7.9	1.8%
010060	脳梗塞	214	18.3	1.8%
14031x	先天性心疾患 (動脈管開存症、心房中隔欠損症を除く)	212	23.5	1.7%
110070	膀胱腫瘍	212	11.4	1.7%
060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍 (続発性を含む)	205	9.8	1.7%
140010	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害	204	34.0	1.7%
120010	卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍	200	5.1	1.6%
060035	結腸 (虫垂を含む) の悪性腫瘍	199	15.4	1.6%
060340	胆管 (肝内外) 結石、胆管炎	191	10.0	1.6%
060010	食道の悪性腫瘍 (頸部を含む)	180	13.2	1.5%
050070	頻脈性不整脈	171	6.4	1.4%
160800	股関節・大腿近位の骨折	169	25.7	1.4%
110080	前立腺の悪性腫瘍	154	12.9	1.3%

※構成比率=該当件数/全件数



診療実績及び診療統計

## 平成29年度 病院年報

---

平成31年1月発行

発行者 独立行政法人 地域医療機能推進機構 九州病院  
〒806-8501  
北九州市八幡西区岸の浦1丁目8番1号  
TEL 093-641-5111





独立行政法人  
地域医療機能推進機構

九州病院